

基本計画書

基本計画									
事項		記入欄						備考	
計画の区分		学部の学科の設置							
フリガナ設置者		カッポウホジシ イトカクケン 学校法人 幾徳学園							
フリガナ大学の名称		カガワカガクイダク 神奈川工科大学							
大学本部の位置		神奈川県厚木市下荻野 1030							
大学の目的		本学では、教育基本法に則り、学校教育法の定める大学として広く知識を授けると共に深く専門の学芸を教授研究し、豊かな教養と円満な人格を備えた有為な人材を育て文化の発展と人類福祉の増進に寄与することを目的とする。							
新設学部等の目的		情報システム学科では、情報と情報技術に関する基礎的な知識と技術の習得のもと、情報システムの機能と構造の理解並びに情報システムの開発や設計に関する基礎的な知識と技法を習得させることを目的とする。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	情報学部 情報システム学科 Faculty of Information Department of Information System 計	4年	80人	-年次人	320人	学士（工学） [Bachelor of Engineering]	令和6年4月 第1年次	神奈川県厚木市 下荻野1030	
同一設置者内における変更状況 （定員の移行、名称の変更等）		工学部 応用化学科（廃止）（△60） ※令和6年4月学生募集停止 創造工学部（廃止） 自動車システム開発工学科（△55） ロボット・メカトロニクス学科（△50） ホームエレクトロニクス開発学科（△40） ※令和6年4月学生募集停止 応用バイオ科学部（廃止） 応用バイオ科学科（△125） ※令和6年4月学生募集停止 工学部 機械工学科〔定員増〕（55） 電気電子情報工学科〔定員増〕（50） 工学部 応用化学生物学科（145）（令和5年4月届出予定）							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	情報学部 情報システム学科	92科目	13科目	14科目	119科目	124単位			

教 員 組 織 の 概 要	学 部 等 の 名 称		専任教員等						兼 任 教 員 等	令和5年4月 届出予定
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
新 設 分	情報学部 情報システム学科		6 人 (6)	2 人 (2)	0 人 (0)	0 人 (0)	8 人 (8)	0 人 (0)	92 人 (32)	
	工学部 応用化学生物学科		11 (11)	7 (7)	3 (3)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	106 (35)	
	計		17 (17)	9 (9)	3 (3)	0 (0)	29 (29)	0 (0)	— (1)	
既 設 分	工学部 機械工学科		7 (10)	4 (5)	0 (0)	4 (6)	15 (21)	0 (1)	92 (92)	
	工学部 電気電子情報工学科		11 (12)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	15 (16)	0 (0)	70 (70)	
	情報学部 情報工学科		12 (16)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	15 (19)	0 (1)	65 (65)	
	情報学部 情報ネットワーク・コミュニケーション学科		7 (9)	3 (3)	1 (1)	1 (1)	12 (14)	0 (0)	69 (69)	
	情報学部 情報メディア学科		7 (9)	5 (5)	0 (0)	1 (1)	13 (15)	0 (0)	87 (87)	
	健康医療科学部 看護学科		7 (7)	1 (1)	9 (9)	1 (1)	18 (18)	6 (6)	83 (83)	
	健康医療科学部 管理栄養学科		4 (5)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	10 (11)	5 (5)	77 (77)	
	健康医療科学部 臨床工学科		8 (8)	2 (2)	0 (0)	2 (2)	12 (12)	0 (0)	94 (94)	
	基礎・教養教育センター		9 (10)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	13 (14)	0 (0)	0 (70)	
	教職教育センター		2 (3)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	3 (4)	0 (0)	0 (17)	
	情報教育研究センター		0 (0)	2 (2)	0 (0)	1 (2)	3 (4)	1 (1)	0 (0)	
	研究推進機構		0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	
	教育開発センター		1 (1)	0 (0)	28 (28)	0 (0)	29 (29)	0 (0)	0 (0)	
	計		75 (91)	34 (35)	38 (38)	11 (14)	158 (178)	12 (14)	— (1)	
	合 計		92 (108)	43 (44)	41 (41)	11 (14)	187 (207)	12 (14)	— (1)	
教員以外の 職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計			
	事 務 職 員		39 人 (39)		40 人 (40)		79 人 (79)			
	技 術 職 員		0 (0)		10 (10)		10 (10)			
	図 書 館 専 門 職 員		1 (1)		13 (13)		14 (14)			
	そ の 他 の 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)			
	計		40 (40)		63 (63)		103 (103)			

校 地 等	区 分		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計			
	校 舎 敷 地		88,546.13㎡	0 ㎡	0 ㎡		88,546.13㎡			
	運 動 場 用 地		38,015.93㎡	0 ㎡	0 ㎡		38,015.93㎡			
	小 計		126,562.06㎡	0 ㎡	0 ㎡		126,562.06㎡			
	そ の 他		7,941.69㎡	0 ㎡	0 ㎡		7,941.69㎡			
	合 計		134,503.75㎡	0 ㎡	0 ㎡		134,503.75㎡			
校 舎			専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計			
			99,533.35㎡ (97,558.35㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)		99,533.35㎡ (97,558.35㎡)			
教室等	講義室		演習室	実験実習室	情報処理学習施設		語学学習施設		大学全体	
	68室		12室	71室	13室 (補助職員 2人)		1室 (補助職員 2人)			
専 任 教 員 研 究 室			新設学部等の名称			室 数				
			情報学部 情報システム学科			9 室				
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体で、図書 186,244冊(内 外国書 22,660冊)、視聴覚資 料5,871点を所蔵。学 術雑誌314種(内 外国 雑誌2種)、電子ジャーナル 14種(3,711タイトル収 録)、教育研究用機器 備品4,614点を整備し ている。	
	情報学部 情報システム学科		7260 [885] (7260 [885])	16 [0] (16 [0])	7 [3] (7 [3])	126 (126)	224 (224)	－ (－)		
	計		7260 [885] (7260 [885])	16 [0] (16 [0])	7 [3] (7 [3])	126 (126)	224 (224)	－ (－)		
図書館			面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体	
			5,204.22㎡		663 席		232,000 冊			
体育館			面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
			6,706.61㎡		野球場1面、サッカー場1面、テニスコート4面					
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費 の見 積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	届出学科全体
		教員1人当り研究費等		892千円	892千円	892千円	892千円	－ 千円	－ 千円	
		共 同 研 究 費 等		108千円	108千円	108千円	108千円	－ 千円	－ 千円	
		図 書 購 入 費	393千円	393千円	393千円	393千円	393千円	－ 千円	－ 千円	
		設 備 購 入 費	9,321千円	9,321千円	9,321千円	9,321千円	9,321千円	－ 千円	－ 千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		1,570千円	1,590千円	1,610千円	1,630千円	－ 千円	－ 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等							

	大 学 の 名 称	神奈川工科大学							
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又は 称号	定 員 超過率	開設 年度	所 在 地
既 設 大 学 等 の 状 況	工学部	年	人	年次 人	1032		0.99		神奈川県厚木市
	機械工学科	4	120	—	480	学士（工学）	0.98	昭和50年度	下荻野1030番地
	電気電子情報工学科	4	78	—	312	学士（工学）	1.16	昭和50年度	
	応用化学科	4	60	—	240	学士（工学）	0.77	昭和50年度	
	情報学部				1760		1.11		
	情報工学科	4	170	—	650	学士（工学）	1.08	平成15年度	令和4年4月入学定員変更 （420名→460名） 令和4年4月入学定員変更 （155名→170名）
	情報ネットワーク・ コミュニケーション 学科	4	110	—	420	学士（工学）	1.22	平成16年度	令和4年4月入学定員変更 （100名→110名）
	情報メディア学科	4	180	—	690	学士（工学）	1.08	平成16年度	令和4年4月入学定員変更 （165名→180名）
	創造工学部				580		0.92		
	自動車システム開発 工学科	4	55	—	220	学士（工学）	0.81	平成20年度	
	ロボット・メカトロ ニクス学科	4	50	—	200	学士（工学）	0.94	平成20年度	
	ホームエレクトロ ニクス学科	4	40	—	160	学士（工学）	1.05	平成20年度	
	応用バイオ科学部								
	応用バイオ科学科	4	125	—	500	学士（理工学）	0.70	平成20年度	
	健康医療科学部				720		0.88		令和2年4月学部名称変更 （看護学部→ 健康医療科学部） 令和4年度入学定員変更 （200名→160名）
	看護学科	4	80	—	320	学士（看護学）	0.93	令和2年度	
	管理栄養科学科	4	40	—	240	学士（栄養学）	0.78	令和2年度	令和2年3月31日応用バ ^イ オ科学部栄 養生命学科廃止 令和2年健康医療科学部管理栄養 学科を設置 令和4年4月入学定員変更 （80名→40名）
	臨床工学科	4	40	—	160	学士（工学）	0.91	令和2年度	令和2年3月31日工学部臨床工学科 廃止 令和2年度健康医療科学部臨床工学 科を設置
	工学研究科博士前期課程				168		0.77		
	機械工学専攻	2	14	—	28	修士（工学）	0.21	平成元年度	
	電気電子工学専攻	2	16	—	32	修士（工学）	1.28	平成元年度	
	応用化学・バイオ サイエンス専攻	2	16	—	32	修士（工学）	0.68	平成元年度	
	機械システム工学専攻	2	14	—	28	修士（工学）	0.57	平成2年度	
	情報工学専攻	2	18	—	36	修士（工学）	1.05	平成5年度	
	ロボット・メカトロ ニクスシステム専攻	2	6	—	12	修士（工学）	0.66	平成22年度	
	工学研究科博士後期課程				30		0.36		
	機械工学専攻	3	2	—	6	博士（工学）	0.16	平成5年度	
	電気電子工学専攻	3	2	—	6	博士（工学）	0.16	平成6年度	
	応用化学・バイオ サイエンス専攻	3	2	—	6	博士（工学）	0.33	平成5年度	
	機械システム工学専攻	3	2	—	6	博士（工学）	0.33	平成5年度	
	情報工学専攻	3	2	—	6	博士（工学）	0.83	平成8年度	

<p>附属施設の概要</p>	<p>①名称：情報教育研究センター 目的：教育、研究、大学運営等の利用に供するとともに、コンピュータおよびネットワークの関連分野並びに情報教育に関する学術研究およびその実践。 所在地：神奈川県厚木市下荻野1030番地 設置年月日：昭和58年3月 規模等：総面積1,748㎡</p> <p>②名称：研究推進機構 目的：研究、教育活動の支援および先端学術の研究により技術の発展と社会の福祉に寄与。 所在地：神奈川県厚木市下荻野1030番地 設置年月日：平成8年4月 規模等：総面積2,996㎡ 大型設備装置等（ナノテクノロジー用クリーンルーム等） 実験実習室（化学・物理、工作工場等）</p>	
----------------	--	--

学校法人 幾徳学園 設置認可等に関わる組織の移行表

2022年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		2024年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
神奈川工科大学					神奈川工科大学				
工学部					工学部				
機械工学科	120	-	480		機械工学科	175	-	700	定員変更(55)
電気電子情報工学科	78	-	312		電気電子情報工学科	128	-	512	定員変更(50)
応用化学科	60	-	240		応用化学科	0	-	0	2024年4月学生募集停止
					応用化学生物学科	145	-	580	学科設置(届出)
情報学部					情報学部				
情報工学科	170	-	680		情報工学科	170	-	680	
情報ネットワーク・ コミュニケーション学科	110	-	440		情報ネットワーク・ コミュニケーション学科	110	-	440	
情報メディア学科	180	-	720		情報メディア学科	180	-	720	
					情報システム学科	80	-	320	学科設置(届出)
創造工学部					創造工学部				
自動車システム 開発工学科	55	-	220		自動車システム 開発工学科	0	-	0	2024年4月学生募集停止
ロボット・ メカトロニクス学科	50	-	200		ロボット・ メカトロニクス学科	0	-	0	2024年4月学生募集停止
ホームエレクトロニクス 開発学科	40	-	160		ホームエレクトロニクス 開発学科	0	-	0	2024年4月学生募集停止
応用バイオ科学部					応用バイオ科学部				
応用バイオ科学科	125	-	500		応用バイオ科学科	0	-	0	2024年4月学生募集停止
健康医療科学部				⇒	健康医療科学部				
看護学科	80	-	320		看護学科	80	-	320	
管理栄養学科	40	-	160		管理栄養学科	40	-	160	
臨床工学科	40	-	160		臨床工学科	40	-	160	
計	1,148	-	4,592		計	1,148	-	4,592	
神奈川工科大学大学院					神奈川工科大学大学院				
工学研究科 博士前期課程					工学研究科 博士前期課程				
機械工学専攻	14	-	28		機械工学専攻	14	-	28	
電気電子工学専攻	16	-	32		電気電子工学専攻	16	-	32	
応用化学・ バイオサイエンス専攻	16	-	32		応用化学・ バイオサイエンス専攻	16	-	32	
機械システム工学専攻	14	-	28		機械システム工学専攻	14	-	28	
情報工学専攻	18	-	36		情報工学専攻	18	-	36	
ロボット・メカトロニクス システム専攻	6	-	12		ロボット・メカトロニクス システム専攻	6	-	12	
計	84		168		計	84		168	
工学研究科 博士後期課程					工学研究科 博士後期課程				
機械工学専攻	2	-	6		機械工学専攻	2	-	6	
電気電子工学専攻	2	-	6		電気電子工学専攻	2	-	6	
応用化学・ バイオサイエンス専攻	2	-	6		応用化学・ バイオサイエンス専攻	2	-	6	
機械システム工学専攻	2	-	6		機械システム工学専攻	2	-	6	
情報工学専攻	2	-	6		情報工学専攻	2	-	6	
計	10	-	30		計	10	-	30	

設置の前後における学位等及び専任教員の所属の状況

届 出 時 に お け る 状 況						新 設 学 部 等 の 学 年 進 行 状 況 新 終 了 時 に お け る 状 況					
学部等の名称	授与する学位等		異 動 先	専任教員		学部等の名称	授与する学位等		異 動 元	専任教員	
	学位又は は称号	学位又は 学科の分野		助教 以上	うち 教授		学位又は は称号	学位又は 学科の分野		助教 以上	うち 教授
創造工学部 ロボット・メカト ロニクス学科 (廃止)	学士 (工学)	工学関係	情報学部情報システム学科	8	6	情報学部 情報システム学科	学士 (工学)	工学関係	創造工学部ロボット・メカトロニクス学科	8	6
			その他	1	1						
			計	9	7				計	8	6

基礎となる学部等の改編状況

開設又は 改編時期	改 編 内 容 等	学 位 又 は 学 科 の 分 野	手 続 きの 区 分
平成15年4月	情報学部 設置	—	設置認可(学部)
平成15年4月	情報学部情報工学科 設置	工学	設置認可(学科)
平成16年4月	情報学部情報メディア学科 設置	工学	設置届出(学科)
平成16年4月	情報学部情報ネットワーク工学科 設置	工学	設置届出(学科)
平成20年4月	情報学部情報ネットワーク工学科→ 情報学部情報ネットワーク・コミュニケーション学科	工学	名称変更(学科)
令和6年4月	情報学部情報システム学科 設置	工学	設置届出(学科)

教 育 課 程 等 の 概 要														
(情報学部情報システム学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通基盤教育	導入系	アカデミックICTスキル	1前	1		○			1					兼1
		専門分野概論	1前	1		○								兼6
		理工学入門	1前	1		○								兼2
		スタディスキル	1前	2		○								
	倫理系	技術者倫理	3前・後	2		○								兼1
	人文社会系	現代社会講座	1後	2		○								兼7 オムニバス
		a群	経済の科学	2前・後・3前	2	○								兼2
			歴史の科学	2前・後・3前	2	○								兼2
			社会の科学	2前・後・3前	2	○								兼2
			文化の科学	2前・後・3前	2	○								兼2
			グローバル化の科学	2前・後・3前	2	○								兼1
			心の科学	2前・後・3前	2	○								兼3
			日本国憲法	2前・後・3前	2	○								兼3
			環境論	2前・後・3前	2	○								兼2
			人文社会科学アクティブ演習	3前・後	2		○							兼4
		b群	哲学	3前・後・4前	2	○								兼2
			文学	3前・後・4前	2	○								兼2
			心理学	3前・後・4前	2	○								兼3
			倫理学	3前・後・4前	2	○								兼1
			教育学	3前・後・4前	2	○								兼2
		c群	政治学	3前・後・4前	2	○								兼2
			経済学	3前・後・4前	2	○								兼2
			法学	3前・後・4前	2	○								兼3
			社会学	3前・後・4前	2	○								兼2
			経営学	3前・後・4前	2	○								兼1
	健康・スポーツ系	健康・スポーツ科学実習Ⅰ	1前	1		※		○						兼3
		健康・スポーツ科学実習Ⅱ	1後	1		※		○						兼2
		身体活動・スポーツ論	2前	1		○								兼1
		生涯スポーツ実習	2後	1				○						兼1

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(情報学部情報システム学科)																	
科目 区分		授業科目の名称		配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
共通基盤教育	言語系	英語基礎	英語Ⅰ	1前		1			○							兼2	
			英語Ⅱ	1前・後		1			○							兼3	
			英語Ⅲ	1前・後・2前		1			○							兼8	
			英語Ⅳ	1後・2前・後		1			○							兼6	
			英語Ⅴ	2前・後		1			○							兼7	
		言語応用	a群	科学技術英語Ⅰ	3前		1			○							兼1
				科学技術英語Ⅱ	3後		1			○							兼1
				英会話Ⅰ	1前・後		1			○							兼3
				英会話Ⅱ	1後		1			○							兼3
				総合英語演習	1前・後・2前		1			○							兼1
				TOEICⅠ	2後・3前・後		1			○							兼2
		b群		TOEICⅡ	3前・後		1			○						兼2	
				日本語表現技術	1後・2前		2			○							兼3
	プレゼンテーション技術			2前・後		2			○							兼3	
			技術文章の書き方	3前・後		2			○							兼1	
			数理情報系	身の回りの数学	1～3	2			○								兼2
				実感する科学	1前	2			○								兼2
				情報・AⅠリテラシー（情報基礎）	1前	2			○			1					兼1
	AⅠとデータサイエンス（情報応用）	2前・後			2			○			1				兼10 オムニバス		
	キャリア系		キャリア設計Ⅰ	1後	1			○								兼1	
			キャリア設計Ⅱ	2前	1			○								兼1	
			キャリア設計Ⅲ	3前	1			○								兼1	
			社会人に向けての準備講座	4前		1		○								兼1	
			企業特別講座	1～4		1		○								兼1	
			インターンシップⅠ	2～4	2					○						兼1	
			インターンシップⅡ	3～4	3					○						兼1	
			課題解決型インターンシップ	1～4	2					○						兼1	
			産学連携プロジェクト	3～4	2					○						兼1	
	小計（57科目）		—	17	74	0	—			2	1	0	0	0	兼71		

教 育 課 程 等 の 概 要															
(情報学部情報システム学科)															
科目 区分	授業科目の名称		配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専門基礎導入	情報技術基礎導入科目群	プログラミング入門A	1前	3			○	○							兼3
		プログラミング入門B	1前	3			○	○							兼3
		プログラミング入門C	1後	3			○	○							兼3
		コンピュータシステム入門	1前	1			○								兼2
		マルチメディア入門	1前	1			○								兼2
		ソフトウェア入門	1前	1			○								兼2
		ネットワーク入門	1前	1			○								兼2
		アルゴリズム入門	1後	1			○								兼2
		情報デザイン入門	1後	1			○								兼2
		データベース入門	1後	1			○								兼2
		情報セキュリティ入門	1後	1			○								兼2
		AI/DS導入ユニット	2前	4			○		○	2					兼2
専門基礎導入	情報数理系	線形代数学Ⅰ-a	1後		2		○								兼1
		線形代数学Ⅰ-b	1後		2		○								兼1
		線形代数学Ⅱ-a	2前		2		○								兼1
		線形代数学Ⅱ-b	2前		2		○								兼1
		微分積分学Ⅰ-c	2前		3		○	※							兼1 ※演習
		微分積分学Ⅰ-d	2前		3		○	※							兼1 ※演習
		微分積分学Ⅱ-c	2後		3		○	※							兼1 ※演習
		微分積分学Ⅱ-d	2後		3		○	※							兼1 ※演習
		離散数学	2後		2		○								兼1
	情報社会系	情報法規と情報モラル	3前		2		○								兼1
		情報社会のコミュニケーション	3前		2		○								兼1
		情報社会と情報倫理	3前		2		○								兼1
		情報と人間	3後		2		○								兼1
		情報と知的財産権	3後		2		○								兼1
専門基礎		情報システム概論	1前	2			○			6	2				兼1
		情報システムのための電気電子回路	1後		2		○			1					
		情報システムのための力学	1後		2		○			1					
		情報システム工学Ⅰ	2前		2		○				1				
		IoTシステム	2前		2		○					1			兼1
		情報通信技術	2前		2		○				1				
		シミュレーション設計技法Ⅰ	2前		2		○			1					
		情報システム工学Ⅱ	2後		2		○			1					
		画像情報処理	2後		2		○			1					
		ビッグデータ解析	2後		2		○								兼1
		シミュレーション設計技法Ⅱ	2後		2		○			1					
		情報システムと人間科学	2後		2		○			1					
	ブ ロ グ ラ ム	情報システムプログラミング基礎	1後	3			○	○			1				兼1
		情報システム基礎ユニットⅠ	2前	3					○		1				兼3
		情報システム基礎ユニットⅡ	2後	3					○		1				兼3

教 育 課 程 等 の 概 要																
(情報学部情報システム学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
専 門	情報システムセキュリティ	3前		2		○									兼1	
	サイバー空間技術	3前		2		○									兼1	
	ヒューマンコンピュータインタラクション	3前		2		○			1							
	組み込みアプリケーション入門	3前		2		○			1	1						
	組み込みシステム入門	3前		2		○			1	1						
	ロボットメカニズム	3前		2		○									兼1	
	センシングシステム	3前		2		○			1							
	次世代通信技術	3後		2		○									兼1	
	ヘルスケアシステム	3後		2		○			1	1						
	ロボットとAI	3後		2		○				1						
	組み込みアプリケーション開発	3後		2		○			1	1						
	組み込みシステム設計	3後		2		○			1	1						
	システム制御	3後		2		○									兼1	
	情報システムの社会実装	3後		2		○									兼1	
	プログラム	情報システム応用ユニット	3前	4					○	6	1					
		情報システム専門ユニット	3後	4					○	6	1					
	卒 業 研 究 関 係	卒研セミナーⅠ	4前	1			○			6	2					
卒業研究Ⅰ		4前	3					○	6	2						
卒研セミナーⅡ		4後	1			○			6	2						
卒業研究Ⅱ		4後	3					○	6	2						
小計（62科目）		—	48	82	0	—			6	2	0	0	0	兼21		
合計（119科目）		—	65	156	0	—			6	2	0	0	0	兼84		
学位又は称号		学士（工学）			学位又は学科の分野			工学関係								
卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法								授業期間等								
共通基盤科目：合計32単位 必修 16単位 選択 16単位 ・導入系 3単位 ・倫理系 2単位 ・人文社会系 2単位 a群・b群・c群 各2単位 ・健康・スポーツ系 1単位 ・言語系 英語基礎 3単位 言語応用 a群・b群 各2単位 ・数理情報系 6単位 ・キャリア系 5単位 専門教育科目：合計74単位 必修 48単位 選択 26単位 任意科目：18単位 卒業要件：4年以上在籍し、124単位以上修得すること。 （履修科目の登録の上限：年間44単位、かつ半期24単位）								1 学年の学期区分			2期					
								1 学期の授業期間			15週					
								1 時限の授業時間			90分					

授 業 科 目 の 概 要				
（情報学部情報システム学科）				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容		備考
共通 基盤 教育	導入系	アカデミックICTスキル	大学での高度なICT活用講義を受講する準備として、レポート、資料等の作成に必要なICTスキルを学習する。 具体的には電子メールを利用した各種情報のやり取り、セキュリティに関する心構え、文章作成ソフトWord、表計算ソフトExcel、プレゼンテーションソフトPower Pointの操作法、オンライン教育Tool等を学びながら、これらを活用した学習ノートや実験報告書の作成、学習情報やデータの整理・集約および学習成果発表資料の作成を行う。	
		専門分野概論	工学系・情報系の専門分野を学ぶにあたり、その工学全般の基礎知識及び専門分野における基礎から応用までの知識と技術を身に付けるための学修の目標と学修の流れ、さらに所属する専門分野の発展的展開を理解して学修する科目である。授業では専門学科の教員による専門分野の概論を講義する。本科目により、専門分野の理解と学修目的及び到達目標を明確に理解するとともに、自らの学修目標を明確にし、卒業後の将来計画の展開も含めて将来像を描く動機付け教育である。	
		理工学入門	工学系及び情報系の学修を進めるにあたり、その基礎となる数学や物理の理数系の基礎学力がその後の授業展開に大きく影響する。大学入学以前の理数系教育の学修履歴は学生によって異なり、さらに近年の学生の多様化も進み、個々の学生間での理数系基礎学力の格差が大きい。そのため、1年次より通常の共通基盤科目と専門教育を進める前の期間に、数学・物理系の工学共通基礎教育を行う。個々の学生の入学時点での履修履歴をもとに履修者が決定され、入学直後に集中授業形式で学修を行って理数系の基礎学力の強化を行い、その後に続く1年次の授業が円滑に進むよう設定された科目である。	
		スタディスキル	本科目は1年生の導入科目として、高校の学習から大学への学びをスムーズに移行するための学習スキルを修得する科目である。この科目では、大学の学習システムや大学キャンパスでの生活を知り、大学生としての基本的な心構え・マナーを理解し、大学での学びに必要な日本語能力やコミュニケーション能力等を身に付け、また専門学習の基礎となる実験や工作の方法、レポートのまとめ方等も修得する。	
	倫理系	技術者倫理	科学技術の発達、技術に起因する事故のリスクも大きくなり、また地球規模での環境問題、社会問題を生み出している。そのため、技術者としては単なる技術の開発や企業の利益を追求することだけではなく、社会に対して技術や製品の安全性等を確保する大きな責務を自覚する必要がある。また技術分野における倫理問題を議論すると同時に専門家としての倫理問題の存在も重視すべきである。本講義では、専門分野における最近の事例を取り上げ、事故や問題発生の経緯、技術者および経営者の対応などの解析を通じて、技術の専門家として倫理的に考え、行動する姿勢を養い、倫理的問題の実践的な解決能力を身に付ける。また、技術者倫理と関連の深い企業倫理、製造物責任、知的財産権などの基礎知識を学習し、技術者の社会的な責任を自覚する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（情報学部情報システム学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人文社会系	現代社会講座	この授業は、人文社会系教養科目の基本的知識を体系的に理解するための入り口に当たる。7つのコア科目の概要を通じ、理系の学生が身につけるべき文系教養を体系的に把握する。 （オムニバス方式／全15回） （61. 山本崇広／3回） 市場経済の基礎的条件を理解し、市場経済が引き起こす経済危機や格差の拡大について、経済思想の観点から考える。 （31. 佐藤史緒／2回） 心理学では「こころ」をどのように捉えているのかを理解する。自分自身や周りの他者、日常生活を「心理学」の枠組みで捉え直す。 （59. 多田庶弘／2回） 「決まり」とは——結婚に関する決まりから考える。実際の法の判断を考えてみよう——法判断は私たちの考えと離れたものなのか。 （10. 三浦直子／2回） 空間軸や時間軸での比較を通じて、私たちの身体に及ぶ社会からの影響について理解を深める。 （60. 中畑邦夫／2回） 「哲学的」とあるとはどのようなことか？——世界と私と言葉と。 「哲学的」に考えてみよう——日常の中の非日常。 （58. 山田陽／2回） 政治とは何かを捉える試みを参照しながら、政治学の目的や意味を探る。民主政治の基本的な制度や考え方を確認し、民主政治とは何かを考える。 （11. 師玉真理／2回） 文学とは何か、その対象となるものは何かを考える。作品の《読み》の在り方を批評的に捉える方法について考える。	オムニバス方式
		わたしたちは、日々の暮らしを維持したり、よりよい生活を営むために経済活動を行っている。働いて給与を得て財やサービスを消費する、あるいは将来のための資産を形成する、また会社に勤めることで生産にも携わる。日々の暮らしの多くがこうした経済活動に関わるものである。本講義では、わたしたちの身の回りの財やサービスの価格がどのように決まるのか、働くとはどういうことか、給料はどのように決まるのか、預貯金をするとはどういうことか、銀行はいかなる役割を果たしているかなどを学んでいく。また、経済成長やグローバル化など、マクロ的な経済動向がわたしたちの暮らしにどのような影響を及ぼしうるかについても考える。	
		本講義は、歴史を学ぶ（考える・研究する）上での基礎的なルールを紹介し、歴史的な物の考え方を修得することを目指します。「流動的で不確定な社会」と言われる現代にあって、私たちは様々な困難に遭遇します。今（現在）をどのように捉え、その困難を解決して、どのような未来を描いて生きていけばよいのか、困惑することもしばしばでしょう。ここで大切なことは、私たちの生きる世界は、社会制度、行動様式、文化規範、いずれをとってみても過去にあった歴史的事象の積み重ねの上に築かれたものだということです。歴史を学び、歴史的な考え方を修得することは、そうした現在を捉え、解決を見出し、そして未来を生きていくための大切なツールとなるのです。そこで本講義では、過去の物事を「いま」の「われわれ」に結びつく問題群として捉え直し、現在さらには未来を読み解く材料にします。これらを通じて、私たちが生きる世界を、より広く相対的な視点から俯瞰できるよう授業を進めていきます。	
		新聞・映画・ラジオ・テレビの登場は、不特定多数の人々に大量の情報を一方向的・同時に伝達することで、社会意識に大きな影響を与えてきた。更に現代では、インターネットの普及により、興味・関心の異なる利用者が双方向的に情報伝達できる、巨大メディアへと成長しつつある。授業では、技術革新と社会的影響を中心に、マスメディアの歴史的変遷および今日のマスメディアの特徴と問題点について考察する。各自が日常的に接する多種多様な情報を取捨選択し読み解くためのメディアリテラシーを修得して欲しい。	
共通基盤教育	経済の科学		
	歴史の科学		
	社会の科学		

授 業 科 目 の 概 要				
(情報学部情報システム学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通基盤教育	人文社会系a群	文化の科学	私たちは、文化的な諸問題を考える際に、ともすると自分の所属する特定の文化からのみ捉えられた自文化中心のものの見方に陥ってしまいがちです。本授業では、そうした狭い文化観に陥らず、相対的に文化を捉え考えていく力を身に付けることを目的とします。 具体的には、ひろく文化的コンテンツや表象作品を素材として、その解読のための方法や方法論を概説しながら、表現行為の意味や創作にまつわる文化的意義について批評的に読み解き考えていきます。また、そうした批評的な読解から表現行為に孕まれる人間の想像力の在り方、更には創作・表現における世界認識の可能性についても考えていきたいと思います。	
		グローバル化の科学	グローバル化の進展とともに、文化、経済、政治など人間の諸活動は地理的境界を越えて拡大し、異なる文化を持つ人々との交流の機会も増えつつあります。本講義は、そうした状況にあって私達が、国際社会における日本に生きる一個人として、どのような知見と展望をもち、また、どのような意識と考えを身につけて生きていかなければならないのかを学ぶための授業です。 例えば私たちは、日本企業のアジア進出があたり前となった現在、アジアの労働力や技術力に期待が寄せられる一方で、政治的な対立も大きな問題として根強く存在する事実にも目を向ける必要があります。これからの日本を担うエンジニアにとって、諸外国とどのような関わりをもつべきかを考えることはとても大切です。そこで本講義では、近代から現代に至るまでの日本と諸外国の関係を確認しながら、グローバル化していく世界における日本のしかるべき在り方、さらにはそこに生きる日本人として自らの考えが身につけられるよう授業を進めていきます。	
		心の科学	この授業では、身近な心理学について講義する。多くの学生は「身近な心理学」と聞くと、例えば心理テストや性格診断などを連想するかもしれない。しかし、それらは心理学の展開・応用にすぎない。ここでは、展開・応用の根源にある人間理解を目指し、身の回りの出来事を心理学的に捉える方法を学ぶ。現代社会で誰もが会える事柄を研究対象としているので、学生が修得・実践すれば日常生活を今まで以上に円滑に送れるようになるであろう。	
		日本国憲法	日本人ほど憲法をよく知り、崇拝する国民はいないといわれる。小学校の「公民科」・中学校の「公民科目」・高校の「現代社会や政経」・大学の「教養科目」として、4回も憲法は学ぶことになっているからだ。しかし、法学部の学生を含めて、憲法がその他の法律とは違って国民の人権を保護するための「公的機関を縛るルール」であることを知る人はほとんどいない。このため、憲法は何の役にも立たないお題目と化し、憲法学者より建設業者の方が政治に影響力がある現実になっている。憲法は他の法律（社会の秩序を維持したり、国民間の紛争を解決するための法）と違い、むしろ逆向きで、国民の人権を侵害しないよう公権力を見張る機能を持ち、「公権力 v s . 私人」という対立においてはじめて問題となる法律なのである。これまでの憲法論議に欠けていた、現実の人間の具体的な生き方、ないしは生活との関わりの中で、もう一度憲法をとらえ直して考えることが必要だ。この講座は、お題目を唱え・暗記するのではなく、そのルールは何故つくられたのか、憲法を生活に活かすためにどうすればいいのか等を、自ら考え、実践できることが目的である。その結果、公正で論理的な憲法改正論議が出来ることが目標となる。	
		環境論	20世紀後半に起きた公害・環境問題は、人間社会において自然環境が有限で限界であることを自覚させる契機となった。この意味で、際限なき拡大・成長を自明視してきた現代社会は、かつてない転換点にあるといえる。本講義では、この転換の意味を理解するために、現代日本を含め国際社会が直面しているいくつかの環境問題を取り上げて、環境破壊を生み出す社会構造のそのメカニズムについて考えていく。その上で、持続可能な社会を構想する現代の潮流を読み解いていきたい。受講者には環境問題を自然現象として理解するだけでなく、「社会」の問題として理解できるようになってもらいたい。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報学部情報システム学科）				
科目 区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
共通 基盤 教育	人文 社会 系 a 群	人文社会科学アクティブ演習	この授業では、グループディスカッションを通じて、様々な時事問題・社会的な課題について考察を深めていく。私たちは社会と向き合うにあたって、文献調査やフィールドワーク等によって集めた資料・データを踏まえて、偏りのない広い視野で諸問題に對峙し、他者の意見を理解・包摂した上で思考し、判断・解決する力を身につけなければならない。本演習は、そうした意識や自覚、思考力、コミュニケーション能力、判断力そして表現力を身につけることを目標とする。また、グループワークの経験を通じて他者・異文化と出会い、SDGsの各課題や、社会貢献、地域活性化、歴史、環境、動向と展望等といったキーワードをテーマに企画立案を行い、プレゼンテーションのかたちで発表する。	
	人文 社会 系 b 群	哲学	本講義では、哲学者たちが古代から議論し、考え続けてきたさまざまな概念を取り上げます。これらの概念は、私たちがさまざまな物事を考えるときの手がかりとなるだけでなく、それ自体がさらに考えなければならない問題を形づくっています。哲学が扱うこれらの問題は、たとえ深遠で難しいものに見えたとしても、どれもわれわれの日常に大きく関わるものです。というのも、抽象的な言葉で書かれているとはいえ、哲学者たちの思索はどれも彼らが生きた社会や時代との格闘から生まれたものだからです。哲学史上のさまざまな考え方を知り、概念を学ぶことによって、私たちの考え方そのものを捉え返し、さらに、自ら考えるための力を身に付けることが本講義の目標です。	
		文学	文学作品のみならず《ことば》によって書かれた作品には“読む”という行為がつきまといま。普段何気なく触れている文章の《ことば》も、言語がもつ《表現》としての働きや機能性を念頭に置いて意識的に“読む”とき、それまで受け取っていた理解とは全く異なる世界が開けてきます。そうした“読む”行為を意識化するところに、文学という学問領域の意味があります。本授業では、そのような“読み”の知見を学ぶことで、多角的な読解の方法と姿勢を身に付けることを目的とします。テキスト（小説、評論、等々）と向き合い、意識的に“読む”読解・解釈という作業の中で、《ことば》を《読む》という行為の意味や可能性について考えていきたいと思います。	
		心理学	この授業では、心理学の成立と、現代に至るまでに誕生した様々な心理学の分野とその理論について紹介していきます。社会心理学やパーソナリティ心理学、発達心理学、教育心理学、学習心理学、臨床心理学などの基本的な考え方や理論に関して、適宜、ビデオ教材なども用いながら説明していきます。授業を通じて、人に対する理解を深め、世の中の現象を心理学の視点から捉えることができるようになること、そして、心理学が日常生活においてどのように役立っているのかについて理解できるようになることを期待します。	
		倫理学	社会の変化や科学技術の発展にともない、先例のない問題や、明確なルールのない問題が生じることがあります（「これはやってよいことなのか？」）。それは、私たちの日常においても同様です。そのなかでも、とくに価値判断が重要となる問題を考えるためには、倫理学を学ぶことが役に立つでしょう。この授業では、まず「倫理的問題」の性質を考えます。そして、倫理・道徳についての諸学説をたどりながら、個人の尊厳と自由、生命といったトピックについて検討していきます。説明は、具体的事例を交えて進めていく予定です。「価値観は人それぞれ」というのは一見もっともらしいですが、独善的な意見のままでは幅広い理解を得られません。そこで、自分の意見を吟味する手段を学び、普遍的価値と触れ合うところを見出していくことが、より意義ある意見の形成のために大切であるとの認識のもと、みずから考える授業を進めていきます。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報学部情報システム学科）				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通基盤	人文社会系b群	教育学	<p>「人を育てる」、「人が育つ」とは、人間にとってどのような行為であり、歴史的にどのような教育活動や学校システムが作り出されてきたのか、教育は今日の世界においてどのような可能性・使命、そして「危険性」をもっているのか、という本質的な問いを扱う。</p> <p>教育の土台となる人間的諸活動（遊び、学び、労作など）、権利としての教育、学校・教育のデザイン、子ども・学校の歴史、現代社会の教育問題といった視点から、テーマ学習のスタイルで考える。講義の中心は子どもへの教育活動への言及となるが、生涯発達思想や学校化社会批判の観点からも考察する。</p> <p>現代の子ども・教育をめぐる諸問題を、一般的な言説やマスコミ報道によってではなく、自分の力で分析・検討する姿勢をもつようになること、その際、異質な存在への寛容さや人類的な視点をもてること、やがては何らかの専門家・市民・保護者として教育に主体的にかかわろうとする意識をもつことを狙いとする。</p>	
	人文社会系c群	政治学	人間は社会的な動物であるといわれます。すなわち人間は、他者の存在が不可欠であり、他者との関係のなかで生きる生き物です。そういう人間が集まって作る社会の歴史・制度・習慣・風俗・気質等が、どのように人々の暮らしを条件付けているか。また、その中で個人と社会（または組織）との望ましい関係はなにか。－そういう問題を考えるのがこの科目です。具体的にいえば、主に現在の日本の政治状況から例を取り上げながら、そこにどのような原則（または無原則？）があるのか、個人としての私たちは、どのように行動するのが、より良いことなのか、等を考えてみたいと思います。	
		経済学	経済学は、人々の生活基盤となる経済システムおよびメカニズムについて明らかにする社会科学です。この講義では現代の世界経済および日本経済の現状について、まず「現代の大不況」を理解するため混合経済体制の下での国民経済のメカニズムを把握し、国民所得の決定の理論、財政・金融政策の役割を中心にマクロ経済を学習します。次に、市場経済の現実の運動を論理的に解明するため、ミクロ経済の必要最低限の知識である意思決定と企業の費用分析および市場の失敗等について学びます。かくして、経済現象について体系的に学ぶことで、広い視野と深い洞察を得るための汎用的技能を修得出来ます。	
		法学	<p>「生活の中の法学」や「はじめての法学」、あるいは「〇〇学部のための法学」といった容易さや限定的なタイトルにだまされる人は多い。「工学部のための法学」といえば決まって特許や著作権などの知的財産権が対象で権利者の保護や経済的権利（どれだけ儲かるか）が話題になり、科学技術の公共性や知的文化の発展という本来の目的を忘れる。法は特定の人々の利益のためにあるのではない。授業では、法知識を身に付けるのではなく、何のために法は発生し（法の起源）、どのように変化（法の変遷）し、どこへ向かおうとしているのか（法の行方）について考える。私たちが殺人・傷害などをしないのは刑法があるからではなく、社会の人間関係から排除されることを恐れるからに他ならない。ネット社会の中ではこうした「法的想像力」が欠如し、人間関係の希薄化が一体何をもたらすのか等を一緒に考え、その解決法の一つとして、「リーガルマインド（法的思考）」を身に付けることが「法学」の目的です。</p>	
		社会学	社会学は、私たちの「常識」を疑い、日常生活のなかにさまざまな「驚き」や「異文化」を発見し、「社会」がどのようなメカニズムで成り立っているのかを解明する学問である。私たちは、自らが所属する「社会」の影響を色濃く受けており、決して「社会」と無縁に暮らしているわけではない。そこで、社会学理論を学ぶことで新しい「思考の枠組み」を獲得し、歴史を知り現在を相対化するとともに、国際比較や異文化理解によって自文化を相対化する。こうした社会学的な思考を通じて、社会問題を発見し、多角的に考える広い視野を体得して欲しい。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報学部情報システム学科）				
科目 区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
人文社会系c群 共通基盤	人文社会系c群	経営学	この講義の目的は、経営学の基礎と戦略論を学びながら、経営学的な考え方を修得することである。経営学の基礎としては、企業内部がどのように構成されているのか、を「ヒト・カネ・モノ・情報」といった経営資源を基に学ぶ。そして、企業の実例と講義内容をあわせて、企業の地道な努力や問題点を見つづ、理論と実際の差異を考えていく。 その後、現代企業の国内・国外での具体的な経営活動を効果的に行うために用いられる「戦略論」を学習していく。企業は常に競争にさらされており、自身の存続をかけて、内部環境や外部環境を分析した上で商品を市場に投入していく。戦略論では市場での企業間競争を中心に学習する。その例として、時事トピック・事例研究を取り入れ、企業の置かれている現状を理解できるようにしていく。	
	健康・スポーツ系	健康・スポーツ科学実習Ⅰ	本科目では、現代の健康問題、体力の維持向上のためのトレーニング理論や身体活動が精神面にもたらす健康効果について学び、生涯を通じたセルフコントロール能力を身につける。 さらに、各種スポーツやトレーニングの実践、体力や日常の身体活動量の「見える化」などの取り組みを通じて、工科系大学における研究活動への興味を高めたりヒントをつかんだりすることも狙いとする。運動実技では、縦断的な健康体力評価（体力測定）の重要性とその方法について学ぶ。さらに、ストレッチングや筋力トレーニングなどの運動と球技種目を中心に実践する。	実技16時間 講義14時間
		健康・スポーツ科学実習Ⅱ	本科目では、継続的に運動やスポーツを行うことで得られる健康体力の維持増進効果のみならず、疲労やスポーツ障害など、運動の実施が心身に及ぼす部分的な負の側面についても学ぶ。運動やスポーツの安全・合理的な活用によって、卒業後の人生においても健康管理できる能力の獲得を大きな目標とする。 運動実技では、縦断的な健康体力評価（体力測定）の重要性とその方法について学ぶ。さらに、ストレッチング、筋力トレーニングなどの運動に加え、「ニュースポーツ」「アダプテッド・スポーツ」についても実践する。	実技16時間 講義14時間
		身体活動・スポーツ論	現代社会において重要性が高まっている身体活動とスポーツについて、そのメカニズムを生理学、バイオメカニクス等の視点から学ぶ。また、運動やスポーツの実施や普及が我々に及ぼしてきた影響を自然科学および社会学の両面から検討し、自らの身体活動のあり方について考えてもらう。大きな題材としては、「ヒトが運動している時に身体に起こっていること」、「スポーツや日常の様々な身体活動を観察する」、「そもそもスポーツとは何なのか、何をもたらしたのか」などである。	
		生涯スポーツ実習	スポーツのルールや用具の特性、練習方法について知るだけでなく、パフォーマンス向上のためのトレーニング理論や、各種スポーツの生理学的特徴、健康効果についても学ぶ。生涯を通じて、健康の維持増進に加え、社会・文化活動としてもスポーツを有効に活用できるようになることを大きな目標としている。 スポーツ実技部分は、ストレッチング、筋力トレーニングなどの一人で行う運動と、バレーボール、バドミントン、バスケットボール、卓球などの球技が中心となる。さらに、「ニュースポーツ」や「アダプテッド・スポーツ」を実践する。縦断的な健康体力評価（体力測定）の理論と方法についても学ぶ。	
	言語系英語基礎	英語Ⅰ	高校までに学んだ英語の基礎を再度学修し直す。アルファベットから始まり、発音、符号、品詞、語順など、英語の初歩的な文法事項、基本語彙、平易な会話表現・作文などの学修を通して、英語の基本を確実に修得することを第一目標とし、TOEIC L&Rテストにも対応できるような基礎力を身に付ける。	
		英語Ⅱ	高校までに学んだ英語の基礎（並びに、英語Ⅰで学修した英語の基礎）をさらに確実なものとし、基本的語彙を含め、英語の基本となる事柄をしっかりと理解できるようになることを第一目標とし、TOEIC L&Rテストに対応できるような基礎力を修得する。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報学部情報システム学科）				
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通 基盤 教育	言語系 英語 基礎	英語Ⅲ	高校までに学んだ英語の基礎（並びに、英語Ⅰと英語Ⅱの学修内容）を土台として、基本的な語彙力と文法・構文力を身に付け、それらを総合的に活用して身近な事柄に関する比較的平易な文書が理解できるとともに、それらについて基本的な文章を書いたり話したりすることができるようになることを目標とし、TOEIC L&Rテストにも対応できるような総合的な英語力を修得する。	
		英語Ⅳ	英語Ⅲまでの学修内容を土台として、さらなる語彙力と文法・構文力を身に付け、簡単な説明文を理解し、図表などを読み取ることができ、日常生活での話題や関心のある事柄について自分の考えを述べたり、英語で出された指示などを理解することができるようになることを目標とし、TOEIC L&Rテストにも対応できるような総合的な英語力を修得する。	
		英語Ⅴ	英語Ⅳまでの学修内容を土台として、より高度な英語の説明文を理解し、より実用的な文章から必要な情報を十分に読み取ることができ、社会や日常生活の出来事についての的確に説明することができる英語力を身に付けることを目標とし、TOEIC L&Rテストにも対応できるような総合的な英語力を修得する。	
	言語系 言語 応用 a群	科学技術英語Ⅰ	グローバルな社会に対応するため、科学技術の情報を英語で受信・発信する基礎的能力が必要となっている。本科目は専門分野に関する科学技術英語の基礎を学び、英語による専門分野の科学技術文章の読解・作成を行うのに必要な国際コミュニケーションの基礎力を修得することを目的とする。具体的に、工学、情報、バイオ等の専門分野の素材を題材にし、専門用語の意味、専門的な英語表現方法等を学び、理解し、易しい技術的な教科書、マニュアル、記事や論文等を読解でき、短い科学技術説明文を作成できる。	
		科学技術英語Ⅱ	科学技術英語Ⅰに引き続き、英語による専門分野の科学技術文章の読解・作成・発表を行うのに必要な国際コミュニケーションの応用力を修得することを目的とする。具体的に、各専門分野の科学技術論文の読解法、英文によるレポートや論文の作成方法、英文によるプレゼンテーション資料の作成および発表手法を学び、専門分野に関する総合的な英語応用力を身に付ける。	
		英会話Ⅰ	この授業は、ネイティブ・スピーカーにより、ネイティブの発音に慣れ、「リズム」と「ストレス」で成り立つ英語音を理解する。英語コミュニケーションの基本的表現、日常生活の中の英単語や英語表現を学びこれを活用するための演習を行う。また、TOEIC（R）テストの対応に有効なディクテーションを行い国際的な感覚を学ぶ。	
		英会話Ⅱ	この授業は、ネイティブ・スピーカーにより、英会話Ⅰよりナチュラルスピードに近いネイティブの発音に慣れ、音としての英語を理解する。英語コミュニケーションの基本的表現、日常生活の中の英単語や英語表現を英会話Ⅰに続き学びこれを活用するための演習を行う。また、TOEIC（R）テストの対応に有効なディクテーションを行い国際的な感覚を学ぶ。	
		総合英語演習	リスニング、ディクテーション、語彙問題を中心としたe-Learningの演習課題を授業内でおこなっていくことを通して、基礎的な文法事項・語彙・英語表現を修得し、日常生活における身近な事柄に関して、コミュニケーションをとることができる力を身に付けることを主眼とし、TOEIC L&Rテストにも対応できるような総合的な英語力を修得する。	
		TOEICⅠ	TOEIC L&Rテストで500点以上を取得することを目標としながら、英語Ⅴまでに学んだ内容を土台として、社会人に必要とされる高度で、総合的な英語力を身に付けることを主眼とする。具体的にはTOEIC L&Rテストの試験形式に沿った形で、リスニングおよびリーディングの力を向上させることを中心とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
（情報学部情報システム学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通基盤教育	言語系言語応用a群	TOEIC I の学修内容を土台として、TOEIC L&Rテストで550点以上を取得することを目標としながら、社会人に必要とされる高度で、総合的な英語力を身に付けることを主眼とする。具体的にはTOEIC L&Rテストの試験形式に沿った形で、リスニングおよびリーディングの力をさらに向上させることを中心とする。	
	言語系言語応用b群	TOEIC II	
	日本語表現技術	1年次前期の「スタディスキル」で学んだことを活かし、更に高度な文章表現の技術、コミュニケーション技術を学ぶ。「スタディスキル」では、特に大学生活で必要最低限の事項を優先的に学んだが、「日本語表現技術」では、より考えを深め、より効果的に表現するためのスキルを身に付けることを目標とする。 ライティング能力および論理的思考を身に付ける為の基礎的な演習を行い、実用的にものを書くための基本論な事項について、また論理的に書くとはどのようなことか、主張を明確に伝えるとはどういうことかを学んでいく。具体的には、文章の形式、構成法、主張と論拠の立て方、文献の引用の仕方、テーマの深め方等を学び、学期後半では報告やプレゼンテーションの発表、質疑応答等を行いながら、公的な場におけるコミュニケーションのスキルを学ぶ。	
	プレゼンテーション技術	プレゼンテーションとは、単に人前に出て話せばいいというものではない。いかに「説得的に伝達するか」が重要な課題となる。その為には「論理的に考え」「要点をまとめて整理し」「聞き手の立場に立って表現する」という三つの要素と、これに付随する様々な技術の修得を要する。 本授業では、そうした基礎的な要素をふまえて、プレゼンテーションの事前準備から、シナリオの作成、伝達技術、そして質疑応答に至るまでの、より高度なプレゼンテーション技術の修得を目標とする。進め方としては、社会に出てからの実践にもつながる技術上の知識やメソッドを学びながら、実際のビジネス分野でのヒット商品の企画書やプレゼン資料などを読み解き、批判・批評的な意識を高める。また、実際のプレゼン発表・質疑応答を通して、体系的に技術を修得していく。	
	技術文章の書き方	技術者にとって研究報告書・論文・技術的なマニュアルの作成はコミュニケーション手段の一つとして欠かせないことである。本科目は技術者に必要な技術文章のまとめ方、マニュアルの作成方法をマスターし、ライティング技法も身に付け、卒業研究論文等の技術文章を書けることを目的とする。具体的に、技術文章の構成、各専門分野に関する専門用語、表やグラフの作成、技術文章の具体例（技術報告書、取り扱い説明書等）を学習する。	
	身の回りの数学	高校から大学までの数学を三つの分野に分けて学ぶ。 第1分野（数、数式、図形の基本的な扱い）数の概念、数の表記、数列の考え方、方程式の立て方、三角比と図形 第2分野（論理的な考え方、物事を整理し考える方法） 論理と思考、数え上げ、確からしさと確率、データの統計処理 第3分野（社会や自然に関する知識の基礎的な事柄の理解） 指数関数的増減と対数スケール、変化率と微分、面積と積分	
数理情報系	実感する科学	身の回りや生活の中の自然現象や科学技術などを題材にして、自然科学の基礎的な内容を学ぶ。原子一分子に始まり生命や地球まで、この世界をつくる「物質」と、物質が動く源である「エネルギー」を軸にして、物理・化学・生物・地学の4分野が、よく関連していることを感じてもらう。授業は、一方的に知識を詰め込む講義形式ではなく、双方向的に進め、簡単な演示実験や動画も活用して、「意味をつかむ」「考える」「体験や知識を互いにつなげる」といった姿勢で学ぶことの大切さを感じてもらいたいことを目的としている。そうした「知の実感」とともに、数量的なスキルを鍛える計算や、数式とグラフの扱い方などの演習にも十分な時間をかける。取り上げる題材は、物質と原子、エネルギー、食事と栄養、速度と加速度、地震と火山、汗はなぜ身体を冷やす、気象、遺伝、DNA、身近な電気、原子力発電、地球温暖化などである。	

授 業 科 目 の 概 要				
(情報学部情報システム学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 基盤 教育	数 理 情 報 系	情報・A I リテラシー (情報基礎)	情報発信時と取得時における留意事項を理解するとともに、コンピュータとネットワークに関する様々な概念や応用技術を学び、それらを活用できる能力を身につける。また、数理・データサイエンス・AIに関して、それらが現在進行中の社会変化に深く寄与しており、様々な留意事項があるものの、多くの活用事例がうまれていることを学ぶ。さらに、実データ・実課題を用いた演習など、社会での事例を題材として、データ加工・可視化・分析の方法および機械学習の基本概念と活用法を習得する。	
		A I とデータサイエンス (情報応用)	AIとデータサイエンス分野を取り巻く話題について取り扱うと共に、情報系・工学系・サイエンス系・医療系などの各分野からの話題提供を交えて講義を行う。前半はAIとデータサイエンスに関する入門編、基礎編、実践編として、データサイエンスの考え方、AIをめぐる動向や問題、機械学習の具体的手法、ディープラーニングの概要と手法について解説する。後半は先に示した様々な分野からの具体的な話題提供により、課題レポートの作成を中心に指導する。授業全体をオムニバス形式で実施する。 (オムニバス方式／全15回) (17. 納富 一宏／1回) 科目ガイダンスとして、シラバス、授業予定、受講上の注意点、課題対応などについて説明する。 (23. 塩野 直志／1回) データサイエンス・AI序論について講義する。 (35. 須藤 康裕／1回) AIをめぐる動向としてソフトコンピューティングに関して講義する。 (34. 前田 篤彦／5回) AI分野の問題、機械学習の具体的手法、ディープラーニングの概要、ディープラーニングの手法についてそれぞれ講義する。 (22. 武尾 英哉／1回) 電気電子情報工学科におけるAIとDSの応用について話題提供を行い議論する。 (36. 杉村 博／1回) 「AIと家」と題してスマートホームに関する話題提供を行い議論する。 (7. 三枝 亮／1回) 「AIとロボット」と題してロボットへのAI応用に関する話題提供を行い議論する。 (18. 宮崎 剛／1回) 認識処理を活用した研究事例に関する話題提供を行い議論する。 (20. 村田 隆／1回) 生物進化と最適化問題に関する話題提供を行い議論する。 (19. 臼杵 潤／1回) インターネットを介したデータ収集や収集したデータの分析や活用に関する話題提供を行い議論する。 (21. 鈴木 聡／1回) 医療関係のAIやDSの活用に関する話題提供を行い議論する。	オムニバス方式
	キ ャ リ ア 系	キャリア設計Ⅰ	大学生活において目標設定 やその計画が大切である。この授業では学習や学生生活の目標の設定やそれに向けての計画を具体化することを目的として授業を進める。特に最近の就職活動に早期化にも対応し、社会情勢や働くこと、仕事の種類などについても企業の協力を得て実践的に理解を深める。自ら大学生活の目標設定ができるようになることを目標とする。	
		キャリア設計Ⅱ	前年度の学習や学生生活を振り返り、今年度の取り組みの目標設定や進路選択に向けての知識を修得することを目的として開講する。大学での学習と社会や企業との関わりを業界や職種と関連づけて理解を深め、学びの意義や大切さを再確認する。また、自分自身を文章で表現手法やコミュニケーション力の大切さ、課題解決の手法などをグループワークを通して修得する。インターンシップと本科目を連動することでより効果的な学習が実践できます。	

授 業 科 目 の 概 要				
(情報学部情報システム学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 基盤 教育	キャリア系	キャリア設計Ⅲ	大学での各専門学習と社会や企業との関わりを業界や職種と関連づけて企業の協力を受けながら理解を深め、将来の進路選択や設計に必要な知識やスキルの修得を目的として開講する。特に理系人材に企業が求める能力や行動について企業での事例をもとにケーススタディを通して理解する。各種インターンシップや産学連携プロジェクトと本科目を連動することでより効果的な学習が実践できます。	
		社会人に向けての準備講座	新年度から企業人となる前に企業人1年生として必要な行動やマナーを理解すること、職場におけるマナーや仕事に関わる法律などを具体的に引き上げ企業人として必要なスキルを身につけることを目的としている。また、人生設計などやお金に関わる問題なども具体事例をもとに理解を深める場面も設け卒業後の生活についてもその意義を明確にすることも開講の目的としている。授業はグループワークや演習などを盛り込み体験的に授業を進める。	
		企業特別講座	この講座は企業からの寄付講座として開講します。企業が取り組む製品開発製造・プロジェクトなどの事例をもとにそれらの業界で何が行われているか、そのような取り組みが社会や生活に対してどのような効果が期待されるかなどを企業からの講座を通して実体験的に理解します。また、大学での学びがどのように活用されているかなど具体的な事例や製品をもとに学び今後の進路や学ぶに活かせるようなことをこの講座から学びとり各自のスキルとしてもらいたい。	
		インターンシップⅠ	就職にむけて自分にとってなにが必要かなどを具体的に理解できる機会である。この科目では 単独あるいは複数企業における評価を伴う就業体験3日間以上の取り組みをもとに前述の理解を深めることを目的として開講する。年度初めのオリエンテーション事前学習 企業における就業体験 さらに事後学習で授業が構成されている。 目的意識を持ってこの科目を受講することを希望する。	
		インターンシップⅡ	インターンシップは大学での学習や体験が社会や企業でどのように繋がっているのか、また、就職にむけて自分にとってなにが必要かなどを具体的に理解できる機会である。この科目では 単独企業における評価を伴う就業体験10日間以上の取り組みをもとに、企業の取り組み 働くことや就職することの意義、 専門学習の活用などについて実践的に理解を深めることを目的として開講する。 年度初めのオリエンテーション事前学習 企業における就業体験 さらに事後学習で授業が構成されている。 目的意識を持って履修することを希望する。	
		課題解決型 インターンシップ	企業における身近な課題や新しいサービスや製品の改善などをテーマに学習する専門領域の枠を超えて学生が連携して課題に取り組むインターンシップである。 企業から投げられた課題をグループで理解し計画、実践、メンバーや企業とのコミュニケーションをもとに社会人基礎力を実践的に育成する目的も合わせ持った科目である。	
		産学連携プロジェクト	座学と企業と連携したプロジェクトを連動した科目構成である。インターンシップを経験したことのある学生向けの科目と位置付ける。社会人基礎力 SDGsの考え方 社会人マナー 企業研究の手法などを理解し、実際に企業と連携した調査・ものづくりなどのテーマを学部横断的な学生グループで取り組む。 取り組みではプロジェクトの進め方・役割分担・コミュニケーションなども実践的に学び、専門的な知識やスキルの実践的な活用についても理解を深める。	
専門 教育	専門 基礎 導入	プログラミング入門A	コンピュータはプログラムで動いている。したがって、情報技術を駆使して社会の課題を解決する上でプログラミングは必須の技術と言える。本授業ではプログラミングの基本技術を演習を通して学ぶ。特に、プログラミングの基本となる、処理の流れ、変数と計算、条件分岐、反復処理、配列、関数とライブラリを理解して、演習によりこれらを用いたプログラムを自ら作成できることをめざす。授業の中でコンピュータシステム、ソフトウェア、アルゴリズムとプログラミングとの関係についても学ぶ。本授業ではプログラミング言語としてPython等を用いて、各自がプログラムを作成しながら学習を進める。	講義：30時間 演習：30時間

授 業 科 目 の 概 要				
(情報学部情報システム学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育	専門 基礎 導入	プログラミング入門B	Webブラウザで動くアプリケーションの作成を通して、プログラミングの基礎を学ぶ。最初にWebインタフェース用にHTMLおよびCSSについて学ぶ。またWebアプリプログラミングでの処理の流れ（条件分岐、反復、イベント駆動処理等）をプログラム作成を通して学ぶ。授業の中でマルチメディア、ネットワーク、情報デザイン、データベースとプログラミングとの関係についても学ぶ。本授業ではプログラミング言語としてJavaScript等を用いて、各自がWebアプリプログラムを作成しながら学習を進める。	講義：30時間 演習：30時間
		プログラミング入門C	「プログラミング入門A、B」で習得したプログラミング技術の応用演習を通して、プログラミングへの理解を深めて、かつアプリケーションプログラムの課題解決への活用方法を身につけることをめざす。情報工学、ネットワーク、メディア、情報システムの分野に関する実用的なアプリケーションの種類、構成を学び、複数の具体的な課題についての実用的なアプリケーション作成を演習にて行う。本授業ではプログラミング言語として「プログラミング入門A、B」で学んだものを使う。	講義：30時間 演習：30時間
		コンピュータシステム入門	Society5.0に向けて、情報通信技術（ICT）の要となるコンピュータシステムの重要度が究極的に高まっている。本科目では、情報学部で学ぶ上で理解すべき基本的なコンピュータシステムの構成要素や動作原理、制御の仕組み等について理解し、基礎的な知識を身につけることを目指す。コンピュータシステムのハードウェア、ソフトウェアおよびネットワークに関する技術について解説する。また、応用面にも目を向け、クラウドコンピューティングや今後発展が期待される社会システムに関するトピックについても議論する。	
		マルチメディア入門	人間とコンピュータシステムとの意思伝達では、視覚、聴覚、触覚を中心とした双方向の情報伝達が行われる。情報通信技術（ICT）においては情報はデータとして表現され、インタフェースを通してコンピュータシステムとの入出力を行う。本科目では、コンピュータシステムにおける様々なデータ表現方法について着目し、インタフェースや入出力装置の仕組みについて学ぶ。我々の身近にあるスマートフォンに代表されるモバイルデバイスやPC操作に関連するデバイスなどを例にとりながら解説する。また、近年注目されるメタバースやVR、AR、MRなどxRと呼ばれる技術についても議論する。	
		ソフトウェア入門	コンピュータシステムはプログラムとして表現された命令により動作・制御される。ソフトウェアはコンピュータシステムが扱うデータと命令の集合体であり、複数のプログラムが連携して動作する場合もある。ソフトウェアはコンピュータシステムが情報を処理するための主体であり、我々の社会生活を支えるインターネットを通じて提供されるアプリケーションサービスの主体ともいえるものである。本科目では、こうしたソフトウェアの基本的な動作原理とソフトウェア開発に必要なツールやソフトウェアの設計・開発の工程について体系的に学ぶ。	
		ネットワーク入門	現代の情報システムは複数のコンピュータを大容量・高速ネットワークを通じて相互に連結し、命令やデータとして表現された様々な情報のやり取りを通じて連携した処理を行うことが一般的である。インターネットは世界規模のコンピュータネットワークの総体であり、我々の生活に欠かせない仕組みである。本科目では、コンピュータ同士が情報を伝達するために必要な装置やその動作原理についての基礎と、TCP/IPなどの通信プロトコルや情報システムの構築における重要な要素となるネットワーク技術について学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
(情報学部情報システム学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育	専門 基礎 導入	アルゴリズム入門	コンピュータの動作を司るものがプログラムであり、プログラムはコンピュータが処理できる命令の系列である。命令の系列は情報を処理する論理構造を表現したものであり、これらは接続、分岐、反復の3要素を基本とし、統計処理など決められた計算や定番のデータ処理を行うための手法がアルゴリズムである。本科目では、プログラミングの基本となるアルゴリズムを理解し、フローチャートなどによる記述方法を学ぶ。また、代表的なアルゴリズムである検索やソート为例に、プログラムの動作速度や処理の効率化におけるアルゴリズムの重要性について学ぶ。	
		情報デザイン入門	我々の生活する社会では、誰にでもより分かり易く情報を表現するためのデザインや工夫が存在する。本科目では、ユニバーサルデザインや情報バリアフリーなど多様な人々にとっての情報表現の考え方やアクセシビリティやユーザビリティという考え方の重要性を理解する。また、街中に存在する標識や案内板に見られるインフォグラフィックスやピクトグラムと呼ばれる情報デザインについて具体例を通して議論する。さらに文書作成やプレゼンテーションでの情報の示し方やインターネットにおけるWebによる効果的な情報提示など実際の情報デザインに触れる。	
		データベース入門	情報処理の対象となるデータはコンピュータシステムにおける記憶装置に蓄積・保管され、活用される。情報化社会では、インターネットを通じて大規模なデータ処理が停止することなく安定的に継続される。これらを実現する構成技術のひとつがデータベース技術である。本科目では、情報システムにおける大規模・高速なデータ処理やデータ検索技術、さらにはデータを安全に保ちながら活用する手段としてのデータベース技術についての基礎を学ぶ。また、ネットワークストレージやクラウドコンピューティングに関するトピックについても議論する。	
		情報セキュリティ入門	現代のコンピュータシステムはインターネットを通じて外部の情報システムと接続されており、様々な情報がネットワークを通じて相互に入出力される。近年では情報システムの安全性の確保が重要視されており、情報の安全性やコンピュータの信頼性を確保する仕組みが情報セキュリティ技術である。本科目では、コンピュータやネットワークにおける危険性、プログラムやデータにおける安全性、機密性、信頼性などの確保に関する基本的な考え方について学ぶ。また、コンピュータウイルスやマルウェア、サイバー攻撃、情報流出などネットワークの危険性に着目し、情報セキュリティの重要性について議論する。	
		AI/DS導入ユニット	人工知能（AI）およびデータサイエンス（DS）の基礎知識・技術を講義およびプログラミング演習を通して学ぶ。この授業では特に、AIやDSに関するプログラム（アプリケーション）について、その処理の流れ、使われている技術、プログラミング手法を中心に学ぶ。演習では実際にプログラミングを行い、AIやDSの技術への理解を深めて、また技術の応用方法を学ぶ。プログラミング演習では「プログラミング入門A、B、C」で習得した知識・技能を活かす。	講義：30時間 演習：60時間
		線形代数学Ⅰ-a	ベクトル、行列および行列式に関して、基礎的な計算方法を学ぶ。はじめに、平面上のベクトル、空間内のベクトルおよび空間内の平面の方程式について学ぶ。その後、行列の基本的性質とその応用として2元および3元連立1次方程式の解法について学ぶ。次に行列式を扱う。特に4次までの行列式については計算ができるようにする。以上の計算では、行列の行基本変形が重要である。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報学部情報システム学科）				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育	専門 基礎 導入	線形代数学Ⅰ-b	行列および行列式に関して、理論と計算方法を学ぶ。最初にベクトルについて簡単に復習をし、空間内の平面の方程式について触れる。その後、行列について行基本変形を通して学ぶ。逆行列については3次の場合に計算できるようにする。行列の応用として連立1次方程式の解法について行基本変形を使って学び、4元までの場合について計算できるようにする。次に行列式について学び、行基本変形を使って5次までの場合に計算できるようにする。また、行列式の余因子展開について触れ、その応用を取り扱う。	
		線形代数学Ⅱ-a	「線形代数学Ⅰ」に接続し、数ベクトル空間とその間の線形写像、および行列の固有値問題について、基礎的な計算方法を学ぶ。はじめに、平面と空間のベクトルの1次独立、1次従属および空間内の部分空間の概念を説明する。また、平面の間の線形写像、空間の間の線形写像およびそれらと行列の関係について取り上げる。その後、2次行列と簡単な3次行列の固有値および固有ベクトルについて説明し、その計算方法方法を学ぶ。また、その応用として2次行列の対角化に触れる。	
		線形代数学Ⅱ-b	「線形代数学Ⅰ」に接続し、数ベクトル空間とその間の線形写像、および行列の固有値問題について、理論と計算方法を学ぶ。はじめに、数ベクトル空間とその部分空間について触れ、部分空間を調べるのに重要な1次独立、1次従属、基底、次元の概念について解説する。また、数ベクトル空間の間の線形写像とその行列との関係を取り上げる。その後、行列の固有値と固有ベクトルについて学び、その応用として行列の対角化に触れる。また、行列の対角化の重要性について線形変換を通して解説する。さらに、応用として実対称行列の直交行列による標準化と実2次形式を扱う。	
		微分積分学Ⅰ-c	高等学校で数学Ⅲの「関数の極限」「微分」「積分」の範囲を学んでいないことを前提に、1変数関数の微分法と積分法の基礎を学ぶ。授業は週2回、講義と演習を織り交ぜて行う。 1. 数列と数列の極限 2. 指数関数・対数関数・三角関数の定義と性質 3. 関数の極限と導関数の定義 4. 基本関数の導関数 5. 合成関数と逆関数 6. 導関数の計算法 7. 高次導関数 8. テイラー展開 9. 不定積分の概念と基本性質、計算法 10. 定積分の概念と基本性質、計算法	講義30時間 演習30時間
		微分積分学Ⅰ-d	高等学校で数学Ⅲの「関数の極限」「微分」「積分」の範囲を一通り学んでいることを前提に、数学Ⅲの微分積分学の内容に接続し、必要に応じて確認しながら1変数関数の微分法と積分法の基礎と応用を学ぶ。授業は週2回、講義と演習を織り交ぜて行う。 1. 数列と数列の極限 2. 指数関数・対数関数・三角関数・逆三角関数の定義と性質 3. 関数の極限と導関数の定義 4. 基本関数の導関数 5. 導関数の計算法 6. 高次導関数 7. テイラー展開 8. 不定積分の概念と基本性質、計算技法 9. 定積分の概念と基本性質、計算技法 10. 広義積分	講義30時間 演習30時間

授 業 科 目 の 概 要			
（情報学部情報システム学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育	専門 基礎 導入	微分積分学Ⅱ-c 「微分積分学Ⅰ」に接続し、1変数関数の積分の計算技法の発展を学ぶ。さらに、2変数関数の微分法と積分法の基礎を学ぶ。授業は週2回、講義と演習を織り交ぜて行う。 1．置換積分法、部分積分法の技法 2．広義積分 3．偏導関数 4．高次偏導関数 5．2変数関数の極値 6．重積分	講義30時間 演習30時間
		微分積分学Ⅱ-d 「微分積分学Ⅰ-d」に接続し、多変数関数の微分法と積分法の基礎と応用を学ぶ。また、数列と級数の収束・発散について学ぶ。授業は週2回、講義と演習を織り交ぜて行う。 1．偏導関数 2．高次偏導関数 3．2変数関数の極値 4．重積分 5．重積分の応用 6．数列の極限と級数およびその応用	講義30時間 演習30時間
		離散数学 情報科学のいろいろな分野を学ぶ際に必要になると思われる、デジタルな数学概念のいくつかについて、それらの基礎を学ぶ。 集合に関する高度な概念の導入による、高度な数え上げ方法の修得や、漸化式と微分の類似性への着目による、数列の一般項を求める方法の修得、合同類という具体的な集合を通じた、一般の代数系に関する基本的な概念の修得、あるいは、初等・中等教育では習わない、グラフ理論に関する基本的な概念の修得を目指す。	
		情報法規と情報モラル 法律の一般的な考え方から、情報通信に関する国内法、国際条約等を解説し、さらに近年になって制定された不正アクセス禁止法などの情報セキュリティに関連した法律を講義する。具体的には、プライバシーと個人情報保護、情報の知的財産権、不正アクセス禁止法、さらにサイバー犯罪やサイバーセキュリティに関する法制度について、具体的な事例、判例をもとに解説する。また、情報モラルについても法的側面から考察していく。	
		情報社会のコミュニケーション 急速に発展したデジタル社会において、我々はスマートフォンやPCなどの機器を通して日常生活の中で各種情報に触れ、また、SNSやその他の手段で人とコミュニケーションをとっている。本科目では、そもそも情報とは何かを考えるとともに、情報を扱う上で基礎的な知識を概念的に身に付ける。情報とコミュニケーションについて、人と人が直接会う場合、電気通信による場合で何が起きているか、電気通信の発展の過程とともに学習する。また、現在の情報社会で起きている問題にも触れる。これらを学習することによって、将来のコミュニケーションの方向性について、各人が主体的に考えられるようにする。	
		情報社会と情報倫理 情報通信技術（ICT）の急激な進展は、社会変動をもたらし、人々のコミュニケーションや行動にも様々な変化をもたらした。そうした社会の変化に伴って、人と人との関係のあり方を規定する社会的ルールとしての道徳や倫理、法も変容している。この授業では、ICTの諸特性と現代社会への影響について、多角的に考察していく。身近なSNSやネットゲームを糸口に、情報社会におけるビッグデータやAIの活用の可能性と問題点について取り上げていく。これら現代の社会問題に対処するためには、ICTのユーザー（利用者）として、またICTの研究や開発に携わる者（提供者）として、どのような情報倫理を身につけるべきか15回の授業を通じて考察していく。	

授 業 科 目 の 概 要			
（情報学部情報システム学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育	専門 基礎 導入	<p>情報と人間</p> <p>現代社会の特質を指して高度情報化社会と呼ばれるようになって久しい。だが、その間にも情報技術の進歩は目覚ましく、私たちの生活や社会に多大な影響を及ぼし、さらなる変化を生み出している。本講義は、この現代社会における情報現象を人文・社会科学的視点から読み解く知見を学び、これからの情報化社会をみずから捉え考えていく為の、多様で柔軟な視点・思考を身に付けることを目的とする。具体的には、近年注目される社会情報学をはじめ、基礎情報学、メディア社会論等の知見を紹介しつつ、情報環境がもたらす私たち人間への影響や社会の在り方について考えていきたい。</p>	
	情報と知的財産権	<p>知的財産権の内容は、社会の変化とともに変遷している。ここでは、主に著作権について情報との関わりで見てゆく。従来の工業所有権の目的（産業の発達に寄与すること）と異なり、著作権法の目的は「文化の発展に寄与すること」である。急速なデジタル化とネットワーク化によって、商業サイドからの強力な圧力を受け、権利者、特に著作者よりも著作権者と利用者のバランスが崩れてきている。著作者と利用者の間で互いの権利範囲を明示し認識しあうことで、この失われたバランスを取り戻すことはできないのだろうか。情報を学ぶ者として、広い視野で知的財産権とは何かを考えて欲しい。</p>	
専門 教育	専門 基礎	<p>情報システム概論</p> <p>Society5.0 がめざす超スマート社会では、従来の情報技術をベースとしつつ、IoT（モノのインターネット）やAI（人工知能）、ビッグデータ解析、自律知能ロボット、サイバー空間が重要な情報基盤技術となり、これらを統合した新しい情報システムの創生が期待されている。本科目は、情報システムを代表する知能ロボットやヘルスケアシステムを対象として、情報システムの機能や構造を学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式 全15回）</p> <p>（1. 河原崎徳之/2回） 人が情報システム機器を使用する際の使いやすいヒューマン・インフェース技術に関して学習する。</p> <p>（3. 高橋勝美/1回） ヘルスケアシステム構築の基礎となるバイタルサインデータの取得方法について学習する。</p> <p>（2. 高尾秀伸/2回） 人が使用しやすい情報システムを設計する際に必要とされる人間中心設計の考え方やよび認知行動科学について学習する。</p> <p>（28. 高橋良彦/2回） 生活支援ロボットなどの人間支援システムを制御する技術について学習する。</p> <p>（4. 兵頭和人/1回） 情報システムに必要とされる組み込み技術、WebSocket を利用した遠隔制御システムについて学習する。</p> <p>（5. 吉野和芳/2回） 情報システムに応用されている画像認識技術について学習する。</p> <p>（6. 吉満俊拓/2回） 人が不整地・傾斜地で継続的に作業を行わなければならない状況で用いるアシスト機器を対象として、動作状態を計測する情報処理について学習する。</p> <p>（8. 吉留忠史/1回） AI技術を応用して人の身振りや手ぶり、行動を認識する手法について学ぶ。</p> <p>（7. 三枝亮/2回） 機械・システム・ロボットなどの人工物が人や環境に働きかけながら発達し、応対する人の心や力も育まれるような、人と機械の共生的な行動・発達の方法論について学習する。</p>	オムニバス形式

授 業 科 目 の 概 要			
（情報学部情報システム学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育	専門 基礎	情報システム構築に必要な電気電子回路の基礎知識を講義する。電気回路に関しては、オームの法則、キルヒホッフの法則、直流回路網、電磁気に関する基本法則、交流波形、RLC直列共振回路などについて学習する。電気回路計算に習熟するために演習問題を行う。電子回路に関しては、半導体の基礎、pn接合ダイオード、トランジスタの増幅回路、トランジスタのスイッチング回路、オペアンプ回路、AD・DA変換器について学習する。	
		情報システムの具体的な対象としてのロボットや福祉機器を制御するために必要となる物体の力学についての学習を行う。ロボット・福祉機器・生体の運動を例にとり、静力学および動力学を中心に講義、演習を行う。学習項目としては、力の分解と合成、力のつり合い、重心や慣性モーメントの算出、極座標系、運動エネルギー、弾性エネルギー、ポテンシャルエネルギー、力積と運動量、多関節機構の動力学などについて学ぶ。	
		システムとは複数の要素を組み合わせて個々の要素にはなかった機能を発現させる仕組みであり、情報システムは複合した情報から元よりも価値の高い情報を生成する系と見なせる。本科目では、信号処理と知能ロボットを題材として、情報の取得、処理、統合、生成に関する理論と実例を学ぶ。信号処理ではフーリエ変換、ラプラス変換、デジタルフィルタなどの理論、知能ロボットでは感覚統合や運動生成などの実例を概説する。また、情報システムを必要とする当事者や活用方法に明るい識者を招き、対人的な情報システムや感性情報処理の可能性を討議する。	
		IoTシステムは多層にわたる多様な技術の組み合わせで実現している。IoTシステムを理解するため、基本的な知識・技術といった個々の要素だけでなく体系についても理解する。また、技術的な視点だけでなく、サービスの提供、ユーザの視点から必要となる事項についても学習する。具体的には、センサ技術等のIoTデバイス、IoTエリアネットワークを構成するネットワーク技術、データ分析の手法、セキュリティ、産業システムと標準化、法制度と各国の動向などを扱う。	
		情報システムの様々な機器や電子素子はネットワークを構成し、互いに情報を送受している。有線通信・無線通信の基礎知識から設計、プログラミング例を講義する。主に、シリアル通信、有線・無線LAN、Bluetoothについて学習する。情報通信技術の知識を教授するとともに、実例を交えた電子回路の設計、C言語によるプログラミングを講義する。	
		情報システムとしての機器を設計・製作を行うためには、所定の要求を満たす構造等を決定し、図面にあらわす必要がある。 本講義では、機器製作の元となる3次元形状の制作方法を学習する。 3次元物体の造形方法の基礎を学習し、さらにコンピュータを用いた3次元CADを利用した造形方法について学習する。実際の物体からCAD上でオブジェクトを描くことにより、3次元形状の設計方法を習得し、自らのアイデアを具体化できることを目指す。	
		本科目は、知能ロボットを題材として、情報システムにおける一連の情報処理の流れについて学び、情報処理システムを大局的に理解する。ロボットは機械、電気、情報などの基本技術が融合したシステムインテグレーションであり、さらに、知能ロボットはAI技術により優れた認識機能を有する。ロボットにおけるセンサからの情報取得の方法、センサ情報から周囲の状況を認識する方法などについて理解する。また、自律移動ロボットに必要な自己位置認識や経路生成に用いられる機械学習などのAI技術についても学習する。	

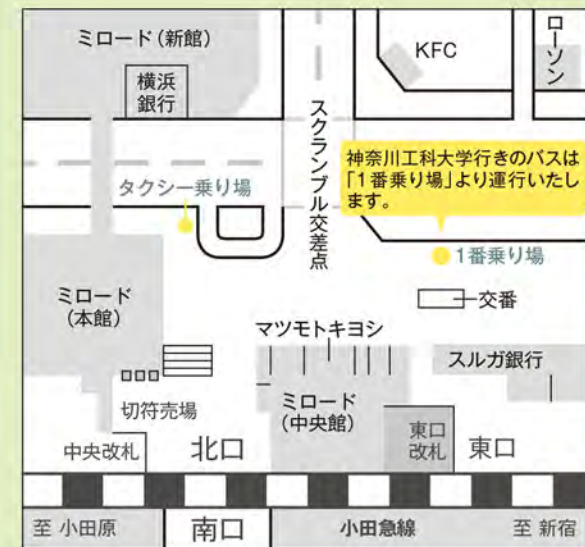
授 業 科 目 の 概 要				
(情報学部情報システム学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育	専門 基礎	画像情報処理	人間は外界の情報の約9割を視覚から取り入れて行動しているように、視覚に関連する情報は、スマートフォンやロボットなどの機器の動作を決定するためにも重要である。本講義では、ビデオカメラで得られた映像をコンピュータで処理し、その映像から機器の動作決定に必要な情報を取り出す画像処理技法について学習する。また、授業内では、OpenCVという画像ライブラリを使った画像処理プログラミングの方法についても体験的に学習する。	
		ビッグデータ解析	世の中にはSNSによるテキストデータ、モバイル端末を活用した画像・動画データ、IoTによる計測データをはじめ多くのデータ（ビッグデータ）が溢れている。本講義ではビッグデータの収集方法をはじめ、データの管理方法、データを使用するための前処理、データ分析手法（基本統計量、多変量解析、数値最適化他）およびデータの可視化など、ビッグデータに関する一連の解析手法を学ぶ。なお、理解度が高まるよう、実在するデータを汎用ソフトウェアで解析する機会を多く設ける。	
		シミュレーション設計技法 II	情報システムとしての機器を設計・製作を行うためには、所定の要求を満たす構造等を決定し、図面にあらわす必要がある。本講義では、機器製作に必要な製品を図面に表す2次元図面製図法の基礎を学習し、さらに3次元物体を2次元図面上に描画する手法・実際の加工方法に基づいた作図法を理解し、自らのアイデアを実物として設計・製作出来ることをめざす。	
		情報システムと人間科学	我々はいろいろな人工物に囲まれて生活している。器具・機器の使い勝手や安全性、生活の快適さなどは、人と物・環境との相互作用である。したがって、人の身体・感覚特性を理解した上で、いろいろな情報システムを開発・設計する必要がある。このような観点から人と物・環境との接点（インターフェース）を学習する。	
		情報システム プログラミング基礎	コンピュータのプログラミング技術を十分に理解し、基礎から身に付け、情報システム構築に結び付けることができるようにする。広く利用されているプログラミング言語を対象に、簡単な例題からアルゴリズムを考え、プログラムを構成する中で、プログラムの書き方、言語構造などを理解する。短答式テストによってプログラミングに関する理解度を確認する。	講義：30時間 演習：30時間
		情報システム基礎ユニット I	ロボット用のソフトウェアプラットフォームであるROSを使用して、シミュレータ上で動く移動ロボットやロボットアームの開発からソフトウェアの基礎力と技術力を身に着ける。また、開発したソフトウェアのモデリングを行い、報告書の作成、成果発表会を通じてコミュニケーション能力を高める。	講義：30時間 演習：30時間
		情報システム基礎ユニット II	ロボット用のソフトウェアプラットフォームであるROSを使用して、実ロボットを動かすための基礎力と技術力を身に着ける。シミュレータとは異なり、実環境による多くの外的要因がロボットの動作に影響を与えることを理解する。情報システム基礎ユニットIと同様に、開発したソフトウェアのモデリングを行い、報告書の作成、成果発表会を通じてコミュニケーション能力を高める。	講義：30時間 演習：30時間
専門	情報システムセキュリティ	今日の情報システムではインターネットが必要不可欠なインフラ（基盤）となっている。情報システムではデータ収集、メッセージ交換、メディア通信、デバイス制御などがさまざまな情報がインターネットを介してやり取りされている。一方で、インターネットの脆弱性を攻撃して、他人に不利益をもたらす行為や、他人の情報を盗み悪用する行為も年々増えていて、かつ巧妙化、複雑化している。インターネットを情報システムの社会基盤（インフラ）とするためにはネットワークセキュリティの技術がますます重要になっている。本講義では、情報セキュリティの基礎を復習しながら、ファイアウォール、VPN構築技術、不正侵入検知システムなどネットワークに関わるセキュリティ技術を解説する。また、不正アクセス対策技術、コンピュータウイルス対策や無線通信のセキュリティ対策についても概説する。		

授 業 科 目 の 概 要			
（情報学部情報システム学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育	専門	サイバー空間(Cyberspace) は、コンピュータやネットワーク上に構築された仮想的な空間（仮想空間）を指す。リアルな実世界を指すフィジカル空間と対を成すものである。情報システムではサイバー空間が新たな情報入出力の場として期待されている。本授業では、サイバー空間の歴史、情報システムにおけるサイバー空間の役割、サイバー空間の具体的な利用例を学ぶ。また、サイバー空間技術としてバーチャルリアリティ技術などのエクステンデッドリアリティ（XR）で用いられる各種技術を学ぶ。そして、サイバー空間とフィジカル空間を融合した新しい情報活用の場について考察していく。	
		パソコンやケータイをはじめとする情報機器は現代人に欠かせない存在となっている。使いやすく「人に優しい」情報機器を開発したり、うまくユーザーに適合させるためには、人間の感覚・知覚・認知の諸特性に関する知識と、その科学的な測定方法について知っていることが重要になる。本講義では、人間の視・聴覚などの感覚特性や記憶や思考など脳で行われる人間特有の認知情報処理の仕組みについて理解するとともに、その特性を生かした使いやすいインタフェース技術について学ぶ。	
		組み込みシステムは、ハードウェアとソフトウェアが一体となって、装置やシステムの機能を実現している。本講義では組み込みシステムのアプリケーションソフトウェアについて学習する。具体的には、ユーザインターフェースとしても注目されているAndroid端末用のソフトウェア開発に必要な以下の知識を修得する。 （1）Android端末用のGUIの設計 （2）Android端末を使用した通信アプリケーションの設計 （3）バージョン間の互換性を考慮した設計 尚、本講義は通常の授業形式とパソコンを用いた演習によるアクティブ・ラーニングを行う。	
		組み込みシステムを設計する場合には、ハードウェアとソフトウェアに関する知識が必要である。本講義では組み込みシステム設計に必要な以下の基礎事項を学習する。 （1）マイコンを使用した制御システムの設計 （2）制約条件を満たす部材の選定方法 （3）組み込み機器用開発環境の構築 （4）組み込み機器用の制御システムの製作 尚、本講義は通常の授業形式とパソコンを用いた演習によるアクティブ・ラーニングを行う。	
		情報システムの代表であるロボットやメカトロ機器を構成する機構の設計・製作の基礎を学ぶ。ロボットを制御するためには、様々な機構のからくりを運動学および力学的に解明する必要がある。そのため、機械の機構の概要とその力学的解析法を学ぶ。ロボットの運動方程式、リンク機構、カム機構、摩擦伝導機構、歯車機構などを取り上げる。講義後半では、簡単な機構を用いたお茶運びロボットのアイデアコンテストを行い、設計プレゼンテーションと競技を行う。	
		人間の感覚機能を工学的に実現するセンサ技術の理論的説明を行い、さらに各種センサの実例を通して、情報システム分野のセンシング原理と実際のシステムを概説する。センシングの基礎、力覚センサ、視覚・聴覚センサ、接触・触覚センサ、測定の誤差と精度、増幅回路、信号処理（不規則雑音の性質、波形の平滑化、雑音の圧縮、相関関数、フーリエ解析）などについて学習する。また、日常使用されているRFID、GPS、認証システムの原理についても講義する。	

授 業 科 目 の 概 要			
（情報学部情報システム学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育	専門	次世代通信技術	Society 5.0に向けて、IoT、人工知能（AI）、ロボットなどの情報システムの社会への応用が進んでいる。そこではネットワークや無線通信などの情報通信技術が重要な構成要素となっている。特に情報システム実装では、情報通信の「大容量化」に加えて、「低遅延性」を有する通信ネットワークが必須の技術となる。本科目では、次世代の情報システムを支える通信技術の学ぶ。 授業では、通信工学の基礎技術と歴史について学んだのち、次世代の通信技術の基盤となる技術を学ぶ。そして、次世代通信技術の利用場面や課題について学ぶ。
		ヘルスケアシステム	健康寿命の延伸は、国の重要課題であり、国を始めとして各地方自治体で多くの健康施策が行われている。そのような中で、センサー技術やIT技術による健康データの取得や管理が可能となり健康データの見える化の取り組みが行われている。健康を維持するためには、身体および精神的機能を良い状態に維持することが重要である。そのためには人からどのような健康データを取得し、解析することがよいか、社会的に実施されているヘルスケアの取り組みはどのように実施されているかについて学び、持続可能なヘルスケアシステムの開発に必要な考え方やデータ取得および解析の知識を学ぶ。
		ロボットとAI	ウィーナーによるサイバネティックスの提唱以降、ロボット技術と計算機科学の融合は深まりつつある。生き物の活動を観察すると、そこには物理的な制限が課せられており、生き物は適切な行動を生成、選択することで制限に対処しようとする様子が伺える。生き物に倣って、人工知能に物理的な身体と環境を与え、行動を最適化するように仕向けることで、生き物のように知能を発達させる人工物が出現するかもしれない。本科目では人工知能の理論的な基礎を習得し、認知発達ロボットの要素技術を理解することで、知能が身体をもつことの意味を学ぶ。
		組み込みアプリケーション開発	本講義では、「組み込みアプリケーション入門」で得られた技術を応用して、Android端末と外部ハードウェアによって構成されるシステムを開発する際に必要な以下の技術に関する学習を行う。 （1）Android端末へ接続する外部機器の設計 （2）Android端末を用いた計測システムの設計 （3）Android端末を用いた計測・制御システムの設計 尚、本講義は通常の授業形式とパソコンを用いた演習によるアクティブ・ラーニングを行う。
		組み込みシステム設計	本講義では、「組み込みシステム入門」で得られた技術を応用して、より複雑な機器を制御するシステムを開発する際に必要な以下の技術に関する学習を行う。 （1）複数のマイコンから構成されるシステムの設計 （2）モジュール間通信プロトコルの設計 （3）複数のマイコンを用いた制御システムの製作 尚、本講義は通常の授業形式とパソコンを用いた演習によるアクティブ・ラーニングを行う。
		システム制御	情報システムとして機器を動作させる場合は、その機構をうまく制御して望むような運動を実現する必要がある。本講義では、その基礎的な技術としての制御工学について講義する。具体的には、ラプラス変換、伝達関数、ブロック線図、フィードバック制御、システムの安定性等について学ぶ。
		情報システムの社会実装	情報システムの社会実装とは情報通信（ICT）技術を社会問題解決のために応用することをさす。本授業では、具体的な製品やサービスの形で社会において活用されている情報システムの実例をもとに、社会実装における情報システムの特徴や課題を考察していく。具体的な製品やサービスに展開するために、情報入出力インターフェース、データ収集、データ処理といった情報システム技術に求められることは何か、実例からこれらを学び、情報システムの応用に対する理解を深める。授業では、Society5.0に代表される、情報システムのこれからの社会実装についても考察する。

授 業 科 目 の 概 要				
(情報学部情報システム学科)				
科目 区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 教 育	専 門	情報システム応用ユニット	ユニットプログラムにおいては、特徴の異なるいくつかの情報システムのテーマの中からひとつを選択し、ものづくりの中で計画・実行・評価のサイクルを繰り返し、問題発見・解決能力を養う。専門的な技術力を養うと同時に、知識として足りない部分を見つけ、講義科目を学ぶ動機へとつなげる。また、報告会や報告書により説明能力を養う。本科目では、各テーマの基礎的な学習が主となり、初めの計画は各テーマに設定された基本的なものから始める。	講義：30時間 演習：60時間
		情報システム専門ユニット	情報システム応用ユニットから継続して行われ、ものづくりの中で問題発見・解決能力や説明能力を身に付け、講義科目を学ぶ動機付けとする。本科目では、これまでに身に付けてきた開発プロセスを確認し、各テーマの課題における問題を解決するための企画書作成、設計・製作、費用算出、作業計画などを通して管理（行程、コスト）能力も高めるよう展開する。	講義：30時間 演習：60時間
		卒研セミナーⅠ	指導教員のもとで研究に関連する文献の調査や原著の講読、それらの発表・討論を通して、研究分野のより深い学習をめざす。	
		卒業研究Ⅰ	指導教員のもとで研究テーマを選定し、装置の開発、実験、理論的検討、調査研究を行う。これらを通して、未知の問題を解決する力を養う。さらに、研究、調査資料等のまとめ方、報告書や論文の作成方法、発表や自己表現の技術を身につける。卒業研究に関して中間報告を行う。	
		卒研セミナーⅡ	卒研セミナーⅠに引き続き、指導教員のもとで研究に関連する文献の調査や原著の講読、それらの発表・討論を通して、研究分野のより深い学習をめざす。	
		卒業研究Ⅱ	卒業研究Ⅰに続き、指導教員のもとで研究テーマを選定し、装置の開発、実験、理論的検討、調査研究を行う。これらを通して、未知の問題を解決する力を養う。さらに、研究、調査資料等のまとめ方、報告書や論文の作成方法、発表や自己表現の技術を身につける。卒業研究に関して最終報告を行う。	

■最寄り駅からの交通機関



ルート 1 直通バス
[厚木バス]

「厚木バスセンター」1-2番乗り場(本厚木駅より徒歩3分)より、
1系統運行。／バス約17～20分

●「神奈川工科大学前」停留

- 「**神奈川工科大学前**」停留所／バス約20～25分＋徒歩0分
「本厚木駅北口」1番線乗り場より、2系統運行。
▶「あつぎ郷土博物館」行き／▶「神奈川工科大学経由・髙尾団地」行き
- 「**荻野新宿**」停留所／バス約18～23分＋徒歩7分
「本厚木駅北口」1番線乗り場より、4系統運行。
▶「上荻野車庫」行き／▶「半原」行き
▶「まつかげ台」行き／▶「髙尾団地」行き

神奈川工科大学 校地位置関係図

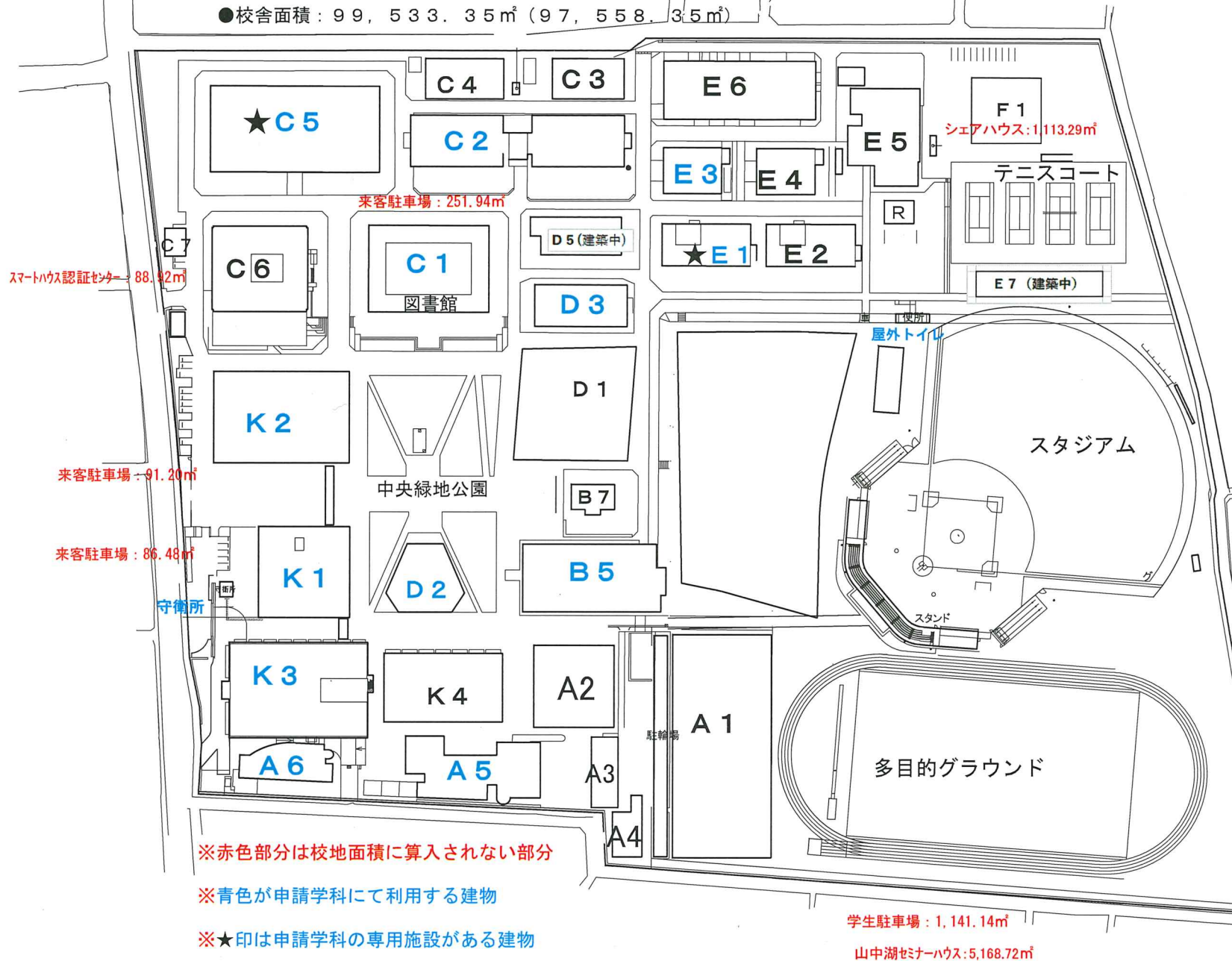


学校法人幾徳学園 神奈川工科大学 校舎配置図

●校地面積：126,562.06㎡（校舎敷地+運動場敷地）

敷地合計：134,503.75㎡（校舎敷地：88,546.13㎡、運動場用地：38,015.93㎡、その他敷地（駐車場、シェアハウス、山中湖セミナーハウス等）：7,941.69㎡）

●校舎面積：99,533.35㎡（97,558.35㎡）



校舎面積

建物記号	建物の名称	建物延床面積
A5号館	幾徳会館	1,854.86 ㎡
A6号館	KAIT HALL	1,268.41 ㎡
B5号館	第二・第三講義棟	5,057.94 ㎡
B7号館	ECO棟	150.97 ㎡
C1号館	図書館	5,204.22 ㎡
C2号館	第一・第二実験研究棟	9,637.78 ㎡
C3号館	リサイクル棟	456.03 ㎡
C4号館	内燃機関棟	585.60 ㎡
C5号館	★第三実験研究棟	7,317.39 ㎡
C6号館	第四実験研究棟	8,802.18 ㎡
D2号館	先進技術研究所	1,229.68 ㎡
D3号館	工学教育研究推進機構	2,922.70 ㎡
D5号館	KAIT TOWN棟(建築中)	1,225.00 ㎡
E1号館	★情報・ロボット棟	2,933.85 ㎡
E2号館	応用化学生物棟	2,945.32 ㎡
E3号館	ロボット・プロジェクト棟	1,242.00 ㎡
E4号館	電気・化学実験棟	1,656.00 ㎡
E5号館	溶接製図棟	876.71 ㎡
E7号館	新実験実習棟(建築中)	750.00 ㎡
E6号館	自動車工学棟	1,356.14 ㎡
R号館	冷暖房機械棟	92.00 ㎡
K1号館	情報学部棟	16,282.55 ㎡
K2号館	学生サービス棟	7,545.72 ㎡
K3号館	講義棟	12,045.97 ㎡
K4号館	看護・医療棟	5,943.30 ㎡
---	屋外トイレ	69.16 ㎡
---	守衛所	37.07 ㎡
---	危険物保管庫	28.00 ㎡
---	廃液保管庫	16.80 ㎡
A1号館	KAITアリーナ(体育館)	5,402.99 ㎡ ※
A2号館	第一体育館	1,303.62 ㎡ ※
A3号館	第一クラブハウス	579.88 ㎡ ※
A4号館	第二クラブハウス	456.95 ㎡ ※
D1号館	KAIT工房	1,988.40 ㎡ ※
---	雨天練習場	260.00 ㎡ ※
C7号館	スマートハウス認証センター	172.98 ㎡ ※
F1号館	シェアハウス(女子寮)	2,632.47 ㎡ ※
---	山中荘	640.12 ㎡ ※
合計(※は算入外)		99,533.35 ㎡

校舎配置図 1:1500 (A3)

校舎平面図

図面標記色分け区分

情報システム学科(S科)専用 <申請学科>

情報システム学科(S科)・情報工学科(I科)・情報メディア学科(D科)
情報ネットワーク・コミュニケーション学科(N科) 共用

全学科 共用

他学科(申請学科以外の学科)専用

法人専用

E1号館面積表

建築延床面積 2, 933. 85㎡

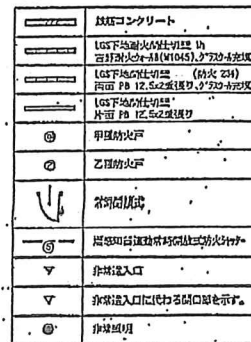
1階面積表			2階面積表			3階面積表			4階面積表			5階面積表		
番号	室名	面積㎡	番号	室名	面積㎡	番号	室名	面積㎡	番号	室名	面積㎡	番号	室名	面積㎡
101	実験実習工作室	162.40	201	実験研究室	88.58	301	実験研究室	88.58	401	地域連携貢献センタ	88.58	501	実験研究室	88.58
102	介護実験実習室	86.00	202	教員研究室	29.50	302	事務室	29.50	402	地域連携貢献センタ	29.50	502-1	教員研究室	29.50
103	運動計測室	88.58	203	教員研究室	29.50	303	就職室	29.50	403	実験研究室	29.50	502-2	教員研究室	29.50
	風除室	16.25	205	教員研究室	29.50	305	教員研究室	29.50	405	教員研究室	29.50	503	教員研究室	29.50
	エントランスホール	73.20	206	教員研究室	29.50	306	実験研究室	29.50	406	教員研究室	29.50	505	教員研究室	29.50
	屋内階段	10.23	207	教員研究室	31.27	307	教員研究室	31.27	407	実験研究室	31.27	506	実験研究室	31.27
105	倉庫	10.23	208	実験研究室	86.00	308	実験研究室	86.00	408	実験研究室	86.00	507	実験研究室	86.00
	エレベータ	12.25	209	実験研究室	88.58	309	実験研究室	88.58	409	実験研究室	88.58	508	実験研究室	88.58
	トイレ	33.04		屋内階段	20.46		屋内階段	20.46		屋内階段	20.46		屋内階段	20.46
	だれでもトイレ	6.48		エレベータ	12.25		エレベータ	12.25		エレベータ	12.25		エレベータ	12.25
	PC・EPS	2.64		トイレ	33.04		トイレ	33.04		トイレ	33.04		トイレ	33.04
	EPS	3.12		PC・EPS	2.64		PC・EPS	2.64		PC・EPS	2.64		PC・EPS	2.64
	PS	5.04		EPS	3.12		EPS	3.12		EPS	3.12		EPS	3.12
	廊下・その他	48.55		PS	5.04		PS	5.04		PS	5.04		PS	5.04
	小計	558.01		廊下・その他	104.98		廊下・その他	104.98		廊下・その他	104.98		廊下・その他	104.98
				小計	593.96		小計	593.96		小計	593.96		小計	593.96

情報システム学科専用< 合計 1336.42 ㎡>

全学科 共用< 合計 1,065.23 ㎡>

他学科専用< 合計 532.20 ㎡>












圖面表示凡例

校地校舎図面-7

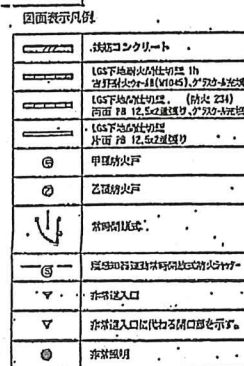
Architectural floor plan of the 3rd floor. The plan shows several rooms and their areas:

- 301 実験研究室 88.58m²
- 302 事務室 29.50m²
- 303 就職室 29.50m²
- 304 教員室 29.50m²
- 305 研究室 88.58m²
- 307 教員研究室 31.27m²

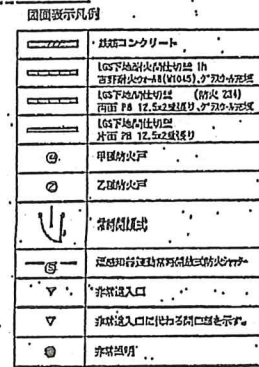
Other features include restrooms (女子便所, 男子便所), a staircase, and an EV water room (EV水ホール). The plan includes dimensions and room numbers. A legend on the right side indicates room types and symbols.

	鉄筋コンクリート
	〔G〕地下耐火土間仕上 100% 出 吉野耐火土間仕上 (W1045) ナラシロ・木立
	〔G〕地下土間仕上 100% (耐火 234) 出 19 12.5% 耐火土間仕上 ナラシロ・木立
	〔G〕地下土間仕上 100% 出 19 12.5% 耐火土間仕上
	平石・耐火土
	乙種耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土
	煉瓦・耐火土

変更、訂正事項 	株式会社 いらか総合建築設計事務所 1 福岡県太宰府市 3500号地 第1014号 1 福岡県北九州市 大倉区 第224号	工事名称 神奈川工科大学 (仮称) W&N新学科学技新築工事 図面名 3 階 平 面 図	添付 図紙 1/100	図章 1:6.21	印
-------------------------	---	--	-------------------	--------------	-----------



訂正事項		設計者 いらか綜合建築設計事務所 〒100-8362 東京都千代田区有明1-9-1 TEL 03-5561-1171 FAX 03-5561-1172 E-MAIL iraka@iraka.co.jp	工事名称 神奈川工科大学 (仮称) W&N新学科学技術新築工事	承認 9月 6.2%	図章
		1. 現況調査書参照 2. 現地踏査 3. 測量データ 4. 現地踏査 5. 現場写真 6. 現地踏査 7. 現地踏査 8. 現地踏査 9. 現地踏査 10. 現地踏査	図名 4階平面図	図尺 1/100	



変更、訂正事項 		<div style="text-align: center;"> <p>株式会社 いらか綜合建築設計事務所</p> </div>	工事名称 神奈川工科大学 (仮称) W & N新学科棟新築工事 図面名 5階平面図	承認 11.5.2 図号 第1/100	印鑑
-------------	--	---	---	----------------------------	----

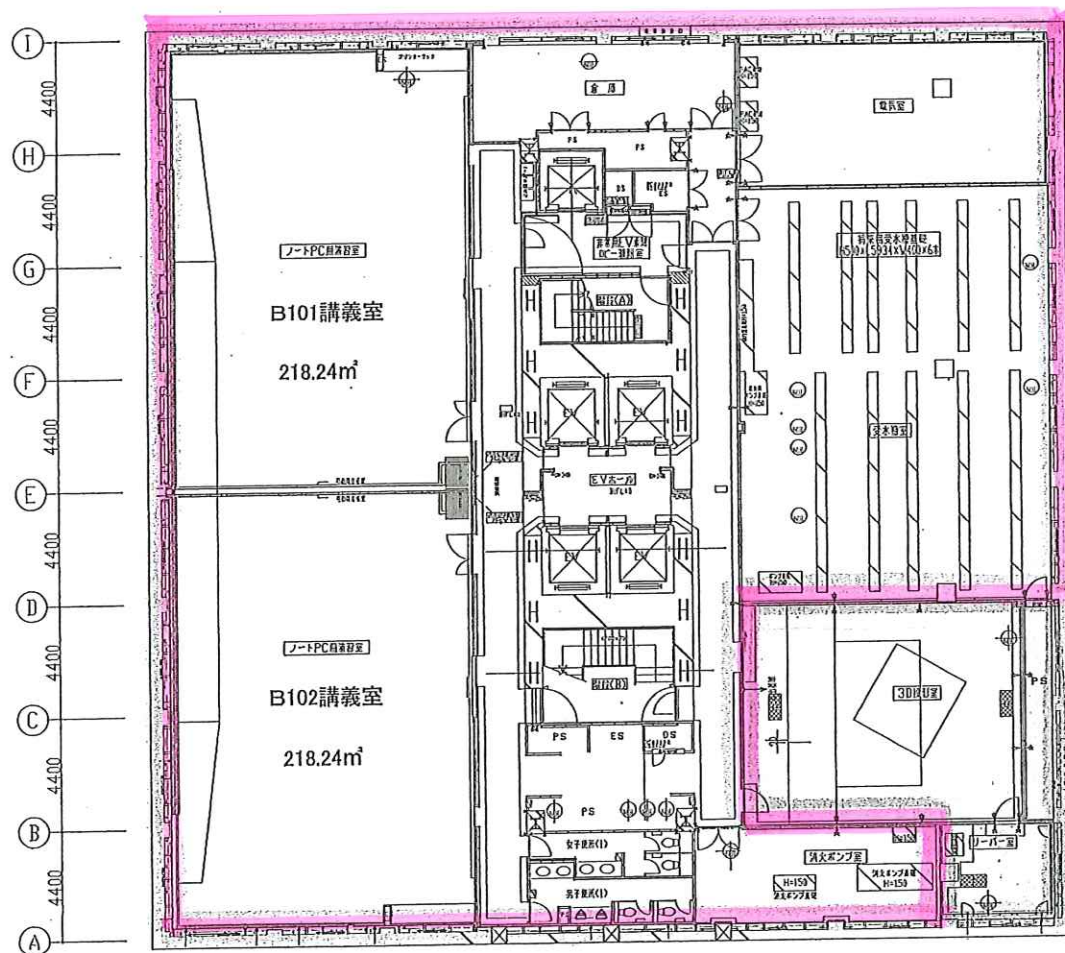
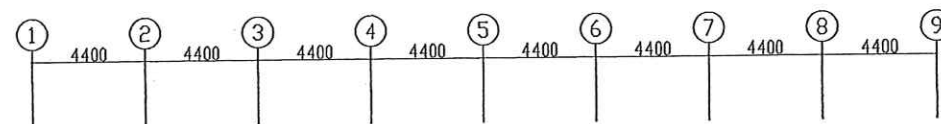
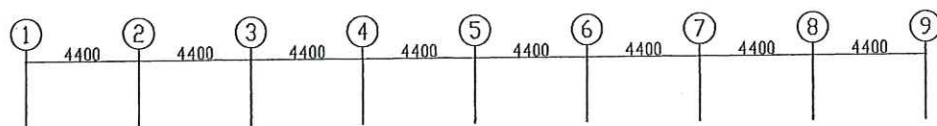
K1号館 面積表

(数値がない欄=0㎡)

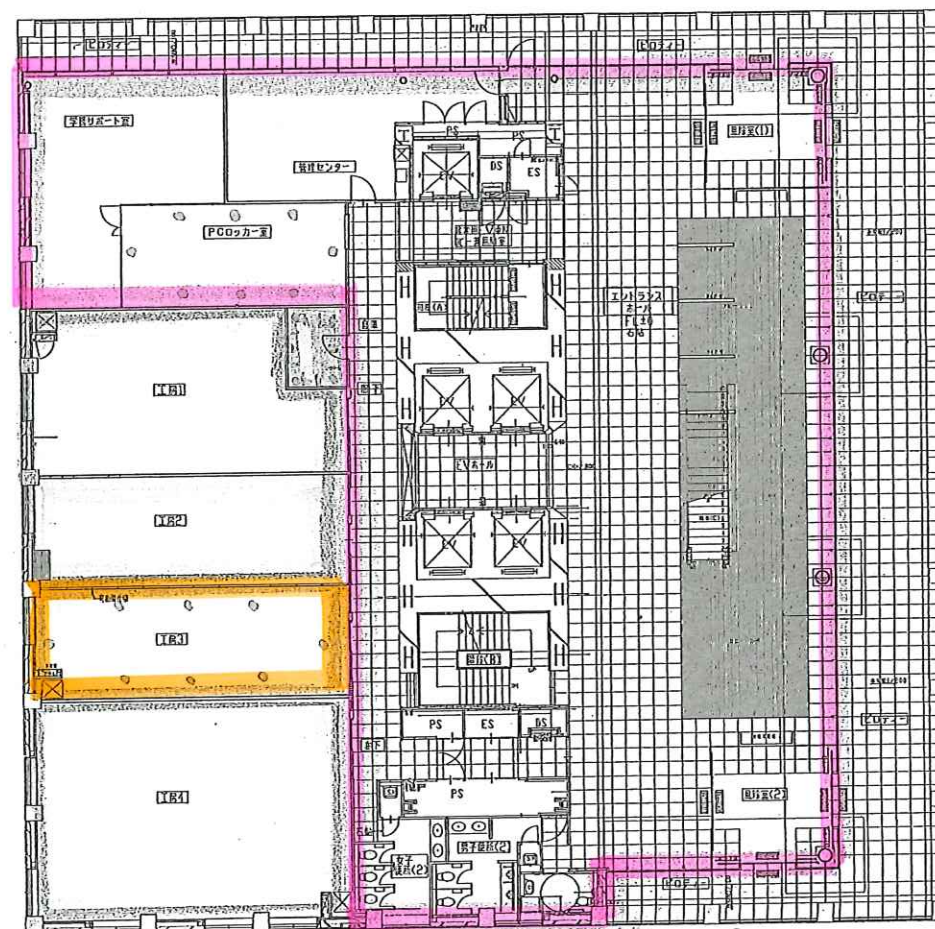
部屋番号	室名	情報システム学科 <申請学科> 専用(㎡)	情報システム学科< 申請学科>、情報工 学科、情報メディア学 科、情報ネットワー ク・コミュニケーション 学科 共用(㎡)	全学科共 用(㎡)	他学科専 用(㎡)
B101	ノートPC演習室(北側)	0		218.24	
B102	ノートPC演習室(南側)	0		218.24	
B105	VR実験室	0			95.03
B104	サーバー室	0			19.57
B108	倉庫	0		39	
B107	電気室	0		74.4	
B106	受水槽室	0		202.51	
B103	消火栓ポンプ室	0		40	
	トイレ・廊下・その他共用部	0		292.23	
102	ピアサポート室	0		81.57	
	PCロッカー室	0			12
103	ネット放送ブース→サーバー室	0			13.4
105	プロジェクト研究工房	0	69.7		
106	ソフトウェア工房	0			55.4
107	ネットワーク工房	0			55.4
108	メディア工房	0			114.37
101	管理センター	0		45.76	
	倉庫	0		11.46	
	トイレ・廊下・その他共用部	0		596.18	
201	講義室	0		172.58	
202	講義室	0		254.35	
204	プリンター室1	0	9.3		
203	プリンター室2	0	9.3		
	トイレ・廊下・その他共用部	0		585.92	
301	ハード・ソフト実験室(北側)	0	225.64		
302	ハード・ソフト実験室(南側)	0	225.64		
306	講義室	0		114.37	
305	講義室	0		117.13	
303	講義室	0		114.37	
304	PCサービス室	0	42.05		
	トイレ・廊下・その他共用部	0		433	
401	I科教員研究室	0			197.83
403	教育支援室	0	197.83		
402	D科教員研究室	0			55.64
404	I科研究室	0			197.83
406	N科研究室	0			197.83
405	D科教員研究室	0			55.64
	トイレ・廊下・その他共用部	0		369.6	
502	ソフト実験室	0	195.24		
503	ソフト実験室	0	197.33		
504	ソフト実験室	0	195.24		
505	ソフト実験室	0	197.33		
501	D科教員研究室	0			58.74
506	ヒューマンメディアセンター	0	58.74		
	トイレ・廊下・その他共用部	0		369.58	
601	大会議室	0		114.37	
602	D科教員研究室	0			111.28
604	大学院講義室	0			111.28
603	IND事務室	0			114.37
613	I科教員室	0			31.54
614	D科教員研究室	0			12.39
612	I科教員研究室	0			49.72
611	情報ネットワーク工学科就職室	0			49.72

部屋番号	室名	情報システム学科 ＜申請学科＞ 専用(㎡)	情報システム学科＜ 申請学科＞、情報工 学科、情報メディア学 科、情報ネットワー ク・コミュニケーション 学科 共用(㎡)	全学科共 用(㎡)	他学科専 用(㎡)
610	ID就職室	0			24.86
607	資料室	0			55.63
606	D科教員研究室	0			55.63
605	D科教員研究室	0			58.73
608	印刷室	0			38.03
609	レポート室	0			8.49
	トイレ・廊下・その他共用部	0		411.3	
716	I科教員研究室	0			89.59
717	I教員室	0			23.69
704	I科セミナー室	0			48.88
705	N科セミナー室	0			47.96
706	D科セミナー室	0			47.96
707	D科教員研究室	0			48.88
708	I科教員研究室	0			91.39
709	I教員室	0			23.69
715	I科教員研究室	0			81.83
714	I教員室	0			24.08
712	I科教員研究室	0			81.83
713	I教員室	0			24.08
711	I科教員研究室	0			89.59
710	I教員室	0			23.69
701	I教員室	0			27.19
702	I教員室	0			27.54
703	情報工学科会議室	0			43.86
	トイレ・廊下・その他共用部	0		426.47	
815	I科教員研究室	0			89.59
816	I教員室	0			23.69
803	I科教員研究室	0			81.83
804	I教員室	0			24.08
806	I科教員研究室	0			81.83
805	I教員室	0			24.08
807	I科教員研究室	0			89.59
808	I教員室	0			23.69
814	I科教員研究室	0			81.83
813	I教員室	0			24.08
811	I科教員研究室	0			81.83
812	I教員室	0			24.08
810	I科教員研究室	0			89.59
809	I教員室	0			23.69
802	I科教員研究室	0			89.59
801	I教員室	0			23.69
	トイレ・廊下・その他共用部	0		395.44	
916	N科教員研究室	0			89.59
917	N教員室	0			23.69
904	N科教員研究室	0			81.83
905	N教員室	0			24.08
907	N科教員研究室	0			81.83
906	N教員室	0			24.08
908	N科教員研究室	0			89.59
909	N教員室	0			23.69
915	N科教員研究室	0			81.83
914	N教員室	0			24.08
912	N科教員研究室	0			81.83
913	N教員室	0			24.08
911	N科教員研究室	0			89.59
910	N教員室	0			23.69

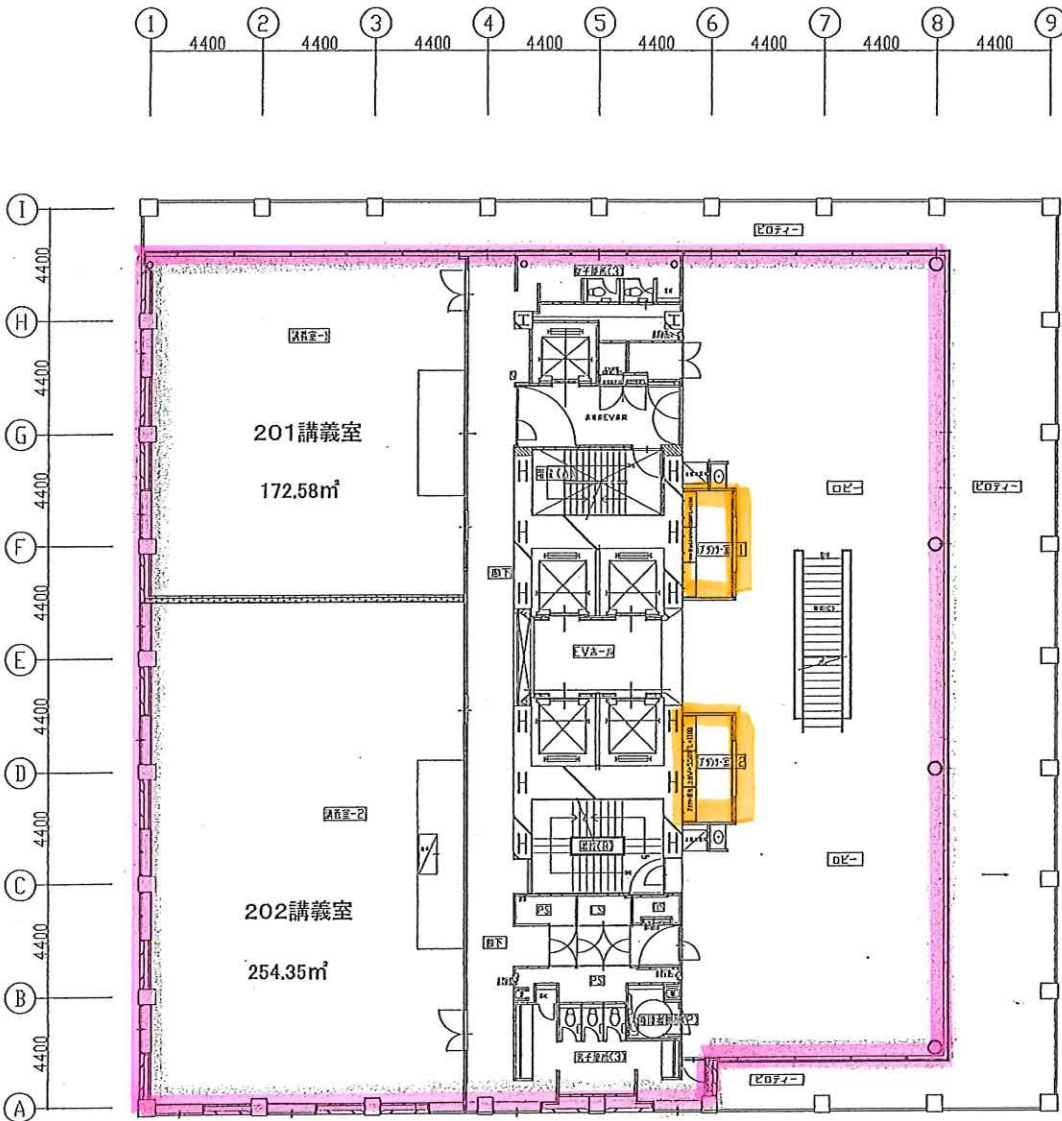
部屋番号	室名	情報システム学科 ＜申請学科＞ 専用(m ²)	情報システム学科＜ 申請学科＞、情報工 学科、情報メディア学 科、情報ネットワー ク・コミュニケーション 学科 共用(m ²)	全学科共 用(m ²)	他学科専 用(m ²)
902	N科教員研究室	0			27.54
901	N教員室	0			27.19
903	共通教員室	0			43.86
	トイレ・廊下・その他共用部	0		410.13	
1015	N科教員研究室	0			89.59
1016	N教員室	0			23.69
1003	N科教員研究室	0			81.83
1004	N教員室	0			24.08
1006	D科教員研究室	0			81.83
1005	D教員室	0			24.08
1007	D科教員研究室	0			89.59
1008	D教員室	0			23.69
1014	D科教員研究室	0			81.83
1013	D教員室	0			24.08
1011	D科教員研究室	0			81.83
1012	D教員室	0			24.08
1010	D科教員研究室	0			89.59
1009	D教員室	0			23.69
1002	N科教員研究室	0			89.59
1001	N教員室	0			23.69
	トイレ・廊下・その他共用部	0		410.13	
1116	D科教員研究室	0			89.59
1117	D教員室	0			23.69
1104	D科教員研究室	0			81.83
1105	D教員室	0			24.08
1107	D科教員研究室	0			81.83
1106	D教員室	0			24.08
1108	D科教員研究室	0			89.59
1109	D教員室	0			23.69
1115	D科教員研究室	0			81.83
1114	D教員室	0			24.08
1112	D科教員研究室	0			81.83
1113	D教員室	0			24.08
1111	D科教員研究室	0			89.59
1110	D教員室	0			23.69
1102	D教員室	0			27.54
1101	D教員室	0			27.19
1103	D教員室	0			43.86
	トイレ・廊下・その他共用部	0		410.13	
1201	情報メディアホール	0		353.14	
1202	映像スタジオ	0			100.39
	共用室	0		13.06	
1212	映像編集室	0			41.22
	倉庫(共用室隣)	0		17.09	
1211	N教員室	0			27.57
1207	前室	0			13.87
	倉庫(前室隣)	0			11.48
1209	音声収録スタジオ	0			39.55
1210	音声調整室	0			80.3
1206	貴賓室	0		39.27	
	厨房	0		24.74	
1203	カフェテリア	0		129.54	
	控室	0		4.48	
	トイレ・廊下・その他共用部	0		372.76	
13階	調整室	0		18.33	
	廊下・その他共用部	0		270.22	
	合計	0	1623.34	8171.09	6488.12
		申請学科専用	S,I, D, N共用	全学科共用	他学科専用



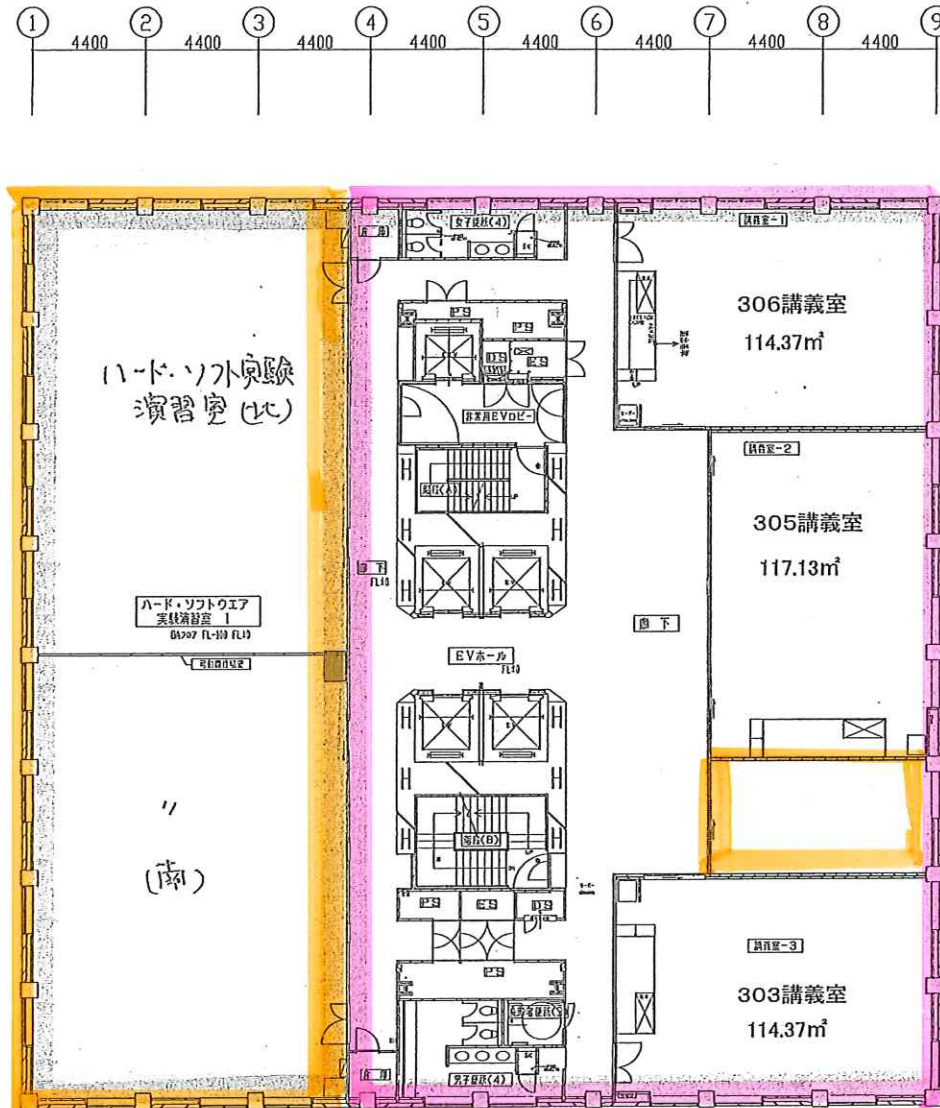
K1号館 B1F



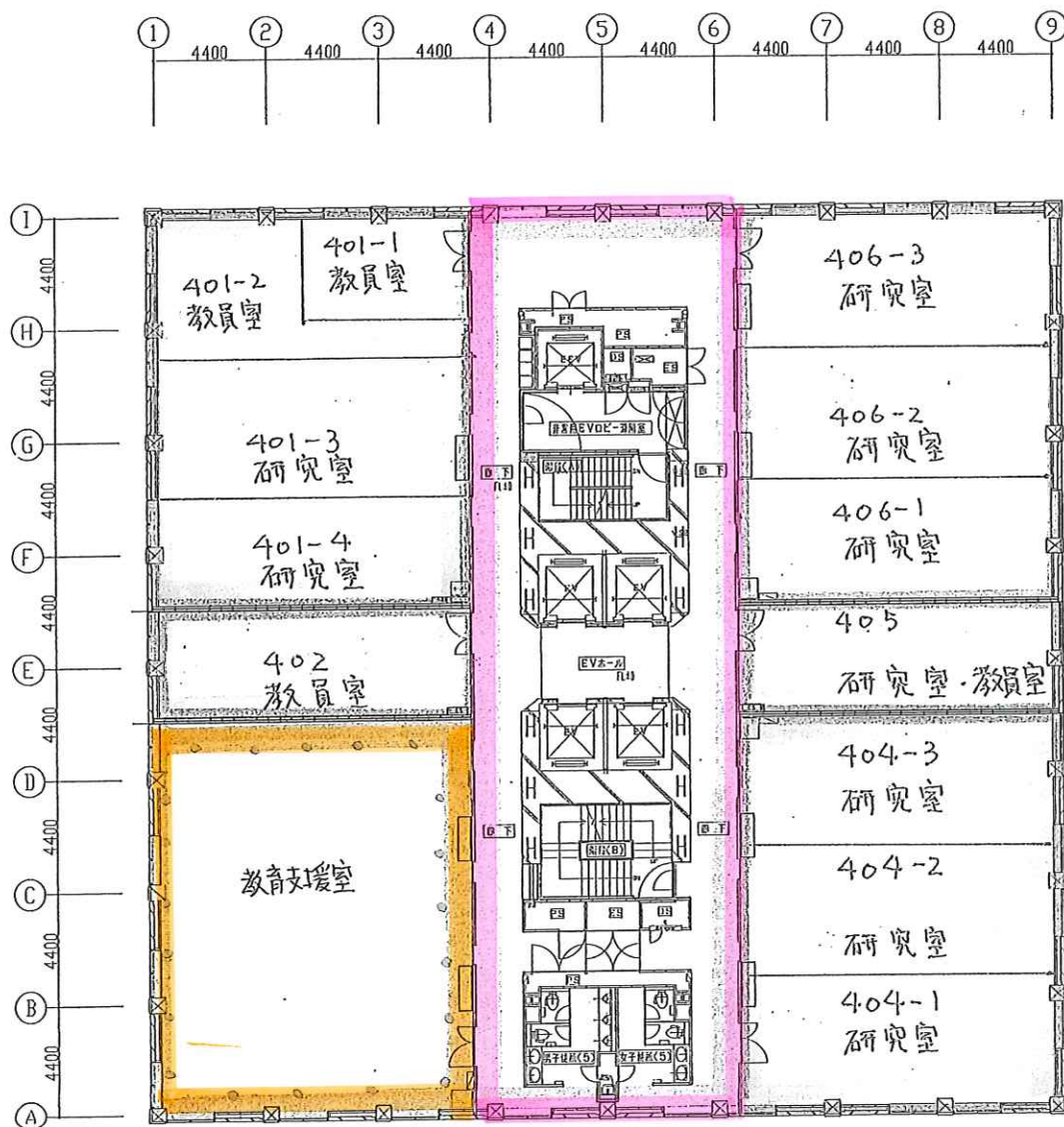
K1号館 1F



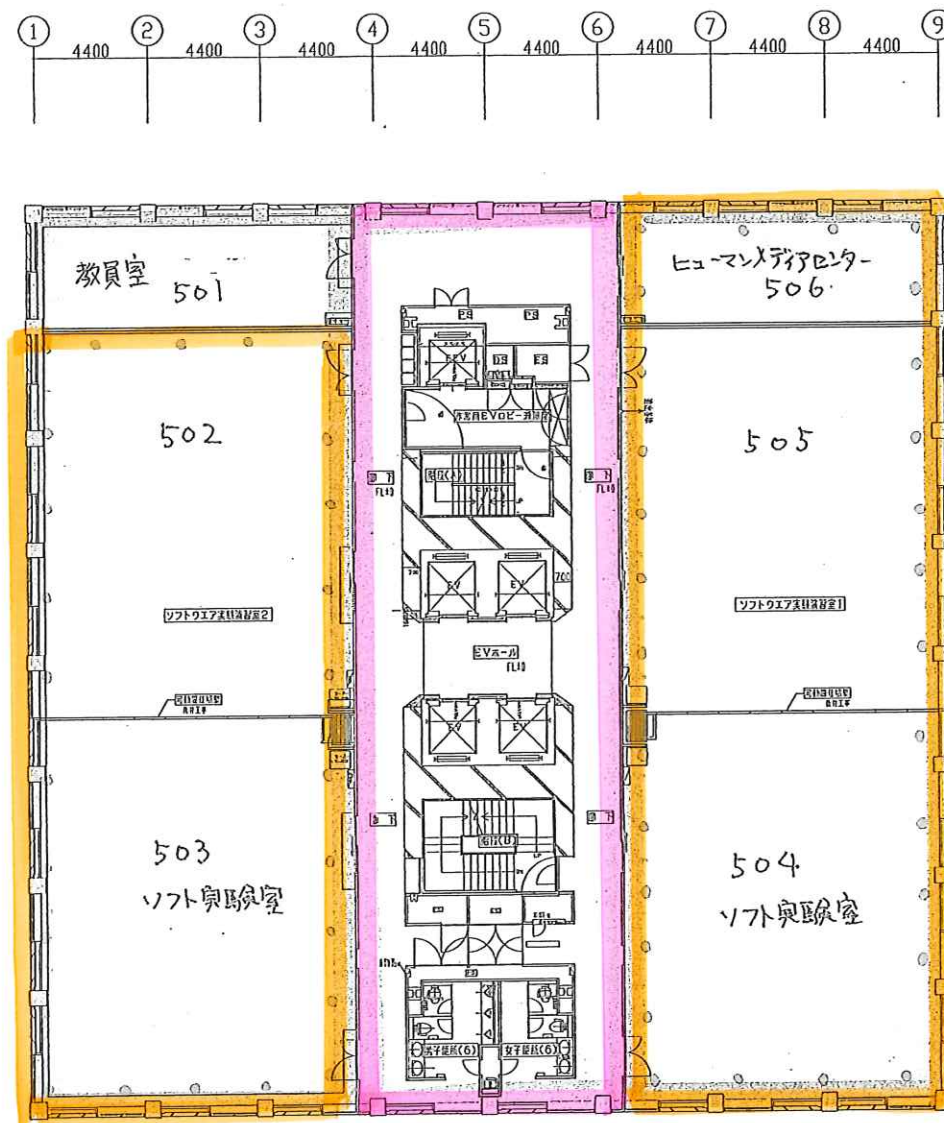
K1号館 2F



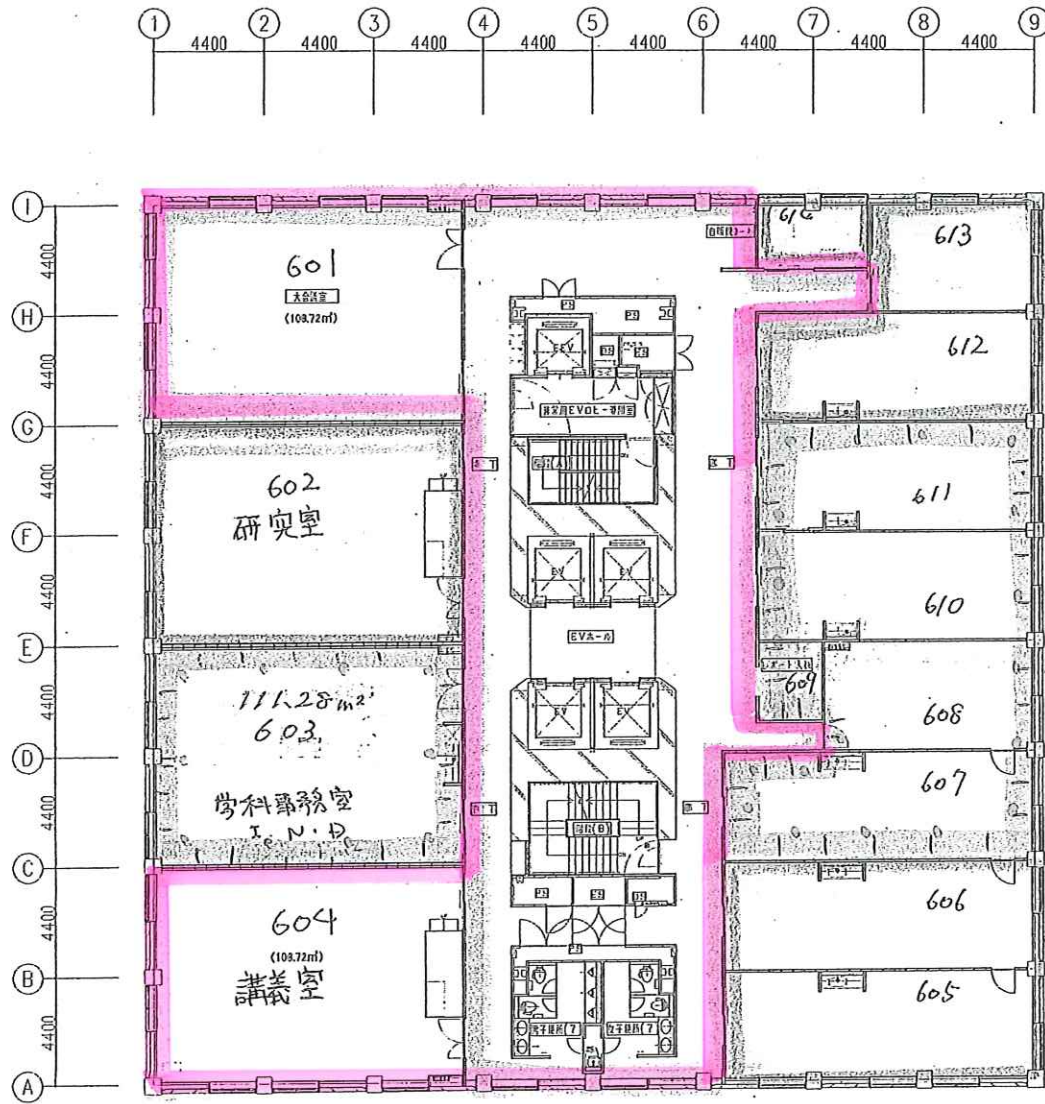
K1号館 3F



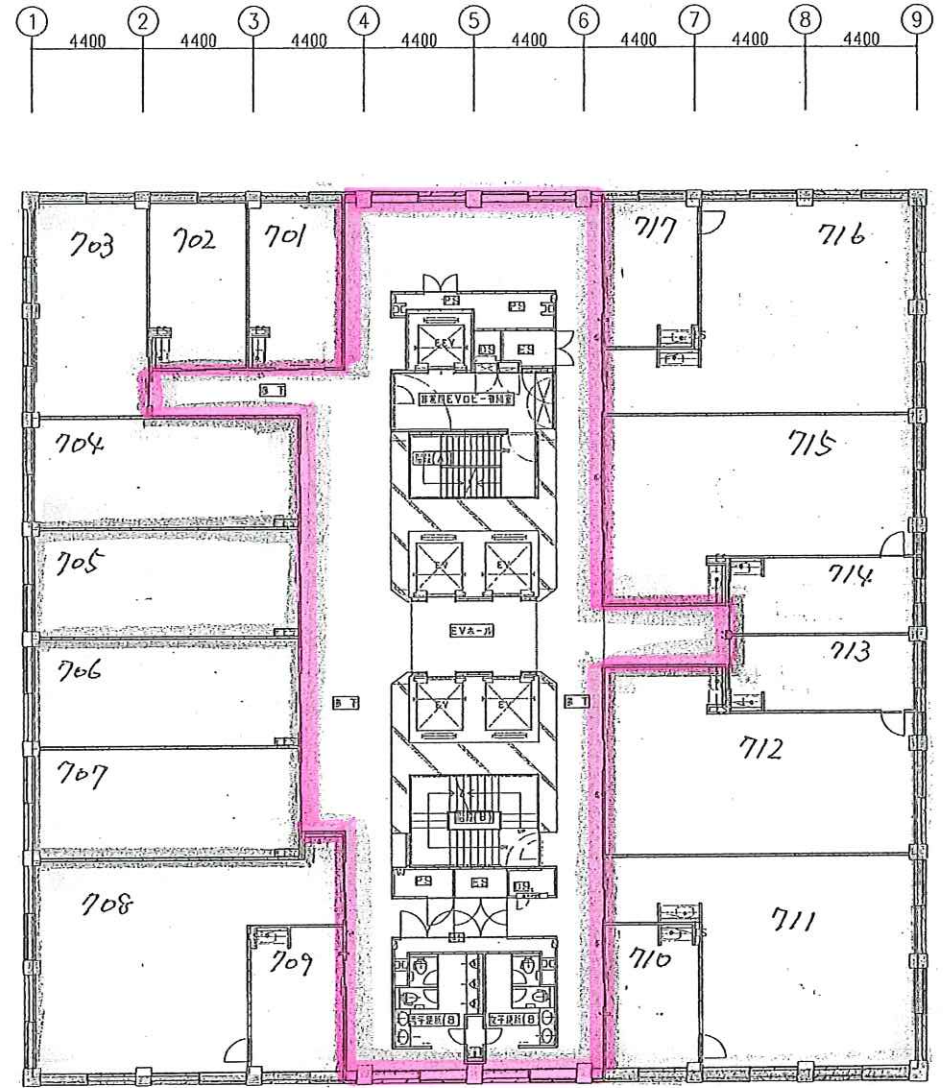
K1号館 4F



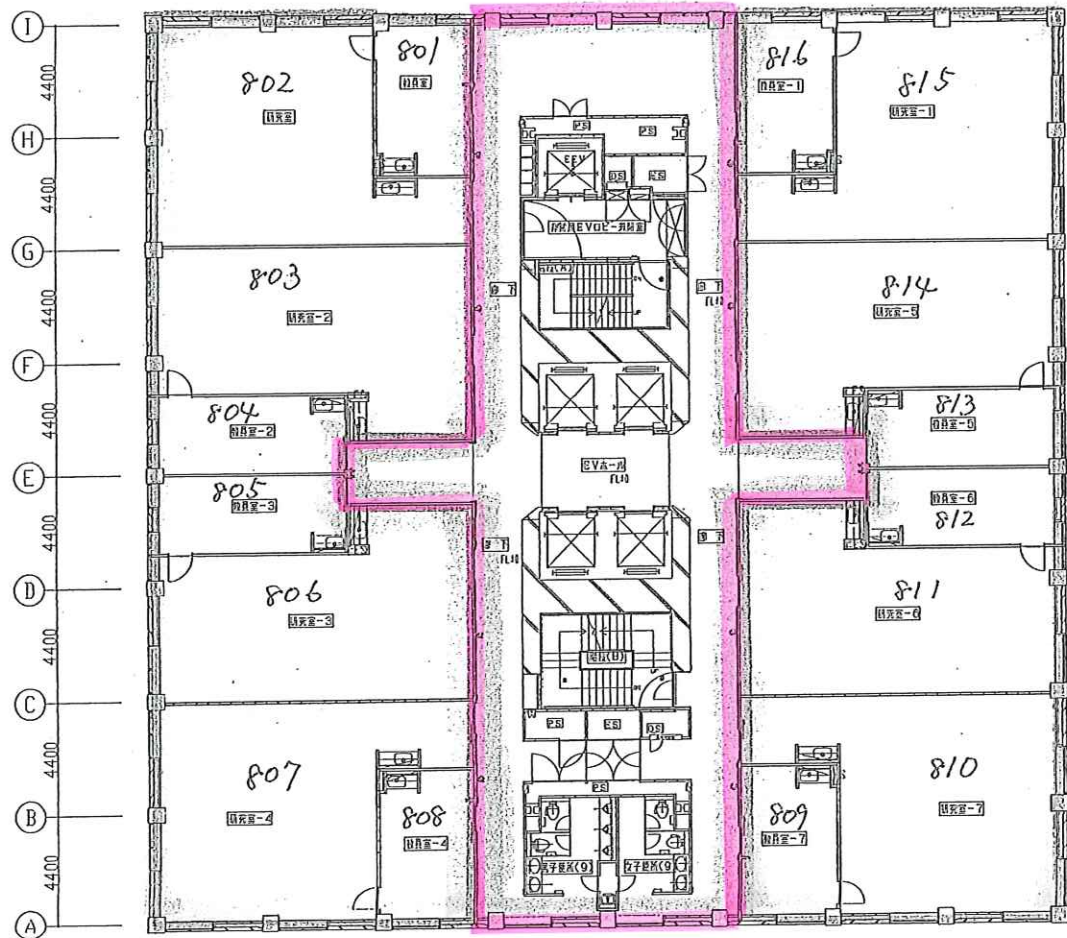
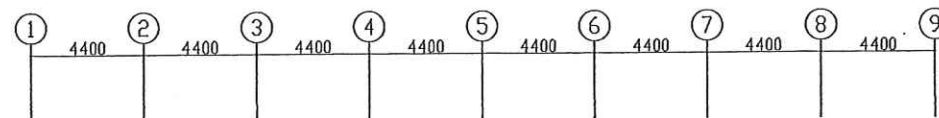
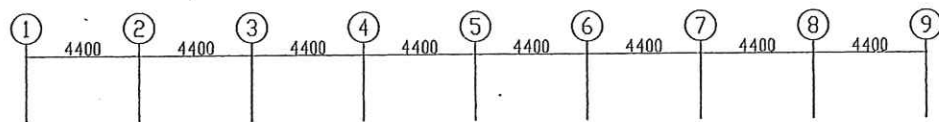
K1号館 5F



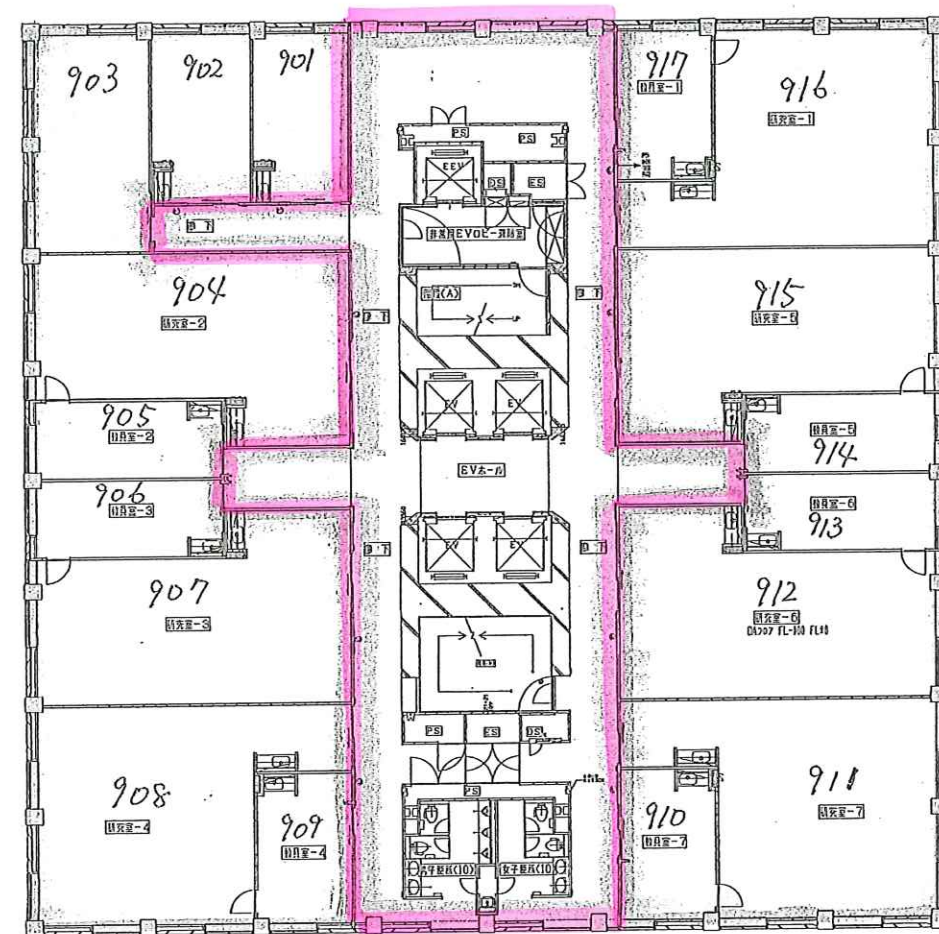
K1号館 6F



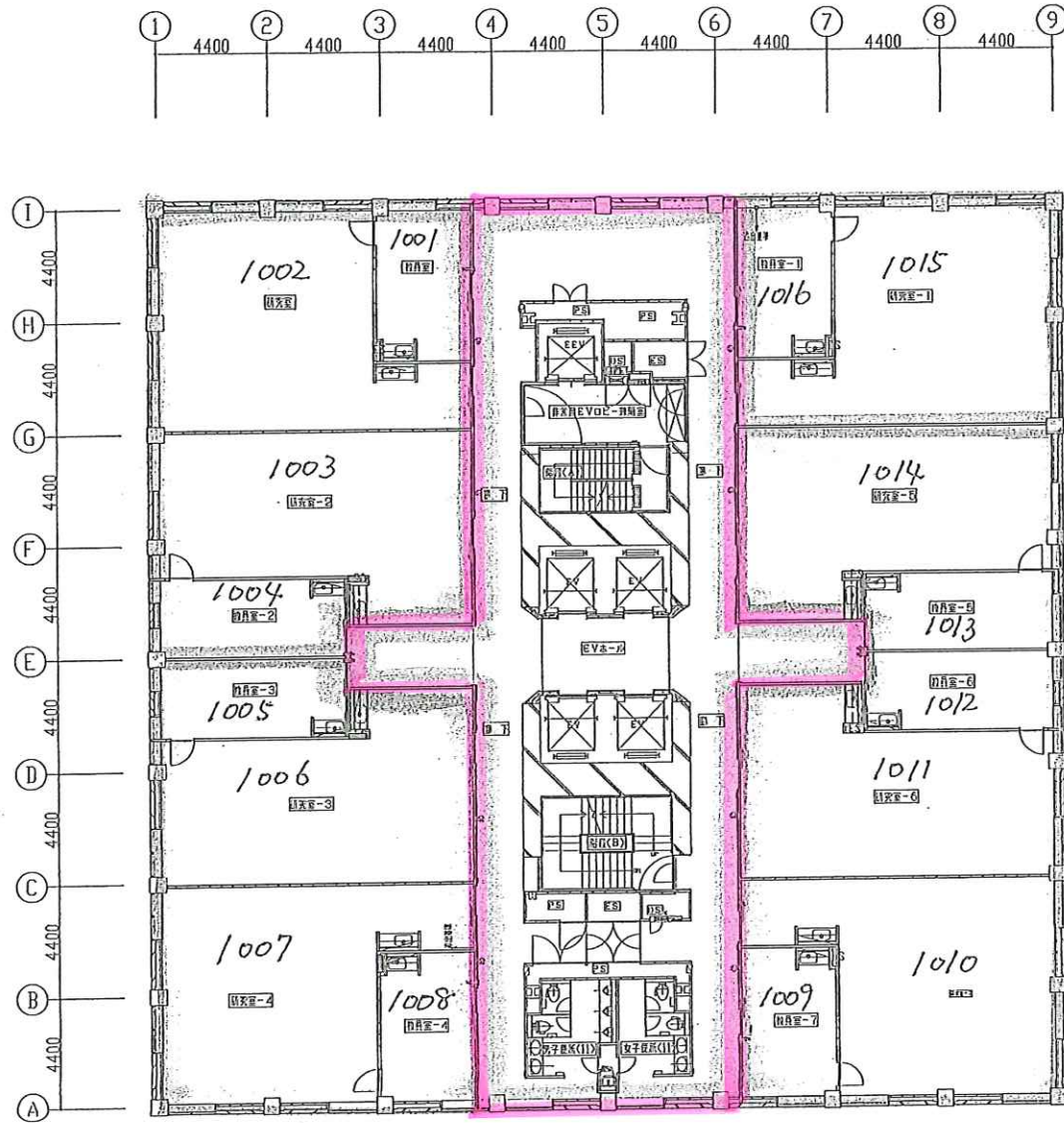
K1号館 7F



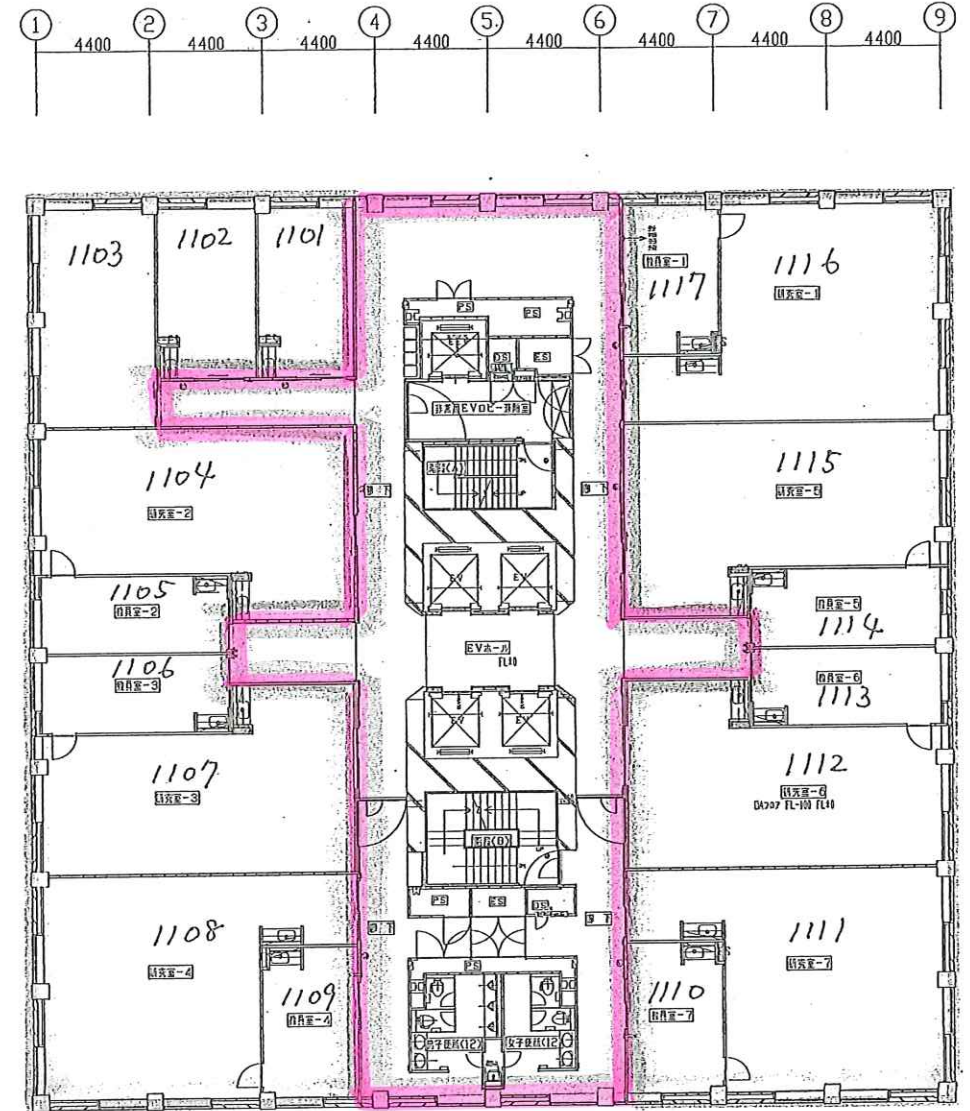
K1号館 8F



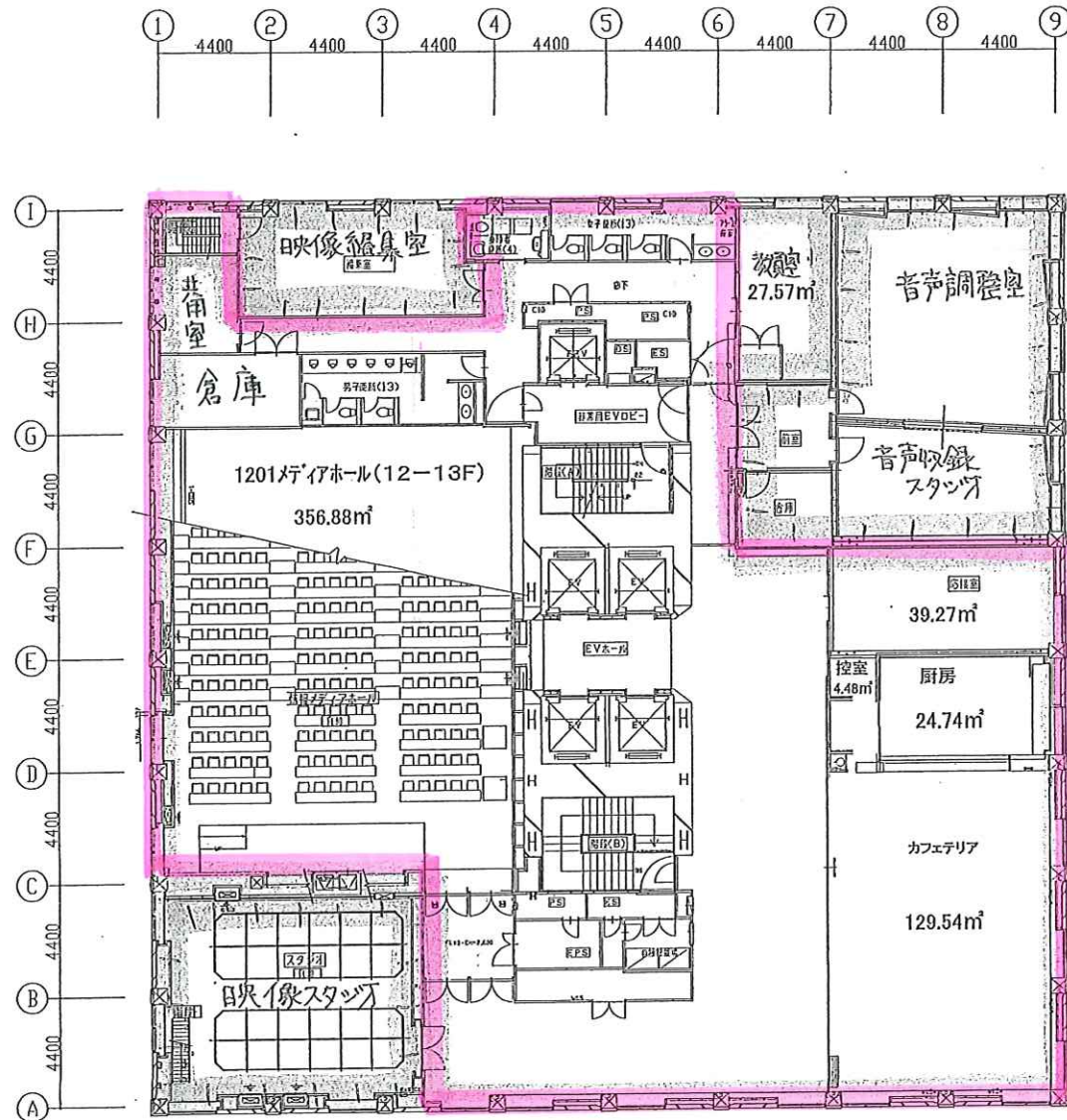
K1号館 9F



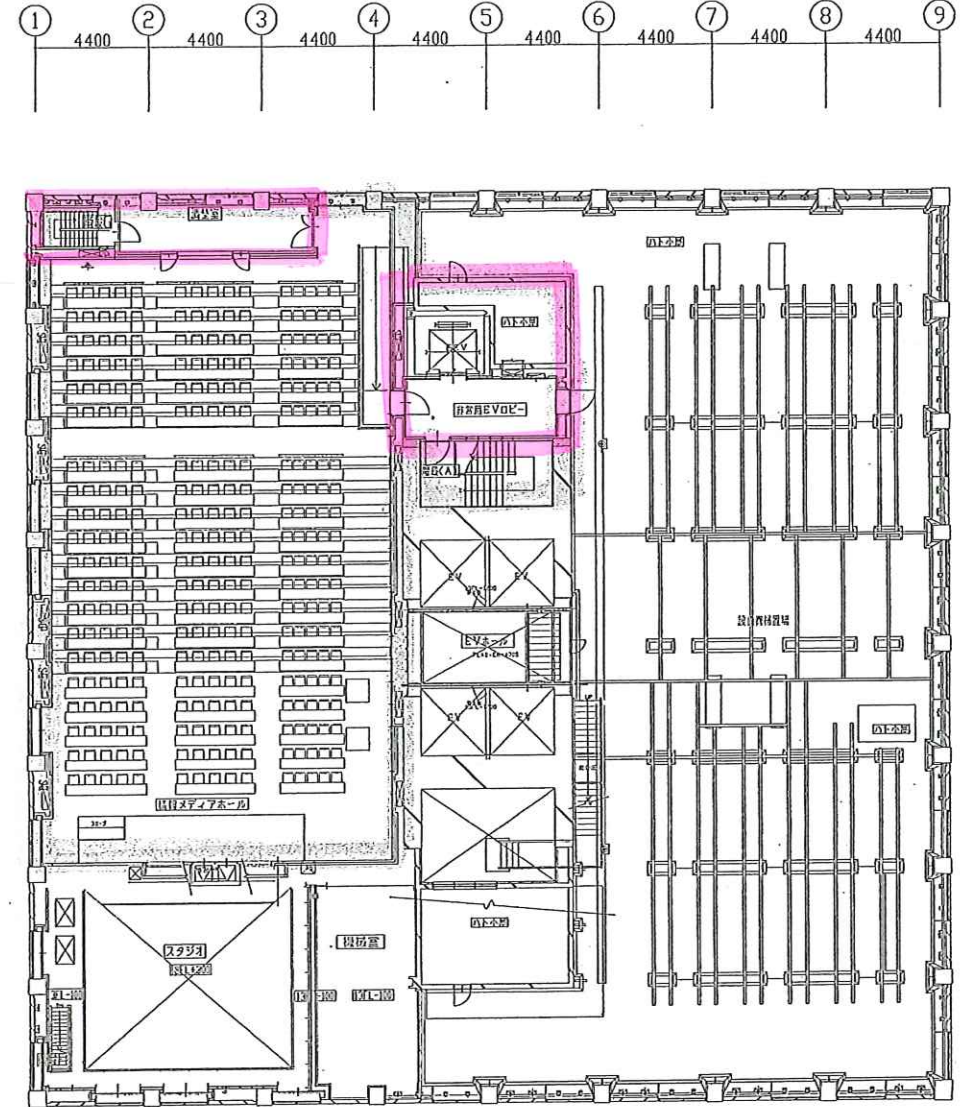
K1号館 10F



K1号館 11F

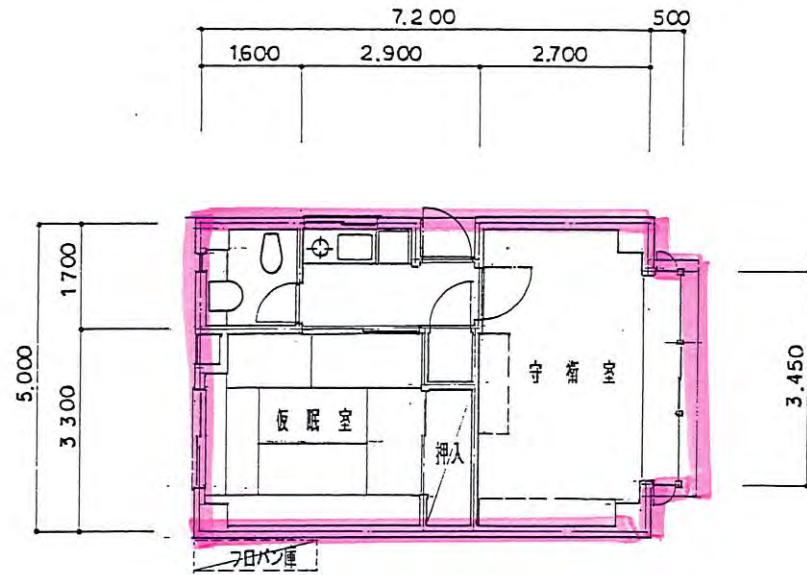


K1号館 12F



K1号館 13F

守衛所



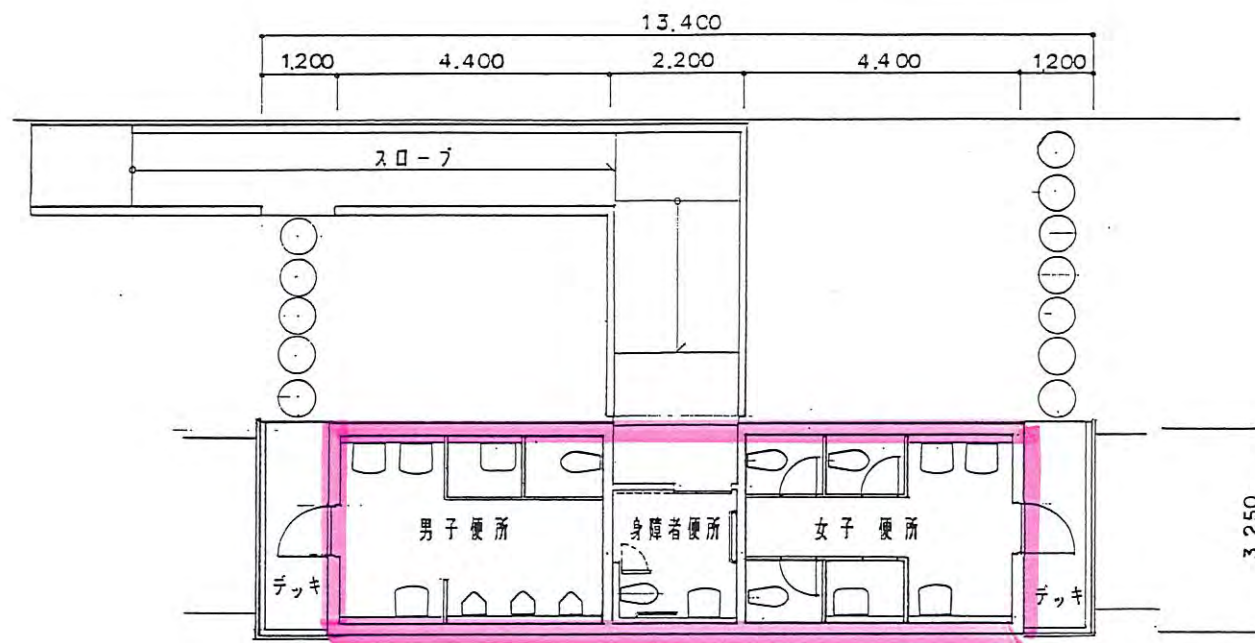
1 階 平 面 図

守 衛 棟

床 面 積	37.72 ^{m²}
登記面積	37.07 ^{m²}

守衛所

屋外トイレ

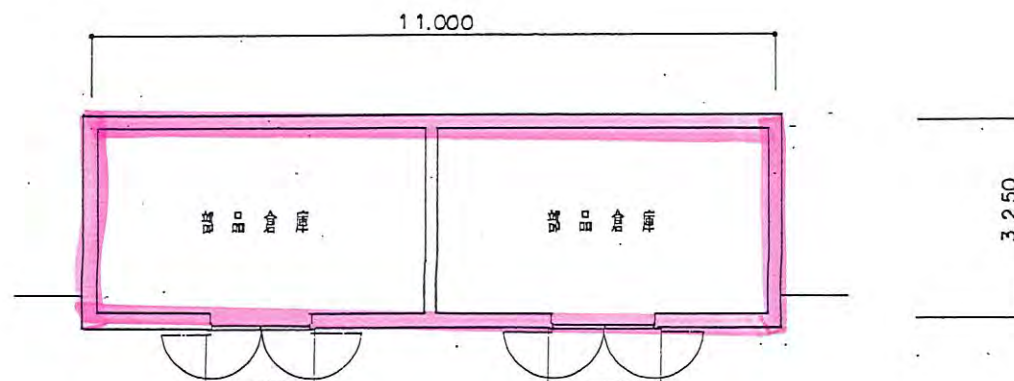


屋外便所棟

床面積

1階	35.75
2階	35.75
合計	71.5 ^{M²}

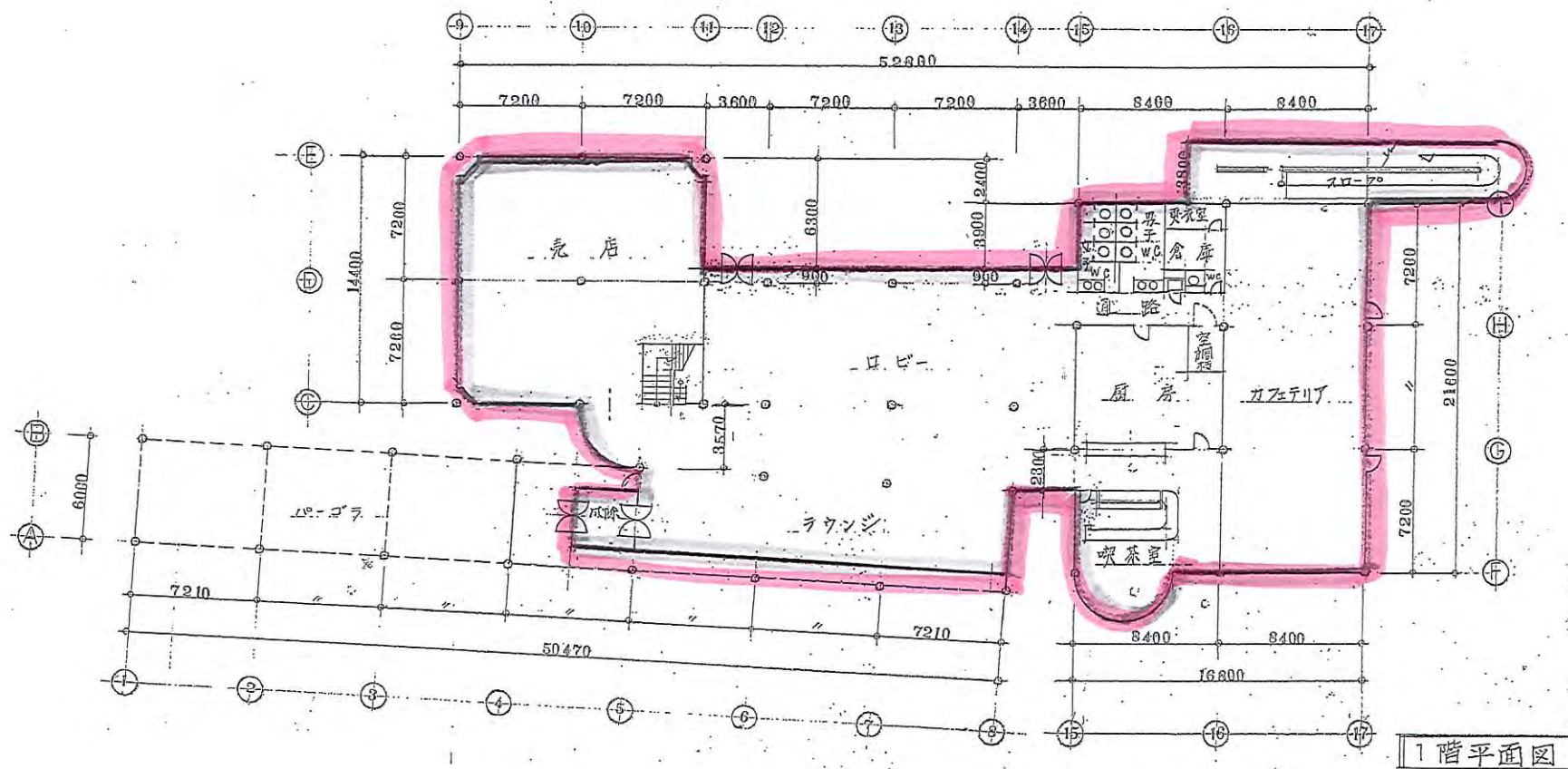
登記面積 1階	35.75
2階	33.41
合計	69.16 ^{m²}



A5
(1F)

A-5号館幾徳公館 1階平面図 (1090.07m²) S=1/300

室名	売店	倉庫	ロビー	ラウンジ	カフェテリア	喫茶室	厨房	通路	化粧室	更衣室	便所	空調機室	風除室	階段
面積	191.40	14.52	257.24	103.82	179.95	74.97	67.59	16.71	26.15	8.08	8.57	8.84	47.36	8.87

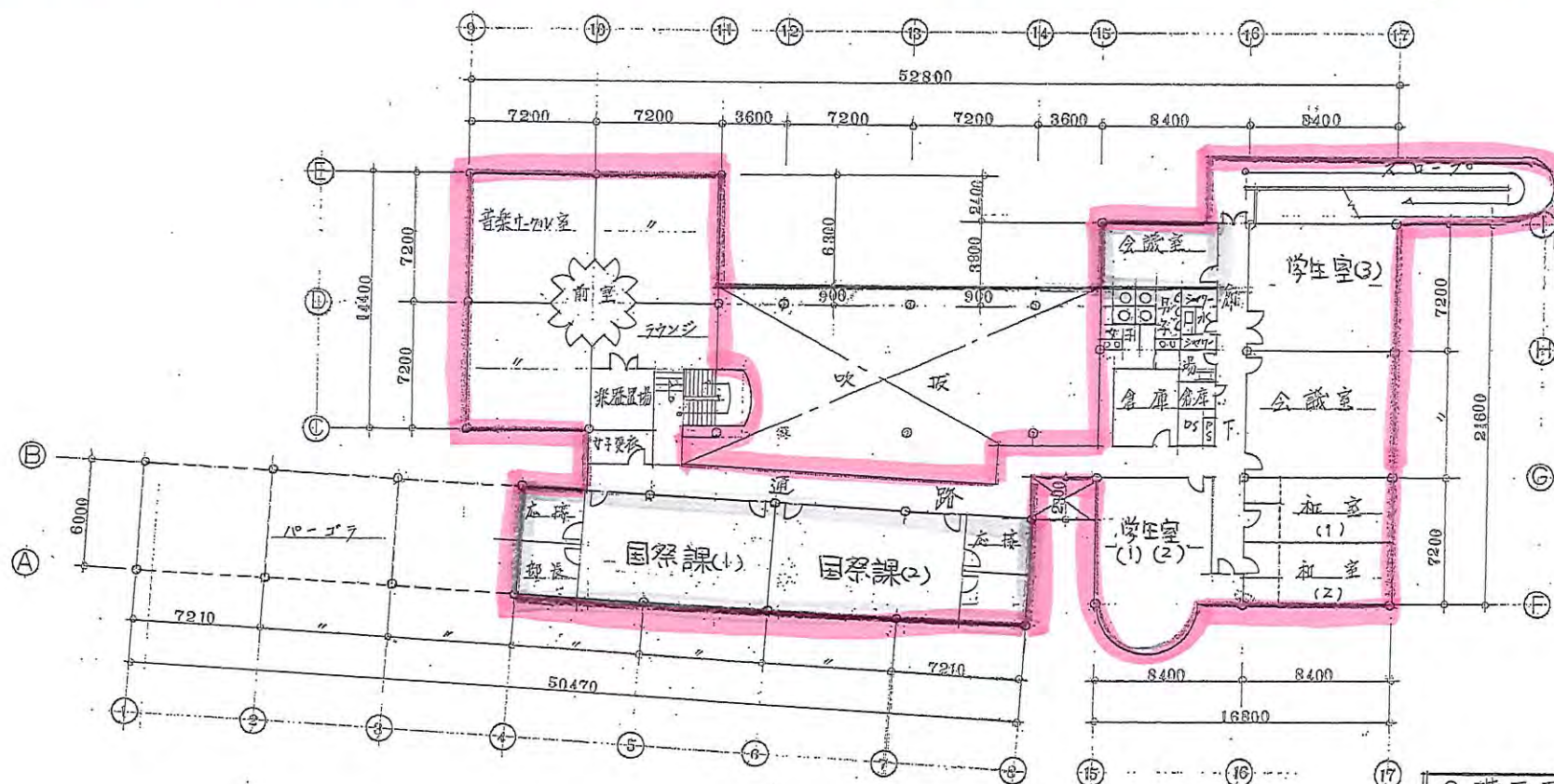


1階平面図

A5
(2F)

5 A-5号館幾徳会館2階平面図(854.79m²) S=1/300

室名	音楽カル室	同左前室	ラウンジ	階段	楽器置場	女子更衣室	倉庫	国祭課(1)	"(2)	応接室	部長室	学生室(1)	"(2)	"(3)
面積	156.51	9.0	23.76	13.06	43.69	6.66	17.97	69.22	69.22	24.36	24.36	29.7	32.83	65.35

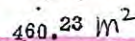


2階平面図

A5
2F

室名	会議室	和室(1)	和室(2)	シャワー室	給湯室	廊下	化粧室	会議室	PSその他	(2F)		(1F・2F)
面積	64.08	26.46	27.83	6.58	3.44	117.09	18.12	25.77	9.73	小計	854.79	合計
												1,854.86

THE AGE

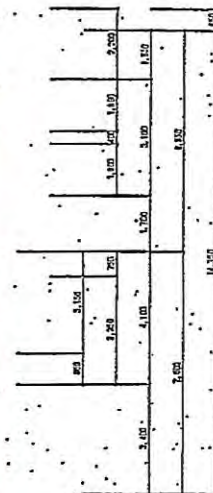
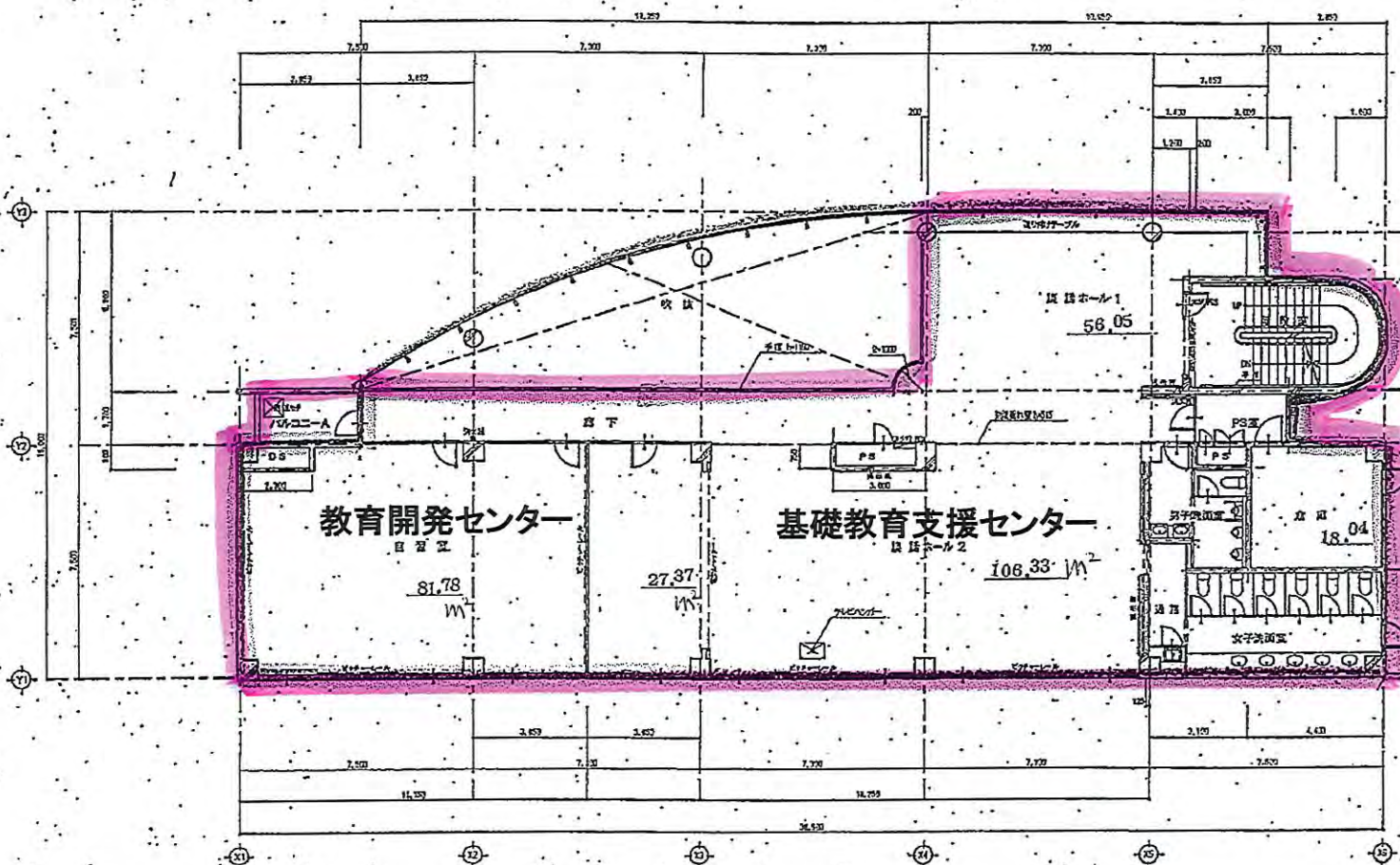


A6号食堂

工事番号 第 1 号 (依頼) 株式会社 建設設計	
図面名 1 階平面図	
日付 平成 10 年 10 月 1 日	図尺 1:100
設計 設計部	監理 監理部
図式番号 建設設計 1000	

建設設計 1000

A6
(2F)

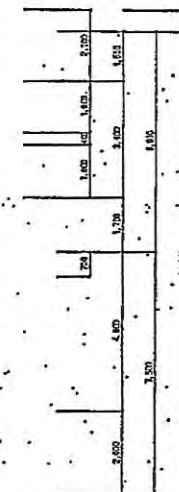
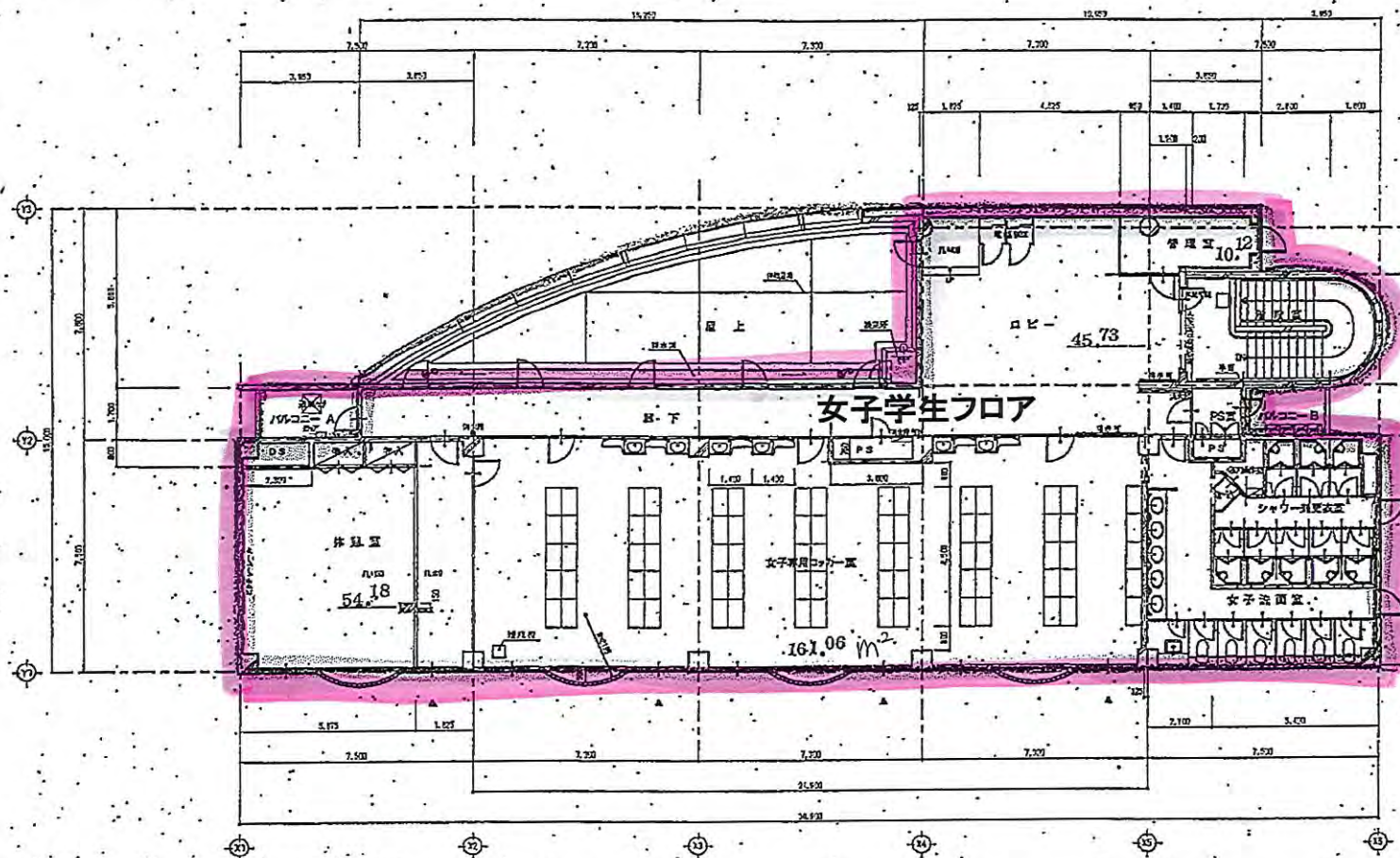


A6
2F

405.30 m²

工務部 神奈川工科大学 (仮称) 環境会館別館新築工事	
2 階 平 面 図	
図 名	図 尺
図 示	1:100
図 示 部 分	図 示 部 分
株式会社 1 般建設士会館 藍 いらか総合建築設計	

A6.
(3F)

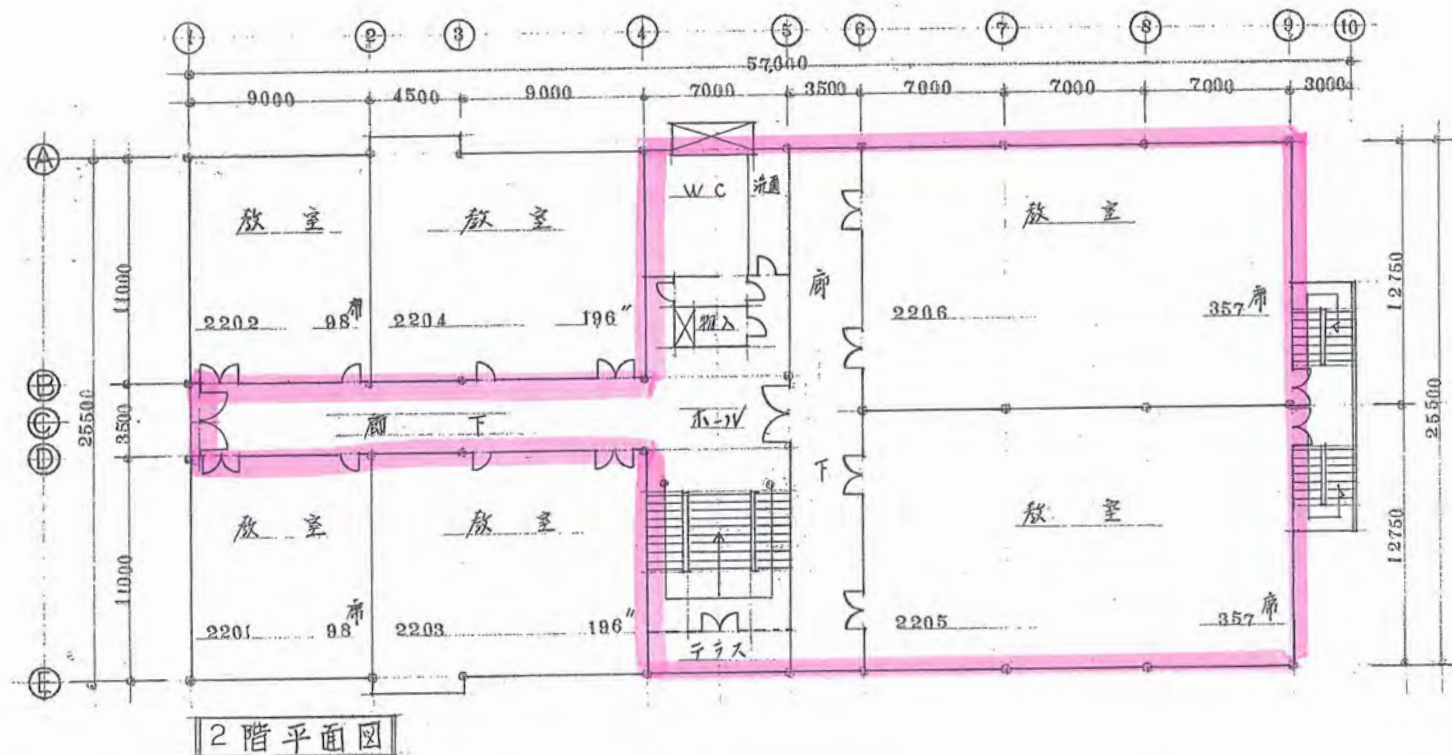


V. 断面図

工務部 伊賀川工科大学 (校務) 校務会事務局建築工務	
3 階 平面図	
縮尺	1:100
図名	図面番号
建築士 1 級建築士 伊賀川工科大学 建築士 伊賀川工科大学	
監 理 伊賀川工科大学 伊賀川工科大学 伊賀川工科大学	

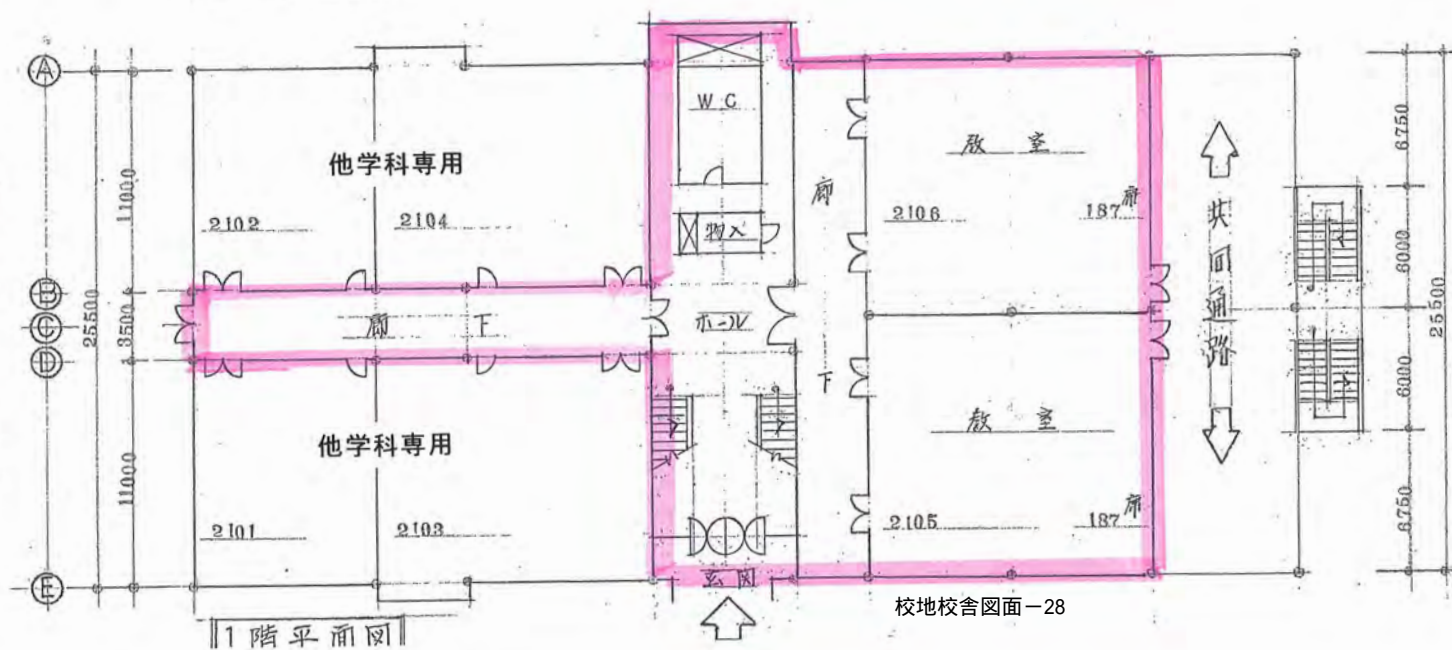
A6
3F

402.88 m²



B-5号館
 予=講義棟平面図 S=1/300

階	室番	室名	面積
二階	2201	教室	99.00
	2202	"	99.00
	2203	"	148.50
	2204	"	148.50
	2205	"	267.75
	2206	"	267.75
		廊下	169.00
		物入	5.60
		洗面便所	41.50
		ホ-ル階段	79.50
階		テラス	14.00
		屋外階段	29.25
		"	36.00
計			1404.35

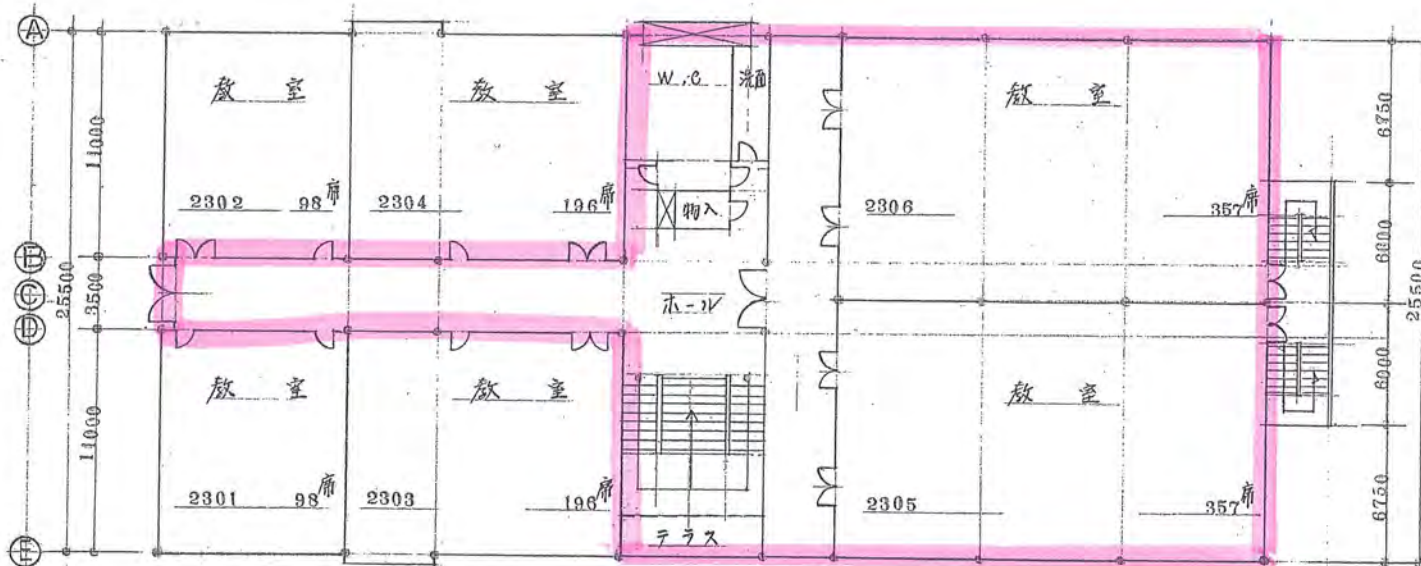
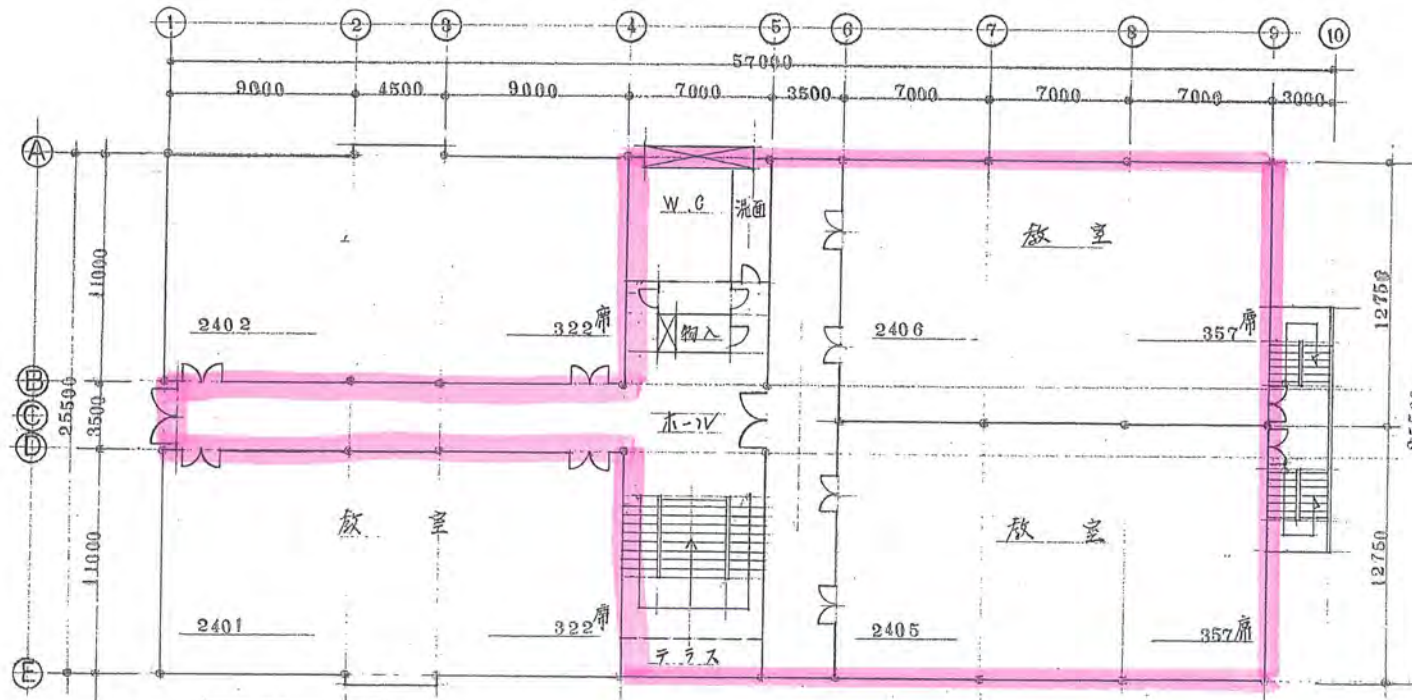


一階	2101	教室	99.00
	2102	"	99.00
	2103	"	148.50
	2104	"	148.50
	2105	"	154.00
	2106	"	154.00
		廊下	169.00
		物入	6.00
		玄関	14.00
		ホ-ル階段	142.00
階		屋外"	29.25
		"	36.00
		便所	22.00
計			1,220.25

B5(3~4F)

B-5号館	5,433.30 m ²
予=講義棟平面図 S=1/300	

階	室番	室名	面積
四	2401	教室	247.50
	2402	"	247.50
	2405	"	267.75
	2406	"	267.75
階		便所洗面	41.50
		物入	5.60
		ホ-ル階段	79.50
		テラス	14.00
		廊下	168.00
		屋外階段	65.25
	計		1404.35



階	室番	室名	面積
三	2301	教室	99.00
	2302	"	99.00
	2303	"	148.50
	2304	"	148.50
	2305	"	267.75
	2306	"	267.75
階		便所洗面	41.50
		物入	5.60
		ホ-ル階段	79.50
		テラス	14.00
		廊下	168.00
		屋外階段	65.25
	計		1404.35

B5(3~4F)

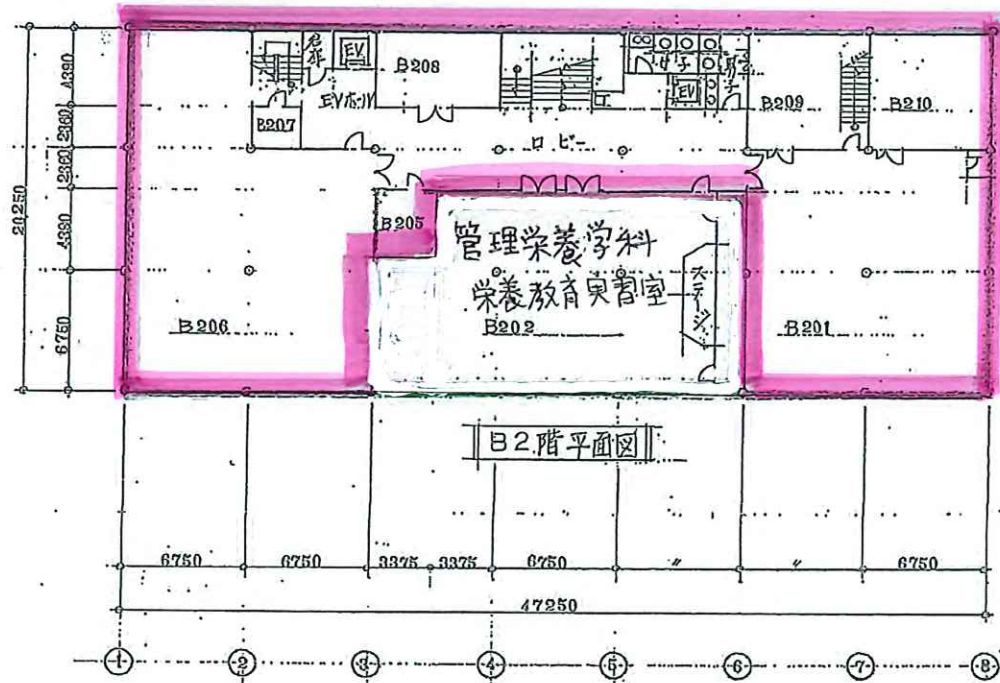
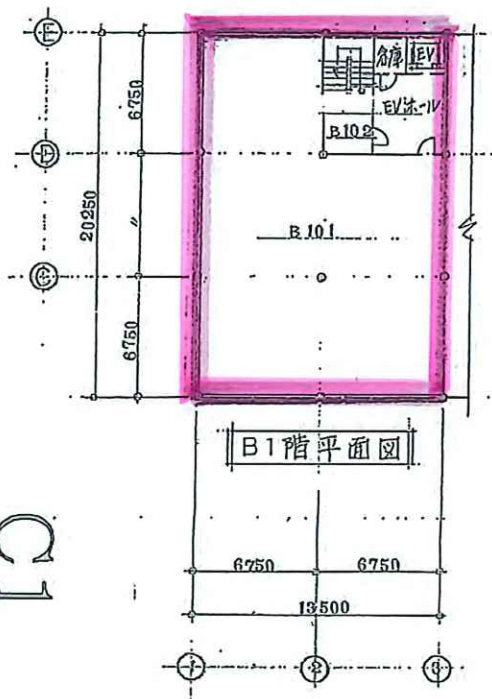
C1
(B1F)
(B2F)

室番	室名	面積
B101	根元書庫	245.25
102	ハロゲンホタル	6.76
	B階投	12.46
	No2 EV	22.96
	名	3.70
小計		291.13

	ロビー(地下)	87.87
	その他	3.50
小計		100.11

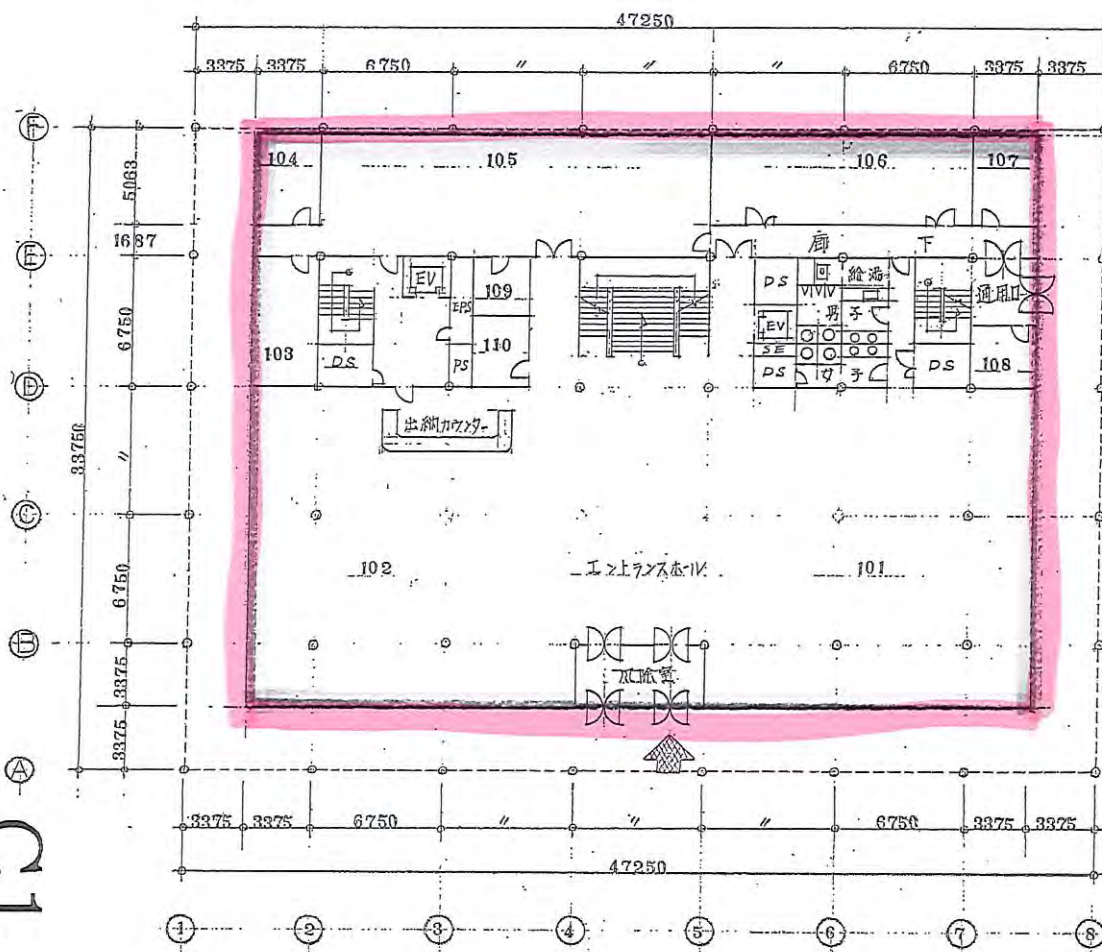
室番	室名	面積
B201	空調設備室	18.25
B202	栄養教育実習室	208.26
205	資料室	11.81
206	根元書庫	246.69
207	EV機械室	26.90
208	視聴覚室	84.78
209	ホワイエ	39.83
210	電気室	50.05
	A階投	45.56
	B	12.00
	No1 EV	9.10
	No2	13.87
	男子化粧室	12.50
	女子	12.24
	名	3.70

C-1号館(B1階 291.13 m ² B2階 1001.11 m ²)
図書館平面図 S = 1/300



C1
(1F)

C-1号館 (1階 1218.24 m ²)
図書館平面図 S= 1/300

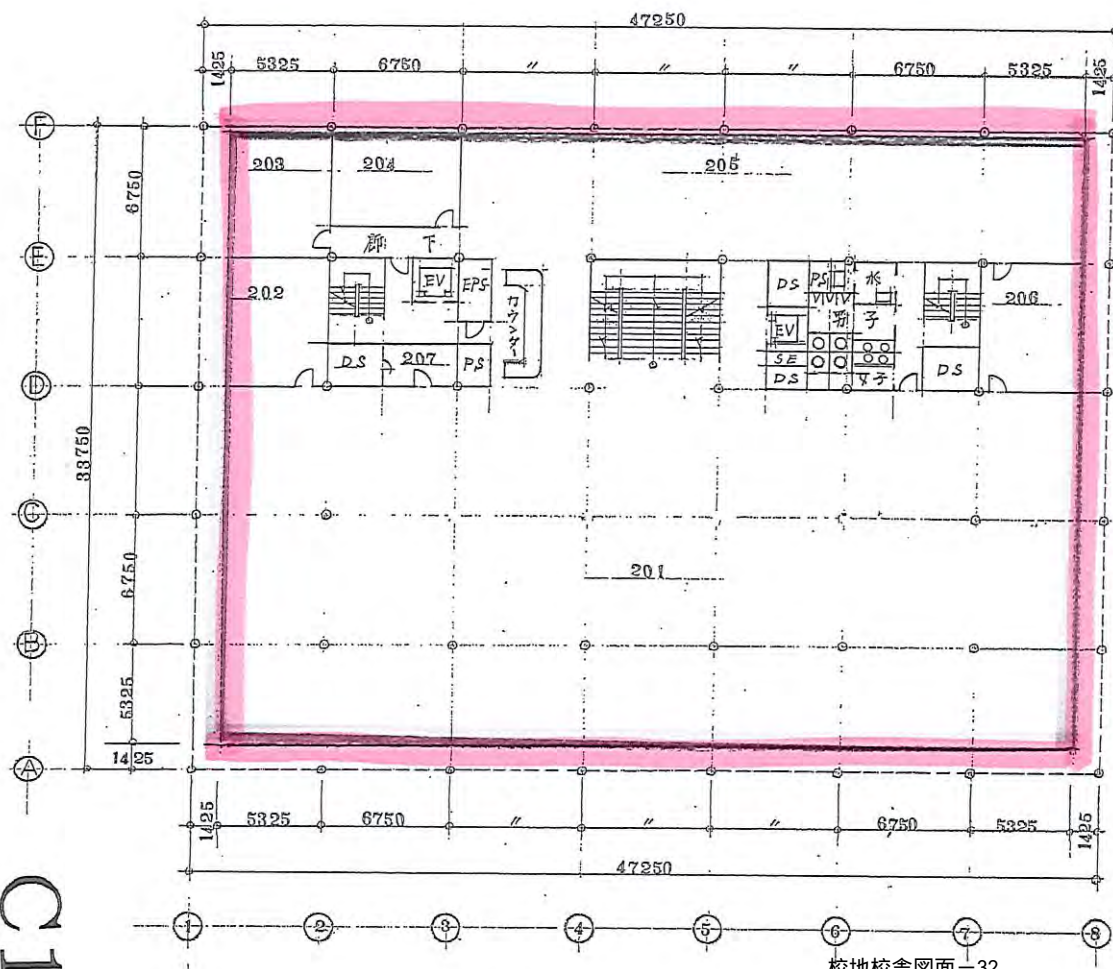


室番	室名	面積
101	雑誌新聞閲覧室	302.24
102	参考図書	302.14
103	館長室	23.29
104	部長室	17.71
105	事務室	136.80
106	コンピューター室	64.36
107	鑑書室	16.09
108	管理室	11.64
109	更衣室	9.08
110	フビー室	10.73
	エントランスホール	91.63
	A階 総	45.56
	B	24.94
	No1 EV	26.80
	No2	26.32
	男子化粧室	12.50
	女子	12.24
	給湯室	4.18
	風除室	22.78
	通用口	11.64
	廊下	29.48
	EPSその他	14.61
小計		1218.24

1階平面図

C1
(2F)

C-1号館 (2階 1422.13 m ²)
図書館平面図 S = 1/300



室番	室名	面積
201	前楽苑苑室	835.83
202	ダンス (1)	35.94
203	ダンス (2)	33.40
204	ダンス (3)	34.17
205	自由	247.13
206	ラウンジコーナー	35.94
207	コピー室	8.22
	A階投	45.56
	B	24.94
	No1 EV	28.80
	No2	18.10
	男子化粧室	12.50
	女子	12.24
	水飲室	4.02
	EPSその他	33.96
	廊下	11.38
小計		1422.13

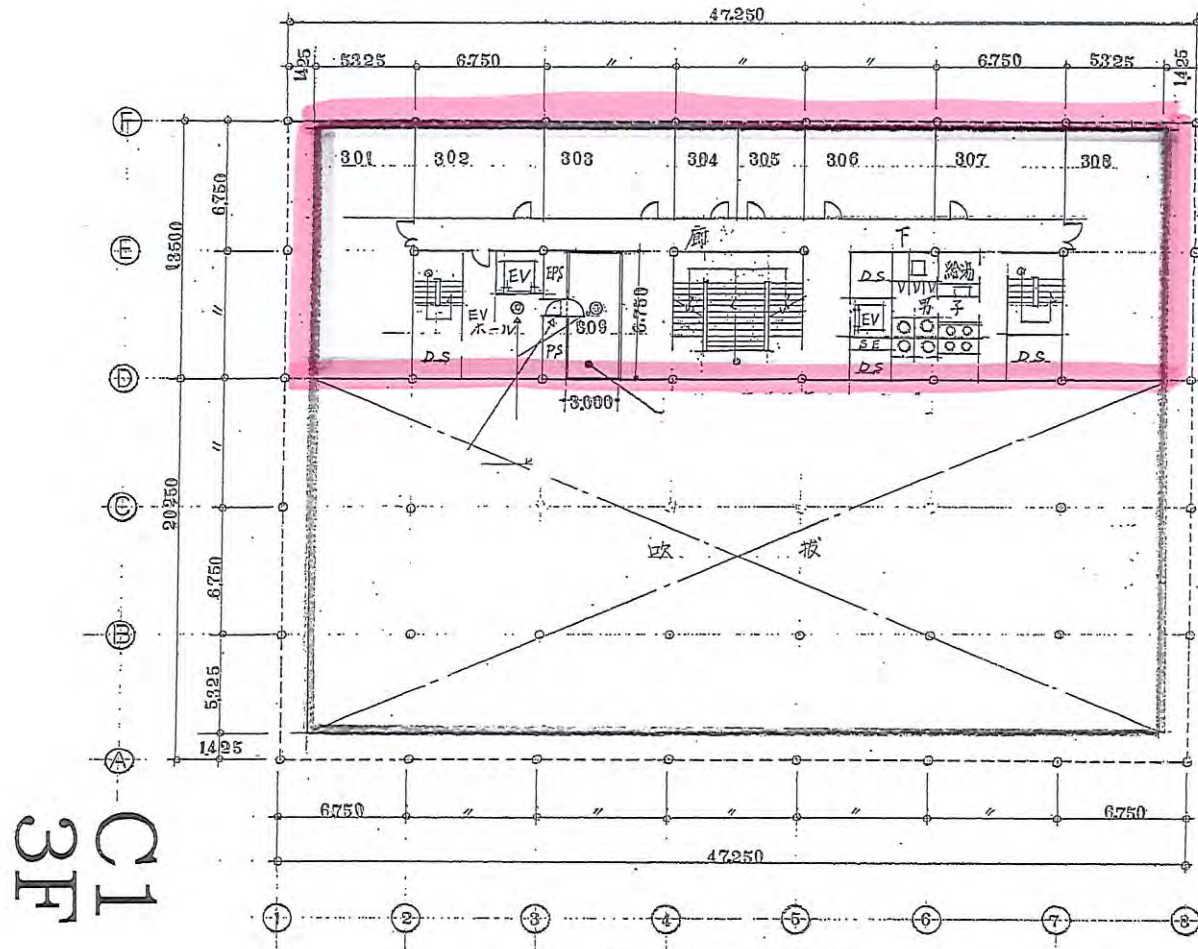
2階平面図

C1
2F

C1
(3F)

C-1号館(3階 596.25 m ²)
図書館平面図 S=1/300

室番	室名	面積
301	放課後児童室	70.83
302	セミ室(4)	32.18
303	"(3)	32.18
304	応接室(2)	16.09
305	"(1)	16.09
306	セミ室(2)	32.18
307	"(1)	32.18
308	放課後児童室	70.83
309	保管庫	20.25
	A階段	45.56
	B "	24.94
	No1 EV	28.80
	No2 "	26.32
	男子化粧室	12.50
	女子 "	12.24
	給湯室	4.02
	FPSの机	59.59
	廊 F	59.47
小計		596.25

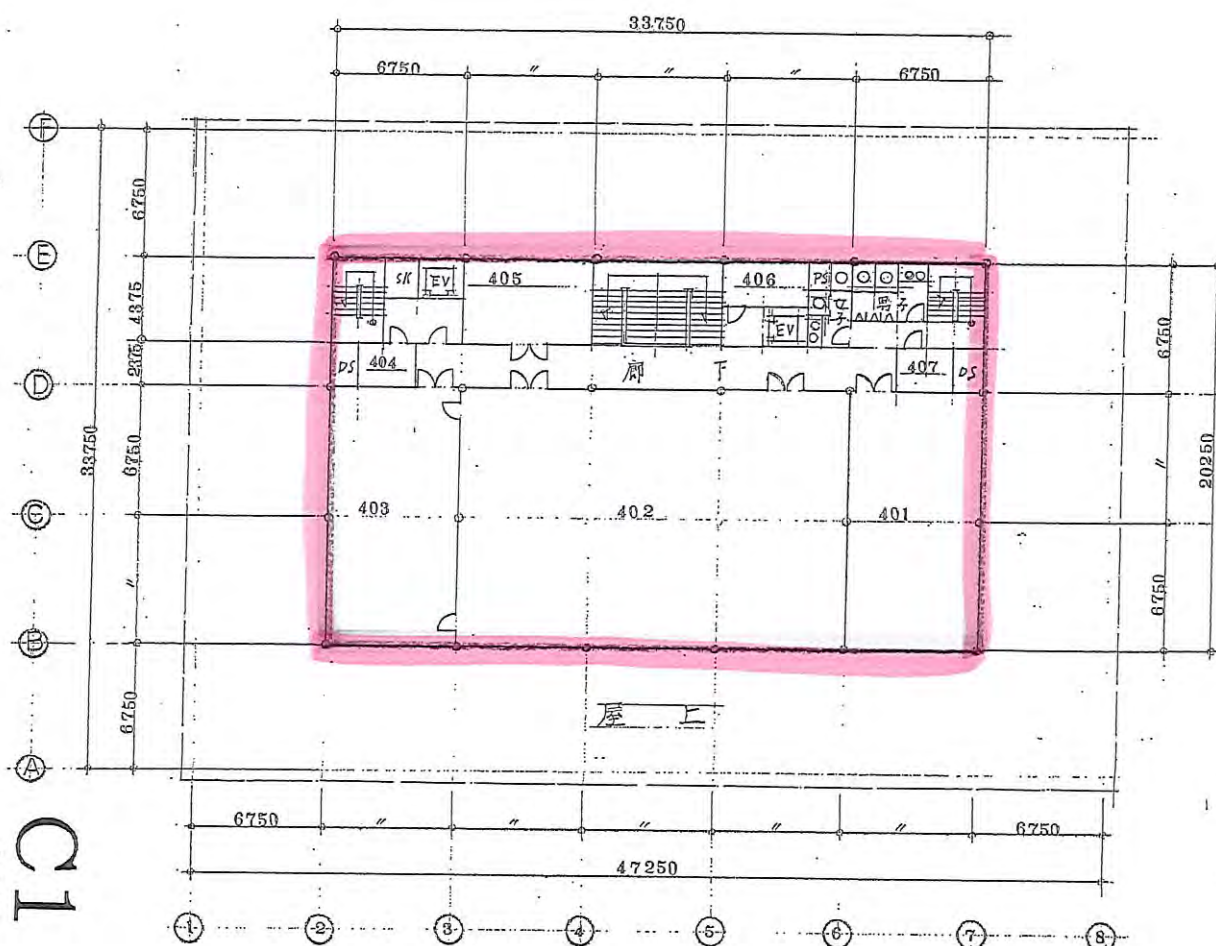


3階平面図

C1
(4F)

13C-1号館(4階 675.36 m²)

図書館平面図 S = 1/300



室番	室名	面積
401	特別閲覧室	87.61
402	研修室	265.78
403	会議室	87.61
404	パントリー	7.93
405	空調存室	31.61
406	排煙フィルタ	11.49
407	倉庫	7.93
	A階段	45.56
	B	24.94
	No1 EV	8.99
	No2	18.87
	男子化粧室	17.06
	女子	7.99
	FPSその他	6.06
	廊下	50.93
小計		675.36

4階平面図

C2号館面積表

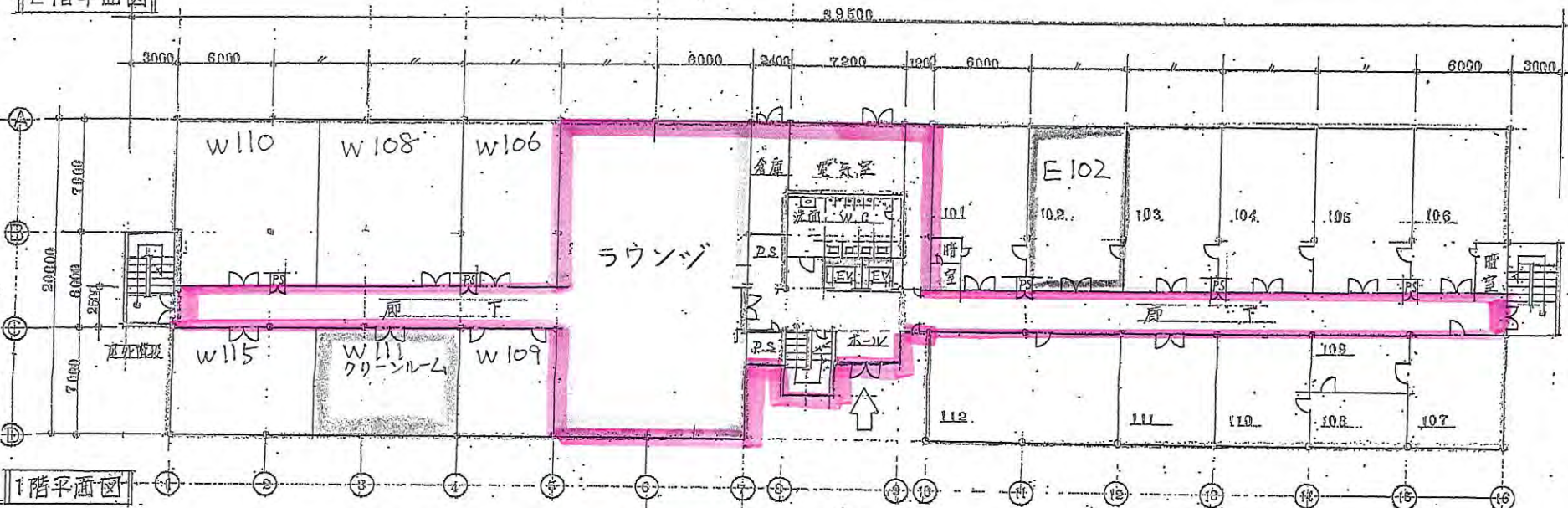
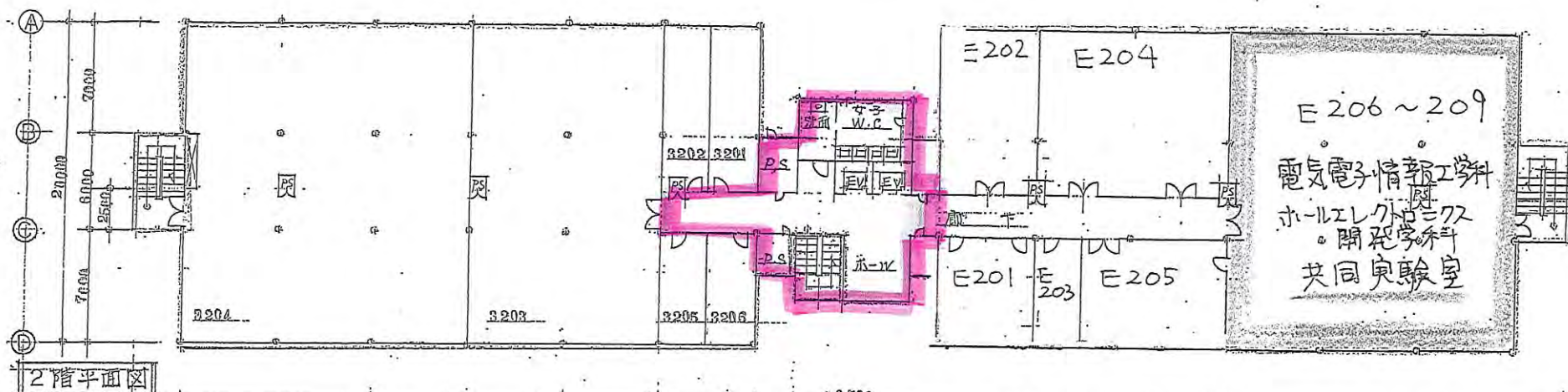
1階			2階			3階			4階			5階			6階								
室番	室名	面積(m ²)	室番	室名	面積(m ²)	室番	室名	面積(m ²)	室番	室名	面積(m ²)	室番	室名	面積(m ²)	室番	室名	面積(m ²)						
W106	実験室	61.76	W201	実験室	23.9	W301	情報センタ管理室	89.6	W401	事務室	45.8	W501	教員研究室	23.9	W601	教員研究室	23.9						
W108	実験室	94.5	W202	教員研究室	34.38	W302	PC自習室	96.14	W402	会議室	64.64	W502	教員研究室	64.64	W602	教員研究室	64.64						
W109	実験室	43.8	W203	実験室	21.9	W304	PC自習室	93.26	W403	事務室	21.9	W503	教員研究室	21.9	W603	教員研究室	21.9						
W110	教員研究室	96.14	W204	製図準備室	30.26	W303	研究室	43.8	W404	教員研究室	63	W504	教員研究室	63	W604	教員研究室	63						
W111	クリーンルーム	65.7	W205	製図室	238.76	W305	研究室	43.8	W405	会議室	21.9	W505	教員研究室	21.9	W605	教員研究室	21.9						
W113	研究室	21.9	W206	製図室	364.26	W306	機械室	63	W406	研究室	61.76	W506	教員研究室	61.76	W606	教員研究室	61.76						
W115	教員研究室	67.7				W307	PC自習室	89.6	W407	教員研究室	21.9	W507	教員研究室	21.9	W607	教員研究室	21.9						
ラウンジ		195.34				W308	機械室	127.64	W408	教員研究室	63	W508	教員研究室	94.5	W608	教員研究室	63						
E101	実験室	87.99	E201	会議室	45.99	E301	教員研究室	45.99	W409	教員研究室	21.9	W509	教員研究室	21.9	W609	教員研究室	21.9						
E102	実習室	65.82	E202	実験室	65.82	E302	教員研究室	65.82	W410	教員研究室	61.76	W510	教員研究室	30.26	W610	教員研究室	61.76						
E103	実験室	42.34	E203	H事務室	21.9	E303	教員研究室	43.8	W411	教員研究室	21.9	W511	教員研究室	21.9	W611	教員研究室	21.9						
E104	研究室	62.67	E204	実験室	125.34	E304	教員研究室	62.67	W412	教員研究室	65.88	W512	教員研究室	65.88	W612	教員研究室	65.88						
E105	協同研究室	42	E205	実験室	65.7	E305A	教員研究室	43.8	W413	教員研究室	21.9	W513	教員研究室	21.9	W613	教員研究室	21.9						
E106	教員研究室	62.67	E206	実験室	361.15	E305B	教員研究室		W415	教員研究室	21.9	W515	教員研究室	21.9	W615	教員研究室	21.9						
E107	製作ラボ	20.46	E207	実験室		E306	実習室	62.67	W417	教員研究室	21.9	W517	教員研究室	21.9	W617	教員研究室	43.8						
		24.8	E208	教材室		E307	教員研究室	21.9	W419	教員研究室	21.9	W519	教員研究室	21.9	W619	教員研究室	45.8						
E108	実験室	62.67	E209	実験室		E308	教員研究室	62.67	W421	教員研究室	23.9	W521	教員研究室	21.9									
E109	実験室	45.99				E309	教員研究室	21.9	E401	教員研究室	24.09	W523	教員研究室	23.9	E601	教員研究室	45.99						
E110	教員研究室	62.67				E310	講義室	126.39	E402	教員研究室	65.82	E501	会議室	45.99	E602	教員研究室	65.82						
E112	教員研究室	63.72				E311	教員研究室	21.9	E403	教員研究室	21.9	E502	暗室	14	E603	教員研究室	21.9						
						E313	講義室	21.9	E404	教員研究室	62.67	E503	事務室	43.8	E604	教員研究室	62.67						
電気室		46.04				E315	教員研究室	21.9	E405	教員研究室	21.9	E504	コピー室	51.01	E605	教員研究室	21.9						
						E317	教員研究室	24.09	E406	教員研究室	62.67	E505	端末室	21.9	E606	教員研究室	62.67						
男子トイレ		19.44	女子トイレ		19.44	男子トイレ		19.44	E407	教員研究室	21.9	E506	教員研究室	62.67	E607	教員研究室	21.9						
EV		13	EV		13	EV		13	E408	教員研究室	62.67	E507	教員研究室	21.9	E608	教員研究室	62.67						
ホール		39.83	ホール		47.05	ホール		47.05	E409	教員研究室	21.9	E508	教員研究室	62.67	E609	教員研究室	21.9						
廊下		85.08	廊下		42.02	廊下		85.08	E410	教員研究室	126.39	E509	教員研究室	21.9	E610	教員研究室	62.67						
廊下		84.12	廊下		18.48	廊下		80.52	E411	教員研究室	21.9	E510	教員研究室	62.67	E611	教員研究室	21.9						
階段		13.2	階段		13.2	階段		13.2	E413	教員研究室	21.9	E511	教員研究室	21.9	E612	教員研究室	63.72						
PS		16.41	PS		15.86	PS		15.88	E415	教員研究室	21.9	E512	教員研究室	62.67	E613	教員研究室	21.9						
PS		13.97	PS		13.97	PS		13.97	E417	教員研究室	21.9	E513	事務室	43.8	E415	教員研究室	21.9						
倉庫		14.87				倉庫			E419	教員研究室	21.9	E514	教員研究室	63.72	E417	教員研究室	21.9						
									E421	教員研究室	21.9	E515	研究室	21.9	E419	教員研究室	21.9						
	小計	1636.6		小計	1582.38		小計	1582.38	E423	教員研究室	24.09	E517	教員研究室	24.09	E421	教員研究室	24.09						
									男子トイレ			19.44	女子トイレ			19.44	男子トイレ			19.44			
7階			1階			1636.6			EV			13	EV			13	EV			13			
室番	室名	面積(m ²)	2階			1582.4			ホール			47.05	ホール			47.05	ホール			47.05			
電波実験室			21.84			3階			1582.4			廊下			85.08			廊下			85.08		
EV機械室			35.2			4階			1582.4			廊下			80.52			廊下			80.52		
廊下			18.74			5階			1582.4			階段			13.2			階段			13.2		
階段			13.5			6階			1582.4			PS			15.88			PS			15.88		
			小計			89.28			7階			PS			13.97			PS			13.97		
						合計			9637.8			小計			1582.38			小計			1582.38		

全学科全専攻共用<面積合計> 2591.16 m²

申請学科以外の学科専用

C2
(1F)
(2F)

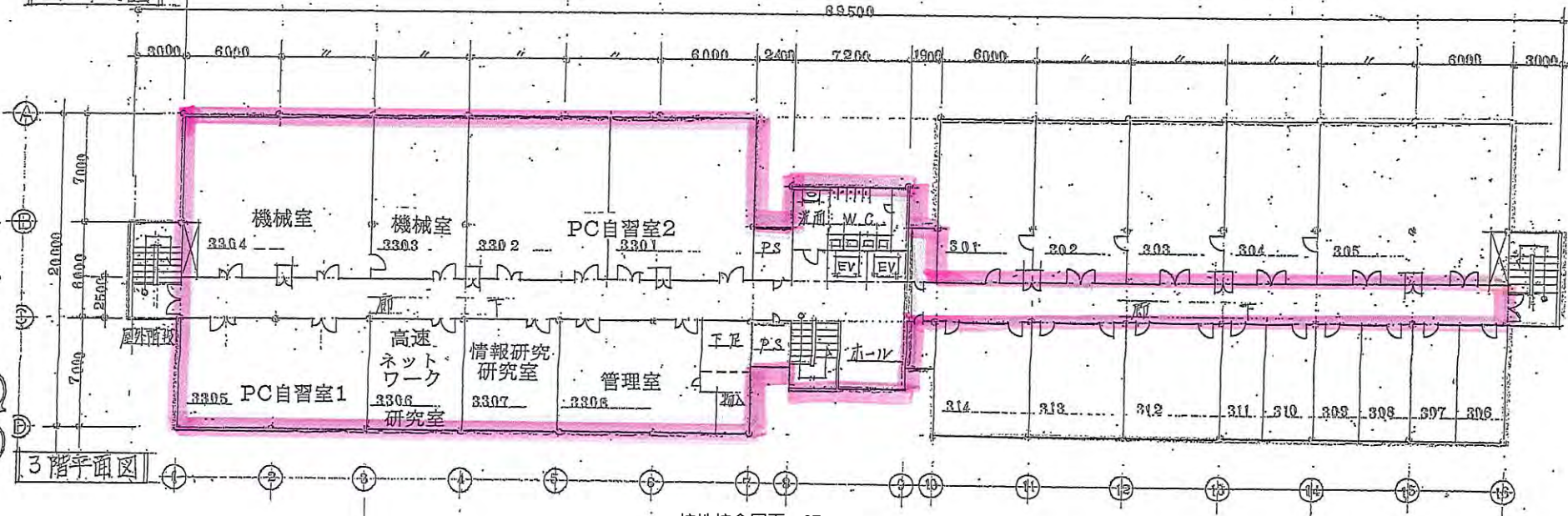
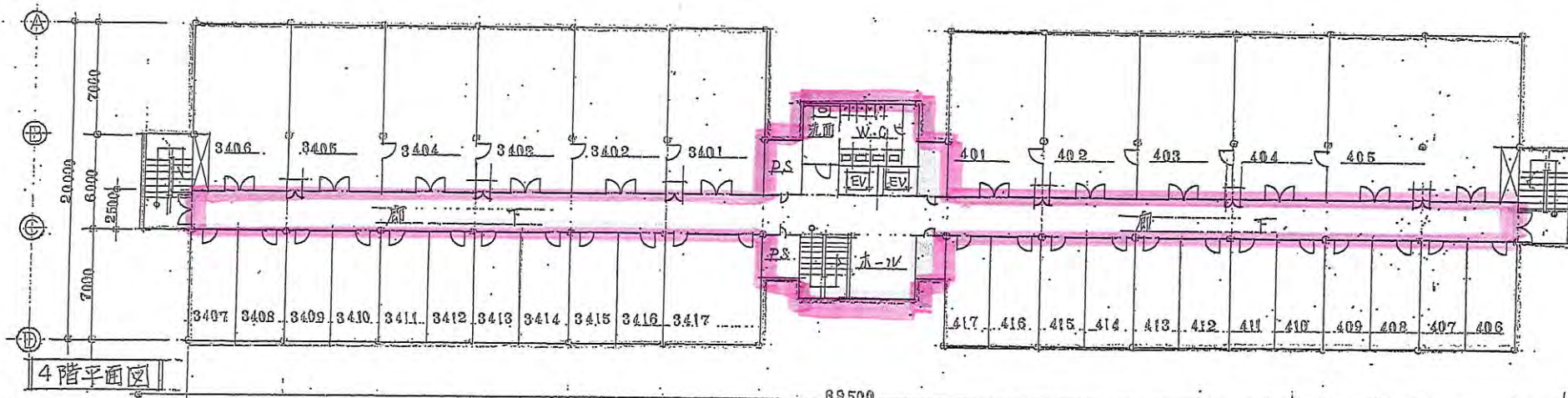
C-2号館
近1.才Z実験研究棟平面図S=1/300



1F・2F
C2

C2
(3F)
(4F)

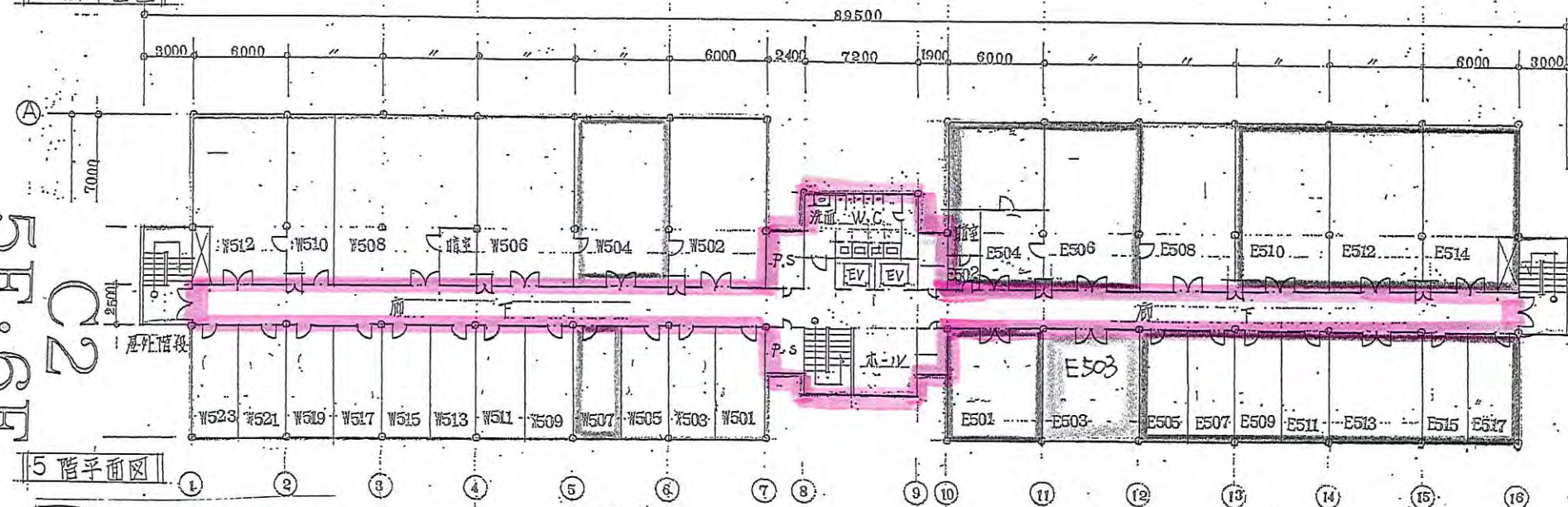
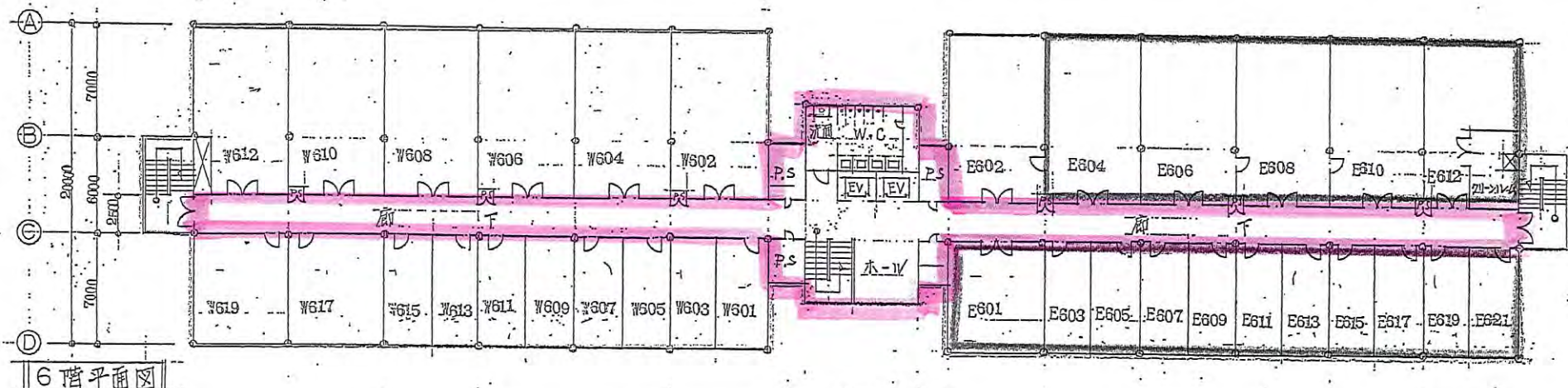
C-2号館
第1号2実験研究棟平面図 S-V300



3F・4F
C2

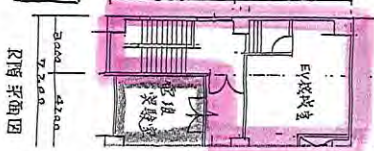
(5F·6F·7F)

C-2号館
第1号2号験研究棟平面図 S=1/300



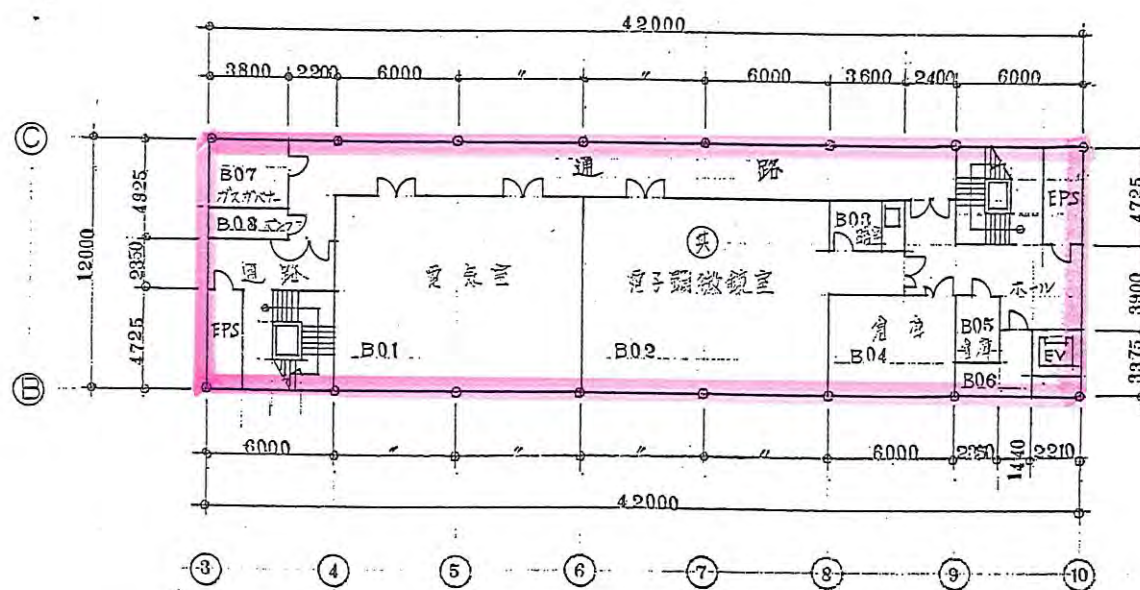
5F·6F
C2
7F

7階



C-5 号館 (地階 520.65m²)

第3實驗研究棟平面圖 $S = \frac{1}{300}$



室番	室名	面積
B01	電気室	114.10
B02	鉛筆微研室	132.20
B03	暗室	9.00
B04	名庫	27.90
B05	小倉庫	6.80
B06	EV稼働室	9.21
B07	放ガバト室	12.00
B08	消火ポンプ室	9.00
	階段	41.81
	ホ - ル	14.18
	通 路	128.91
	E V 室	8.04
	EPS 40 机	17.50
小 計		520.65

地下1階平面図

校地校舍図面-39

CS
(B/H)

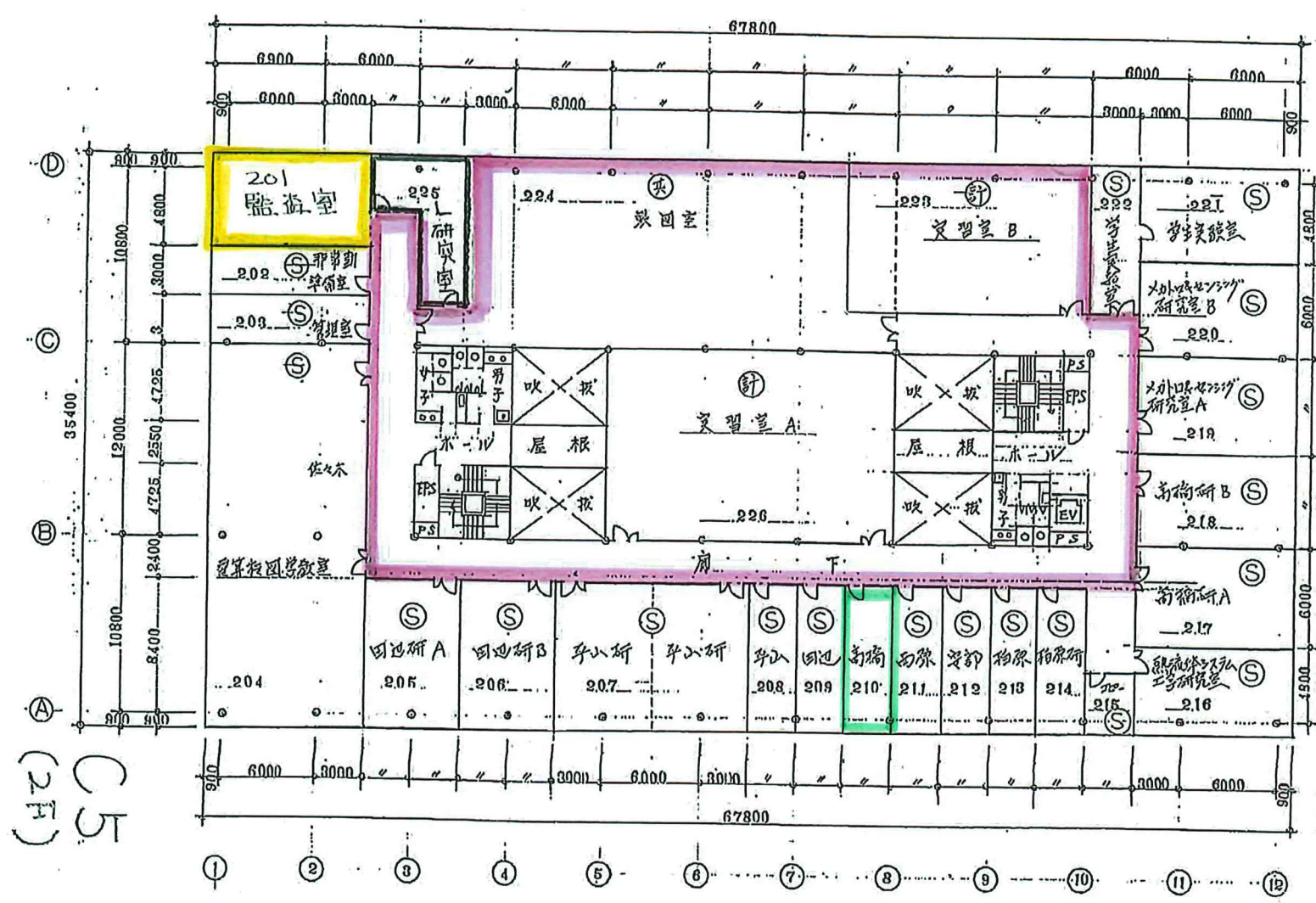
C-5 号館 (1階 2,262.83 m²)
並3次驗研究棟平面図 S=1/300



1階平面図

C5(2F)

C-5号館 (2階 2,275.76m²)
第3実験研究棟平面図 S=1/300



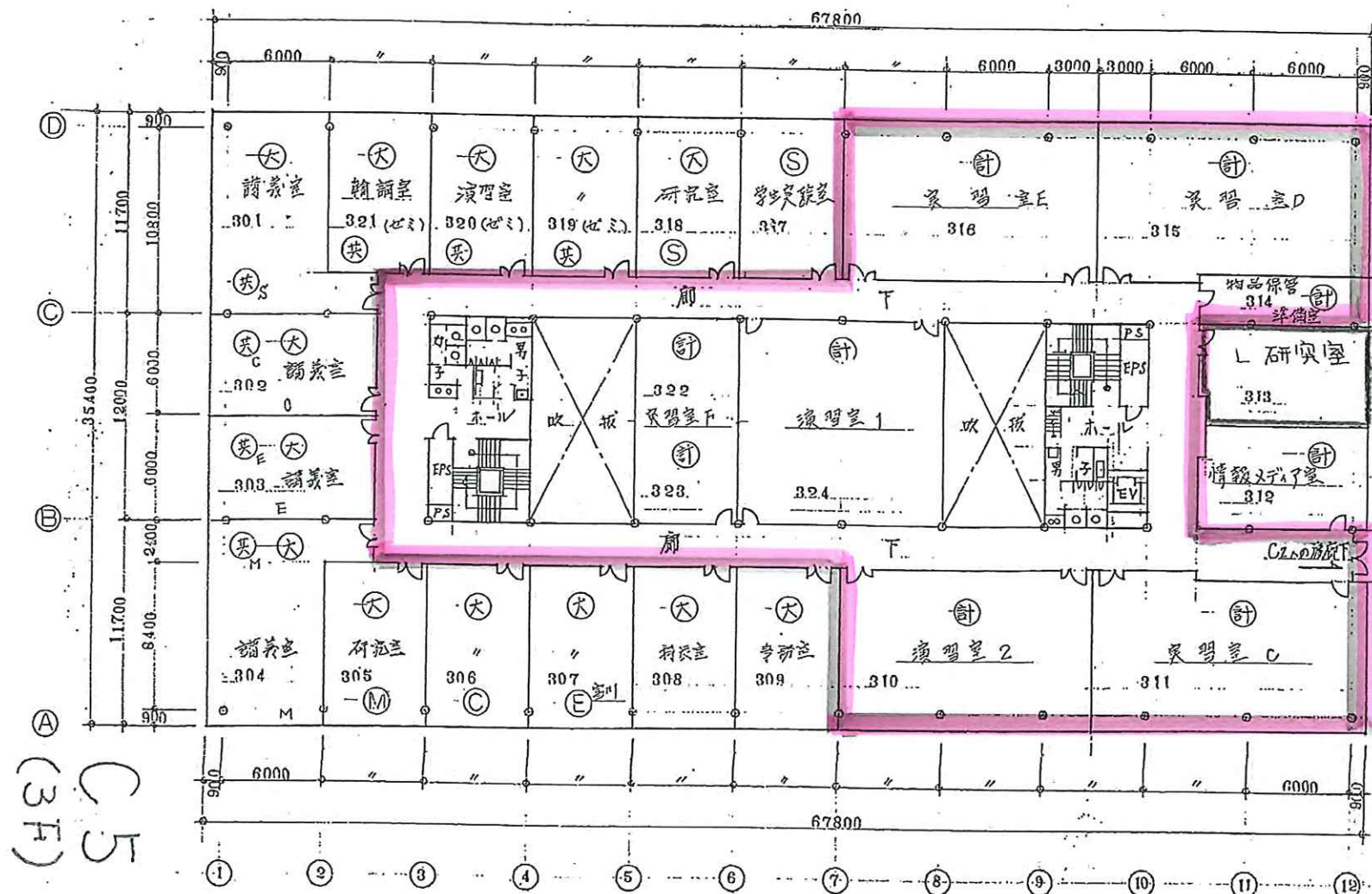
室番	室名	面積
201	監査室	56.49
202	第1研究室	29.70
203	第2研究室	29.70
204	第3研究室	29.70
205	第4研究室	55.80
206	第5研究室	55.80
207	第6研究室	111.60
208	第7研究室	27.90
209	第8研究室	27.90
210	第9研究室	27.90
211	第10研究室	27.90
212	第11研究室	27.90
213	第12研究室	27.90
214	第13研究室	27.90
215	第14研究室	12.60
216	第15研究室	56.49
217	第16研究室	59.40
218	第17研究室	59.40
219	第18研究室	59.40
220	第19研究室	59.40
221	第20研究室	56.49
222	第21研究室	27.90
223	第22研究室	189.50
224	第23研究室	290.50
225	第24研究室	42.00
226	第25研究室	204.00
227	第26研究室	46.26
228	第27研究室	28.00
229	第28研究室	80.00
230	第29研究室	279.49
231	第30研究室	10.44
232	第31研究室	16.52
小計		2,275.76

2階平面図

C5(3F)

C-5 号館 (3階 2,258.15 m²)

第3実験研究棟平面図 S=1/300.



室番	室名	面積
301	大学演習室	87.90
302	〃	59.40
303	〃	59.40
304	〃	87.90
305	研究室	55.80
306	〃	55.80
307	〃	55.80
308	研究室	55.80
309	研究室	55.80
310	演習室	139.50
311	演習室	144.80
312	情報メディア室	58.70
313	研究室	58.70
314	物品保管室	29.70
315	演習室	141.80
316	〃	139.50
317	演習室	55.80
318	大学演習室	55.80
319	〃	55.80
320	〃	55.80
321	研究室	55.80
322	演習室	37.50
323	〃	37.50
324	演習室	159.80
325	便所・給湯	16.25
326	階段	30.81
327	水・IV	28.05
328	廊下	299.69
329	EV室	10.44
330	EPS10世	16.52
331	波廊下	27.39
小計		2,258.15

3階平面図

D2号館面積表

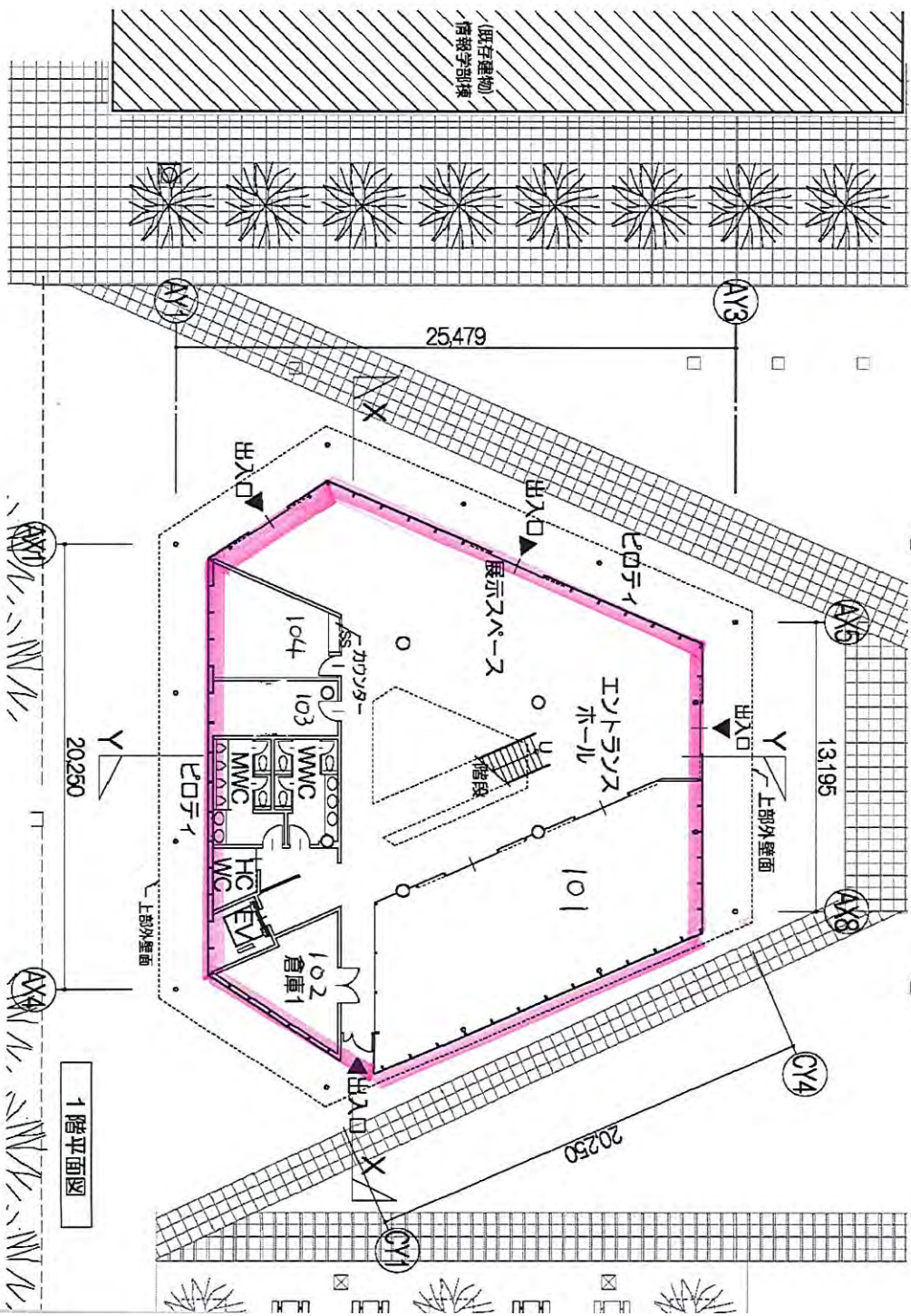
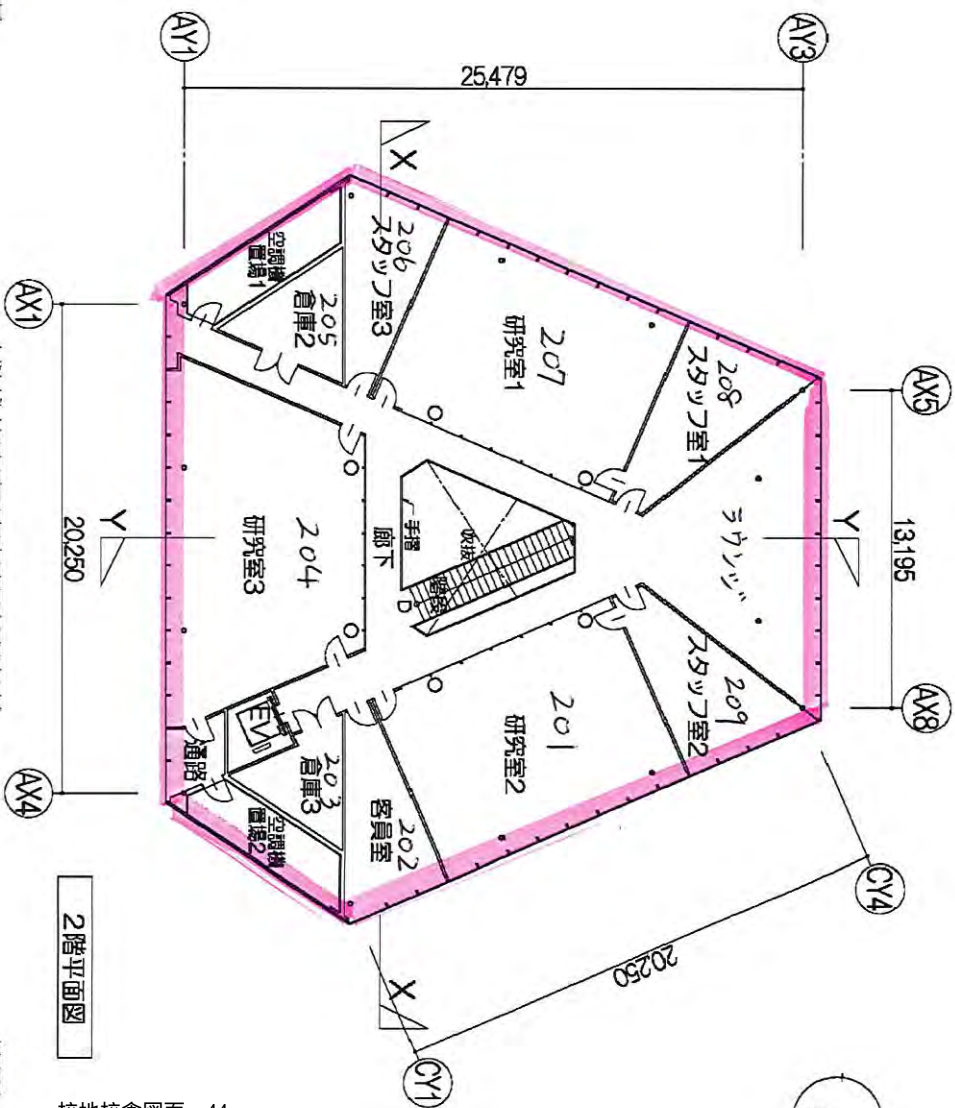
延床面積 1,038.38㎡

1階面積表		
番号	室名	面積㎡
101	研究室	130.00
102	倉庫	16.00
103	事務室	29.50
104	所長室	25.00
	エントランスホール	76.50
	屋内階段	15.00
	エレベータ	12.25
	トイレ	50.00
	廊下・その他	114.44
	小計	468.69

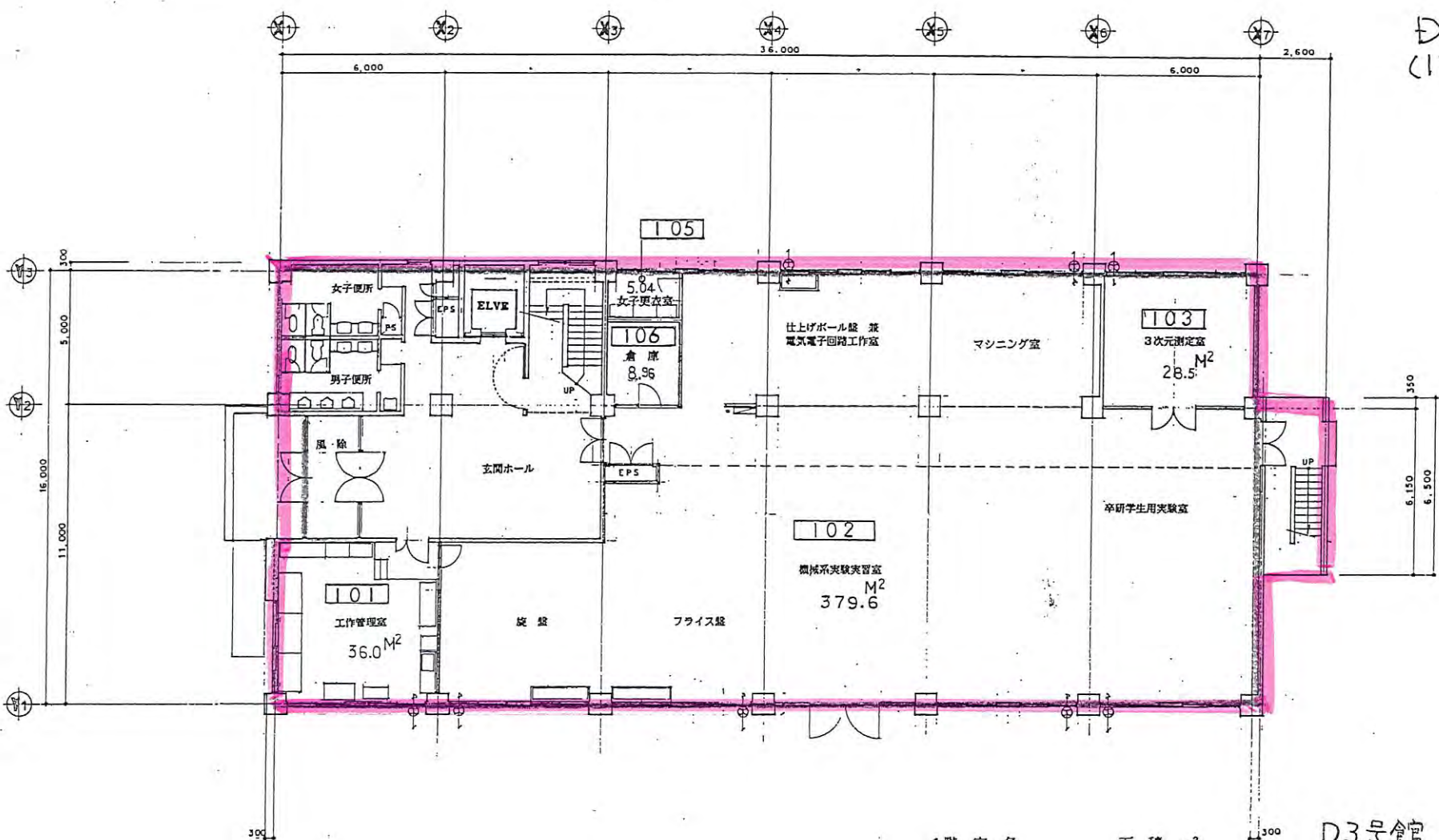
2階面積表		
番号	室名	面積㎡
201	研究室	100.00
202	客員室	20.00
203	倉庫	16.00
204	研究室	115.00
205	倉庫	16.00
206	スタッフ室	20.00
207	研究室	100.00
208	スタッフ室	25.00
209	スタッフ室	25.00
	ラウンジ	60.00
	屋内階段	15.00
	エレベータ	12.25
	廊下・その他	45.44
	小計	569.69

全学科・全専攻共用＜合計 1,038.38 ㎡＞

D2



D3
1F



D3
(1F)

階	面積
5 階	586.2 m ²
4 階	586.2 m ²
3 階	586.2 m ²
2 階	586.2 m ²
1 階	577.9 m ²
延床面積 2922.7 m ²	

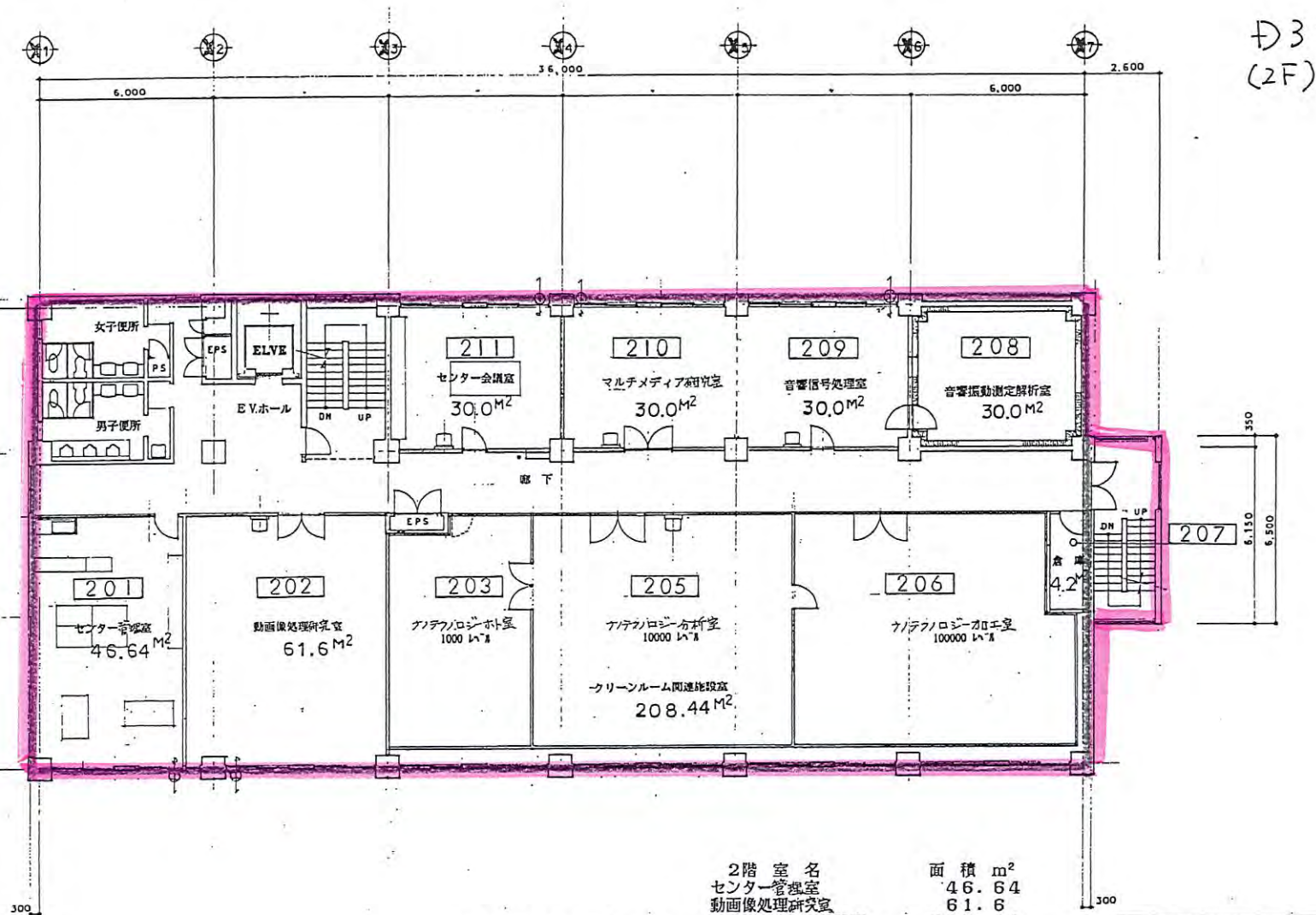
1 階平面図 8 = 100

1階 室名	面積 m ²
工作管理室	36.0
機械系実験研究室	379.6
3次元測定室	28.5
女子更衣室	5.04
倉庫	8.96
女子便所	12.88
男子便所	12.88
階段	16.153
エレベーター	6.0
玄関、ホール、PS、その他	71.887
合 計	577.90

D3号館

工事名称 神奈川工科大学 (仮称) 総合実験研究センター新築工事	
図面名称 1 階平面図	
日 付	縮 尺 8 = 100
承認 設計 制図 図面番号	
株式会社 一級建築士事務所 鹿 いらか 総合建築設計 登録番号 都知事登録 第18974号 監理建築士 鹿 嶋 大正製薬 63949号	

D3
2F



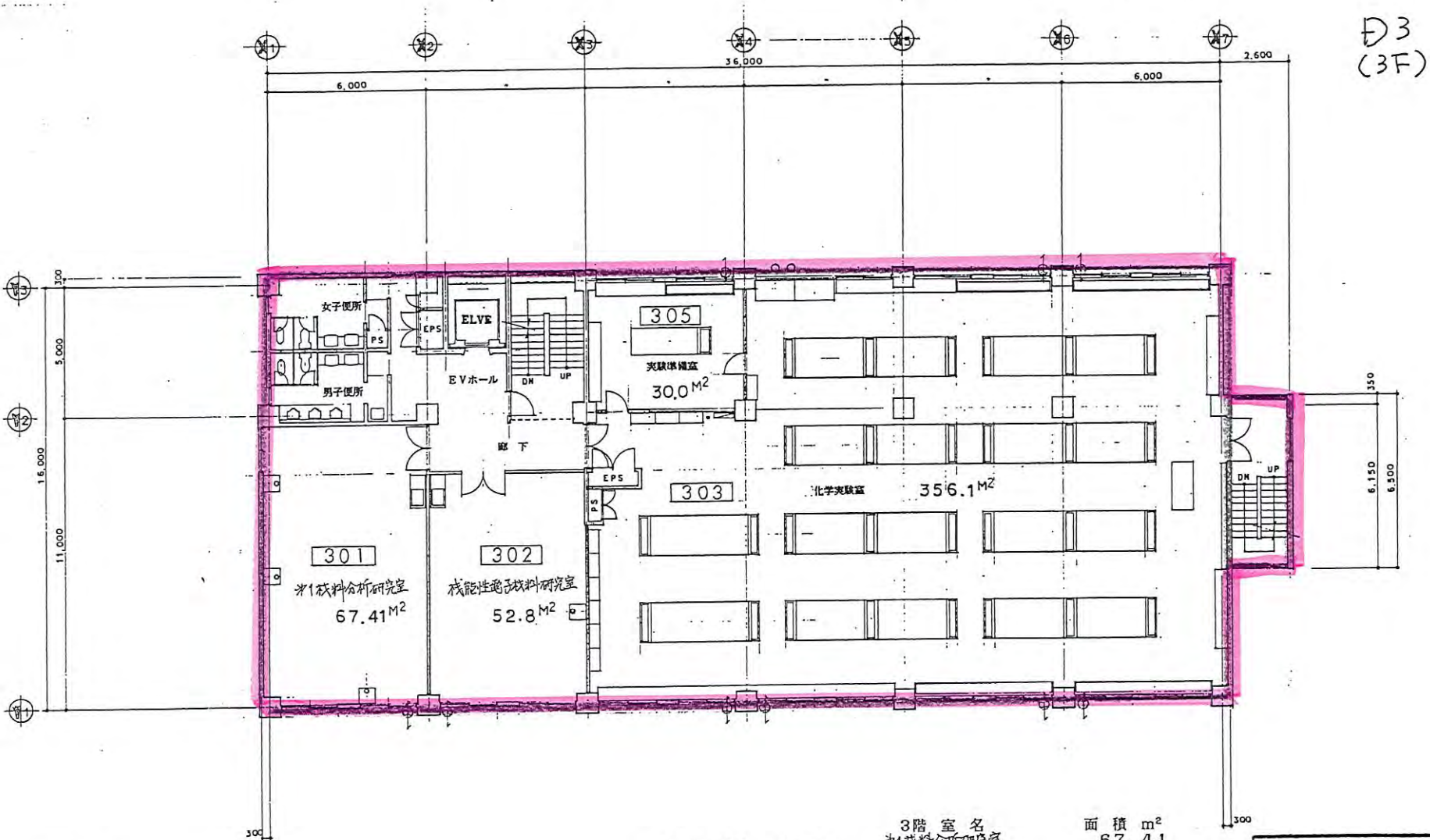
D3
(2F)

2 階平面図 1/200

2階 室名	面積 m²
センター会議室	46.64
動画処理研究室	61.6
クリーンルーム施設室	208.44
倉庫	4.2
センター会議室	30.0
マルチメディア研究室	30.0
音響信号処理室	30.0
音響振動測定解析室	30.0
女子便所	12.88
男子便所	12.88
階段	16.153
エレベーター	6.0
廊下、PS、その他	97.497
合計	586.29

工名 神奈川工科大学 (仮称)総合実験研究センター新築工事	
図名 2 階平面図	
日付	図尺 1/200
承認	設計 監理 図章番号
株式会社 一級建築士事務所	
いらか総合建築設計	
支店 東京 東京都中央区	支店 大阪 大阪府大阪市
支店 名古屋 名古屋市中区	支店 福岡 福岡市南区

D3
3F



D3
(3F)

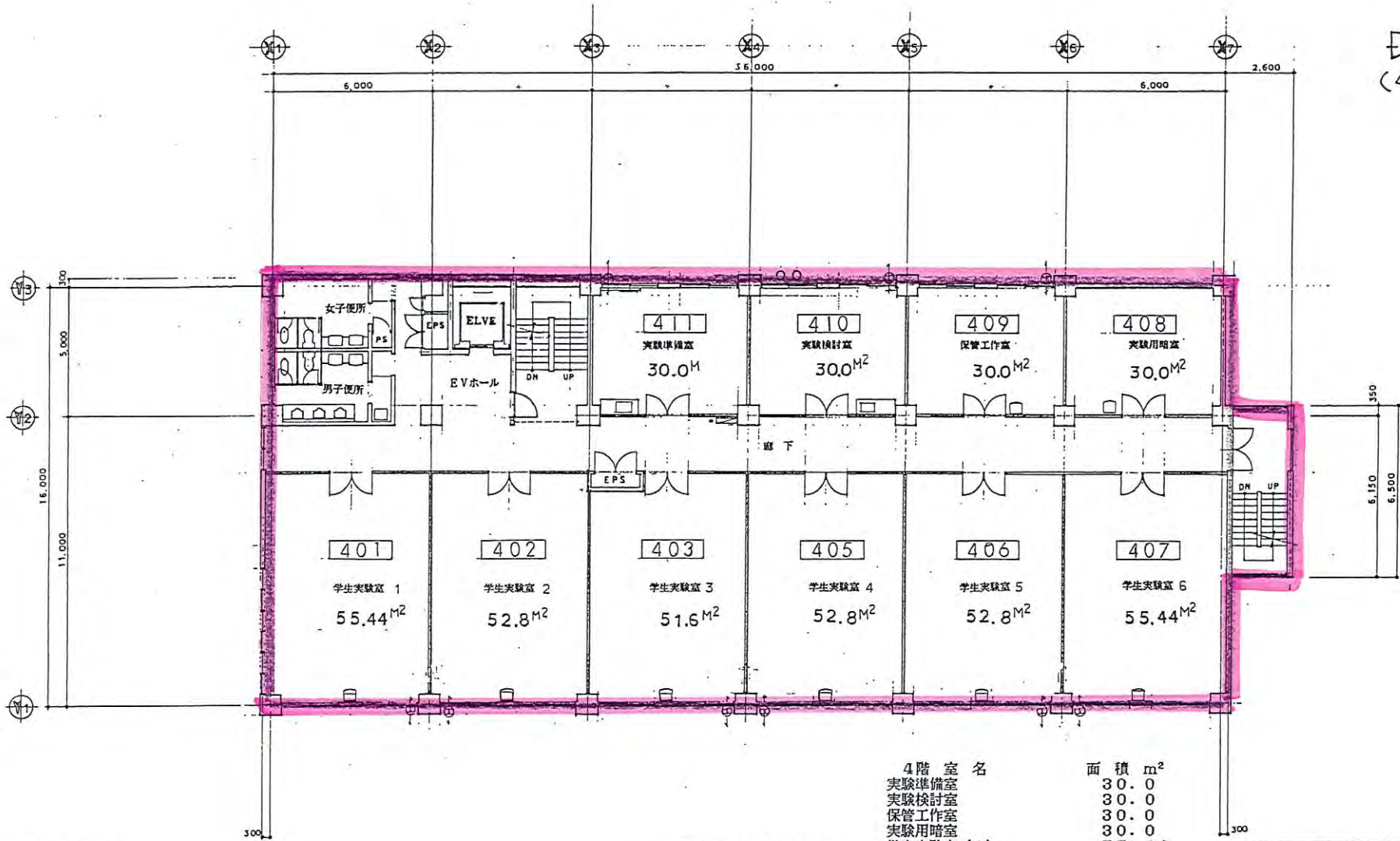
3 階平面図

1/200

3階 室名	面積 m²
※1材料分析研究室	67.41
高性能電子材料研究室	52.8
実験準備室	30.0
化学実験室	356.1
女子便所	12.88
男子便所	12.88
階段	16.153
エレベーター	6.0
廊下、PS、その他	32.067
合 計	586.29

工務部		神奈川工科大学 (仮称)総合実験研究センター新築工事	
3 階平面図			
日 付	縮 尺 1/200		
図 説	設計	監理	建築番号
株式会社 一級建築士事務所 いらか総合建築設計			
登録番号 昭和三十九年 第18974号 監理建築士 別 号 大田良雄 第63949号			

D3
4F



D3
(4F)

工事名 神奈川工科大学
(仮称)総合実験研究センター新築工事

図名 4階平面図

比例尺 1/200

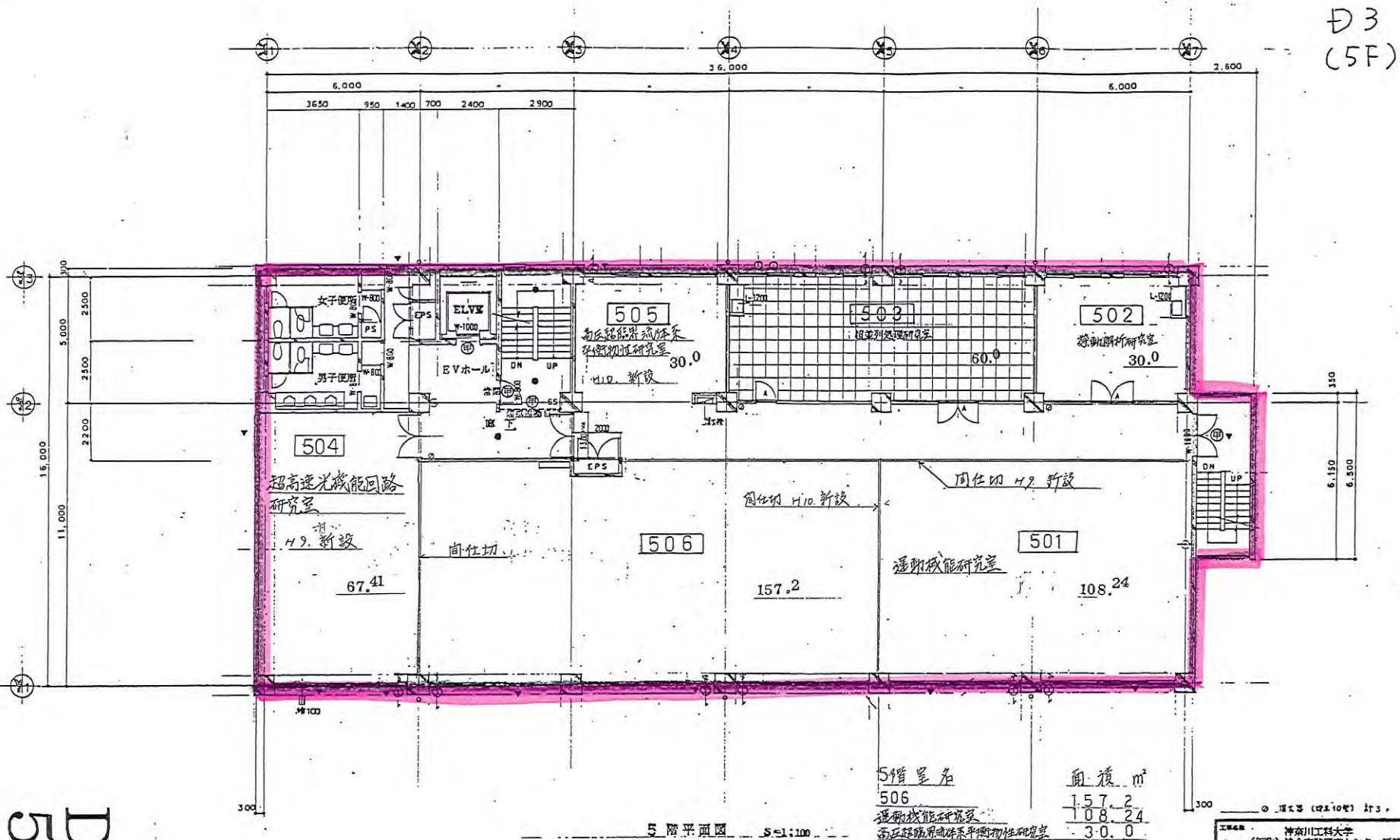
設計 監理 調査 図面番号

株式会社 一般建築士事務所

豊 いらか総合建築設計

登録番号 設計者番号 第18974号
監理者番号 第63949号

D3
5F



D3
(5F)

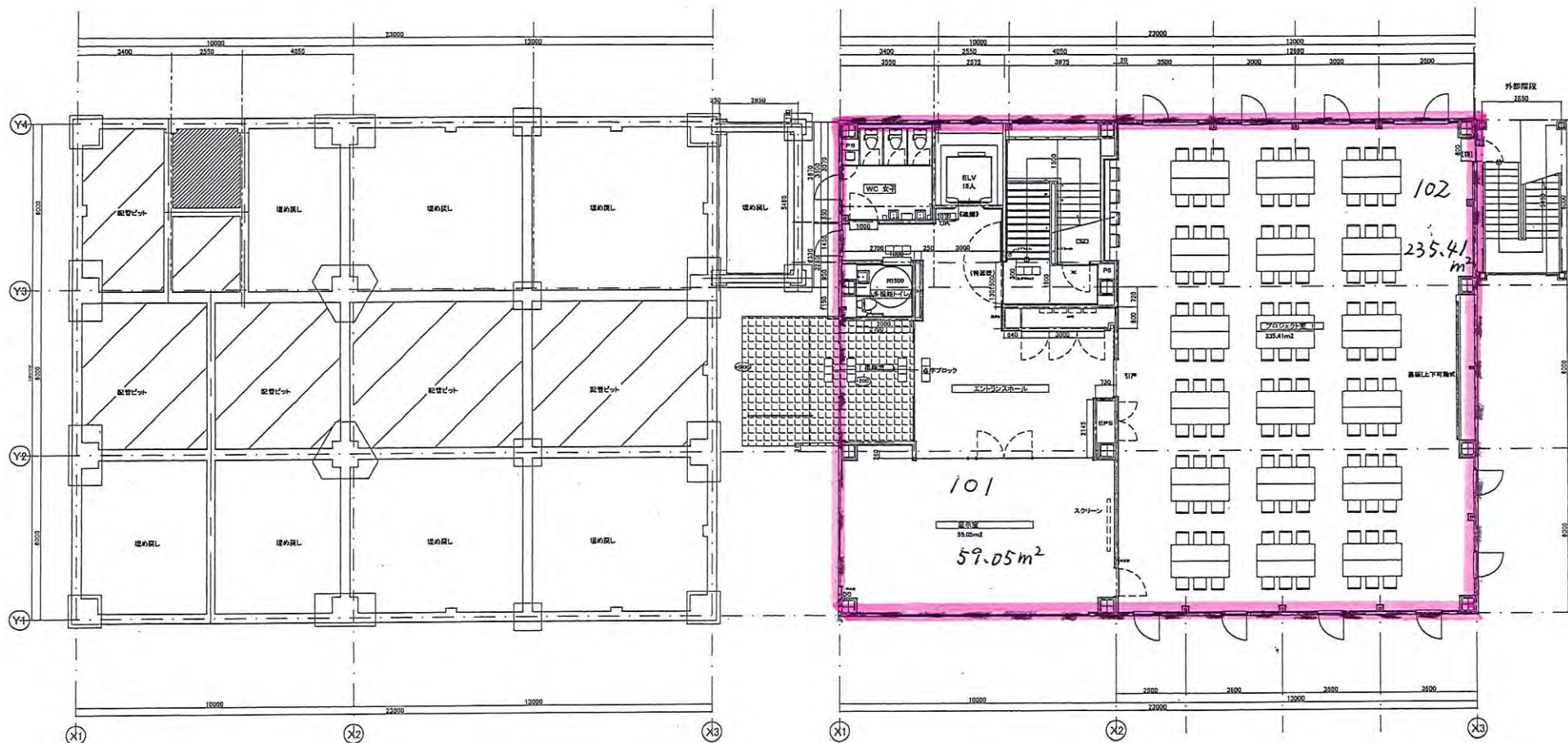
5 階平面図 5-1:100

5 階室名	面積 m ²
506	157.2
通称技能研究室	108.24
南正超並列処理系平衡特性研究室	30.0
超並列処理研究室	67.41
超並列処理研究室	60.0
通称技能研究室	30.0
女子便所	12.88
男子便所	12.88
階段	16.153
エレベーター	6.0
廊下、PS、その他	85.527
合 計	586.29

工事名称 神奈川工科大学 (仮称) 総合実験研究センター新築工事	
図面名 5 階平面図	
日 付 7.9.30	縮 尺 5=1:100
図 章 14	図 章 D 14
設計者 株式会社 一級建築士事務所	
監 理 株式会社 一級建築士事務所	

ロボット・プロジェクト棟 各室面積表

面積	
1階	
101 展示室	59.05 m ²
102 プロジェクト室 1	235.41 m ²
階段室(倉庫含む)	24.81 m ²
EV シャフト	7.82 m ²
女子トイレ	12.30 m ²
多機能トイレ	5.61 m ²
EPS (大)	3.24 m ²
EPS (小)	1.56 m ²
PS	1.14 m ²
エントランスホール	50.81 m ²
風除室	12.25 m ²
(414.00 m ²)	
2階	
201 工作機械室	62.72 m ²
202 プロジェクト室 2	235.41 m ²
階段室	24.81 m ²
EV シャフト	7.82 m ²
男子トイレ	22.01 m ²
ホール	56.59 m ²
EPS (大)	1.56 m ²
EPS (小)	1.14 m ²
PS	1.94 m ²
(414.00 m ²)	
3階	
301 技術支援室分室	30.54 m ²
302 プロジェクトイベント室	32.17 m ²
303 プロジェクト室 3	235.41 m ²
階段室	24.81 m ²
EV シャフト	7.28 m ²
男子トイレ	12.30 m ²
女子トイレ	5.61 m ²
ホール	63.18 m ²
EPS (大)	1.56 m ²
EPS (小)	1.14 m ²
414.00 m ²	
合計	1242.00 m ²

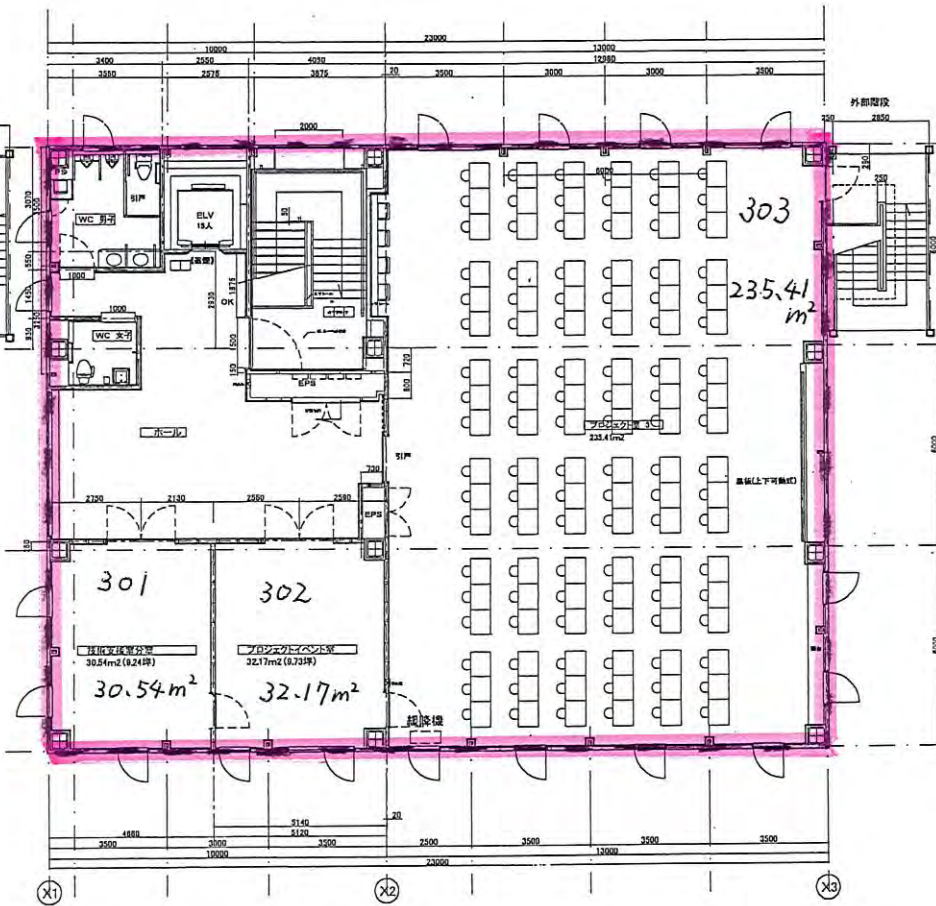
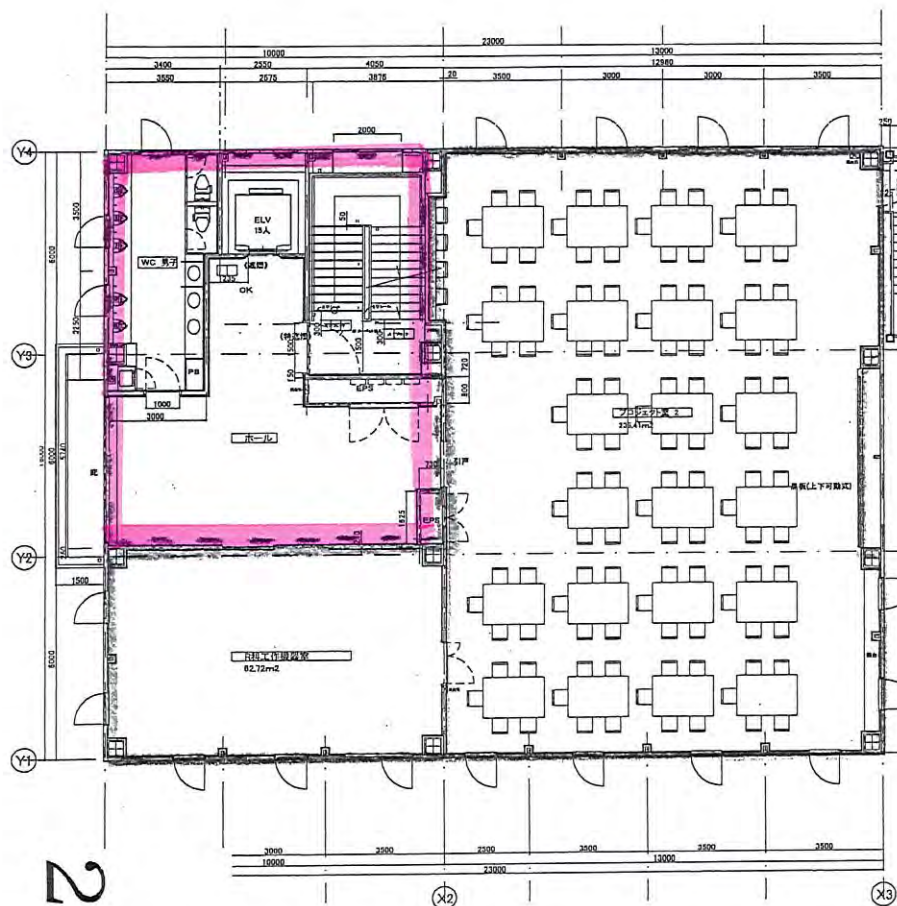


FE

1	階平面図	1/100
---	------	-------

E3 号館

E3
(2F)
(3F)



校地校舎図面-52

【図記】 校舎新築計画 ELV 18A 大規模改修工事
【注】 校舎新築計画 校舎新築計画 校舎新築計画

校舎新築計画 校舎新築計画 校舎新築計画

PROJECT

ロボット、プロジェクト棟新築工事

PROJECT

NO

DRAWING

NO

A-10

E3
2F・3F

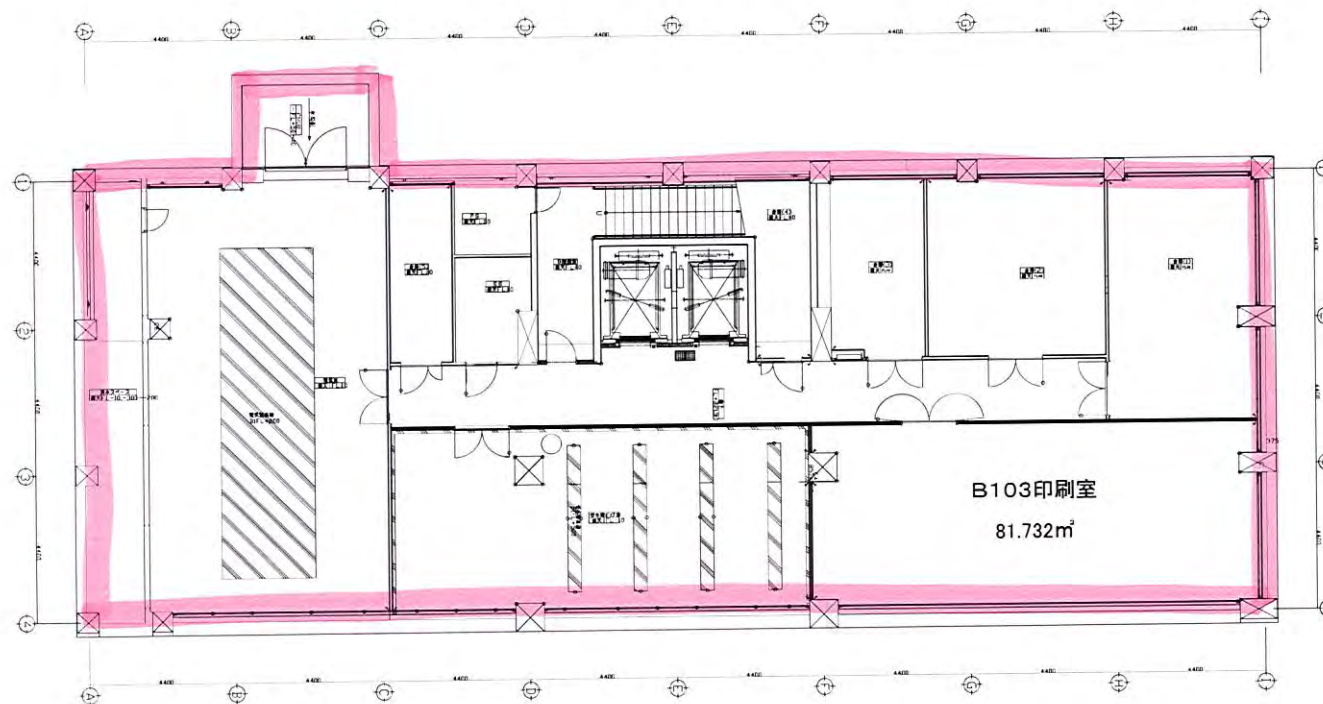
神奈川工科大学 K2号館 学生サービス棟 面積表

建物	階	部屋番号 用途(室名)	壁芯面積 (㎡)	全学科・全研究 科と共用面積	申請学科以 外の学科の 専用面積	法人専用 面積
K2	B1	廊下	58.608	58.608	0	0
		受水槽室・電気室・PS・ES	221.140	221.140	0	0
		B104 倉庫	37.659	37.659	0	0
		B105 倉庫	31.155	31.155	0	0
		B106 倉庫	19.414	19.414	0	0
		B107 倉庫	9.753	9.753	0	0
		B108 倉庫	11.328	11.328	0	0
		B103 印刷室	81.732	81.732	0	0
		B階段室	27.231	27.231	0	0
		B1合計	498.020	498.020	0	0
K2	1	エントランス・EVホール	715.782	715.782	0	0
		風除室1	24.502	24.502	0	0
		風除室2	24.502	24.502	0	0
		風除室3	9.247	9.247	0	0
		1117 財務部管財課	43.723	43.723	0	0
		1118教務課	221.205	221.205	0	0
		1119 学生課				
		1106 就職資料コーナー	166.297	166.297	0	0
		1107 キヤリア就職センター				
		1113 教員採用試験対策室	62.616	62.616	0	0
		1114 キヤリアアドバイザー室				
		1116 教務準備室	32.958	32.958	0	0
		1115 会議室	14.644	14.644	0	0
		1110 打合室1	16.270	16.270	0	0
		1109 打合室2	13.835	13.835	0	0
		1108 打合室3	13.959	13.959	0	0
		1101 医務室	44.130	44.130	0	0
		1104 メール室	13.307	13.307	0	0
		1103 運転手控室	11.796	11.796	0	0
		1105 倉庫	11.392	11.392	0	0
		1120 倉庫	9.040	9.040	0	0
		1102 ベントリ-	3.764	3.764	0	0
		男子トイレ	21.396	21.396	0	0
		女子トイレ	18.763	18.763	0	0
		多機能トイレ	6.327	6.327	0	0
		機械室・PS・ES	85.437	85.437	0	0
		A階段室	24.993	24.993	0	0
		B階段室	30.045	30.045	0	0
		1F合計	1,639.930	1,639.930	0	0
K2	2	1201 入試課	151.412	151.412	0	0
		1202 企画広報課				
		1204 事務システム課	69.810	69.810	0	0
		1226 経理課	100.311	100.311	0	0
		1224 総務課	45.884		0	45.884
		1225 庶務課	48.104	48.104	0	0
		1205 サーバー室	29.150	29.150	0	0
		1206 大会議室	101.378	101.378	0	0
		1228 会議室	42.104	42.104	0	0
		1229 打合室	10.243	10.243	0	0
		1230 打合室	10.243	10.243	0	0

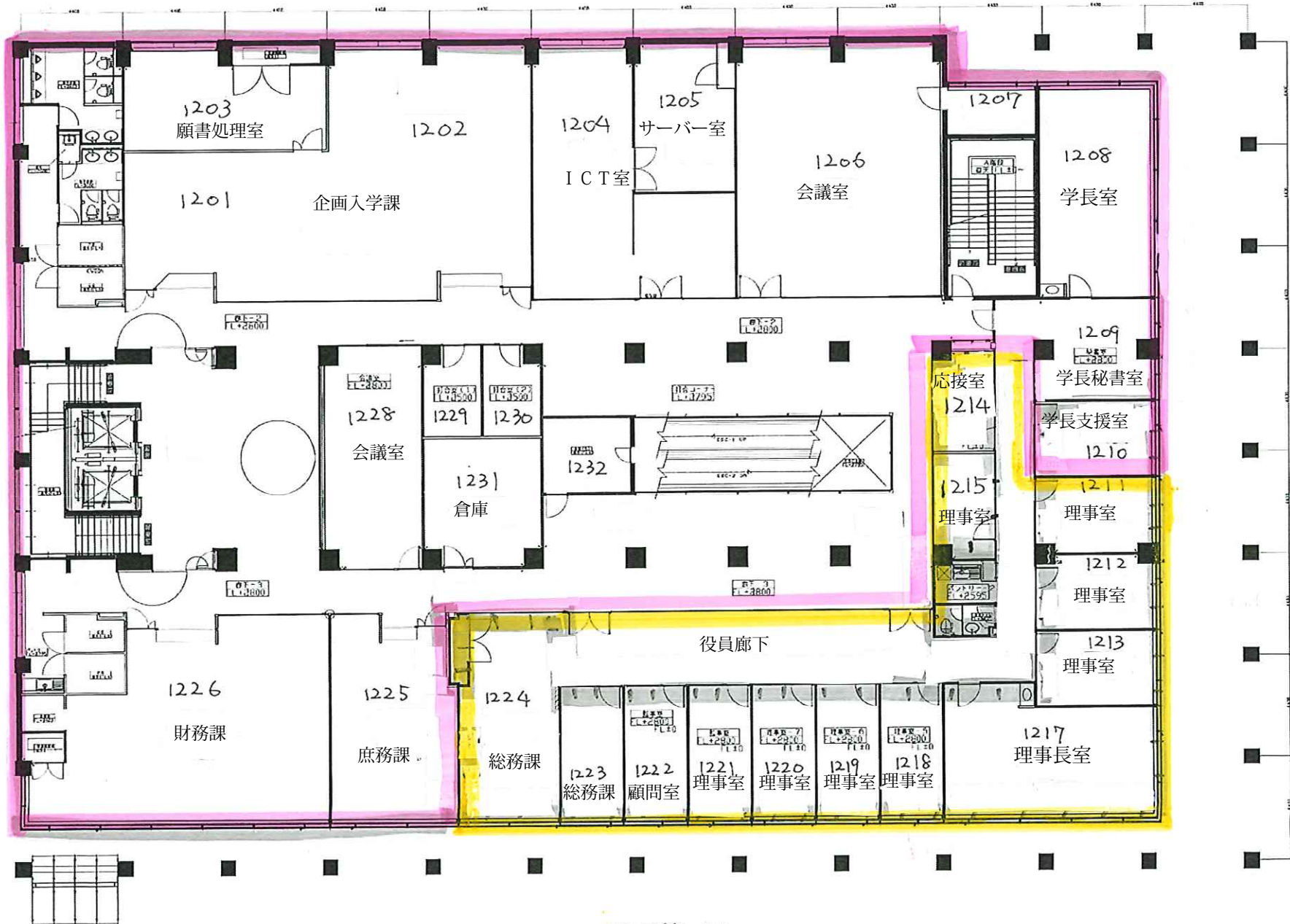
建物	階	部屋番号 用途(室名)	壁芯面積 (㎡)	情報システム 学科専用 (㎡)	全学科共用(㎡)	他学科専用 面積	法人専用 面積
K2	B1	廊下	58.608	0	58.608	0	0
		受水槽室・電気室・PS・ES	221.140	0	221.140	0	0
		B104 倉庫	37.659	0	37.659	0	0
		B105 倉庫	31.155	0	31.155	0	0
		B106 倉庫	19.414	0	19.414	0	0
		B107 倉庫	9.753	0	9.753	0	0
		B108 倉庫	11.328	0	11.328	0	0
		B103 印刷室	81.732	0	81.732	0	0
		B階段室	27.231	0	27.231	0	0
		B1合計	498.020	0	498.020	0	0
K2	1	エントランス・EVホール	715.782	0	715.782	0	0
		風除室1	24.502	0	24.502	0	0
		風除室2	24.502	0	24.502	0	0
		風除室3	9.247	0	9.247	0	0
		1117管財課	43.723	0	43.723	0	0
		1118教務課 1119 学生課	221.205	0	221.205	0	0
		1106 就職資料コーナー 1107 キャリア就職センター	166.297	0	166.297	0	0
		1113 1114 キャリアアドバイザース室	62.616	0	62.616	0	0
		1116 教務準備室	32.958	0	32.958	0	0
		1115 会議室	14.644	0	14.644	0	0
		1110 打合室1	16.270	0	16.270	0	0
		1109 打合室2	13.835	0	13.835	0	0
		1108 打合室3	13.959	0	13.959	0	0
		1101 医務室	44.130	0	44.130	0	0
		1104 メール室	13.307	0	13.307	0	0
		1103 運転手控室	11.796	0	11.796	0	0
		1105 倉庫	11.392	0	11.392	0	0
		1120 倉庫	9.040	0	9.040	0	0
		1102 パントリー	3.764	0	3.764	0	0
		男子トイレ	21.396	0	21.396	0	0
		女子トイレ	18.763	0	18.763	0	0
		多機能トイレ	6.327	0	6.327	0	0
		機械室・PS・ES	85.437	0	85.437	0	0
		A階段室	24.993	0	24.993	0	0
		B階段室	30.045	0	30.045	0	0
		1F合計	1,639.930	0	1,639.930	0	0
K2	2	1201・1202 企画入学課	151.412	0	151.412	0	0
		1204 ICT室	69.810	0	69.810	0	0
		1226 財務課	100.311	0	100.311	0	0
		1224 総務課	45.884	0		0	45.884
		1225 庶務課	48.104	0	48.104	0	0
		1205 サーバー室	29.150	0	29.150	0	0
		1206 大会議室	101.378	0	101.378	0	0
		1228 会議室	42.104	0	42.104	0	0
		1229 打合室	10.243	0	10.243	0	0
		1230 打合室	10.243	0	10.243	0	0

建物	階	部屋番号 用途(室名)	壁芯面積 (㎡)	情報システム 学科専用 (㎡)	全学科共用(㎡)	他学科専用 面積	法人専用 面積
		1214 応接室	11.067	0	11.067	0	0
		1215 理事室	12.509	0	12.509	0	0
		1208 学長室	48.292	0	48.292	0	0
		1217 理事長室	50.572	0	0	0	50.572
		1210 学長支援室	17.554	0	0	0	17.554
		1211 理事室	17.554	0	0	0	17.554
		1212 理事室	17.554	0	0	0	17.554
		1213 理事室	17.554	0	0	0	17.554
		1218 理事室	16.539	0	0	0	16.539
		1219 理事室	16.539	0	0	0	16.539
		1220 理事室	16.539	0	0	0	16.539
		1221 理事室	16.539	0	0	0	16.539
		1223 中部奨学会	16.539	0	0	0	16.539
		1222 監事室	16.539	0	0	0	16.539
		1209 学長秘書室	23.489	0	23.489	0	0
		1203 願書処理室	36.831	0	36.831	0	0
		EVホール・廊下	352.141	0	352.141	0	0
		役員用廊下	69.750	0		0	69.750
		1227 パントリー	6.986	0	6.986	0	0
		1216 パントリー・役員用トイレ	8.119	0		0	8.119
		金庫	3.341	0	3.341	0	0
		1231 倉庫	28.639	0	28.639	0	0
		1207 倉庫	9.834	0	9.834	0	0
		1232 倉庫	13.436	0	13.436	0	0
		男子トイレ	16.327	0	16.327	0	0
		女子トイレ	8.938	0	8.938	0	0
		機械室・ES・PS	108.022	0	108.022	0	0
		A階段室	27.613	0	27.613	0	0
		B階段室	30.045	0	30.045	0	0
		2F合計	1,644.040	0	1,300.265	0	343.775
K2	3	1301 講義室	94.838	0	94.838	0	0
		1302 講義室	94.945	0	94.945	0	0
		1303 講義室	94.945	0	94.945	0	0
		1304 教職教育センター室	95.268	0	95.268	0	0
		1308 講義室	94.945	0	94.945	0	0
		1309 非常勤講師室	149.676	0	149.676	0	0
		1307 講義室	140.176	0	140.176	0	0
		1305 学生サポート室	99.857	0	99.857	0	0
		自習ロビー	91.945	0	91.945	0	0
		1306 学生相談室	73.109	0	73.109	0	0
		1306-1 打合室	10.245	0	10.245	0	0
		1306-2 打合室	7.770	0	7.770	0	0
		1306-3 打合室	5.504	0	5.504	0	0
		1306-4 打合室	6.215	0	6.215	0	0
		EVホール・廊下	550.900	0	550.900	0	0
		1310 倉庫	14.020	0	14.020	0	0
		1306-5 打合室	6.215	0	6.215	0	0
		男子トイレ	22.388	0	22.388	0	0
		女子トイレ	22.388	0	22.388	0	0

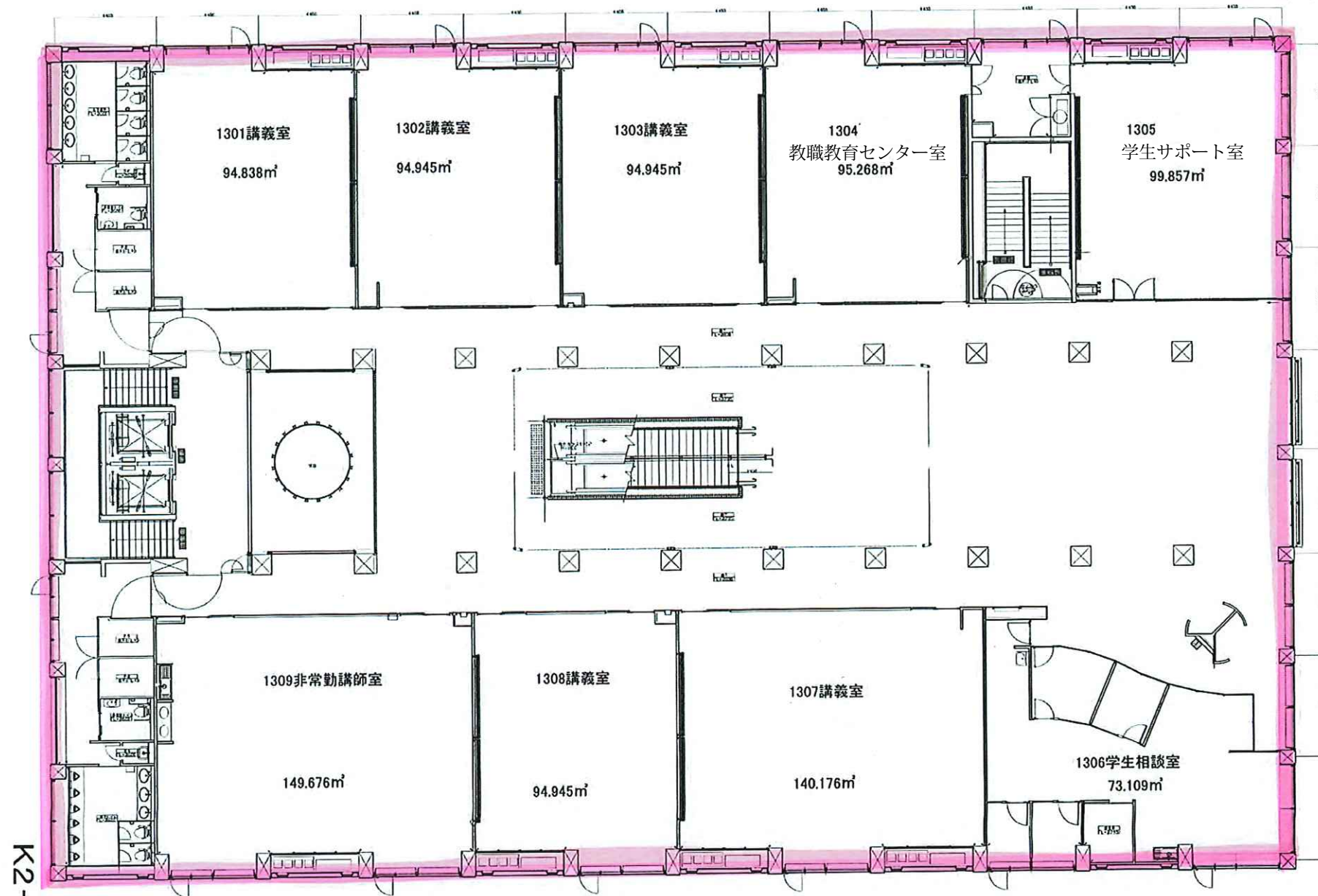
建物	階	部屋番号 用途(室名)	壁芯面積 (㎡)	情報システム 学科専用 (㎡)	全学科共用(㎡)	他学科専用 面積	法人専用 面積
		多機能トイレ	4.638	0	4.638	0	0
		多機能トイレ	4.638	0	4.638	0	0
		機械室・ES・PS	150.356	0	150.356	0	0
		A階段室	30.624	0	30.624	0	0
		B階段室	30.045	0	30.045	0	0
		3F合計	1,895.650	0	1,895.650	0	0
K2	4	1401 講義室	94.838	0	94.838	0	0
		1402 講義室	94.945	0	94.945	0	0
		1403 講義室	94.945	0	94.945	0	0
		1404 講義室	95.268	0	95.268	0	0
		1409 講義室	94.945	0	94.945	0	0
		1408 講義室	94.945	0	94.945	0	0
		1407 講義室	140.176	0	140.176	0	0
		1406 講義室	112.124	0	112.124	0	0
		1410 ICT室	54.719	0	54.719	0	0
		1405 講義室	99.857	0	99.857	0	0
		自習ロビー	91.945	0	91.945	0	0
		EVホール・廊下	512.310	0	512.310	0	0
		1411 倉庫	15.075	0	15.075	0	0
		男子トイレ	22.388	0	22.388	0	0
		女子トイレ	22.388	0	22.388	0	0
		多機能トイレ	4.638	0	4.638	0	0
		多機能トイレ	4.638	0	4.638	0	0
		機械室・ES・PS	114.264	0	114.264	0	0
		A階段室	30.624	0	30.624	0	0
		B階段室	30.045	0	30.045	0	0
		C階段	19.958	0	19.958	0	0
K2	塔屋	B階段室	14.666	0	14.666	0	0
		廊下	8.379	0	8.379	0	0
		4F・塔屋合計	1,868.080	0	1,868.080	0	0
		総合計	7,545.720	0	7,271.695	0	274.025



K2-B1F

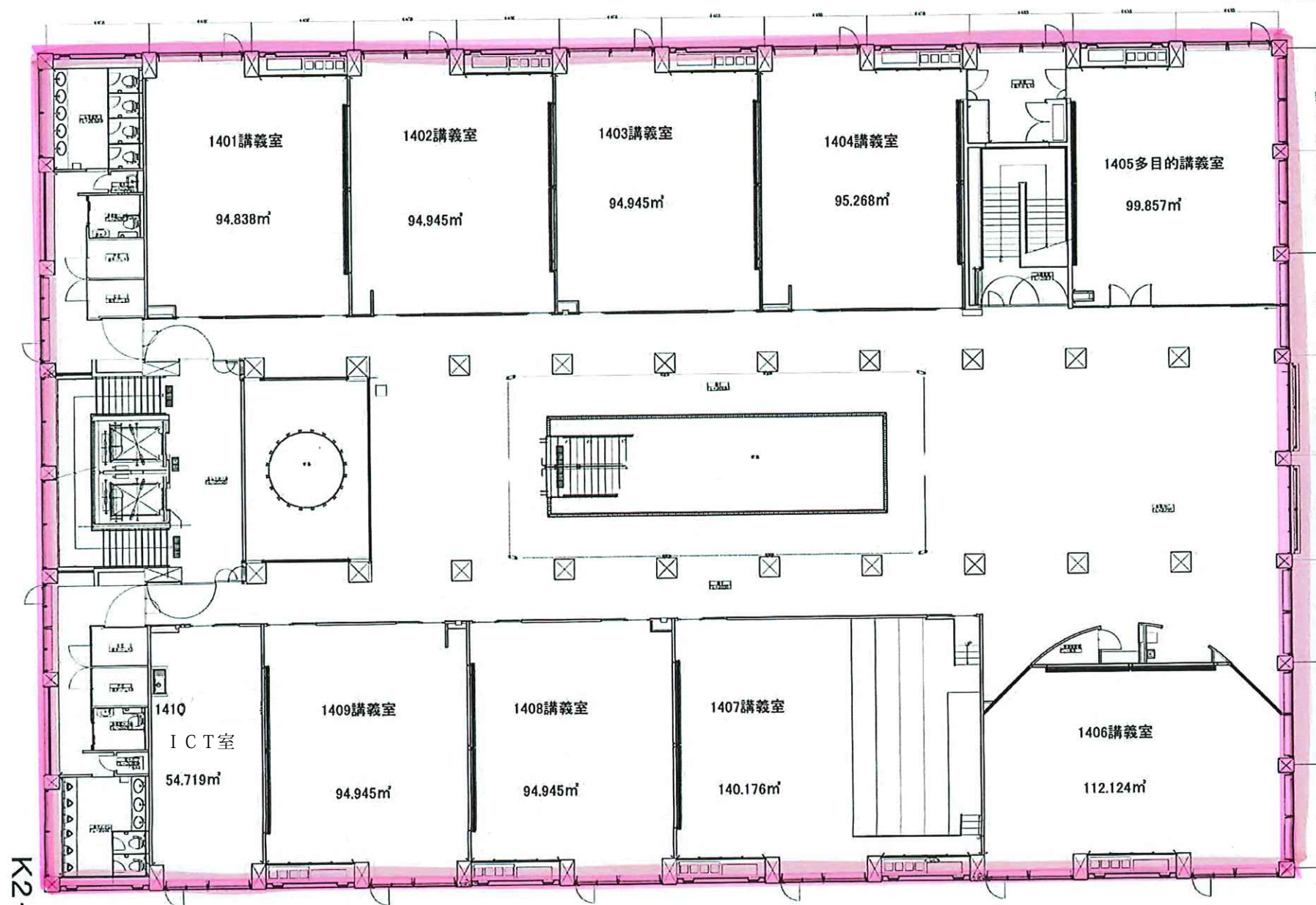


K2号館 2F



K2-3F

K2号館 3F



K2-4F

K2号館 4F

神奈川工科大学 K3号館 講義棟 面積表

建物	階	部屋番号 用途(室名)	壁芯面積 (㎡)	全学部・全学科 と共用面積	申請学科以外 の学科の専用 面積	法人専用 面積
K3	B1	3001講義室	109.130	109.130	0	0
		3002電気室	141.500	141.500	0	0
		3003ロッカー室	262.990	262.990	0	0
		3004備蓄倉庫	239.050	239.050	0	0
		3005受水槽室	33.020	33.020	0	0
		3006釜場室	4.780	4.780	0	0
		3007EPS	21.390	21.390	0	0
		ホール	44.010	44.010	0	0
		階段	20.310	20.310	0	0
		EV	16.480	16.480	0	0
		PS	2.320	2.320	0	0
		B1合計	894.980	894.980	0	0
K3	1	ロビー	292.880	292.880	0	0
		EV・ESCホール	115.260	115.260	0	0
		風除室1	15.090	15.090	0	0
		風除室2	10.350	10.350	0	0
		風除室3	8.380	8.380	0	0
		3101講義室	147.370	147.370	0	0
		3102講義室	251.550	251.550	0	0
		3103野菜プラント室	111.170	111.170	0	0
		3104更衣室	18.870	18.870	0	0
		3105下処理室	23.270	23.270	0	0
		3106管理室	11.700	11.700	0	0
		3107機械室	9.090	9.090	0	0
		3108多目的講義室	142.660	142.660	0	0
		3109ゼミ室	32.570	32.570	0	0
		男子トイレ	39.410	39.410	0	0
		女子トイレ	42.220	42.220	0	0
		多機能トイレ男子	5.290	5.290	0	0
		多機能トイレ女子	5.290	5.290	0	0
		階段①	45.500	45.500	0	0
		階段②	17.630	17.630	0	0
		EV	16.180	16.180	0	0
		3115避難ハッチ室	3.230	3.230	0	0
		3114DS・PS	24.160	24.160	0	0
		EPS	23.140	23.140	0	0
		PS(101-109)	37.520	37.520	0	0
		1F合計	1,449.780	1,449.780	0	0
K3	2	食堂	973.620	973.620	0	0
		EV・ESCホール	99.940	99.940	0	0
		風除室	11.120	11.120	0	0
		3201多目的講義室	122.710	122.710	0	0
		厨房	378.400	378.400	0	0
		トイレ前廊下	19.270	19.270	0	0
		男子トイレ	39.400	39.400	0	0
		女子トイレ	33.670	33.670	0	0
		多機能トイレ男	5.270	5.270	0	0

神奈川工科大学 K3号館 講義棟 面積表

建物	階	部屋番号 用途(室名)	壁芯面積 (㎡)	全学部・全学科 と共用面積	申請学科以外 の学科の専用 面積	法人専用 面積
		多機能トイレ女	5.270	5.270	0	0
		階段①	46.350	46.350	0	0
		階段②	52.520	52.520	0	0
		EV	16.180	16.180	0	0
		EPS	23.660	23.660	0	0
		PS(201-207)	22.910	22.910	0	0
		DS・SK	8.960	8.960	0	0
		2F合計	1,859.250	1,859.250	0	0
K3	3	3301講義室	106.790	106.790	0	0
		3302講義室	103.260	103.260	0	0
		3303講義室	104.110	104.110	0	0
		3304講義室	136.840	136.840	0	0
		3305講義室	103.260	103.260	0	0
		3306講義室	135.290	135.290	0	0
		3307講義室	137.690	137.690	0	0
		3308講義室	107.430	107.430	0	0
		3309ゼミ室	21.190	21.190	0	0
		自習室	39.480	39.480	0	0
		3310教員研究室	28.810	28.810	0	0
		3311教員研究室	27.150	27.150	0	0
		3312教員研究室	29.910	29.910	0	0
		3313教員研究室	28.020	28.020	0	0
		3314教員研究室	30.340	30.340	0	0
		3315教員研究室	29.040	29.040	0	0
		3316教員研究室	28.710	28.710	0	0
		3317教員研究室	28.890	28.890	0	0
		3318教員研究室	28.870	28.870	0	0
		3319教員研究室	28.270	28.270	0	0
		3320卒研指導室	16.850	16.850	0	0
		教員室廊下①	22.240	22.240	0	0
		教員室廊下②	19.160	19.160	0	0
		3321倉庫	37.340	37.340	0	0
		男子トイレ	38.290	38.290	0	0
		女子トイレ	26.160	26.160	0	0
		多機能トイレ男	5.040	5.040	0	0
		多機能トイレ女	5.040	5.040	0	0
		階段①	46.830	46.830	0	0
		階段②	34.370	34.370	0	0
		EV・ESCホール	104.620	104.620	0	0
		EV	16.250	16.250	0	0
		廊下	247.870	247.870	0	0
		廊下	23.270	23.270	0	0
		EPS(301-302)	23.600	23.600	0	0
		PS(301-308)	22.080	22.080	0	0
		DS・SK	24.430	24.430	0	0
		3F合計	1,996.790	1,996.790	0	0
K3	4	3401講義室	107.710	107.710	0	0
		3402講義室	136.770	136.770	0	0

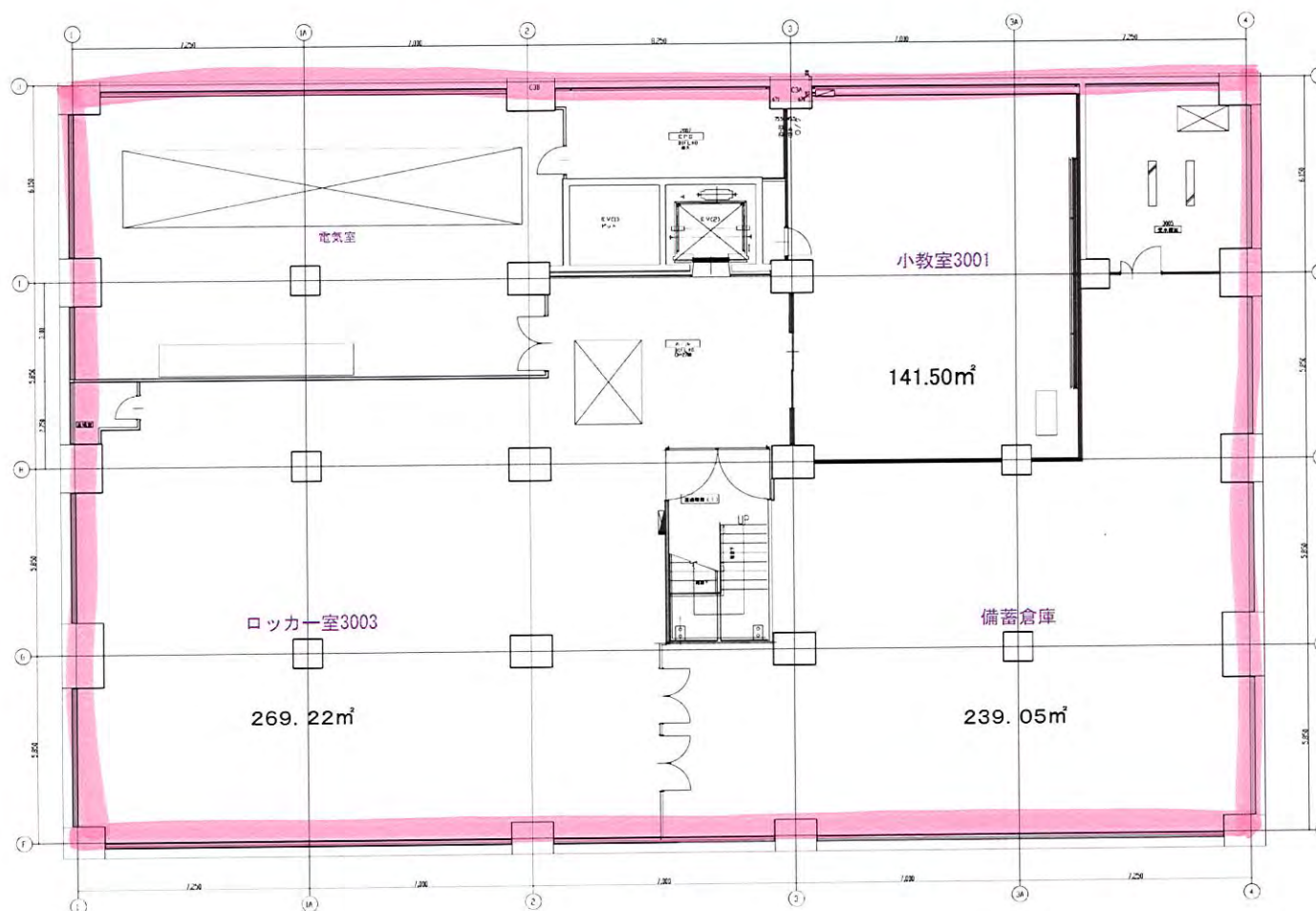
神奈川工科大学 K3号館 講義棟 面積表

建物	階	部屋番号 用途(室名)	壁芯面積 (㎡)	全学部・全学科 と共用面積	申請学科以外 の学科の専用 面積	法人専用 面積
		3403講義室	172.110	172.110	0	0
		3404講義室	222.160	222.160	0	0
		3405講義室	222.160	222.160	0	0
		3406講義室	170.700	170.700	0	0
		3407講義室	136.710	136.710	0	0
		3408講義室	107.120	107.120	0	0
		3409倉庫	25.880	25.880	0	0
		収納庫(401,402)	12.250	12.250	0	0
		男子トイレ	38.210	38.210	0	0
		女子トイレ	26.160	26.160	0	0
		多機能トイレ男	5.040	5.040	0	0
		多機能トイレ女	5.040	5.040	0	0
		階段①	46.830	46.830	0	0
		階段②	39.420	39.420	0	0
		EV・ESCホール	104.620	104.620	0	0
		EV	16.250	16.250	0	0
		廊下	201.530	201.530	0	0
		廊下	146.960	146.960	0	0
		EPS(401-402)	23.850	23.850	0	0
		PS(401-408)	20.450	20.450	0	0
		DS・SK	8.860	8.860	0	0
		4F合計	1,996.790	1,996.790	0	0
K3	5	3501講義室	142.390	142.390	0	0
		3502講義室	137.690	137.690	0	0
		3503講義室	136.510	136.510	0	0
		3504講義室	222.160	222.160	0	0
		3505講義室	174.500	174.500	0	0
		3506講義室(講堂)	280.740	280.740	0	0
		3506前室①	5.310	5.310	0	0
		3506前室②(段下)	2.440	2.440	0	0
		3507 IR室	46.670	46.67	0	0
		3508ゼミ室	38.810	38.810	0	0
		3509講師控室	17.910	17.910	0	0
		3510収納庫	7.280	7.280	0	0
		自習コーナー	81.310	81.310	0	0
		ロビー	40.770	40.770	0	0
		男子トイレ	41.780	41.780	0	0
		女子トイレ	49.080	49.080	0	0
		多機能トイレ男	5.270	5.270	0	0
		多機能トイレ女	5.240	5.240	0	0
		階段①	46.830	46.830	0	0
		階段②	31.180	31.180	0	0
		EV・ESCホール	104.620	104.620	0	0
		EV	16.250	16.250	0	0
		廊下	195.150	195.150	0	0
		廊下	51.950	51.950	0	0
		倉庫(座席下)	40.670	40.670	0	0
		EPS(501-503)	33.380	33.380	0	0
		PS(501-506)	19.560	19.560	0	0
		DS・SK	8.420	8.420	0	0
		段下	7.730	7.730	0	0

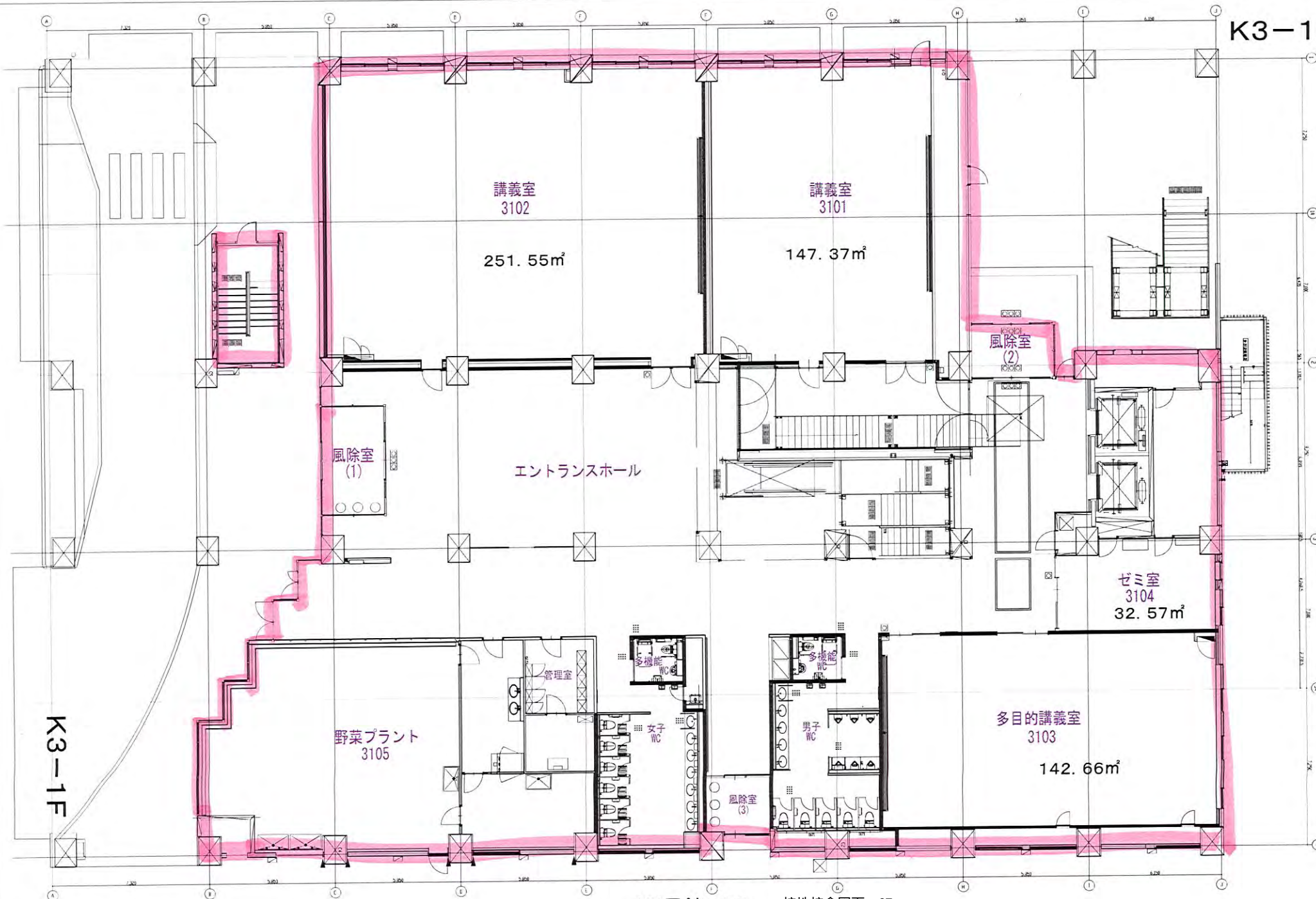
神奈川工科大学 K3号館 講義棟 面積表

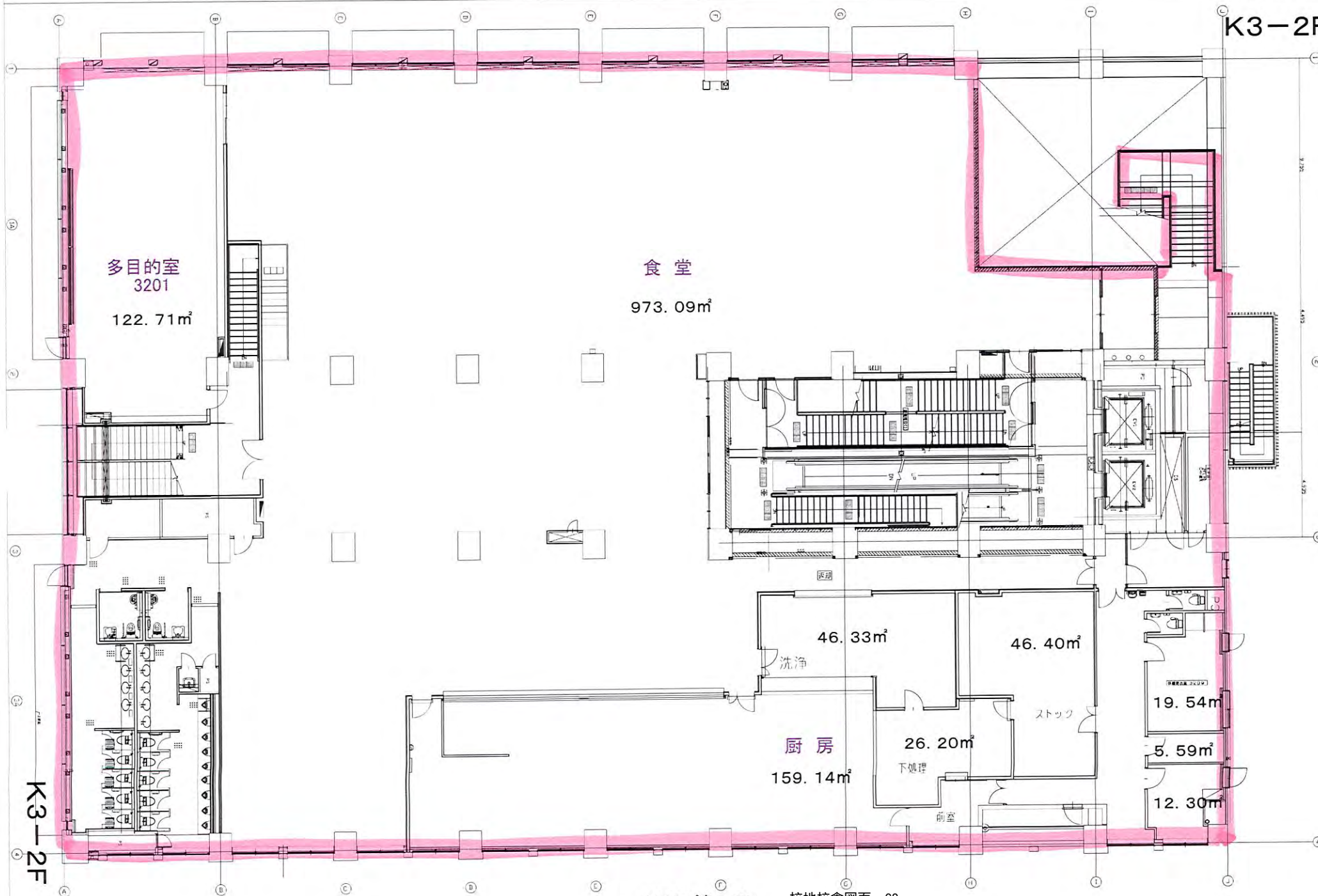
建物	階	部屋番号 用途(室名)	壁芯面積 (㎡)	全学部・全学科 と共用面積	申請学科以外 の学科の専用 面積	法人専用 面積
		リターンチャンバー(501-502)	5.190	5.190	0	0
		5F合計	1,996.790	1,996.790	0	0.000
K3	6	3601講義室	106.790	106.790	0	0
		3602講義室	103.260	103.260	0	0
		3603講義室	103.260	103.260	0	0
		3604講義室	103.260	103.260	0	0
		3605講義室	222.030	222.030	0	0
		3606講義室	174.500	174.500	0	0
		3506講義室(講堂)2階部分	191.450	191.450	0	0
		3506講義室(講堂)2階前室	5.760	5.760	0	0
		3506 2階ハルコー(入口、前室)	27.780	27.780	0	0
		3607倉庫	59.040	59.040	0	0
		3609収納庫	7.280	7.280	0	0
		男子トイレ	43.460	43.460	0	0
		女子トイレ	39.410	39.410	0	0
		多機能トイレ男	5.270	5.270	0	0
		多機能トイレ女	5.270	5.270	0	0
		階段①	46.830	46.830	0	0
		階段②	31.180	31.180	0	0
		EVホール	75.490	75.490	0	0
		EV	16.250	16.250	0	0
		ESCホール	19.490	19.490	0	0
		廊下	183.270	183.270	0	0
		廊下	55.110	55.110	0	0
		3608機械室	76.090	76.090	0	0
		EPS(601-602)	23.980	23.980	0	0
		PS(601-606)	19.700	19.700	0	0
		DS・SK	11.620	11.620	0	0
		6F合計	1,756.830	1,756.830	0	0
K3	7	EVホール	22.000	22.000	0	0
		EV	8.000	8.000	0	0
		機械室	64.760	64.760	0	0
		7F合計	94.760	94.760	0	0
		総合計	12,045.970	12,045.970	0	0.000
				全学部・全学科 と共用面積	申請学科以外 の学科の専用 面積	法人専用 面積

K3-B1F



K3-B1F

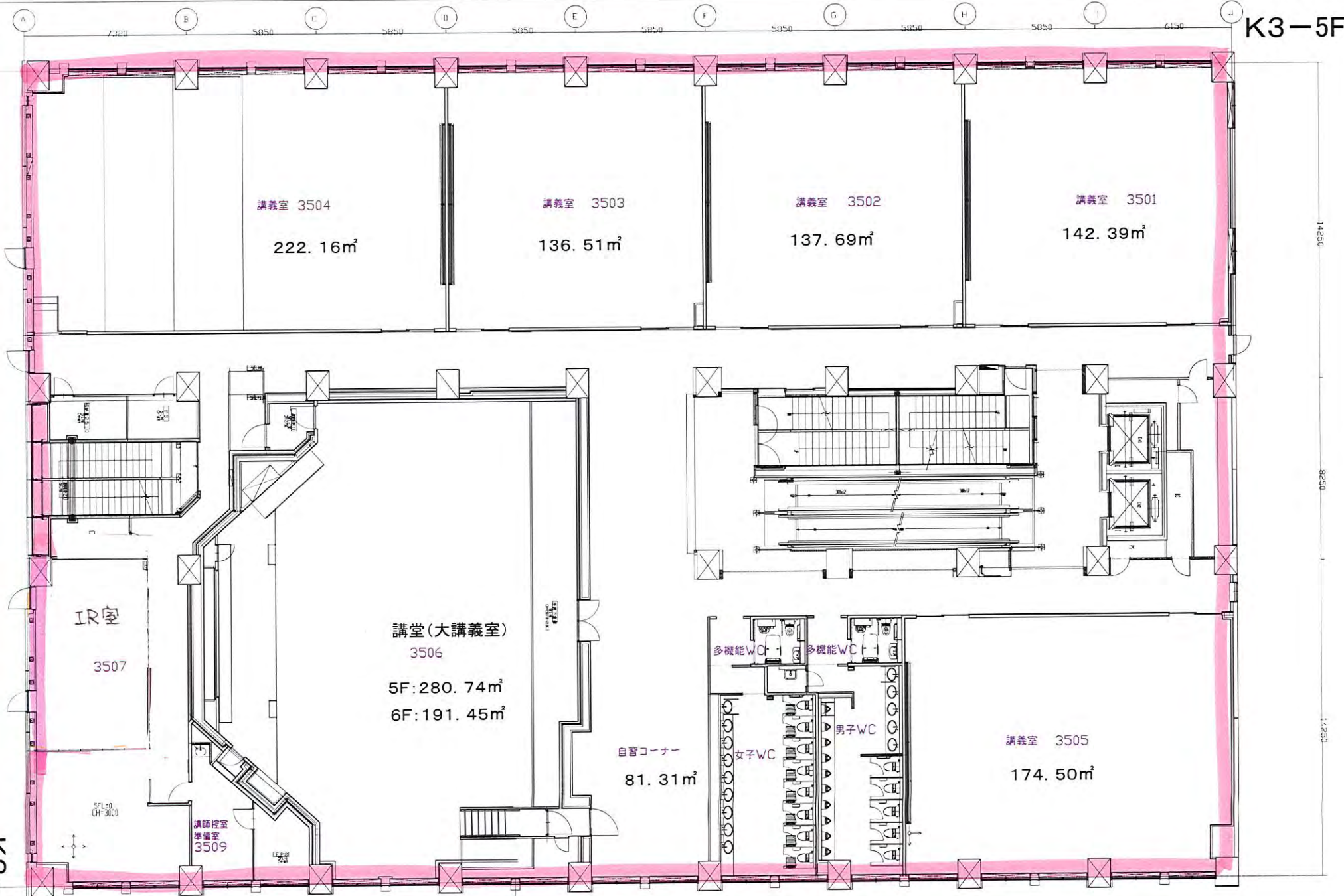


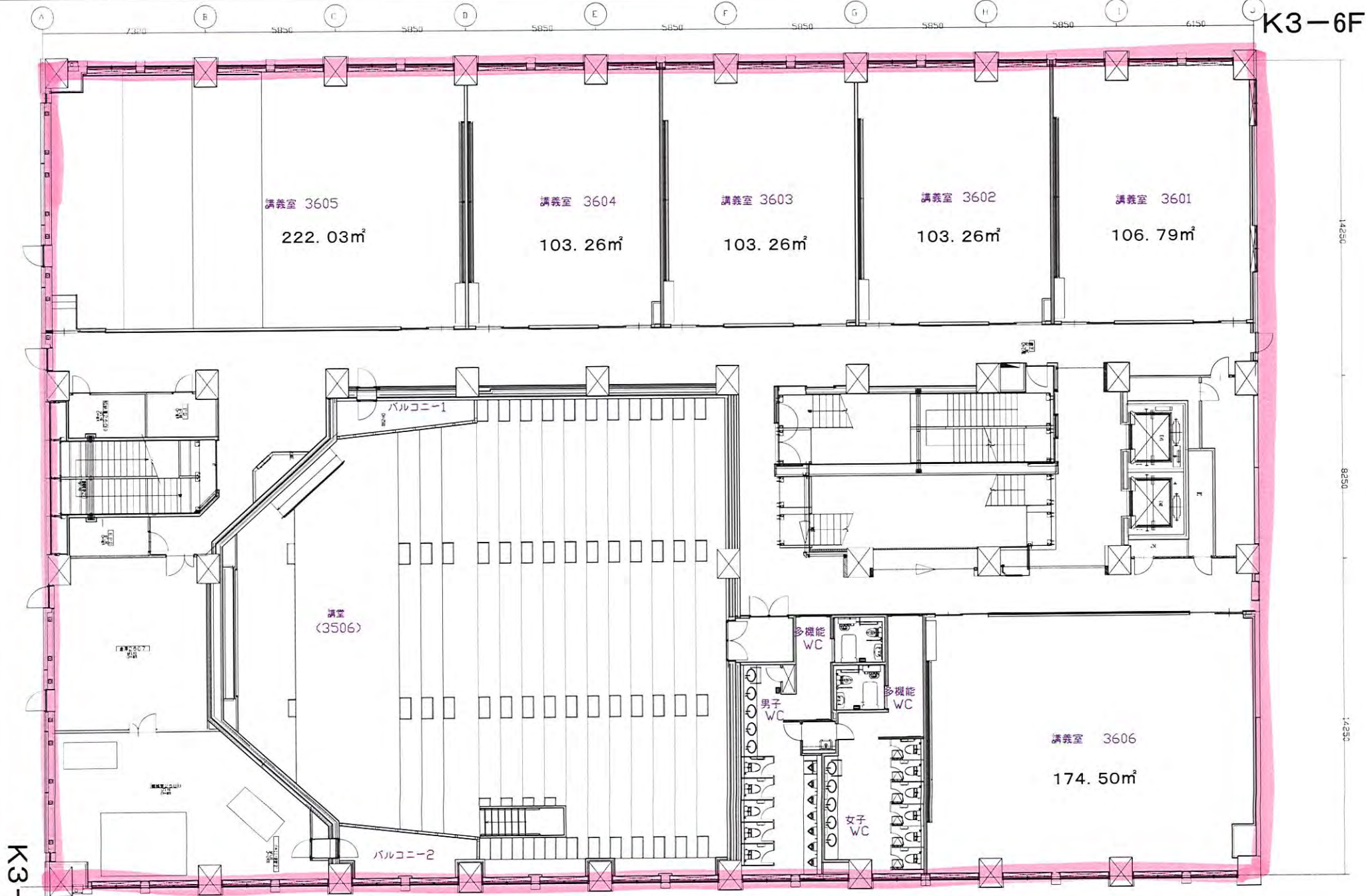




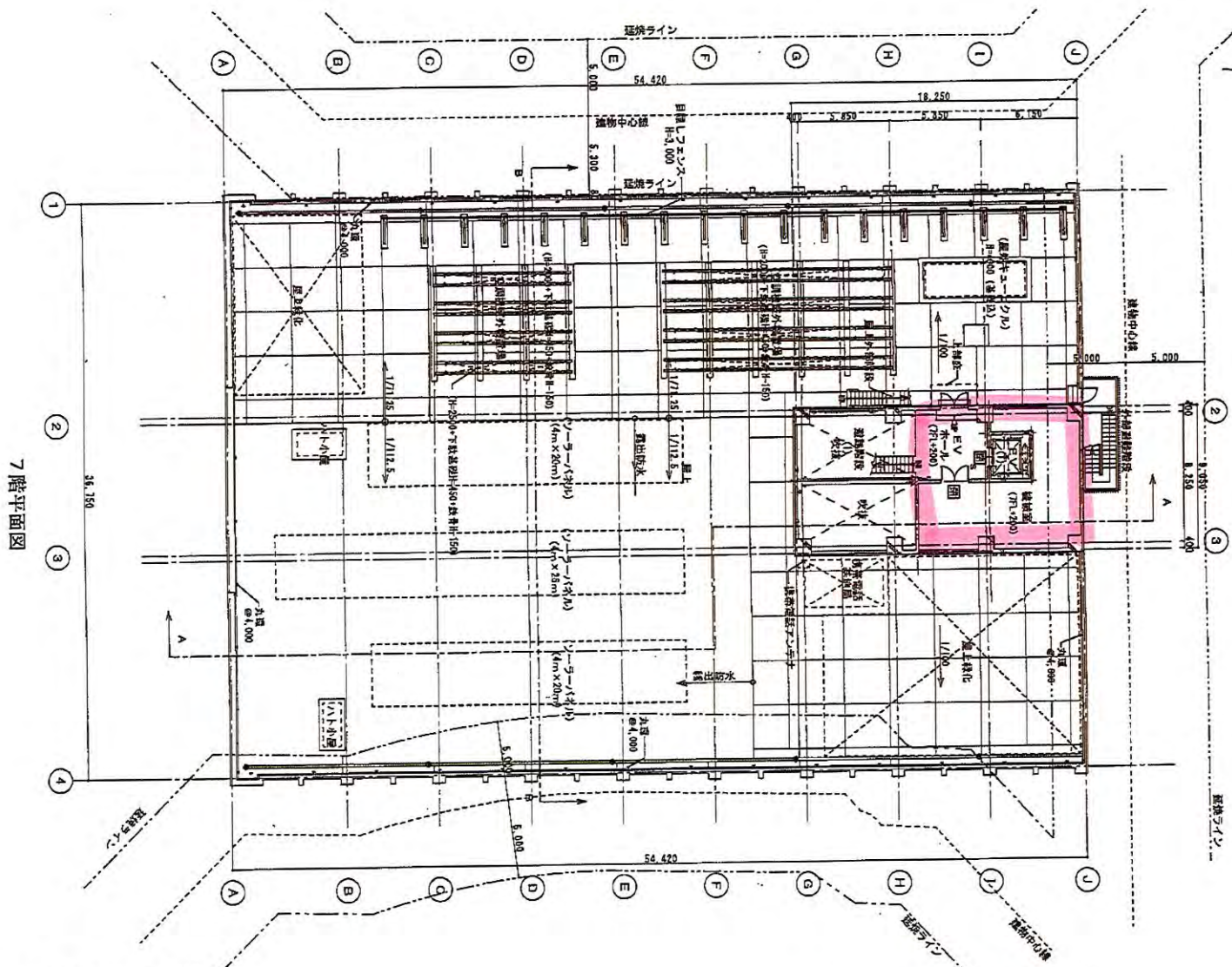


K3-4F



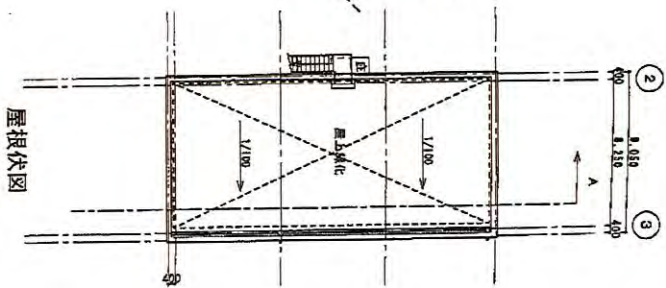


K3号館



7階平面図

K3号館 7階



屋根伏図

① 設置の趣旨及び必要性

1 学科を設置する理由・必要性

現代社会では、コンピュータの処理能力やネットワーク技術の向上に伴い、コンピュータの活用も大きく変化しており、通信技術の発達による複数の情報システムを連携させた、新たな社会生活上のサービスや価値が生まれるようになってきていることから、情報システムの発展と社会の変化に対応した新たな考え方や能力が必要となっている。

このような情報化社会を取り巻く環境の変化を踏まえたうえで、本学の情報学分野における教育研究体制のより一層の充実と機能の強化に向けて、既設の情報学部と創造工学部において展開してきた情報学分野に関する教育研究実績を基盤として、令和6年4月より、既設の情報学部新たに情報システム学科を設置することとした。

なお、情報システム学科の設置に伴い、創造工学部（自動車システム開発工学科、ロボット・メカトロニクス学科、ホームエレクトロニクス学科）については、令和6年4月より学生募集を停止し、在学生の卒業を待って廃止することとしている。

2 研究対象とする学問分野及び養成する人材像

情報システム学科では、組織として教育研究を対象とする中心的な学問分野を「情報学分野」として、「情報と情報技術に関する基礎的な知識と技術の習得のもと、情報システムの機能と構造の理解並びに情報システムの開発や設計に関する基礎的な知識と技法を習得させる」ことを教育研究上の目的としている。

また、情報システム学科では、「情報学分野」に関する教育・研究を通して、「情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して、情報システムの利用や開発及び管理などに関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決することができる人材を養成する」こととしている。

3 卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針及び入学者受入れの方針

情報システム学科では、教育研究上の目的及び養成する人材像を踏まえて、卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針について、以下の通り定めることとし、学位授与の方針及び教育課程編成の方針と教育課程との相関については、別紙資料1に示す通りとしている。（資料1）

（1）卒業認定・学位授与の方針

1 知識・リテラシー

- ① 情報システムの理解に必要な情報、数理の基礎学力を持ち、関連する自然科学や工学の知識や基礎技術を体系的に理解できる。
- ② 情報システム技術者として必要な情報技術、データサイエンスのリテラシーを身に付けている。

2 課題解決力

- ③ 基礎知識と技能を活用し、多面的な視点から物事を考え、情報システム、情報技術に関する課題を発見し解決するとともに、新たな価値形成を見出すことができる。
- ④ 情報システム分野に関する知識を体系化し、他者との考察をもとに論理的にかつ発

展的に導出した応用課題や目標に対して、多面的な視野のもとで解決を行い、成果を論理的に説明する能力を身に付けている。

3 学修に向き合う力、情報技術者としての人間性

- ⑤ 情報技術者及び社会人として活躍するためのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を有し、他者と協働して目標を実現する力を身に付けている。
- ⑥ 主体的な学修・探究活動・実験実習による検証等に取り組む姿勢を身に付けている。
また、情報技術者としての社会的責任を理解し、情報技術者としての倫理観を身に付けている。

(2) 教育課程編成・実施の方針

1) 教育課程編成の方針

1 知識・リテラシー

- ① 専門基礎導入科目の講義と演習を通して、情報工学と情報技術の理解に必要な情報と数理の基礎学力を修得する。また、専門基礎科目の講義と演習を通して、情報システムと工学を融合させる技術の理解に必要な工学の基礎学力を修得する。この基礎学力とは、計算のみならず、数理の考え方を身に付けることで、身の回りの事象との関連性を論理的に理解することをいう。以上を踏まえて、情報技術基礎導入科目群（学部共通）と専門基礎科目を修得するとともに、情報システム基礎ユニットを通して、関連する自然科学の知識や基礎技能を体系的に理解する。
- ② 共通基盤科目の数理情報系分野における ICT（情報通信技術）関連科目を初年次に学修した上で、データサイエンスにおけるリテラシーを身に付ける。さらに、プログラミング科目においては基礎的なプログラミングを学びながら論理的な思考力を修得する。特に、学科固有の専門基礎科目については、必要なデータ処理やプログラミングを通して、現代の情報技術者としての実践的な技能を身に付ける。

＜学修成果の評価方法＞ 共通基盤教育科目、専門基礎導入科目、そして専門基礎科目における試験、小テスト、レポート、演習で評価する。

2 課題解決力

- ③ 専門科目の基礎ユニットでは、多面的で多角的な視点から物事を考え、情報工学や情報技術さらに工学に関する問題を解決する過程を学ぶ。学科固有の専門科目ではコンピュータを利用しながら情報システムの構築に必要な技術を学ぶ。また、基礎ユニットおよび専門科目内でのレポート課題をまとめる過程で、様々な事象と講義で得た知識を関連付けて考えることができる能力を身に付ける。学ぶ領域は、情報工学全般、ロボット、ライフサポートシステムの各分野から選択する。
- ④ 主に情報システム応用ユニットや情報システム専門ユニットを通して、情報工学、機械工学、電気・電子工学、さらに人間科学の知識や技術を体系化し、発見した課題についての分析的な問題解決能力を修得する。さらに、卒業研究では研究計画の立案や必要な調査を主体的に行い、そして、報告書の作成や発表を通して、第三者にそ

の内容を論理的かつわかりやすく伝える能力を身に付ける。

＜学修成果の評価方法＞ ユニットプログラムでは、課題達成状況やその到達プロセス、プレゼンテーションなどにより多面的に評価する。卒業研究では、卒業論文のまとめ方、そして複数の教員による発表審査結果を総合的にルーブリックで評価する。

3 学修に向き合う力、情報技術者としての人間性

⑤ 社会人として必要な教養は共通基盤科目全般で学び、特に情報工学に関する技術者はキャリア系科目などを通して学ぶ。その上で、社会で役立つ技術者として必要な能力を理解するとともに、専門基礎科目および専門科目のユニットプログラムでの実践を通して、他者と協働してコミュニケーションを取りながら課題を解決する能力を身に付ける。特に、情報学分野ではコミュニケーション能力が重要となるため、専門基礎導入科目の情報社会系科目を通してこれらを学ぶ。

⑥ 情報システムの設計・開発に関連する科目では、情報技術の応用やコンピュータの利用だけでなく、継続的に粘り強い取り組みの重要性を理解する。将来の技術者としての倫理観は共通基盤の倫理系の科目を中心に学び、専門基礎導入科目の情報社会系科目でも学ぶとともに、卒業研究における総合的な学びの中で身に付ける。さらに、研究活動を行う能動的な態度を活かしながら、情報技術者として必要な探究力を身に付ける。

＜学修成果の評価方法＞ 倫理系科目やキャリア系科目および専門基礎導入科目の情報社会系科目では、小テストやレポートで内容の理解度を評価する。卒業研究では、活動状況（計画立案、遂行状況、コミュニケーション等）を総合的にルーブリックで評価する。

2) 教育課程実施の方針

- ・学説や物事などの意味や内容の理解を目的とする教育内容は、講義形式による授業形態を採り、知識や技能を実践に応用する能力の習得を目的とする教育内容は、演習形式及び実習形式による授業形態を採る。
- ・教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク、実験や演習での共同作業等をはじめとする教授方法を取り入れることにより、学生の能動的学修への参加を促す。
- ・教育課程を構成する授業科目の目標、内容、方法、評価を記した授業計画を示すとともに、教育課程編成・実施の方針を具体化し、可視化して共有するための教育課程構造図を示す。（資料1）
- ・単位制度の実質化を図る観点から、特定の学期における偏りのある履修登録を避けるとともに、学生が学習目標に沿った適切な授業科目の履修が可能となるように、養成する具体的な人材像に対応した典型的な履修モデルを提示する。（資料2）
- ・卒業時における質を確保する観点から、予め学生に対して各授業科目における学習目標やその目標を達成するための授業の方法、計画等を明示したうえで、成績評価基準や卒業

認定基準を示し、これに基づく厳格な評価を行う。

(3) 入学者受入れの方針

- ・情報や情報技術に対する強い興味や関心と学部教育に対する学習意欲を有している。
- ・高等学校で履修した主要科目について、教科書レベルの基本的な知識を有している。
- ・物事を正しく認識し、自分の考えを適切に表現し、他者に対して的確に伝えられる。

② 学部・学科等の特色

情報システム学科では、組織として教育研究対象とする中心的な学問分野を「情報学分野」として、「情報と情報技術に関する基礎的な知識と技術の習得のもと、情報システムの機能と構造の理解並びに情報システムの開発や設計に関する基礎的な知識と技法を習得させる」ことを教育研究上の目的としている。

また、情報システム学科では、「情報学分野」に関する教育・研究を通して、「情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して、情報システムの利用や開発及び管理などに関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決することができる人材を養成する」こととしている。

情報システム学科の卒業後の進路としては、情報関連産業や情報関連部門などに所属して、利用者の要求の実現を図るための情報システムの開発や管理などの業務に携わることが想定される。

このことから、情報システム学科が担う機能と特色としては、中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」を踏まえて、「幅広い職業人養成」の役割と機能を重点的に担うことを特色とすることとしている。

③ 大学、学部・学科等の名称及び学位の名称

情報システム学科では、組織として教育研究対象とする中心的な学問分野を「情報学分野」として、「情報と情報技術に関する基礎的な知識と技術の習得のもと、情報システムの機能と構造の理解並びに情報システムの開発や設計に関する基礎的な知識と技法を習得させる」ことを教育研究上の目的としている。

また、情報システム学科では、「情報学分野」に関する教育・研究を通して、「情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して、情報システムの利用や開発及び管理などに関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決することができる人材を養成する」こととしている。

このような、情報システム学科が組織として教育研究対象とする中心的な学問分野と情報システム学科における教育研究上の目的や養成する人材などについて、社会や受験生に最も分かり易い名称とすることから、学科名称を「情報システム学科」、学位を「学士（工学）」とすることとし、英訳名称については、国際的な通用性を踏まえたうえで、学科の英訳名称を「Department of Information System」、学位の英訳名称を「Bachelor of Engineering」とすることとした。

学科の名称	情報システム学科	「Department of Information System」
学位の名称	学士（工学）	「Bachelor of Engineering」

④ 教育課程の編成の考え方及び特色

1 教育課程の編成の基本方針

情報システム学科では、教育研究上の目的や養成する人材の目的を達成するために、教育課程を「共通基盤教育」と「専門基礎導入」、「専門基礎」、「専門」から編成することとし、「共通基盤教育」は、中央教育審議会答申などで指摘されている重要性や意義を踏まえるとともに、「専門基礎導入」、「専門基礎」、「専門」は、授業科目間の関係や履修の順序に留意した体系的な教育課程を編成することとしている。

また、情報システム学科では、高等教育の大衆化の進行と生涯学習への移行を踏まえ、学部段階の専門教育では特定分野における完成教育というよりも、生涯学び続ける基礎を培うより普遍的な教育が求められていることから、教養教育及び専門分野の基礎・基本を重視した教育を行うことにより、専門的素養のある人材として活躍できる基礎的能力や生涯学習の基礎等を培うこととする。

具体的には、学部段階における教育は、職業人としての生涯学習の出発点であることを踏まえ、学部卒業後、職業人として就業し、成長していく過程において、実務等を通じて体得していくための資質や能力、あるいは継続的な教育や研修の機会等を通じて学んで行くための資質や能力を身に付けた職業人に成長していくうえでの基礎的資質や能力を身に付けるための基礎教育を重視した教育課程の編成としている。

2 教育課程の編成の考え方

(1) 共通基盤教育

「共通基盤教育」は、中央教育審議会答申などで指摘されている重要性や意義を踏まえた編成とすることから、「導入系」、「倫理系」、「人文社会系」、「健康・スポーツ系」、「言語系」、「数理情報系」、「キャリア系」の科目群から編成している。

1) 導入系

「導入系」では、高校教育から大学教育への円滑な接続を図るための学習スキルを高めるための科目として、「アカデミック ICT スキル」1単位、「スタディスキル」2単位、「専門分野概論」1単位を必修科目として配置し、「理工学入門」1単位を選択科目として配置している。

2) 倫理系

「倫理系」では、技術者としての倫理や生命倫理に関する知識の理解と倫理観を養うための科目として、「技術者倫理」2単位を必修科目として配置している。

3) 人文社会系

「人文社会系」は、「a 群」、「b 群」、「c 群」の科目群から編成しており、「現代社会講座」2単位を必修科目として配置したうえで、「a 群」では、多面的に物事を理解するための基

本的な知識を習得するための科目として、「経済の科学」2単位、「歴史の科学」2単位、「社会の科学」2単位、「文化の科学」2単位、「グローバル化の科学」2単位、「心の科学」2単位、「日本国憲法」2単位、「環境論」2単位、「人文社会科学アクティブ演習」2単位を選択科目として配置している。

「b群」では、人間と人間理解のための基礎的な知識を習得するための科目として、「哲学」2単位、「文学」2単位、「心理学」2単位、「倫理学」2単位、「教育学」2単位を選択科目として配置している。

「c群」では、現代の社会を理解するための基礎的な知識を習得するための科目として、「政治学」2単位、「経済学」2単位、「法学」2単位、「社会学」2単位、「経営学」2単位を選択科目として配置している。

4) 健康・スポーツ系

「健康・スポーツ系」では、健康維持や健康習慣のための基本的な知識と方法を習得するための科目として、「健康・スポーツ科学実習Ⅰ」1単位、「健康・スポーツ科学実習Ⅱ」1単位、「身体活動スポーツ論」1単位、「生涯スポーツ実習」1単位を選択科目として配置している。

5) 言語系

「言語系」は、「英語基礎」と「言語応用」の科目群から編成しており、「英語基礎」では、英語による「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の言語能力を高めるための科目として、「英語Ⅰ」1単位、「英語Ⅱ」1単位、「英語Ⅲ」1単位、「英語Ⅳ」1単位、「英語Ⅴ」1単位を選択科目として配置している。

「言語応用」は、「a群」と「b群」の科目群から編成しており、「a群」では、英語の実践的かつ総合的な運用能力を高めるための科目として、「科学技術英語Ⅰ」1単位、「科学技術英語Ⅱ」1単位、「英会話Ⅰ」1単位、「英会話Ⅱ」1単位、「総合英語演習」1単位、「TOEICⅠ」1単位、「TOEICⅡ」1単位を選択科目として配置している。

「b群」では、日本語の運用能力を高めるための科目として、「日本語表現技術」2単位、「プレゼンテーション技術」2単位、「技術文章の書き方」2単位を選択科目として配置している。

6) 数理情報系

「数理情報系」では、数理科学に関する基礎的な知識を習得するための科目として、「身の回りの数学」2単位、「実践する科学」2単位を必修科目として配置し、情報の収集や分析と効果的に活用するための基本的な知識と技能を習得するための科目として、「情報・AⅠリテラシー（情報基礎）」2単位を必修科目として配置したうえで、「AⅠとデータサイエンス」2単位を選択科目として配置している。

7) キャリア系

「キャリア系」では、社会的・職業的自立を図るために必要な基礎的な知識や技能と態度を習得するための科目として、「キャリア設計Ⅰ」1単位、「キャリア設計Ⅱ」1単位、「キ

キャリア設計Ⅲ」1単位を必修科目として配置し、「社会人に向けての準備講座」1単位、「企業特別講座」1単位を選択科目として配置するとともに、実社会における技術の活用状況等に実際に接するための科目として、「インターンシップⅠ」2単位、「インターンシップⅡ」3単位、「課題解決型インターンシップ」2単位、「産学連携プロジェクト」2単位を選択科目として配置している。

(2) 専門基礎導入

「専門基礎導入」は、「情報技術基礎導入科目群」と「情報数理系」及び「情報社会系」の科目群から編成している。

「情報技術基礎導入科目群」では、情報システム学の学問体系の理解と専門分野を体系的に学習するうえでの入門となる科目として、「プログラミング入門A」3単位、「プログラミング入門B」3単位、「プログラミング入門C」3単位を必修科目として配置している。

そのうえで、「コンピュータシステム入門」1単位、「マルチメディア入門」1単位、「ソフトウェア入門」1単位、「ネットワーク入門」1単位、「アルゴリズム入門」1単位、「情報デザイン入門」1単位、「データベース入門」1単位、「情報セキュリティ入門」1単位、「AI／DS導入ユニット」4単位を必修科目として配置している。

「情報数理系」では、専門分野を学修するうえで不可欠となる自然科学に関する知識や理論を習得するための科目として、「線形代数学Ⅰ-a」2単位、「線形代数学Ⅰ-b」2単位、「線形代数学Ⅱ-a」2単位、「線形代数学Ⅱ-b」2単位、「微分積分学Ⅰ-c」3単位、「微分積分学Ⅰ-d」3単位、「微分積分学Ⅱ-c」3単位、「微分積分学Ⅱ-d」3単位、「離散数学」2単位を選択科目として配置している。

「情報社会系」では、情報社会の進展や人々の生活との関わり、望ましい情報社会の形成に果たす役割などについて理解する科目として、「情報法規と情報モラル」2単位、「情報社会のコミュニケーション」2単位、「情報社会と情報倫理」2単位、「情報と人間」2単位、「情報と知的財産権」2単位を選択科目として配置している。

(3) 専門基礎

「専門基礎」では、情報システム学の学問体系の理解と専門分野を体系的に学習するうえでの総論となる科目として、「情報システム概論」2単位を必修科目として配置したうえで、情報システムに関する基礎的な理論と知識を習得するための科目として、「情報システムのための電気電子回路」2単位、「情報システムのための力学」2単位、「情報システム工学Ⅰ」2単位、「IoTシステム」2単位、「情報通信技術」2単位、「シミュレーション設計技法Ⅰ」2単位、「情報システム工学Ⅱ」2単位、「画像情報処理」2単位、「ビッグデータ解析」2単位、「シミュレーション設計技法Ⅱ」2単位、「情報システムと人間科学」2単位を選択科目として配置している。

そのうえで、「情報システムプログラミング基礎」3単位、「情報システム基礎ユニットⅠ」3単位、「情報システム基礎ユニットⅡ」3単位を必修科目として配置している。

(4) 専門

「専門」は、学生の興味と関心に応じて、「専門基礎導入」及び「専門基礎」を受けて学習する専門分野に関連する幅広い知識や理論を学習する科目として、「情報システムセキュリティ」2単位、「サイバー空間技術」2単位、「ヒューマンコンピュータインタラクション」2単位、「組み込みアプリケーション入門」2単位、「組み込みシステム入門」2単位、「ロボットメカニズム」2単位、「センシングシステム」2単位、「次世代通信技術」2単位、「ヘルスケアシステム」2単位、「ロボットとAI」2単位、「組み込みアプリケーション開発」2単位、「組み込みシステム設計」2単位、「システム制御」2単位、「情報システムの社会実装」2単位を選択科目として配置し、「情報システム応用ユニット」4単位、「情報システム専門ユニット」4単位を必修科目として配置している。

そのうえで、基礎的な研究能力の養成と研究意識を涵養するとともに、自己の研究課題に則した研究計画を設定し、資料収集や分析、報告、意見交換などを繰り返しながら、研究課題に関する成果発表を行うための科目として、「卒研セミナーⅠ」1単位、「卒業研究Ⅰ」3単位、「卒研セミナーⅡ」1単位、「卒業研究Ⅱ」3単位を必修科目として配置している。

⑤ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

1 教育方法

(1) 授業の方法

授業の方法は、知識の理解を目的とする教育内容については、講義形式を中心とした授業形態を採るとともに、態度・志向性及び技術や技能の習得を目的とする教育内容については、演習形式による授業形態を採ることとし、また、理論的知識や能力を実務に応用する能力を身に付けることを目的とする教育内容については、実験形式や実習形式による授業形態を採ることとする。

(2) 学生数の設定

授業の内容に応じた学生数の設定については、授業科目ごとの授業形態に則した教育目的を効果的かつ確実に達成するために、講義形式は50人から80人、演習形式は40人、実験科目は10人、実習科目は10人としている。

(3) 配当年次

配当年次は、基礎から基幹へと体系的な学習が可能となるようにするとともに、特に、専門教育においては、専門分野の教育内容ごとに、知識・技能・応用といった授業の内容と科目間の関係や履修の順序に留意するとともに、単位制度の4年間における制度設計の観点を踏まえて、特定の学年や学期において偏りのある履修登録がなされないように配慮した配当としている。

(4) 履修科目の登録上限

単位制度の実質化の観点を踏まえたうえで、学生の主体的な学習を促し、教室における授業と教室外の学習を合わせた充実した授業を展開することにより学習効果を高めるために、履修単位数の年間登録の上限（CAP）を44単位としている。

(5) 厳格なる成績評価

卒業時における学生の質を確保する観点から、予め学生に対して各授業における学習目標やその目標を達成するための授業の方法、計画等を明示したうえで、成績評価基準や卒業認定基準を提示し、これに基づき厳格な評価を行うとともに、客観的な評価基準を適用することから、厳格な成績評価の方法として、GPA制度を導入する。

2 履修指導方法

履修指導方法は、授業を受ける学生に対して、教員が相談に応じる専用の時間を設けることにより、きめ細やかな教育指導を行う体制を整えるとともに、学期ごとに学年別の履修ガイダンスを実施したうえで、学生の適性或能力に応じて学生の履修科目の選択に関する助言を行う専門的な職員を配置し、個別の履修相談に応じるなど、学生の履修指導体制を整備する。

また、専門教育科目では、基礎的な専門知識や技能を確実に修得させることに重点を置くことが重要であることを踏まえたうえで、単位制度の実質化を図る観点から、特定の学期における偏りのある履修登録を避け、学生が学習目標に沿った適切な授業科目の履修が可能となるように、養成する具体的な人材像に対応した履修モデルを提示する。(資料2)

3 卒業要件

卒業要件は、学部で4年以上在学し、体系的な授業科目の履修により、124単位以上を修得することとし、「共通基盤教育科目」から必修科目16単位を含む32単位以上、「専門教育科目」から必修科目48単位を含む74単位以上を修得することとしている。

⑥ 入学者選抜の概要

1 基本方針

入学者選抜の基本方針は、入学志願者の大学教育を受けるに相応しい能力や適性等を多面的に判定し、公正かつ妥当な方法で実施するとともに、学部の目的、教育内容等に応じた入学者受入方針を明確にするとともに、これに基づき、入学後の教育との関連を十分に踏まえたうえで、入試方法の多様化、評価尺度の多元化に努めることとする。

2 受入方針

情報システム学科では、「情報と情報技術に関する基礎的な知識と技術の習得のもと、情報システムの機能と構造の理解並びに情報システムの開発や設計に関する基礎的な知識と技法を習得させる」こととしており、この教育目標を達成するために必要な教育課程の編成としている。

このような情報システム学科における教育目標や教育課程との関連性を踏まえたうえで、入学者選抜の基本的な受入方針を、以下のとおり、定めることとしている。

- ・情報と情報技術に対する強い興味や関心と学部教育に対する学習意欲を有している。
- ・高等学校で履修した主要科目について、教科書レベルの基本的な知識を有している。
- ・物事を正しく認識し、自分の考えを適切に表現し、他者に対して的確に伝えられる。

なお、入学者の受入方針に対する入学者選抜における判定方法については、「情報と情報技

術に対する強い興味や関心と学部教育に対する学習意欲を有している」ことについては、学力検査、書類審査、面接試験、小論文試験のいずれかにより判定することとしている。

また、「高等学校で履修した主要科目について、教科書レベルの基本的な知識を有している」ことについては、書類審査又は学力検査のいずれかにより判定することとし、「物事を正しく認識し、自分の考えを適切に表現し、他者に対して的確に伝えられる」ことについては、学力検査、書類審査、面接試験、小論文試験のいずれかにより判定することとしている。

3 選抜方法

(1) 実施方法及び定員割合

入学者選抜の実施方法は、入学者選抜の受入方針を踏まえたうえで、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜（一般入試、大学入学共通テスト）により実施することとし、募集定員の割合については、総合型選抜の募集定員を14名、学校推薦型選抜の募集定員を22名、一般選抜（一般入試、大学入学共通テスト）のうち一般入試の募集定員を28名、大学入学共通テストの募集定員を16名としている。

(2) 総合型選抜

総合型選抜は、学科から課された課題および詳細な書類審査と丁寧な面接を組み合わせることにより、入学志願者の目的意識や学習意欲及び基礎学力や適性能力を多面的に評価し、総合的に判定することとしており、入学手続きを行った者に対しては、出身高等学校と協力しつつ、入学までに取り組むべき課題を課すなど、入学後の学習のための準備をあらかじめ用意することとしている。

(3) 学校推薦型選抜

学校推薦型選抜における指定校制推薦入試及び公募制推薦入試は、出身高等学校長の推薦に基づき、学力検査を免除し、調査書を主な資料として判定することとし、学部における入学者の受入方針と入学志願者に求める受入方針に基づき、指定校制推薦では調査書による書面審査及び面接試験と小論文試験を課すことにより、入学志願者の目的意識や学習意欲及び基礎学力や適性能力を多面的かつ総合的に評価する。また、公募制推薦では調査書による書面審査及び面接試験と適性検査を課すことにより、入学志願者の目的意識や学習意欲及び基礎学力や適性能力を多面的かつ総合的に評価する。

(4) 一般選抜（一般入試）

一般入学試験では、学力検査として数学を必須とし、英語・国語・理科から2教科を選択する方式とする。

(5) 一般選抜（大学入学共通テスト）

大学入学共通テストの成績の利用方法は、数学を必須とし、外国語、理科、国語から2教科の合計3教科3科目の総合点により選考する方式と、数学、外国語、理科、国語、社会から5教科5科目の総合点及び小論文、グループ・ディスカッション、調査書の総合点により選考する方式からなり、専門分野への興味と関心や学習意欲及び基礎学力や適性能力を適切に判断することとしている。

4 選抜体制

入学者選抜の実施体制は、入学者選抜は、中立・公正に実施することを旨とし、入試問題の漏洩など入学者選抜の信頼性を損なう事態が生じることのないように、学長を中心とする責任体制の明確化、入試担当教職員の選任における適格性の確保など実施体制の充実を図るとともに、教員や職員等の関係者が一体となり、全学的な連携体制の確立に努めることとしている。

試験問題の作成においては、チェック体制を不断に点検するとともに、作題者以外の者を含めた重層な点検を行うことにより、ミスの防止と早期発見に努めることとし、合格者の決定業務においては、電算処理や解答のチェック体制を確立し、点検・確認するとともに、追加合格の決定業務についても、マニュアルを作成するなど、実施体制及び決定手続きを明確にすることとしている。

入学志願者の氏名や住所等、選抜を通じて取得した個人情報については、漏洩や選抜以外の目的の利用がないよう、その保護に十分留意しつつ、適切な取り扱いに努めるとともに、入学者選抜の実施に係るミスの防止に努めるため、入学者選抜業務のプロセス全体を把握したうえで、ミスを防止するためのガイドラインの作成により、業務全体のチェック体制を確立することとしている。

⑦ 教員組織の編成の考え方及び特色

1 教員組織の編成の考え方及び特色

情報システム学科では、組織として研究対象とする中心的な学問分野を「情報学分野」としていることから、当該分野を専門とする専任教員による教員組織としており、各専門分野における教育上、研究上又は実務上の優れた知識や能力及び実績を有する専任教員 8 人（教授 6 人、准教授 2 人）を配置することとしている。

また、専任教員の配置に当たっては、博士号等の学位の保有状況をはじめ、それぞれの専門分野や領域における教育実績及び研究業績、実務経験などと担当予定の授業科目との適合性について、十分な検討のもとに配置しているとともに、教育上主要と認める授業科目には専任の教授又は准教授を配置することとしている。

2 教員組織の年齢構成及び定年規程との関係

情報システム学科の専任教員の年齢構成については、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化に支障がない構成とすることから、40歳台 1 人、50歳台 5 人、60歳台 2 人から構成することとしており、特定の年齢層に偏ることのないよう計画しているとともに、教育研究水準の維持向上や教育研究の活性化に支障がない教員組織の編成となるように配慮している。

なお、情報システム学科の教員組織の編成においては、本学における教育研究以外の業務に従事する専任教員は配置しないこととしており、また、定年規程との関係については、定年を迎えている者及び完成年度までに定年に達する者の配置は行わないこととしている。

⑧ 施設、設備等の整備計画

本学では、昭和38年の開学以来、教育・研究環境の整備と充実に積極的に取り組んできており、大学の教育・研究のために必要な校地及び校舎等は十分に整備されており、今般、設置する情報システム学科については、既設の創造工学部のロボット・メカトロニクス学科を基礎として設置する計画であることから、既存の校地及び校舎等を有効的に活用することとしている。

(1) 校地、運動場の整備計画

情報システム学科の設置を計画している本学のキャンパスは、神奈川県厚木市下荻野に位置し、現在、校地面積約127,675㎡を有していることから、学生の休息その他の利用のための適当な空地を含む十分な校地面積が確保されており、大学教育に相応しい環境を整えている。

運動場は、約38,015㎡の面積を校舎と同じ敷地内に確保しており、運動用設備としては、全天候対応人工芝フィールドおよび陸上400mトラックを設け、サッカー・ラグビー及び長短距離走の競技はもとより、フットサルやソフトボール等多目的に活用している。

さらに、隣接して両翼95m、センター120mの人工芝野球場を設け、硬式野球、ソフトボールやフットサルも可能としているとともに、全天候型テニスコート4面も有しており、授業及び学生の課外活動に利用している。

また、校地中心部に約6,000㎡の中央緑地公園を設け、270席のベンチや芝地での学生の休憩やコミュニケーションの場として活用しており、この公園は、屋外の催し物を開催する場合は、約1,500人がステージを観覧可能で、さらに万一の災害時には、石畳部分も利用することで、約2,000人の一時避難を可能としている。

(2) 校舎等施設の整備計画

本学では、現在、36棟の校舎等の施設を有しており、延床面積は約99,742㎡で、教育に必要となる主要な教室等の内訳としては、講義室67室、演習室12室、実験実習室68室、情報処理室13室、語学学習室1室を整備しており、その他、教員研究室195室、講師室、助手室、図書館、体育館、学長室、会議室、事務室、保健室、学生自習室、学生食堂などを整備している。

情報システム学科は、これまで継続的に教育・研究環境の整備充実に努めてきたキャンパスに設置することから、既存の校舎等施設を有効的に利用することとしており、情報システム学科の教員組織として計画している専任教員8名分の研究室8室については、既に整備されている。

設備の整備計画については、これまで大学全体で整備してきた教育研究用機器備品4,614点、管理用機器備品129点を有効的に転共用することとしている。

本学では、開設以来、常に教育研究環境の整備と充実に積極的に取り組み、特に施設・設備については、十分な整備に努めてきたことから、情報システム学科を設置した場合において

も、十分に対応することが可能であると考えている。

(3) 図書等の資料及び図書館の整備計画

1) 図書等の資料の整備計画

本学キャンパスの図書館では、図書等の資料について、現在、図書186,244冊（うち外国書22,660冊）を所蔵しているとともに、学術雑誌314種（うち外国雑誌2種）のほか、電子ジャーナル14種（3,711タイトル収録）、ビデオやDVDなどの視聴覚資料5,871点の整備がなされていることから、これらを有効的に転共用することとしている。

また、情報システム学科における教育研究上の理念・目的や人材養成の目的を達成するために必要となる図書等の資料としては、これまで、大学全体として整備してきた専門図書のうち、情報及び情報技術に密接に関連する専門図書7,260冊を所蔵しており、雑誌についても16種を備えていることから、教育・研究に支障はないと考えている。

2) 図書館の整備計画

図書館の機能としては、大学全体の収容定員の約14%にあたる663席の閲覧座席数を整備しており、また、学生の主体的な学習の場として、電子黒板・ディスカッションテーブル等のIT機器と可動機、壁面ホワイトボードを備えたActive Learning Room4室とシラバス図書を集めたReference Learning RoomからなるActive Learning spaceを設けているとともに、視聴覚ブース、サービスカウンター、レファレンスカウンターなどを有し、人的サービスを提供している。

さらに、館内に検索・電子資料閲覧・レポート作成等用途の汎用利用者パソコン30台、検索用パソコン7台を備え、また利用可能な電子・冊子体資料を垣根なく適切にナビゲート可能なディスカバリーサービス“World Cat Discovery Services”を導入し、図書館ホームページの検索窓からの使用を可能としている。

図書館システムは株式会社富士通製の「iLiswave-J」が稼働しており、国立情報学研究所の所蔵目録の検索、医学中央雑誌や看護文献基本データベースCINAHL等の論文検索、他大学図書館等との文献複写・相互貸借等サービスを可能としているほか、ディスカバリーサービスにより世界最大の目録データベースOCLCのWorld Catデータの参照も可能としている。

また、検索学術情報リポジトリとして、研究紀要論文（1,203件）、学位論文（22件）のほか、日産自動車カタログコレクション目録データ（497件）、地域資料として「NP0 法人雨岳文庫を活用する会」と連携し、伊勢原市歴史史料である雨岳文庫データベース（10,365件）等を公開し、学内学術情報だけでなく地域と結びつけた特色ある情報発信を行っている。

⑨ 管理運営及び事務組織

1 教授会

教授会は、専任の教授をもって組織され、「学生の入学、卒業及び課程の修了」、「学位の授与」、「教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長

が定めるもの」について決定を行うに当たり意見を述べるものとするもののほか、学長及び学部長その他の教授会が置かれる組織の長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べるができることとしており、原則として、毎月1回定例で開催するほか、必要に応じて適宜臨時に開催している。

2 大学協議会

大学協議会は、大学全般の重要事項を審議するために設置されており、審議事項については、「大学協議会規程」に規定され、構成員は、学長、副学長、学部長、学科長、自己評価委員長、教務主任、学生部長、入学委員長、キャリア就職委員長、図書館長、情報教育研究センター所長、工学教育研究推進機構長、教育開発センター所長、基礎・教養教育センター所長及び同センター系列総会会長、大学担当理事及び学長が指名した者とし、原則として、毎月1回定例で開催している。

3 教授会以外の委員会

教授会以外の委員会としては、「学生部委員会」、「教務委員会」、「入学委員会」、「キャリア就職センター委員会」をはじめ、各種委員会を組織し、学生の修学支援に努めており、各委員会の審議事項については、各委員会規程により規定されており、構成員は各学部から選出され、定例的に開催している。

4 事務組織

事務業務の処理と遂行を行うための事務組織体制としては、経営管理本部と学生支援本部を置き、経営管理本部は、組織全体に関する事務全般を取扱うこととして、総務課、庶務課、財務課、外部資金課、管財課、企画入学課を置いており、学生支援本部は、授業運営と学生支援に関する事務全般を扱うこととして、教務課、学生課、キャリア就職課、卒業生支援課、国際課、図書館サービス課を置いており、教学組織との連携協力のもと、業務の専門性や効率性の向上に努めている。

また、学生の厚生補導にかかる業務については学生課が担当することとしており、厚生補導のための職員を配置し、学生の大学生活やその他生活全般にかかわる事柄に関して、組織的な相談・指導・助言あるいは援助などのサポート活動を行っており、特に学生支援においては、教学組織として学生サポート室を置き、早期学生支援や障害学生支援に当たることとしており、教学組織と事務組織との協働・連携の重要性の認識のもと、教職協働による取組みを推進している。

⑩ 自己点検・評価

1 基本方針

本学では、自らが掲げる目的の達成および理念の実現のため、継続的に自己点検・評価を行い、その結果をもとに改革・改善に努めることを通じて、本学の教育研究の水準を保証し向上させ、本学に対する社会の信頼を一層確実なものとする。

2 実施体制

本学では、内部質保証に関する規程において、自己点検・評価を継続的かつ総合的に実施するため、自己点検・評価に関する統括委員会として、理事長、学長、研究科長、専務理事、常務理事、副学長、担当理事、教員自己点検・評価委員長で構成する「内部質保証委員会」を置き、自己点検・評価に関する定期的な実務を担当する組織として、学長、研究科長、専務理事、常務理事、副学長、担当理事、入学委員長、教務主任、学生部長、キャリア就職委員長、3つのポリシー運営委員会委員長、教育開発センター所長、教員自己点検・評価委員長、工学教育研究支援機構長、事務部門の担当部長による「自己評価委員会」を置くこととしている。

3 実施方法

自己評価委員会は、次の各事項について、審議し、決定し、実施する。

- (1) 自己点検・評価項目の設定および変更、
- (2) 評価のあり方に関する事項、
- (3) 自己点検・評価の実施に関する事項、
- (4) 改善・改革に向けた方策の実施に関する事項、
- (5) 教員の自己点検・評価に関する事項、
- (6) 自己点検・評価結果の公表に関する事項、
- (7) 認証評価機関の評価に関する事項、
- (8) その他、大学の自己点検・評価に関する事項

について審議し、決定し、実施している。

また、自己点検・評価結果については、その内容を内部質保証委員会に報告しているとともに、改善等を要すると認められる事項については、関連ある学内組織に適切な対応策を検討し、実施することを要請している。

内部質保証委員会は、自己評価委員会から提出された定期的な点検・評価結果及び外部評価委員会の検証結果について審議し、課題等に関する方針の策定、実施、点検及び改善について常に検討し、必要な事項を実施するとともに、文部科学省や認証評価機関等からの指摘事項については、迅速かつ適切に対応することとしている。

内部質保証委員会で策定・決定した方針、課題及び改善策などの実施を自己点検・評価に関する日常的な実務を担う各組織に要請し、各組織はこれを適切、適正に実施するとともに実施状況を絶えず点検・評価を行い、改善等を要すると認められる事項については適切な対応策を検討、実施し、点検・評価結果を自己評価委員会へ報告することとしており、その内容については、自己評価委員会で審議し、結果を内部質保証委員会へ報告することとしている。

なお、教員の自己評価については毎年行い、分析内容を教授会へ報告することとしている。

4 評価項目

評価項目については、以下の通りとしている。

- (1) 理念・目的
- (2) 内部質保証
- (3) 教育研究組織

- (4) 教育課程・学習成果
- (5) 学生の受け入れ
- (6) 教員・教員組織
- (7) 学生支援
- (8) 教育研究等環境
- (9) 社会連携・社会貢献
- (10) 大学運営・財務

5 結果の活用及び公表

評価の結果については、教育活動や研究活動などの改善策を検討し、改善計画や教育活動や研究活動などで達成すべき目標を設定する際に活用し、評価結果を反映させることとしており、評価の結果は、大学として社会に対する説明責任を果たす観点から、ホームページでの公開や自己点検・評価報告書を作成し、配布することにより公表することとしている。

⑪ 情報の公開

1 実施方法

学部等における人材の養成に関する目的、その他の教育研究上の目的について、学則及び規則等の適切な形式により定め、これを広く社会に公表するとともに、教育研究活動等の状況など大学に関する情報全般について、インターネット上のホームページや大学案内などの刊行物への掲載、その他広く一般に周知を図ることができる方法により積極的に提供することとしている。

特に、教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報を積極的に公表することとし、その際、大学の教育力の向上の観点から、学生がどのようなカリキュラムに基づき、何を学ぶことができるのかという観点が明確になるよう留意することとしている。

教育情報の公表については、そのための適切な体制を整えたうえで、刊行物への掲載、インターネットの利用その他広く周知を図ることができる方法によって行うこととしており、ホームページのアドレスは、「<http://joho.kait.jp>」であり、検索方法については、「トップ>情報公表」により検索することができる。

2 実施項目

次の教育研究活動等の状況についての情報を公表している。

- (1) 大学の教育研究上の目的に関すること。
- (2) 教育研究上の基本組織に関すること。
- (3) 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること。
- (4) 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること。
- (5) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること。
- (6) 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること。

- (7) 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること。
- (8) 授業料、入学科料その他の大学が徴収する費用に関すること。
- (9) 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること。
- (10) その他の関連する情報
 - ・ 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報
 - ・ 学則等各種規程
 - ・ 設置認可申請書
 - ・ 設置届出書
 - ・ 設置計画履行状況等報告書
 - ・ 自己点検・評価報告書
 - ・ 認証評価の結果

3 公表内容

教育研究活動等の状況についての情報を公表するに際しては、以下の点に留意したうえでを行っている。

- (1) 大学の教育研究上の目的に関する情報については、学部、学科又は課程等ごとに、それぞれ定めた目的を公表する。
- (2) 教育研究上の基本組織に関する情報については、学部、学科又は課程等の名称を明らかにする。
- (3) 教員組織に関する情報については、組織内の役割分担や年齢構成等を明らかにし、効果的な教育を行うため組織的な連携を図っていることを明らかにする。
- (4) 教員の数については、学校基本調査における大学の回答に準じて公表することとし、法令上必要な専任教員数を確保していることや男女別、職別の人数等の詳細をできるだけ明らかにする。
- (5) 各教員の業績については、研究業績等にとどまらず、各教員の多様な業績を積極的に明らかにすることにより、教育上の能力に関する事項や職務上の実績に関する事項など、当該教員の専門性と提供できる教育内容に関することを確認できるという点に留意したうえで公表する。
- (6) 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する情報については、学校基本調査における大学の回答に準じて公表する。
- (7) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関する情報については、教育課程の体系性を明らかにする観点に留意するとともに、年間の授業計画については、シラバスや年間授業計画の概要を活用する。
- (8) 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関する情報については、必修科目、選択科目の別の必要単位修得数を明らかにし、取得可能な学位に関する情報を明らかにする。

- (9) 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関する情報については、学生生活の中心であるキャンパスの概要のほか、運動施設の概要、課外活動の状況及びそのために用いる施設、休息を行う環境その他の学習環境、主な交通手段等の状況をできるだけ明らかにする。
- (10) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関する情報については、寄宿舎や学生寮等の宿舎に関する費用、教材購入費、施設利用料等の費用に関することをできるだけ明らかにする。
- (11) 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関する情報については、留学生支援や障害者支援など大学が取り組む様々な学生支援の状況をできるだけ明らかにする。

⑫ 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

1 授業の内容及び方法の改善のための組織的な研修等

(1) 実施体制

授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究の実施については、「教育開発センター」が担うこととしており、業務を円滑に果たすため、教育開発センター運営委員会を設置し、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究の実施に関する計画の立案と実施の推進を行うこととしている。

(2) 実施内容

教育内容等の改善の組織的な研修等の実施内容については、以下に掲げる項目による取り組みを行うこととしている。

- (1) シラバスの記載項目や記載内容、記載方法などに関する規則整備をするとともに、個別教員に対する記載指導を実施する。
- (2) 学生による授業アンケート調査を実施するとともに、評価結果に基づき、各教員が授業の内容や方法の改善に役立てる。
- (3) 授業科目の位置付けや到達目標、他の授業科目の内容や範囲などの接続関係について教員の相互理解を図る。
- (4) 授業科目ごとの教育目標を効果的に達成するための教育手法や評価方法等の研修会を実施する。
- (5) 他の教員の授業を参観して、自らの授業の内容及び方法の改善に役立てるための教員相互の授業参観を実施する。
- (6) 授業技術や教材開発に関する定期的な研究会と研究成果の発表会を開催するとともに、授業公開の一環として報告書を作成する。

2 大学職員に必要な能力及び資質を向上させる研修等

(1) 実施体制

大学の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、大学職員に必要な知識や技

能を習得させるとともに、必要な能力及び資質を向上させる研修等の取組みについては、「神奈川工科大学 職員研修企画運営委員会規程」を制定し、事務職員のみならず、教員及び技術職員を含めて、大学等の教育・研究活動等の適切かつ効果的な運営を図ることを目的とした、知識・技能の修得及び能力・資質の向上のための活動（SD活動）を推進することとしており、「情報セキュリティ」、「ハラスメント」、「高大接続」、「キャリア就職支援」、「文献データベース」、「高等教育政策の動向」といった大学を取巻く問題を定期的に取上げて実施することとしている。

事務職員を対象とした研修等は、職員研修企画運営委員会が中心となっており、教員に対する研修等は、教育開発センターが中心となっており、教育開発センターが主催する研修等についても、事務職員も積極的に参加することとしている。

（２）実施内容

具体的なSD活動については、以下に掲げる項目により行う。

- （１）３つのポリシーに基づく大学の取組の自己点検・評価と内部質保証に関する事項
- （２）教学マネジメントに関わる専門的職員の育成に関する事項
- （３）大学改革に関する事項
- （４）学生の厚生補導に関する事項
- （５）業務領域の知見の獲得を目的とする事項
- （６）その他職員研修企画運営委員会で企画運営することが適当とされる事項

なお、研修会等については、外部団体が主催して行う「学外研修会等」と大学等が独自に企画して開催する「学内研修会等」に大別している。

⑬ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

１ 教育課程内における取組み

本学では、「共通基盤教育」の「キャリア系」を教育課程内における社会的・職業的自立に関する科目群として位置付けており、特に、「キャリア系」に必修科目として配置している「キャリア設計１」１単位、「キャリア設計２」１単位、「キャリア設計３」１単位及び選択科目として配置している「社会人に向けての準備講座」１単位、「企業特別講座」１単位の５科目において、職業人が果たす役割と責任や自覚と態度を身に付けるとともに、職業現場への興味と関心と自らの職業選択に対する意識の涵養を図ることとしている。

なお、教育課程内の取組みにおける組織体制は、教務委員会とキャリア就職委員会による社会的・職業的自立に関する指導等に関する連絡協議会を設けている。

２ 教育課程外における取組み

社会的・職業的自立を図るための教育課程外における取組みとしては、キャリア支援年間計画に基づき、職業興味検査、資格と仕事のセミナー、インターンシップなどの実施により職業観の涵養を図るとともに、各種資格取得講座、国家試験対策講座、キャリア支援講座、就職試験対策講座などによる職業・就職に関する知識・技能の習得を図ることとしている。

また、個別カウンセリング、Uターンガイダンス、仕事に関するガイダンスなどの進路・就職指導及び相談に加えて、企業等採用説明会、国家試験対策講座や国家試験対策指導などを行うこととしており、教育課程外の取組みにおける組織体制としては、キャリア就職委員会及びキャリア就職課が担当することとしている。

資料目次

資料 1 学位授与の方針及び教育課程編成の方針と教育課程の関係図

資料 2 履修モデル

学位授与の方針及び教育課程編成の方針と教育課程の関係図 (情報システム学科)

ディプロマポリシー	カリキュラムポリシー	授業科目 ○内数字は単位数
<p>1 知識・リテラシー</p> <p>① 情報システムの理解に必要な情報、数理の基礎学力を持ち、関連する自然科学や工学の知識や基礎技術を体系的に理解できる。</p> <p>② 情報システム技術者として必要な情報技術、データサイエンスのリテラシーを身に付けている。</p>	<p>① 専門基礎導入科目の講義と演習を通して、情報工学と情報技術の理解に必要な情報と数理の基礎学力を修得する。また、専門基礎科目の講義と演習を通して、情報システムと工学を融合させる技術の理解に必要な工学の基礎学力を修得する。この基礎学力とは、計算のみならず、数理の考え方を身に付けることで、身の回りの事象との関連性を論理的に理解することをいう。以上を踏まえて、情報技術基礎導入科目群(学部共通)と専門基礎科目を修得するとともに、情報システム基礎ユニットを通して、関連する自然科学の知識や基礎技能を体系的に理解する。</p>	<p>＜専門基礎導入・情報技術基礎導入科目群＞</p> <p>プログラミング入門 A③, プログラミング入門 B③, プログラミング入門 C③</p> <p>コンピュータシステム入門①</p> <p>マルチメディア入門①, ソフトウェア入門①, ネットワーク入門①,</p> <p>アルゴリズム入門①, 情報デザイン入門①, データベース入門①,</p> <p>情報セキュリティ入門①,</p> <p>AI/DS 導入ユニット④</p> <p>＜専門基礎導入・情報数理＞</p> <p>線形代数学Ⅰ-a②, Ⅰ-b②, 線形代数学Ⅱ-a②, Ⅱ-b②</p> <p>微分積分学Ⅰ-c③, Ⅰ-d③, 微分積分学Ⅱ-c③, Ⅱ-d③</p> <p>離散数学②</p> <p>＜専門基礎(1年次)＞</p> <p>情報システム概論②</p> <p>情報システムプログラミング基礎③</p>
	<p>② 共通基盤科目の数理情報系分野における ICT(情報通信技術)関連科目を初年次に学修した上で、データサイエンスにおけるリテラシーを身に付ける。さらに、プログラミング科目においては基礎的なプログラミングを学びながら論理的な思考力を修得する。特に、学科固有の専門基礎科目については、必要なデータ処理やプログラミングを通して、現代の情報技術者としての実践的な技能を身に付ける。</p>	<p>＜共通基盤・導入系＞</p> <p>アカデミック ICT スキル①, 専門分野概論①, 理工学入門①</p> <p>＜共通基盤・数理情報系＞</p> <p>身の回りの数学②, 実感する科学②,</p> <p>情報・AI リテラシー(情報基礎)②, AI とデータサイエンス(情報応用)②</p> <p>＜専門基礎(1年次)＞</p> <p>情報システムのための電気電子回路②</p> <p>情報システムのための力学②</p>

<p>2 課題解決力</p> <p>③ 基礎知識と技能を活用し、多面的な視点から物事を考え、情報システム、情報技術に関する課題を発見し解決するとともに、新たな価値形成を見出すことができる。</p> <p>④ 情報システム分野に関する知識を体系化し、他者との考察をもとに論理的にかつ発展的に導出した応用課題や目標に対して、多面的な視野のもとで解決を行い、成果を論理的に説明する能力を身に付けている。</p>	<p>③ 専門科目の基礎ユニットでは、多面的で多角的な視点から物事を考え、情報工学や情報技術さらに工学に関する問題を解決する過程を学ぶ。学科固有の専門科目ではコンピュータを利用しながら情報システムの構築に必要な技術を学ぶ。また、基礎ユニットおよび専門科目内でのレポート課題をまとめる過程で、様々な事象と講義で得た知識を関連付けて考えることができる能力を身に付ける。学ぶ領域は、情報工学全般、ロボット、ライフサポートシステムの各分野から選択する。</p> <p>④ 主に情報システム応用ユニットや情報システム専門ユニットを通して、情報工学、機械工学、電気・電子工学、さらに人間科学の知識や技術を体系化し、発見した課題についての分析的な問題解決能力を修得する。さらに、卒業研究では研究計画の立案や必要な調査を主体的に行い、そして、報告書の作成や発表を通して、第三者にその内容を論理的かつわかりやすく伝える能力を身に付ける。</p>	<p><専門基礎（2年次）> 情報システム工学Ⅰ②、情報システム工学Ⅱ②、 シミュレーション設計技法Ⅰ②、シミュレーション設計技法Ⅱ②、 IoTシステム②、情報通信技術② 画像情報処理②、ビッグデータ解析② 情報システムと人間科学② <専門（3年次）> 情報システムセキュリティ②、サイバー空間技術②、次世代通信技術② システム制御②、情報システムの社会実装② 組み込みアプリケーション入門②、組み込みシステム入門② ロボットメカニズム②、ロボットとAI②、センシングシステム② 組み込みアプリケーション開発②、組み込みシステム設計② ヒューマンコンピュータインタラクション② ヘルスケアシステム② <基礎ユニット（2年次）> 情報システム基礎ユニットⅠ③、情報システム基礎ユニットⅡ③</p> <p>情報システム応用ユニット④ 情報システム専門ユニット④ 卒業研究Ⅰ③ 卒業研究Ⅱ③</p>
<p>3 学修に向き合う力、情報技術者としての人間性</p> <p>⑤ 情報技術者及び社会人として活躍するためのコミュニケーション</p>	<p>⑤ 社会人として必要な教養は共通基盤科目全般で学び、特に情報工学に関する技術者像はキャリア系科目などを通して学ぶ。その上で、社会で役立つ技</p>	<p><共通基盤・キャリア系> キャリア設計Ⅰ～Ⅲ（各①）、社会人に向けての準備講座①、企業特別講座① インターシップⅠ～Ⅱ（各②）、課題解決型インターシップ②、産学連携プロジェクト②</p>

<p>能力、プレゼンテーション能力を有し、他者と協働して目標を実現する力を身に付けている。</p> <p>⑥ 主体的な学修・探究活動・実験実習による検証等に取り組む姿勢を身に付けている。また、情報技術者としての社会的責任を理解し、情報技術者としての倫理観を身に付けている。</p>	<p>術者として必要な能力を理解するとともに、専門基礎科目および専門科目のユニットプログラムでの実践を通して、他者と協働してコミュニケーションを取りながら課題を解決する能力を身に付ける。特に、情報学分野ではコミュニケーション能力が重要となるため、専門基礎導入科目の情報社会系科目を通してこれらを学ぶ。</p>	<p>＜共通基盤＞</p> <p>スタディスキル①</p> <p>現代社会講座②</p> <p>人文社会系 a 群, b 群, c 群の科目 (各②)</p> <p>健康・スポーツ系の科目 (各①)</p> <p>英語 I ～ V (各①), 言語応用系 a 群 (各①), b 群の科目 (各②)</p> <p>＜専門基礎導入・情報社会系＞</p> <p>情報社会のコミュニケーション②</p> <p>情報と人間②</p>
	<p>⑥ 情報システムの設計・開発に関連する科目では、情報技術の応用やコンピュータの利用だけでなく、継続的に粘り強い取り組みの重要性を理解する。将来の技術者としての倫理観は共通基盤の倫理系の科目を中心に学び、専門基礎導入科目の情報社会系科目でも学ぶとともに、卒業研究における総合的な学びの中で身に付ける。さらに、研究活動を行う能動的な態度を活かしながら、情報技術者として必要な探究力を身に付ける。</p>	<p>＜共通基盤・倫理系＞</p> <p>技術者倫理②</p> <p>＜専門基礎導入・情報社会系＞</p> <p>情報法規と情報モラル②, 情報社会と情報倫理②, 情報と知的財産権②</p> <p>＜専門・卒業研究関係＞</p> <p>卒研セミナー I ①, 卒研セミナー II ①</p>

教育上の目的及び養成する人材等

【教育上の目的】

教育研究を対象とする中心的な学問分野を「情報学分野」として、「情報と情報技術に関する基礎的な知識と技術の習得のもと、情報システムの機能と構造の理解並びに情報システムの開発や設計に関する基礎的な知識と技法を習得させる」ことを教育研究上の目的としている。

【養成する人材】

「情報学分野」に関する教育・研究を通して、「情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して、情報システムの利用や開発及び管理などに関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決することができる人材を養成する」こととしている。

【学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

1 知識・リテラシー

- ① 情報システムの理解に必要な情報、数理の基礎学力を持ち、関連する自然科学や工学の知識や基礎技術を体系的に理解できる。
- ② 情報システム技術者として必要な情報技術、データサイエンスのリテラシーを身に付けている。

2 課題解決力

- ③ 基礎知識と技能を活用し、多面的な視点から物事を考え、情報システム、情報技術に関する課題を発見し解決するとともに、新たな価値形成を見出すことができる。
- ④ 情報システム分野に関する知識を体系化し、他者との考察をもとに論理的にかつ発展的に導出した応用課題や目標に対して、多面的な視野のもとで解決を行い、成果を論理的に説明する能力を身に付けている。

3 学修に向き合う力、情報技術者としての人間性

- ⑤ 情報技術者及び社会人として活躍するためのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を有し、他者と協働して目標を実現する力を身に付けている。
- ⑥ 主体的な学修・探究活動・実験実習による検証等に取り組む姿勢を身に付けている。また、情報技術者としての社会的責任を理解し、情報技術者としての倫理観を身に付けている。

【教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）】

1 知識・リテラシー

- ① 専門基礎導入科目の講義と演習を通して、情報工学と情報技術の理解に必要な情報と数理の基礎学力を修得する。また、専門基礎科目の講義と演習を通して、情報システムと工学を融合させる技術の理解に必要な工学の基礎学力を修得する。この基礎学力とは、計算のみならず、数理の考え方を身に付けることで、身の回りの事象との関連性を論理的に理解することをいう。以上を踏まえて、情報技術基礎導入科目群（学部共通）と専門基礎科目を修得するとともに、情報システム基礎ユニットを通して、関連する自然科学の知識や基礎技能を体系的に理解する。

- ② 共通基盤科目の数理情報系分野における ICT（情報通信技術）関連科目を初年次に学修した上で、データサイエンスにおけるリテラシーを身に付ける。さらに、プログラミング科目においては基礎的なプログラミングを学びながら論理的な思考力を修得する。特に、学科固有の専門基礎科目については、必要なデータ処理やプログラミングを通して、現代の情報技術者としての実践的な技能を身に付ける。

＜学修成果の評価方法＞ 共通基盤教育科目、専門基礎導入科目、そして専門基礎科目における試験、小テスト、レポート、演習で評価する。

2 課題解決力

- ③ 専門科目の基礎ユニットでは、多面的で多角的な視点から物事を考え、情報工学や情報技術さらに工学に関する問題を解決する過程を学ぶ。学科固有の専門科目ではコンピュータを利用しながら情報システムの構築に必要な技術を学ぶ。また、基礎ユニットおよび専門科目内でのレポート課題をまとめる過程で、様々な事象と講義で得た知識を関連付けて考えることができる能力を身に付ける。学ぶ領域は、情報工学全般、ロボット、ライフサポートシステムの各分野から選択する。

- ④ 主に情報システム応用ユニットや情報システム専門ユニットを通して、情報工学、機械工学、電気・電子工学、さらに人間科学の知識や技術を体系化し、発見した課題についての分析的な問題解決能力を修得する。さらに、卒業研究では研究計画の立案や必要な調査を主体的に行い、そして、報告書の作成や発表を通して、第三者にその内容を論理的かつわかりやすく伝える能力を身に付ける。

＜学修成果の評価方法＞ ユニットプログラムでは、課題達成状況やその到達プロセス、プレゼンテーションなどにより多面的に評価する。卒業研究では、卒業論文のまとめ方、そして複数の教員による発表審査結果を総合的にルーブリックで評価する。

3 学修に向き合う力、情報技術者としての人間性

- ⑤ 社会人として必要な教養は共通基盤科目全般で学び、特に情報工学に関する技術者像はキャリア系科目などを通して学ぶ。その上で、社会で役立つ技術者として必要な能力を理解するとともに、専門基礎科目および専門科目のユニットプログラムでの実践を通して、他者と協働してコミュニケーションを取りながら課題を解決する能力を身に付ける。特に、情報学分野ではコミュニケーション能力が重要となるため、専門基礎導入科目の情報社会系科目を通してこれらを学ぶ。

- ⑥ 情報システムの設計・開発に関連する科目では、情報技術の応用やコンピュータの利用だけでなく、継続的に粘り強い取り組みの重要性を理解する。将来の技術者としての倫理観は共通基盤の倫理系の科目を中心に学び、専門基礎導入科目の情報社会系科目でも学ぶとともに、卒業研究における総合的な学びの中で身に付ける。さらに、研究活動を行う能動的な態度を活かしながら、情報技術者として必要な探究力を身に付ける。

＜学修成果の評価方法＞ 倫理系科目やキャリア系科目および専門基礎導入科目の情報社会系科目では、小テストやレポートで内容の理解度を評価する。卒業研究では、活動状況（計画立案、遂行状況、コミュニケーション等）を総合的にルーブリックで評価する。

【履修モデル】

「情報学分野」に関する教育・研究を通して、「情報技術のロボットへの応用」「情報技術のライフサポートシステムへの応用」の能力を有した人材を養成するモデル。

神奈川工科大学 情報学部 情報システム学科 履修モデルA（情報技術のロボットへの応用に関心のある学生）

科目群		1年次（令和6年度）		2年次（令和7年度）		3年次（令和8年度）		4年次（令和9年度）			
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
共通基盤	導入系[3]	アカデミックICTスキル	1								
	導入系	専門分野概論	1								
	導入系	スタディスキル	1								
	倫理系[2]					技術者倫理	2				
	人文社会[8]		現代社会講座	2		社会の科学	2	心理学	2		
	健康・スポーツ系[1]		健康・スポーツ科学実習Ⅰ	1							
	英語基礎系[3]	英語Ⅱ	1	英語Ⅲ	1	英語Ⅳ	1				
	言語応用系[4]				日本語表現技術	2		科学技術英語Ⅰ	1		
	科学技術英語Ⅱ	1									
	数理情報系[6]	実感する科学	2			身の回りの数学	2				
	数理情報系	情報・AIリテラシー（情報基礎）	2								
	キャリア系[5]		キャリア設計Ⅰ	1	キャリア設計Ⅱ	1	課題解決型インターシップ	2	キャリア設計Ⅲ	1	
小計	8	5	4	6	6	3	0	0			
専門基礎導入	専門基礎導入	プログラミング入門A	3	プログラミング入門C	3	AI/DS導入ユニット	4		情報と知的財産権	2	
		プログラミング入門B	3	アルゴリズム入門	1	線形代数学Ⅱ	2				
		コンピュータシステム入門	1	情報デザイン入門	1	微分積分学Ⅰ	3	微分積分学Ⅱ	3		
		マルチメディア入門	1	データベース入門	1						
		ソフトウェア入門	1	情報セキュリティ入門	1						
		ネットワーク入門	1	線形代数学Ⅰ	2						
	小計	10	9	9	3	0	2	0	0		
専門基礎		情報システム概論	2	情報システムプログラミング基礎	3	情報システム基礎ユニットⅠ	3	情報システム基礎ユニットⅡ	3		
			情報システムのための電気電子回路	2	IoTシステム	2	画像情報処理	2			
			情報システムのための力学	2	情報通信技術	2	ビッグデータ解析	2			
					シミュレーション設計技法Ⅰ	2	シミュレーション設計技法Ⅱ	2			
	小計	2	7	9	9	0	0	0	0		
専門						情報システム応用ユニット	4	情報システム専門ユニット	4	卒研セミナーⅠ	1
						センシングシステム	2	ロボットとAI	2	卒業研究Ⅰ	3
						卒業研究Ⅱ	3				
						ロボットメカニズム	2	システム制御	2		
						組み込みアプリケーション入門	2	組み込みアプリケーション開発	2		
						組み込みシステム入門	2	組み込みシステム設計	2		
	小計	0	0	0	0	12	12	4	4		
合計	20	21	22	18	18	17	4	4			
年次別合計	41			40			35			8	
卒業単位	124										

神奈川工科大学 情報学部 情報システム学科 履修モデルB（情報技術のライフサポートシステムへの応用に関心のある学生）

科目群		1年次（令和6年度）		2年次（令和7年度）		3年次（令和8年度）		4年次（令和9年度）							
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
共通基盤	導入系[3]	アカデミックICTスキル	1												
	導入系	専門分野概論	1												
	導入系	スタディスキル	1												
	倫理系[2]						技術者倫理	2							
	人文社会[8]		現代社会講座	2		心の科学	2	社会学	2	心理学	2				
	健康・スポーツ系[1]		健康・スポーツ科学実習Ⅰ	1											
	英語基礎系[3]	英語Ⅱ	1	英語Ⅲ	1	英語Ⅳ	1								
	言語応用系[4]				日本語表現技術	2		科学技術英語Ⅰ	1	科学技術英語Ⅱ	1				
	数理情報系[6]	実感する科学	2			身の回りの数学	2								
	数理情報系	情報・AIリテラシー（情報基礎）	2												
	キャリア系[5]		キャリア設計Ⅰ	1	キャリア設計Ⅱ	1	課題解決型インターシップ	2	キャリア設計Ⅲ	1					
	小計	8	5	4	6	4	5	0	0						
専門基礎導入	専門基礎導入	プログラミング入門A	3	プログラミング入門C	3	AI/DS導入ユニット	4	情報社会のコミュニケーション	2	情報と人間	2				
		プログラミング入門B	3	アルゴリズム入門	1	線形代数学Ⅱ	2	情報法規と情報モラル	2	情報と知的財産権	2				
		コンピュータシステム入門	1	情報デザイン入門	1	微分積分学Ⅰ	3	微分積分学Ⅱ	3						
		マルチメディア入門	1	データベース入門	1										
		ソフトウェア入門	1	情報セキュリティ入門	1										
		ネットワーク入門	1	線形代数学Ⅰ	2										
	小計	10	9	9	3	4	4	0	0						
専門基礎		情報システム概論	2	情報システムプログラミング基礎	3	情報システム基礎ユニットⅠ	3	情報システム基礎ユニットⅡ	3						
				情報システムのための電気電子回路	2	IoTシステム	2	画像情報処理	2						
				情報システムのための力学	2	情報通信技術	2	ビッグデータ解析	2						
								情報システムと人間科学	2						
	小計	2	7	7	9	0	0	0	0						
専門								情報システム応用ユニット	4	情報システム専門ユニット	4	卒研セミナーⅠ	1	卒研セミナーⅡ	1
								センシングシステム	2	ヘルスケアシステム	2	卒業研究Ⅰ	3	卒業研究Ⅱ	3
								サイバー空間技術	2	情報システムの社会実装	2				
								情報システムセキュリティ	2						
								ヒューマンコンピュータインタラクション	2						
	小計	0	0	0	0	12	8	4	4						
合計		20	21	20	18	20	17	4	4						
年次別合計		41		38		37		8							
卒業単位		124													

(1) 学生確保の見通し及び申請者としての取組状況

ア 大学等の現状把握・分析

急速に少子高齢化が進み、人口減少社会における労働力不足が懸念されている現代社会においては、質の高い教育を通じて、多様な能力を持つ人材の養成が不可欠であることから、大学においては、大学の特徴や強みを最大限に活かすかたちで、それぞれの役割や機能に応じて、教育力や研究力の向上につながる改革にスピード感をもって取り組むことが重要であると考えている。

このことから、時代の変化と社会の要請に柔軟に対応しつつ、大学における教育・研究の質の維持や向上への積極的な取り組みとして、既設の情報学部と創造工学部において展開してきた教育内容を基盤として、その教育課程及び教員組織並びに施設設備等を基礎としつつ、当該分野の教育・研究力のさらなる向上に向けて、既設の情報学部情報システム学科を設置することとした。

イ 地域・社会的動向等の現状把握・分析

現代社会では、コンピュータの処理能力やネットワーク技術の向上に伴い、コンピュータの活用も大きく変化しており、通信技術の発達による複数の情報システムを連携させた、新たな社会生活上のサービスや価値が生まれるようになってきていることから、情報システムの発展と社会の変化に対応した新たな考え方や能力が必要となっている。

このような情報化社会を取り巻く環境の変化を踏まえたうえで、本学の情報学分野における教育研究体制のより一層の充実と機能の強化に向けて、既設の情報学部と創造工学部において展開してきた情報学分野に関する教育研究実績を基盤として、令和6年4月より、既設の情報学部新たに情報システム学科を設置することとした。

ウ 新設学科等の趣旨目的、教育内容、定員設定等

1 新設学科等の趣旨目的

情報システム学科では、組織として教育研究対象とする中心的な学問分野を「情報学分野」として、「情報と情報技術に関する基礎的な知識と技術の習得のもと、情報システムの機能と構造の理解並びに情報システムの開発や設計に関する基礎的な知識と技法を習得させる」ことを教育研究上の目的としている。

また、情報システム学科では、「情報学分野」に関する教育・研究を通して、「情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して、情報システムの利用や開発及び管理などに関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決することができる人材を養成する」こととしている。

2 アやイで分析した課題に対して新設学科等がどのように貢献できるのか

情報システム学科の設置は、高等教育を取り巻く社会環境の変化及び進学希望者の動向や進学意向を踏まえたものであり、「ア」において課題として掲げている「教育力や研究力の向上につながる改革」に貢献できるものであり、「当該分野のさらなる教育・研究力の向上」に貢献できるものである。

また、情報システム学科の設置は、情報化社会の進展を踏まえたものであり、「イ」に

において課題として掲げている「新たな社会生活上のサービスや価値の創造」に貢献できるとともに、「情報システムの発展と社会の変化への対応」に貢献できるものであると考えている。

3 定員設定の理由

定員設定の理由は、学生確保の見通しの調査結果、新設学部等の分野の動向、中長期的な18歳人口の地域的動向等、競合校の状況、既設学部等の学生確保の状況などを総合的に勘案するとともに、情報システム学科における教員組織、教育課程、施設設備及び学科運営に係る財務的な視点等を勘案したうえで、教育の質の保証の観点から、充実した教育研究体制の確保が可能となるよう配慮し、入学定員を80名としている。

4 今、学科等を新設しなければいけない理由

今般、設置を計画している情報システム学科は、情報学分野における高等教育機関として長年にわたり培ってきた教育研究実績をもとに、現代社会において喫緊の課題とされているコンピュータを活用した新たな社会生活上のサービスや価値の創造への対応にむけた教育研究組織として設置するものであり、高度情報化社会における情報技術の進展への貢献を目指すものである。

5 新設学科等の入学金、授業料等の学生納付金の額と設定根拠

情報システム学科の学生納付金の額は、入学金20万円、授業料141万8千円としており、学生納付金の設定根拠は、大学及び学部運営に係る財務的な視点と学生納付金の学生への還元など受益者に対する説明責任の視点を踏まえるとともに、競合が想定される教育組織を設置している私立大学（東京電機大学、東京都市大学、埼玉工業大学）の学生納付金の設定状況を勘案したうえで、完成年度における教育研究経費比率や教育活動支出依存率を見極めつつ、学科の運営上における人件費及び教育研究や管理運営に係る経常経費等の財務予測による実質的な採算分岐点に基づく金額として設定としている。（資料1）

エ 学生確保の見通し

A. 学生確保の見通しの調査結果

（1）進学需要調査結果

情報システム学科の設置計画を策定するにあたり、定員充足の見込みについて客観的な根拠となるデータから検証することを目的として、本学への受験実績や進学実績のある高等学校を中心とする2年生に対する進学意向に関するアンケート調査を実施した。

その結果、高等学校卒業後の進路について「大学進学（4年制・6年制）」と回答した者で、進学する分野について「工学・理学関係」と回答した者のうち、神奈川工科大学の情報システム学科に「興味・関心がある」と回答し、神奈川工科大学に情報システム学科が設置された場合「受験を希望する」と回答した者で、情報システム学科に合格した場合「入学を希望する」と回答した2年生は94人となっている。

このように、本学への受験実績や進学実績がある一部の高等学校の2年生に限定した調査結果においても、情報システム学科の入学定員を上回る進学意向が確認されたこと

から、学生確保については十分な見通しがあると考えられる。(資料2)

B. 新設学部等の分野の動向

日本私立学校振興・共済事業団の「私立大学・短期大学等入学志願動向」の「主な学部別の志願者・入学者動向」における「理・工学系（情報科学部）」による最近4年間（令和元年度～令和4年度）の入学定員に対する志願者数と志願倍率の平均は、入学定員1,071人に対して志願者数は29,520人、志願倍率は27.6倍となっており、入学定員充足率の平均は108.91%と安定した状況となっている。

このように、今般、設置を計画している情報システム学科と同分野の「理・工学系（情報科学部）」における最近の全国的な志願者及び入学者の動向からも、情報学分野における安定的な志願者数と入学者数の状況が見られることから、学生確保においては十分な見込みがあると考えられる。(資料3)

C. 中長期的な18歳人口の全国的、地域的動向等

(1) 設置県内の高等学校及び中学校の在籍者数による中長期的な見通し

令和4年度の神奈川県内の学校基本調査によると、情報システム学科の設置初年度に受験対象者となる神奈川県内の高等学校に在籍している1年生の生徒数は64,451人、2年目に受験対象者となる神奈川県内の中学校に在籍している3年生の生徒数は76,058人となっている。

また、3年目に受験対象者となる2年生の生徒数は75,086人で、4年目に受験対象者となる1年生の生徒数は74,236人で、神奈川県内の中学校を卒業した者の高等学校等への令和4年度の進学率99.2%を勘案した場合、今後、神奈川県内の大学受験対象者が大きく減少することはないと、中長期的な学生確保の見通しがあると考えられる。(資料4)

(2) 神奈川県の人口動向等 一年齢別人口による中長期的な見通し

18歳人口が減少する中で、神奈川県における学齢人口の減少は比較的緩やかな傾向が示されており、神奈川県が公表している令和4年の年齢（5歳階級）別推計人口をみると、14歳～10歳の人口は383,591人、9歳～5歳の人口は362,880人となっており、今後の大学受験対象者となる14歳～5歳までの年齢別人口は、微増減を繰り返しながら穏やかに推移していくことから、中長期的にみても大学受験対象者が急激に減少することはないものと見込まれる。(資料5)

(3) 神奈川県内の高等学校を卒業した者の大学進学状況による見通し

令和4年度の神奈川県内の学校基本調査によると、神奈川県内の高等学校を卒業した者の過去4年間の大学進学状況は、平成31年3月は卒業者66,605人のうち大学等進学者は40,427人で大学進学率は60.7%、令和2年3月は卒業者65,684人のうち大学進学者は40,003人で大学進学率は60.9%、令和3年3月は卒業者65,293人のうち大学進学者は41,218人で大学進学率は63.1%、令和4年3月は卒業者64,786人のうち大学進学者は42,779人で大学進学率は66.

0%となっている。

また、神奈川県内の高等学校を卒業した者の過去4年間の大学進学率については、平成31年3月の60.7%から令和4年3月では66.0%と5.3ポイント上昇していることから、今後、神奈川県内の大学進学者が大きく減少することはない、中長期的な学生確保の見通しがあるものと思われる。（資料6）

（4）神奈川県内の高等学校を卒業した者の入学状況

情報システム学科を設置する情報学部における最近4年間の入学者の状況をみると、神奈川県内の高等学校を卒業した者の割合は、入学者総数1,966人の約43.9%にあたる864人となっており、最近4年間の入学者数の状況をみても、神奈川県内の高等学校を卒業した者の入学者の傾向は続くものと見込まれ、先に記した神奈川県内の高等学校及び中学校の在籍者数、高等学校を卒業した者の大学進学状況等と併せてみた場合、中長期的にも安定した志願者と入学者の確保を見込むことができると考えられる。

（資料7）

D. 競合校の状況

情報システム学科との競合が想定される東京電機大学のシステムデザイン工学部の情報システム工学科における最近4年間の志願者等の状況を見ると、入学定員130人に対して志願者数の平均は3,032人で定員充足率の平均は113.9%となっている。

また、情報システム学科との競合が想定される東京都市大学のメディア情報学部の情報システム学科における最近4年間の志願者等の状況を見ると、入学定員の平均95人に対して志願者数の平均は1,650人で定員充足率の平均は112.7%となっている。

さらに、情報システム学科との競合が想定される埼玉工業大学の工学部の情報システム学科における最近4年間の志願者等の状況を見ると、入学定員150人に対して志願者数の平均は2,617人で定員充足率の平均は151.5%となっている。

このように、情報システム学科との競合が想定される私立大学の類似学科では、18歳人口の減少期においても安定した志願者数の確保と定員充足率を維持しており、競合が想定される私立大学の志願者動向等からも定員充足を見込むことができると考えられる。

（資料8）

E. 既設学部等の学生確保の状況

今般、情報システム学科を設置する情報学部の最近4年間の入学定員（440人）に対する志願者数の平均は約3,770人、定員充足率の平均は約113.3%となっており安定した学生確保の状況を維持している。（資料9）

また、本学の既設の学部・学科における最近4年間の志願者数及び入学定員に対する志願者の割合並びに定員充足率等は、別添の資料10の通りとなっており、安定した学生確保の状況を維持していることから、情報システム学科を設置した場合でも、学生確保を見込むことができると考えている。（資料10）

オ 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

(5) 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

学生確保に向けた具体的な取組状況は、大学案内、各種イベント告知チラシ等の印刷物の配布をはじめ、ホームページや高校生向けの SNS 等の電子媒体による情報の提供、進学情報誌等の各種メディアを活用した PR 活動を行うとともに、資料請求者に対するダイレクトメールによる各種情報の提供を行うことを予定している。また、高等学校訪問、オープンキャンパス、受験相談会や高等学校の教諭および塾・予備校向け説明会等の開催、各地域における進学相談会への参加を通じて、学部・学科の理念、養成する人材像、学位授与方針・教育課程編成の方針・入学者の受入方針、学生生活を通じた活動や想定される進路等の様々な教育情報について、設置圏域を中心とする 高校生や保護者、高等学校の教諭に対して広く周知を図ることとしている。

1 高等学校訪問

高等学校訪問を中心とする個別募集活動に向けた募集戦略（昨年度実績延べ5, 293校）は、今後も 強化を図ることとしている。 具体的には、募集広報に係る高等学校訪問を専門とする企画入学課の広報担当職員の下で、神奈川県を中心に主に東日本地域の最重点訪問校や重点訪問校のセグメントによる高等学校訪問計画の策定、指定高校枠の設定により確実な入学者の確保を目指すこととする。 高等学校訪問は、募集対象者が多数在籍している高等学校の教諭に対して、本学の様々な教育情報を直接的に周知することができるとともに、継続的な訪問活動を行うことで高等学校教諭との信頼関係が構築できた場合には、高等学校内での生徒に対する進学説明会の実施をはじめ、当該専門分野に進学を希望している生徒の紹介をしてもらえる等の効果が期待される。 また、高等学校からの要請に応じ、出張授業を実施する本学教員が高等学校に赴き、大学で学ぶ 学問をわかりやすく生徒に講義することで、専門的知識を深めることの興味・関心を喚起するとともに、大学で学ぶ意義を理解してもらう。（資料11）

2 オープンキャンパス

本学への入学を希望・考慮している高校生やその保護者を対象として、施設内を積極的に公開し、 本学への関心を深めてもらうための入学促進イベントとして、オープンキャンパスの実施を予定している。専任教員による模擬授業、在学生や教員による研究活動の紹介、キャンパスツアー、大学説明会、各学科プログラム、保護者向け説明会、学生スタッフ企画、大学で学べる学問内容、取得可能資格、入学者選抜制度、大学生活についての個別相談や質問を受け付ける等、受験生や保護者との対面による丁寧な説明を行うことにより、本学への関心を深めてもらうとともに、よりミスマッチの少ない学生を入学させることの効果が期待される。また、オープンキャンパスの他に、本学ホームページにおいてオンラインによる個別相談を可能にしており受験生、保護者からの質問に応じられるようにする他、個別キャンパスツアーやミニオープンキャンパスなど、本学の教育・研究活動等に関する理解を深めてもらう企画を通じ、本学

への進路決定を促すことへの機会とする。(資料12)

3 高校、塾・予備校教員向け説明会

高等学校および塾・予備校の教員を対象とする説明会を開催する予定としており、学長による大学紹介、学部・学科別の個別説明、入試概要、大学施設の見学など、高等学校の教員と本学の教職員との対面による丁寧な説明を行うこととしており、本学の教育・研究活動等に関する理解を深めてもらうための情報提供の機会を設けることにより、高等学校の教員が本学への進学を希望する生徒に対する進路指導の際に役立ててもらふことの効果が期待される。(資料13)

4 進学相談会

全国の主要な都市で開催される民間業者が主催する進学相談会への参加を予定しており、大学・学部資料の配付、学位授与の方針・教育課程編成の方針・入学者受入の方針、授業科目や講義等の内容、想定される卒業後の進路などに関する情報を広く提供することにより、広域から学生を確保することの効果が期待される。(資料14)

(2) 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

情報システム学科では、組織として教育研究対象とする中心的な学問分野を「情報学分野」として、「情報と情報技術に関する基礎的な知識と技術の習得のもと、情報システムの機能と構造の理解並びに情報システムの開発や設計に関する基礎的な知識と技法を習得させる」ことを教育研究上の目的としている。

また、情報システム学科では、「情報学分野」に関する教育・研究を通して、「情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して、情報システムの利用や開発及び管理などに関する課題を発見し、合理的かつ創造的に解決することができる人材を養成する」こととしている。

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

1 基礎となる学科における求人状況及び就職状況

情報システム学科を設置する情報学部に対する最近4年間の求人件数は、令和元年度40,980件、令和2年度38,492件、令和3年度36,583件、令和4年度42,336件となっており、昨今の就職難の状況下においても大きな影響を受けることなく、多数の求人件数を得ている。

また、情報学部の過去4年間の就職実績は、令和元年度は就職希望者342人に対して就職者数336人で就職率は約98.2%、令和2年度は就職希望者297人に対して就職者数282人で就職率は約94.9%、令和3年度は就職希望者308人に対して就職者数296人で就職率は約96.1%、令和4年度は就職希望者348人に対して就職者数325人で就職率は約93.4%となっており、高い就職率で推移している。

このことは、情報学部における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的が、人材需要の動向等社会の要請を踏まえたものであることの裏付けとなるものであり、今

般、設置を計画している情報システム学科は、情報学分野の高度技術社会に一層貢献できる教育組織として設置することから、卒業後の進路については十分に見込めるものと考えられる。(資料 15)

2 人材需要調査結果

今般、情報システム学科の設置計画を策定するうえで、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的が、人材需要の動向等社会の要請を踏まえたものであることを客観的根拠となるデータから検証することを目的として、これまで本学への求人実績や卒業生の採用実績がある企業等を対象として、情報システム学科の卒業生に対する人材需要に関するアンケート調査を実施した。

その結果、調査対象企業等における今後の人材の採用見込については、調査票回収件数 101 件の約 86.1%にあたる 87 件が「増加すると思う」と回答していることから、今後における人材の採用見込みの高さをうかがうことができる。

情報システム学科で養成する人材の必要性については、調査票回収件数 101 件の約 99.0%にあたる 100 件が「必要性を感じる」と回答していることから、情報システム学科で養成する人材の必要性の高さをうかがうことができる結果となっている。

また、情報システム学科で学んだ卒業生の採用については、調査票回収件数 101 件の 100.0%にあたる 101 件が「採用したいと思う」と回答しており、情報システム学科で学んだ卒業生への採用に積極的な意向を示している。

さらに、情報システム学科の卒業生を「採用したいと思う」と回答した調査対象企業等の単年度当りの採用人数については、「1 人」と回答したのが 8 件、「2 人」と回答したのが 15 件、「3 人以上」と回答したのが 23 件、「人数は未定」と回答したのが 55 件となっており、採用人数「3 人以上」と回答した企業等の採用人数を 3 人、「人数は未定」と回答した企業等の採用人数を 1 人として、これらの採用人数を合計すると 162 人となり、この採用人数からも情報システム学科で学んだ卒業生に対する採用意向の高さをうかがうことができる。

このような本学への求人実績や卒業生の採用実績がある一部の企業等に限定した調査結果においても、情報システム学科で学んだ卒業生への採用意向の高さがうかがえることから、卒業後の進路については十分な見通しがあると考えられる。(資料 16)

資料目次

- 資料 1 競合が想定される私立大学の学生納付金

- 資料 2 進学需要等調査 ー抜粋ー
 (進学需要等に関するアンケート調査結果報告書)

- 資料 3 主な学部別の志願者・入学者動向 (大学)

- 資料 4 神奈川県内の高等学校及び中学校の在籍者数

- 資料 5 神奈川県の人口動向等

- 資料 6 神奈川県内の高等学校を卒業した者の大学進学状況

- 資料 7 神奈川県内の高等学校を卒業した者の入学状況

- 資料 8 競合が想定される私立大学の志願者等の動向

- 資料 9 基礎となる学部・学科の志願者等の動向

- 資料 10 既設学部・学科の学生確保の状況

- 資料 11 高等学校訪問の具体的計画について

- 資料 12 オープンキャンパスの具体的計画について

- 資料 13 高等学校教員説明会（塾予備校含む）等の具体的計画について

- 資料 14 進学相談会の具体的計画について

- 資料 15 基礎となる学部・学科の就職状況等

- 資料 16 人材需要等調査 ー抜粋ー
 (進学需要等に関するアンケート調査結果報告書)

【資料１（本文Ｐ２）】

競合が想定される私立大学の学生納付金

大学・学部等名	入学金	授業料等	合計
神奈川工科大学大学 情報学部 情報システム学科	200,000 円	1,418,000 円	1,618,000 円

大学・学部等名	入学金	授業料等	合計
東京電機大学 システムデザイン工学部 情報システム工学科	250,000 円	1,421,160 円	1,673,160 円
東京都市大学 メディア情報学部 情報システム学科	200,000 円	1,350,000 円	1,550,000 円
埼玉工業大学 工学部 情報システム学科	250,000 円	1,404,000 円	1,654,000 円

進学需要等に関するアンケート調査　―抜粋―

◇高等学校卒業後の進路

神奈川工科大学への受験実績や進学実績がある高等学校の2年生に、高等学校卒業後の進路について質問したところ、回答者数2,587人の約81.8%にあたる2,117人が「大学進学（4年制・6年制）」「短期大学進学」「専門学校進学」と回答しており、そのうち「大学進学」と回答している者は、回答者数2,587人の約65.7%にあたる1,699人となっている。

問1 高等学校卒業後の進路

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	大学進学（4年制・6年制）	1,699	65.7
2	短期大学進学	40	1.5
3	専門学校進学	378	14.6
4	就職	436	16.9
5	その他	31	1.2
	未回答・不明	3	0.1
	合計	2,587	100.0

◇進学を希望する分野

神奈川工科大学への受験実績や進学実績がある高等学校の２年生に、高等学校卒業後に進学をする場合、どの分野を希望するかについて質問したところ、第１希望においては「工学・理学関係」と回答した者が回答者数 2,587 人の約 29.0%にあたる 749 人で最も多く、次いで「経済学・経営学関係」と回答した者が約 9.5%にあたる 247 人、「文学・史学・哲学関係」と回答した者が約 8.7%にあたる 224 となっている。

問２ 進学を希望する分野

No.	カテゴリ	第１希望		第２希望	
		件数／人	全体／%	件数／人	全体／%
1	文学・史学・哲学関係	224	8.7	198	7.7
2	教育学・保育学関係	172	6.6	235	9.1
3	法学・政治学関係	50	1.9	132	5.1
4	社会学・福祉学関係	68	2.6	135	5.2
5	経済学・経営学関係	247	9.5	319	12.3
6	工学・理学関係	749	29.0	220	8.5
7	医学・歯学・薬学関係	87	3.4	169	6.5
8	食物学・栄養学関係	128	4.9	151	5.8
9	家政学・生活科学関係	22	0.9	60	2.3
10	美術学・音楽学関係	104	4.0	206	8.0
11	健康学・スポーツ学関係	182	7.0	216	8.3
12	医療技術学関係	59	2.3	120	4.6
13	看護学関係	148	5.7	70	2.7
14	その他	245	9.5	129	5.0
	未回答・不明	102	3.9	227	8.8
	合計	2,587	100.0	2,587	100.0

◇神奈川工科大学の情報システム学科への興味・関心

神奈川工科大学への受験実績や進学実績がある高等学校の2年生に、神奈川工科大学の情報システム学科への興味・関心について質問したところ、回答者数 2,587 人の約 24.0%にあたる 621 人が「興味・関心がある」と回答しており、神奈川工科大学の情報システム学科への興味・関心の高さをうかがうことができる。

問3 神奈川工科大学の情報システム学科への興味・関心

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	興味・関心がある	621	24.0
2	興味・関心がない	1,928	74.5
	未回答・不明	38	1.5
	合計	2,587	100.0

◇神奈川工科大学の情報システム学科の受験希望

神奈川工科大学への受験実績や進学実績がある高等学校の2年生に、神奈川工科大学の情報システム学科が設置された場合の受験希望について質問したところ、回答者数 2,587 人の約 11.7%にあたる 302 人が「受験を希望する」と回答しており、神奈川工科大学の情報システム学科への受験に積極的な意向を示している。

問4 神奈川工科大学の情報システム学科の受験希望

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	受験を希望する	302	11.7
2	受験を希望しない	2,169	83.8
	未回答・不明	116	4.5
	合計	2,587	100.0

◇神奈川工科大学の情報システム学科への入学希望

問4で神奈川工科大学の情報システム学科の「受験を希望する」と回答した高等学校の2年生に、神奈川工科大学の情報システム学科に合格した場合の入学希望について質問したところ、回答者数302人の約62.9%にあたる190人が「入学を希望する」と回答している。

なお、問1で高等学校卒業後の進路を「大学進学（4年制・6年制）」と回答し、問2で進学する分野の第1希望を「工学・理学関係」と回答した者で、かつ問3で神奈川工科大学の情報システム学科への「興味・関心がある」と回答し、問4で神奈川工科大学の情報システム学科の「受験を希望する」と回答した者のうち、神奈川工科大学の情報システム学科に合格した場合「入学を希望する」と回答した者は94人となっている。

このような神奈川工科大学への受験実績や進学実績がある一部の高等学校の2年生に限定した調査結果においても、神奈川工科大学の情報システム学科への入学希望の高さがうかがえることから、学生確保においては十分な見通しがあると考えられる。

問5 神奈川工科大学の情報システム学科への入学希望

No.	カテゴリ	件数／人	全体／%
1	入学を希望する	190	62.9
2	併願先の結果によって入学する	103	34.1
3	入学を希望しない	7	2.3
	未回答・不明	2	0.7
	合計	302	100.0

問1×問2×問3×問4×問5 情報システム学科への入学希望 ークロス集計ー

No.	問1 × 問2 × 問3 × 問4 × 問5	件数／人
ー	「1」×「6」×「1」×「1」×「1」	94

【資料 3（本文 P 3）】

主な学部別の志願者・入学者動向（大学）

【情報科学部】

年度	入学定員	志願者数	入学者数	定員充足率
令和元年度	1,046	26,130	1,126	107.65
令和2年度	1,046	27,781	1,136	108.60
令和3年度	1,090	29,130	1,237	113.49
令和4年度	1,100	35,040	1,165	105.91
4年間平均	1,071	29,520	1,166	108.91

日本私立学校振興・共済事業団「私立大学・短期大学等入学志願動向」－抜粋－

【資料 4（本文 P 3）】

神奈川県内の高等学校及び中学校の在籍者数

【高等学校 学年別生徒数】

区 分	本科		
	1 学年		
	計	男	女
令和 4 年度	64,451	32,563	31,888

神奈川県学校基本調査結果－抜粋－

【中学校 学年別生徒数】

区 分	1 学年			2 学年			3 学年		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女
令和 4 年度	74,236	37,889	36,347	75,086	38,451	36,635	76,058	38,995	37,063

神奈川県学校基本調査結果－抜粋－

【中学校 高等学校進学者】

区 分	中学校卒業生			高等学校進学者			高等学校進学率 (%)
	計	男	女	計	男	女	
令和 4 年度	75,512	38,626	36,886	74,873	38,247	36,626	99.2

神奈川県学校基本調査結果－抜粋－

神奈川県人口動向等

【年齢（各歳・5 歳階級）別、男女別人口】

年齢	総数	男	女
5 ～ 9	362, 880	186, 061	176, 819
1 0 ～ 1 4	383, 591	196, 541	187, 050

神奈川県年齢別人口統計調査（令和 4 年）－抜粋－

【資料 6（本文 P 4）】

神奈川県内の高等学校を卒業した者の大学進学状況

【高等学校 大学等進学者】

区 分	高等学校卒業者			大学等進学者			大学等進学 率（％）
	計	男	女	計	男	女	
平成 3 1 年 3 月	66, 605	33, 314	33, 291	40, 427	19, 463	20, 964	60. 7
令和 2 年 3 月	65, 684	33, 074	32, 610	40, 003	19, 507	20, 496	60. 9
令和 3 年 3 月	65, 293	32, 879	32, 414	41, 218	20, 488	20, 730	63. 1
令和 4 年 3 月	64, 786	32, 826	31, 960	42, 779	21, 591	21, 188	66. 0

神奈川県学校基本調査結果－抜粋－

神奈川県内の高等学校を卒業した者の入学状況

学部	年度	入学者数	県内高校卒業者数	割合
情報学部	令和 2 年度	436	183	42.0%
	令和 3 年度	492	205	41.7%
	令和 4 年度	517	234	45.3%
	令和 5 年度	521	242	46.4%
	合計	1966	864	43.9%

【資料 8（本文 P 4）】

競合が想定される私立大学の志願者等の動向

大学／学部・学科	年度	志願者数	合格者数	入学者数	定員充足率
東京電機大学 システムデザイン学部 情報システム工学科 入学定員：130 人	令和元年度	2820	272	145	111.5
	令和2年度	2913	325	148	113.9
	令和3年度	3416	299	157	120.8
	令和4年度	2978	245	142	109.2
	4年間平均	3032	285	148	113.9
東京都市大学 メディア情報学部 情報システム学科 入学定員：100 人(90 人)	令和元年度	1987	197	113	125.6
	令和2年度	1739	160	90	100.0
	令和3年度	1697	137	123	123.0
	令和4年度	1176	152	102	102.0
	4年間平均	1650	162	107	112.7
埼玉工業大学 工学部 情報システム学科 入学定員：150 人	令和元年度	2160	1307	299	199.3
	令和2年度	3602	494	177	118.0
	令和3年度	2396	581	183	122.0
	令和4年度	2309	1109	250	166.7
	4年間平均	2617	873	227	151.5

東京電機大学、東京都市大学の志願者数、合格者数は、一般選抜の合計

東京都市大学は、令和3年度より定員変更(90→100)

【資料 9（本文 P 4）】

新学科を設置する学部の学生確保の状況

【情報学部】

学科	年度	志願者数	合格者数	入学者数	定員充足率
情報工学科 入学定員：170 人（155 人）	令和 2 年度	1622	455	156	100.7%
	令和 3 年度	1639	444	163	105.2%
	令和 4 年度	1455	539	194	114.1%
	令和 5 年度	1132	593	187	110.0%
	平 均	1462	507.8	175	107.5%

令和 4 年度より定員変更(155→170)

学科	年度	志願者数	合格者数	入学者数	定員充足率
情報ネットワーク ・コミュニケーション学科 入学定員：110 人（100 人）	令和 2 年度	1216	340	110	110.0%
	令和 3 年度	1185	264	159	159.0%
	令和 4 年度	936	417	115	104.6%
	令和 5 年度	695	416	129	117.3%
	平 均	1008	359.3	128.3	122.7%

令和 4 年度より定員変更(100→110)

学科	年度	志願者数	合格者数	入学者数	定員充足率
情報メディア学科 入学定員：180 人（165 人）	令和 2 年度	1507	404	170	103.0%
	令和 3 年度	1456	341	170	103.0%
	令和 4 年度	1254	498	208	115.6%
	令和 5 年度	985	538	205	113.9%
	平 均	1300.5	445.3	188.3	108.9%

令和 4 年度より定員変更(165→180)

既設学部・学科の学生確保の状況

【工学部】

学科	年度	志願者数	合格者数	入学者数	定員充足率
機械工学科 入学定員：120 人	令和 2 年度	1336	619	140	116.7%
	令和 3 年度	1268	637	115	95.8%
	令和 4 年度	1099	771	132	110.0%
	令和 5 年度	867	795	100	83.3%
電気電子情報工学科 入学定員：78 人	令和 2 年度	928	416	88	112.8%
	令和 3 年度	815	409	103	132.1%
	令和 4 年度	732	507	98	125.6%
	令和 5 年度	586	552	86	110.3%
応用化学科 入学定員：60 人	令和 2 年度	646	374	60	100.0%
	令和 3 年度	490	355	51	85.0%
	令和 4 年度	463	386	49	81.7%
	令和 5 年度	366	348	35	58.3%

【創造工学部】

学科	年度	志願者数	合格者数	入学者数	定員充足率
自動車システム開発工学科 入学定員：55 人	令和 2 年度	590	263	59	107.3%
	令和 3 年度	464	285	50	90.9%
	令和 4 年度	350	254	36	65.5%
	令和 5 年度	240	215	30	54.6%
ロボット・メカトロニクス 学科 入学定員：50 人	令和 2 年度	619	287	67	114.0%
	令和 3 年度	536	257	42	84.0%
	令和 4 年度	383	281	46	92.0%
	令和 5 年度	264	241	34	68.0%
ホームエレクトロニクス 開発学科 入学定員：40 人	令和 2 年度	464	163	46	130.0%
	令和 3 年度	337	215	43	107.5%
	令和 4 年度	263	211	40	100.0%
	令和 5 年度	202	189	45	112.5%

【応用バイオ科学部】

学科	年度	志願者数	合格者数	入学者数	定員充足率
応用バイオ科学科 入学定員：125 人	令和 2 年度	1182	788	124	99.2%
	令和 3 年度	902	712	89	71.2%
	令和 4 年度	803	700	71	56.8%
	令和 5 年度	661	633	84	67.2%

【健康医療科学部】

学科	年度	志願者数	合格者数	入学者数	定員充足率
看護学科 入学定員：80 人	令和 2 年度	431	250	82	102.5%
	令和 3 年度	362	207	78	97.5%
	令和 4 年度	329	222	79	98.5%
	令和 5 年度	282	242	79	98.8%
管理栄養学科 入学定員：40 人（80 人）	令和 2 年度	283	202	53	66.3%
	令和 3 年度	193	153	43	53.8%
	令和 4 年度	178	138	47	117.5%
	令和 5 年度	143	114	53	132.5%
臨床工学科 入学定員：40 人	令和 2 年度	310	161	35	87.5%
	令和 3 年度	257	172	42	105.0%
	令和 4 年度	190	155	36	90.0%
	令和 5 年度	151	134	31	77.5%

管理栄養学科は令和 4 年度より定員変更(80→40)

高等学校訪問の具体的計画について

訪問時期：4月から3月

実施体制：企画入学課職員ほか、東日本地区における業務委託20名による
スタッフで実施

訪問エリア：北海道、青森、秋田、宮城、福島、山形、栃木、群馬、茨城、
千葉、東京、神奈川、新潟、静岡、宮崎、沖縄

訪問学校数：実績校を対象に延べ5,000件程度（2022年度実績5,293件）

オープンキャンパスの具体的計画について

1. 対面方式オープンキャンパス

実施日程：①2023年3月26日（日）
②2023年6月11日（日）
③2023年7月30日（日）
④※2023年8月27日（日）

収容定員：最大で各回2000名

2. オンデマンド式（WEB）オープンキャンパス

開始日程：2023年3月25日（土）

補足事項：対面方式オープンキャンパスへの参加を促す目的で制作する。

3. キャンパス大見学会（ミニオープンキャンパス）

開始日程：2023年5月下旬と11月中旬頃で各1回の実施を想定

補足事項：出願動向などを鑑みて、年間計画とせずに臨時イベントとして、個別判断により実施する。

4. 個別対応による大学見学

実施日程：適宜、個別ニーズにより実施する。

運営主体：企画入学課職員（状況により、学生スタッフに応援を要請）

※2022年度（1月末現在）は、42組76名に対応。

高等学校教員説明会（塾予備校含む）等の具体的計画について

5月中旬から下旬に例年は実施しており、2023年度についても同時期を予定しているが、現時点で詳細は未定である。

ただし、(1) 高等学校 (2) 塾予備校 (3) マスコミ関係に広く告知するべく準備を進めている。例年の実施日及び参加数は以下のとおり。

(1) 高等学校対象説明会

年度	実施日	参加校数
2022	6月2日	45
2021	5月28日	69
2020	中止	
2019	5月31日	104

(2) 塾予備校対象説明会

年度	実施日	参加校数
2022	6月2日	10
2021	5月28日	15
2020	中止	
2019	6月28日	22

(3) マスコミ懇談会

年度	実施日	参加者数
2022	未実施	
2021	12月22日	41
2020	中止	
2019	11月28日	37

進学相談会の具体的計画について

進学相談会については、全国各地で実施されているが、出願実績や在籍状況を勘案して参加をしており、3月からスタートしている。2022年度の参加については、以下のとおりであり、2023年度においても概ね前年度と同様の参加を予定している。

2022年度実績（2023年3月28日現在）

高校内ガイダンス	538件
会場ガイダンス	179件
合　　計	717件

【資料 15（本文 P 6）】

新学科を設置する学部・学科の就職状況等

学部・学科	年度	求人件数	希望者数	求人倍率	就職者数	就職率
情報学部 情報工学科	令和元年度	13,808	115	120.1	115	100.0%
	令和2年度	12,987	114	113.9	109	95.6%
	令和3年度	12,333	118	104.5	117	99.2%
	令和4年度	14,227	117	121.6	112	95.7%
	平均	13,339	116.0	115.0	113.3	97.6%

学部・学科	年度	求人件数	希望者数	求人倍率	就職者数	就職率
情報学部 情報ネットワーク ・コミュニケーション学科	令和元年度	13,618	90	151.3	90	100.0%
	令和2年度	12,792	77	166.1	74	96.1%
	令和3年度	12,163	76	160.0	73	96.1%
	令和4年度	14,106	99	142.5	96	97.0%
	平均	13,170	85.5	154.0	83.3	97.4%

学部・学科	年度	求人件数	希望者数	求人倍率	就職者数	就職率
情報学部 情報メディア学科	令和元年度	13,554	137	98.9	131	95.6%
	令和2年度	12,713	106	119.9	99	93.4%
	令和3年度	12,087	114	106.0	106	93.0%
	令和4年度	14,003	132	106.1	117	88.6%
	平均	13,089	122.3	107.1	113.3	92.6%

人材需要等調査 一抜粋—

◇人材の採用見込み

神奈川工科大学への求人実績や卒業生の採用実績がある企業等に対して、人材の採用見込みについて質問したところ、回答件数 101 件の約 86.1%にあたる 87 件が「増加すると思う」と回答している。

問 2 人材の採用見込み

No.	カテゴリ	件数／件	全体／%
1	増加すると思う	87	86.1
2	増加すると思わない	13	12.9
	未回答・不明	1	1.0
	合計	101	100.0

◇神奈川工科大学の情報システム学科で養成する人材の必要性

神奈川工科大学への求人実績や卒業生の採用実績がある企業等に対して、神奈川工科大学の情報システム学科で養成する人材の必要性について質問したところ、回答件数 101 件の約 99.0%にあたる 100 件が「必要性を感じる」と回答しており、神奈川工科大学の情報システム学科で養成する人材の必要性の高さをうかがうことができる。

問 3 神奈川工科大学の情報システム学科で養成する人材の必要性

No.	カテゴリ	件数／件	全体／%
1	必要性を感じる	100	99.0
2	必要性を感じない	1	1.0
	未回答・不明	0	0.0
	合計	101	100.0

◇神奈川工科大学の情報システム学科で学んだ卒業生の採用

神奈川工科大学への求人実績や卒業生の採用実績がある企業等に対して、神奈川工科大学の情報システム学科で学んだ卒業生の採用について質問したところ、回答件数 101 件の全てが「採用したいと思う」と回答しており、神奈川工科大学の情報システム学科で学んだ卒業生への採用に積極的な意向を示している。

問 4 神奈川工科大学の情報システム学科で学んだ卒業生の採用

No.	カテゴリ	件数／件	全体／%
1	採用したいと思う	101	100.0
2	採用したいと思わない	0	0.0
	未回答・不明	0	0.0
	合計	101	100.0

◇神奈川工科大学の情報システム学科で学んだ卒業生の採用人数

問4で、神奈川工科大学の情報システム学科で学んだ卒業生を「採用したいと思う」と回答した企業等のうち、単年度当りの卒業生の採用人数を「1人」と回答したのは8件、「2人」と回答したのは15件、「3人以上」と回答したのは23件、「人数は未定」と回答したのは55件となっている。

なお、「採用人数3人以上」と回答した採用人数を「3人」とし、「人数は未定」と回答した採用人数を「1人」として採用人数を合計すると162人となり、これらの採用人数からも神奈川工科大学の情報システム学科で学んだ卒業生に対する採用意向の高さをうかがうことができる。

このような、神奈川工科大学への求人実績や卒業生の採用実績がある一部の企業等に限定した調査結果においても、神奈川工科大学の情報システム学科で学んだ卒業生への採用意向の高さがうかがえることから、卒業後の進路については十分な見通しがあると考えられる。

問5 神奈川工科大学の情報システム学科で学んだ卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数／件	全体／%
1	1人	8	7.9
2	2人	15	14.9
3	3人以上	23	22.8
4	人数は未定	55	54.5
	未回答・不明	0	0.00
	合計	101	100.0

問4×問5 卒業生の採用×卒業生の採用人数

No.	カテゴリ	件数／件	全体／人
1*1	採用したいと思う×採用人数1人	8	8
1*2	採用したいと思う×採用人数2人	15	30
1*3	採用したいと思う×採用人数3人以上	23	69
1*4	採用したいと思う×採用人数数は未定	55	55
	合計	101	162

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
-	学長	コミヤ カズミ 小宮 一三 ＜令和3年4月＞	78	工学博士	1,994	神奈川工科大学 学長 ＜平成21年4月～令和7年3月＞

（注） 高等専門学校にあっては校長について記入すること。

教 員 の 氏 名 等										
（情報学部情報システム学科）										
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任（予定）年月＞	保有 学位等	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講 数	現 職 （就任年月）	申請に係る 大学等の職務に従事する 週当たり 平均日数
1	専	教授	カワラザキ ノリユキ 河原崎 徳之 ＜令和6年4月＞	博士 （工学）	専門分野概論 情報システム概論 情報システムのための電気 電子回路 情報システム工学Ⅱ センシングシステム 情報システム応用ユニット 情報システム専門ユニット 卒研セミナーⅠ 卒業研究Ⅰ 卒研セミナーⅡ 卒業研究Ⅱ	1前 1前 1後 2後 3前 3前 3後 4前 4前 4後 4後	1 0.3 2 2 2 4 4 1 3 1 3	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	神奈川工科大学 創造工学部 教授 （平成2.4）	5日
2	専	教授	タカオ ヒデノブ 高尾 秀伸 ＜令和6年4月＞	博士 （人間科学）	AI/DS導入ユニット 情報システム概論 情報システムと人間科学 ヒューマンコンピュータイ ンタラクション 情報システム応用ユニット 情報システム専門ユニット 卒研セミナーⅠ 卒業研究Ⅰ 卒研セミナーⅡ 卒業研究Ⅱ	2前 1前 2後 3前 3前 3後 4前 4前 4後 4後	4 0.3 2 2 4 4 1 3 1 3	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	神奈川工科大学 創造工学部 教授 （平成12.4）	5日
3	専	教授	タカハシ カツミ 高橋 勝美 ＜令和6年4月＞	博士 （学術）	情報システム概論 ヘルスケアシステム 情報システム応用ユニット 情報システム専門ユニット 卒研セミナーⅠ 卒業研究Ⅰ 卒研セミナーⅡ 卒業研究Ⅱ	1前 3後 3前 3後 4前 4前 4後 4後	0.1 2 4 4 1 3 1 3	1 1 1 1 1 1 1 1	神奈川工科大学 創造工学部 教授 （昭和63.4）	5日
4	専	教授	ヒョウドウカズヒト 兵頭 和人 ＜令和6年4月＞	博士 （工学）	情報システム概論 組み込みアプリケーション 入門 組み込みシステム入門 組み込みアプリケーション 開発 組み込みシステム設計 情報システム応用ユニット 情報システム専門ユニット 卒研セミナーⅠ 卒業研究Ⅰ 卒研セミナーⅡ 卒業研究Ⅱ	1前 3前 3前 3後 3後 3前 3後 4前 4前 4後 4後	0.1 2 2 2 2 4 4 1 3 1 3	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	神奈川工科大学 創造工学部 教授 （平成6.4）	5日

教 員 の 氏 名 等										
(情報学部情報システム学科)										
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	保有 学位等	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位 数	年間 開講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平 均 日 数
5	専	教授	ヨシノ カズヨシ 吉野 和芳 ＜令和6年4月＞	博士 (工学)	情報・A I リテラシー (情報基礎) AI/DS導入ユニット 情報システム概論 画像情報処理 情報システム応用ユニット 情報システム専門ユニット 卒研セミナーⅠ 卒業研究Ⅰ 卒研セミナーⅡ 卒業研究Ⅱ	1前 2前 1前 2後 3前 3後 4前 4前 4後 4後	2 4 0.3 2 4 4 1 3 1 3	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	神奈川工科大学 創造工学部 教授 (平成9.4)	5日
6	専	教授	ヨシミツ トシヒロ 吉満 俊拓 ＜令和6年4月＞	博士 (工学)	情報システム概論 情報システムのための力学 シミュレーション設計技法Ⅰ シミュレーション設計技法Ⅱ 情報システム応用ユニット 情報システム専門ユニット 卒研セミナーⅠ 卒業研究Ⅰ 卒研セミナーⅡ 卒業研究Ⅱ	1前 1後 2前 2後 3前 3後 4前 4前 4後 4後	0.3 2 2 2 4 4 1 3 1 3	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	神奈川工科大学 創造工学部 教授 (平成12.4)	5日
7	専	准教授	サエグサリョウ 三枝 亮 ＜令和6年4月＞	博士 (工学)	A I とデータサイエンス (情報応用) 情報システム概論 情報システム工学Ⅰ ヘルスケアシステム ロボットとAI 情報システム応用ユニット 情報システム専門ユニット 卒研セミナーⅠ 卒業研究Ⅰ 卒研セミナーⅡ 卒業研究Ⅱ	2前後 1前 2前 3後 3後 3前 3後 4前 4前 4後 4後	0.2 0.3 2 2 2 4 4 1 3 1 3	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	神奈川工科大学 創造工学部 准教授 (平成30.4)	5日

教 員 の 氏 名 等										
(情報学部情報システム学科)										
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	保有 学位等	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位 数	年間 開講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平 均 日 数
8	専	准教授	ヨシドメ タダシ 吉留 忠史 ＜令和6年4月＞	博士 (工学)	情報システム概論 情報通信技術 情報システムプログラミング基礎 情報システム基礎ユニットⅠ 情報システム基礎ユニットⅡ 組み込みアプリケーション入門 組み込みシステム入門 組み込みアプリケーション開発 組み込みシステム設計 卒研セミナーⅠ 卒業研究Ⅰ 卒研セミナーⅡ 卒業研究Ⅱ	1前 2前 1後 2前 2後 3前 3前 3後 3後 4前 4前 4後 4後	0.1 2 3 3 3 2 2 2 1 3 1 1 3	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	神奈川工科大学 創造工学部 准教授 (平成12.4)	5日
9	兼任	教授	ツチヤ ヨウヘイ 土谷 洋平 ＜令和6年4月＞	博士 (数理学)	理工学入門 微分積分学Ⅰ-c	1前 2前	1 3	1 1	神奈川工科大学 基礎・教養教育セン ター 教授 (平成26.4)	
10	兼任	教授	ミウラ イザワ ナオコ 三浦 (井澤) 直子 ＜令和6年9月＞	修士 (社会学)	現代社会講座 社会の科学 社会学 情報社会と情報倫理	1後 2前後・3前 3前後・4前 3前	0.3 4 4 2	1 2 2 1	神奈川工科大学 基礎・教養教育セン ター 教授 (平成11.9)	
11	兼任	教授	シダマ シンリ 師玉 真理 ＜令和6年9月＞	博士 (学術)	現代社会講座 文化の科学 人文社会科学アクティブ演習 文学	1後 2前後・3前 3前後 3前後・4前	0.3 4 4 4	1 2 2 2	神奈川工科大学 基礎・教養教育セン ター 教授 (平成25.4)	
12	兼任	教授	ヤマモト サトシ 山本 聡 ＜令和7年4月＞	法学修士	日本国憲法 法学	2前後・3前 3前後・4前	4 4	2 2	神奈川工科大学 教職教育センター 教授 (平成9.4)	
13	兼任	教授	タナベ モトコ 田辺 基子 ＜令和8年4月＞	修士 (教育学)	教育学	3前後・4前	4	2	神奈川工科大学 教職教育センター 教授 (平成29.4)	
14	兼任	教授	オオキ トム 大木 富 ＜令和6年4月＞	文学修士	英語Ⅰ 英語Ⅲ 総合英語演習	1前 1前後・2前 1前後・2前	1 2 2	1 2 2	神奈川工科大学 基礎・教養教育セン ター 教授 (昭和62.4)	
15	兼任	教授	タケダ ユウイチ 竹田 裕一 ＜令和6年9月＞	博士 (理学)	身の回りの数学 線形代数学Ⅰ-a 微分積分学Ⅱ-d	(1～3) 2後 1後 2後	2 2 3	1 1 1	神奈川工科大学 基礎・教養教育セン ター 教授 (平成18.4)	
16	兼任	教授	ヤマモト カズオ 山本 一雄 ＜令和6年4月＞	博士 (工学)	実感する科学	1前	2	1	神奈川工科大学 基礎・教養教育セン ター 教授 (平成9.4)	

教 員 の 氏 名 等										
(情報学部情報システム学科)										
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	保有 学位等	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職務に 従事する週当たり 平均日数
17	兼担	教授	ノウミ カズヒロ 納富 一宏 ＜令和6年4月＞	博士 (工学)	A Iとデータサイエンス (情報応用) コンピュータシステム入門 マルチメディア入門 ソフトウェア入門 ネットワーク入門 アルゴリズム入門 情報デザイン入門 データベース入門 情報セキュリティ入門	2前後 1前 1前 1前 1前 1後 1後 1後 1後 1後	0.2 1 1 1 1 1 1 1 1 1	2 1 1 1 1 1 1 1 1 1	神奈川工科大学 情報学部 教授 (平成18.4)	
18	兼担	教授	ミヤザキ タケン 宮崎 剛 ＜令和7年4月＞	博士 (工学)	A Iとデータサイエンス (情報応用)	2前後	0.2	2	神奈川工科大学 情報学部 教授 (平成14.9)	
19	兼担	教授	ウスキ ジュン 臼杵 潤 ＜令和6年4月＞	博士 (工学)	A Iとデータサイエンス (情報応用) プログラミング入門A プログラミング入門B プログラミング入門C	2前後 1前 1前 1後	0.2 3 3 3	2 1 1 1	神奈川工科大学 情報学部 教授 (平成14.4)	
20	兼担	教授	ムラタ タカシ 村田 隆 ＜令和7年4月＞	理学博士	A Iとデータサイエンス (情報応用)	2前後	0.2	2	神奈川工科大学 応用バイオ科学部 教授 (令和2.4)	
21	兼担	教授	スズキ サトシ 鈴木 聡 ＜令和7年4月＞	博士 (医学)	A Iとデータサイエンス (情報応用)	2前後	0.2	2	神奈川工科大学 健康医療科学部 教授 (平成26.4)	
22	兼担	教授	タケオ ヒデア 武尾 英哉 ＜令和7年4月＞	博士 (工学)	A Iとデータサイエンス (情報応用)	2前後	0.2	2	神奈川工科大学 工学部 教授 (平成18.4)	
23	兼担	教授	シオノ ナオシ 塩野 直志 ＜令和7年4月＞	博士 (経営学)	A Iとデータサイエンス (情報応用) ビッグデータ解析	2前後 2後	0.2 2	2 1	神奈川工科大学 情報学部 教授 (令和3.7)	
24	兼担	教授	カナイ ノリカネ 金井 徳兼 ＜令和6年4月＞	博士 (工学)	キャリア設計Ⅰ キャリア設計Ⅱ キャリア設計Ⅲ 社会人に向けての準備講座 企業特別講座 インターンシップⅠ インターンシップⅡ 課題解決型インターンシ ップ 産学連携プロジェクト	1後 2前 3前 4前 1～4 2～4 3～4 1～4 3～4	1 1 1 1 1 2 3 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1	神奈川工科大学 創造工学部 教授 (平成10.4)	
25	兼担	教授	イノウエ テツリ 井上 哲理 ＜令和6年4月＞	博士 (工学)	プログラミング入門A プログラミング入門B プログラミング入門C AI/DS導入ユニット サイバー空間技術 情報システムの社会実装	1前 1前 1後 2前 3前 3後	3 3 3 4 2 2	1 1 1 1 1 1	神奈川工科大学 情報学部 教授 (平成5.5)	
26	兼担	教授	トリイ ヒデユキ 鳥井 秀幸 ＜令和8年9月＞	博士 (工学)	情報システム基礎ユニット Ⅱ 次世代通信技術	2後 3後	3 2	1 1	神奈川工科大学 情報学部 教授 (平成12.4)	

教 員 の 氏 名 等										
(情報学部情報システム学科)										
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	保有 学位等	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位 数	年間 開講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平均日数
27	兼担	教授	オカモト タケシ 岡本 剛 ＜令和8年4月＞	博士 (工学)	情報法規と情報モラル 情報システムセキュリティ	3前 3前	2 2	1 1	神奈川工科大学 情報学部 教授 (平成14.4)	
28	兼担	教授	タカハシ ヨシヒコ 高橋 良彦 ＜令和6年4月＞	博士 (工学)	情報システム概論 ロボットメカニズム システム制御	1前 3前 3後	0.3 2 2	1 1 1	神奈川工科大学 創造工学部 教授 (平成8.4)	
29	兼担	准教授	ナカオ ムラタ キョウコ 中尾(村田) 教子 ＜令和6年4月＞	博士 (学術)	アカデミックICTスキル	1前	1	1	神奈川工科大学 情報教育研究セン ター 准教授 (令和4.4)	
30	兼担	准教授	クリタ ヤスオ 栗田 泰生 ＜令和6年4月＞	博士 (人間・ 環境学)	理工学入門 実感する科学	1前 1前	1 2	1 1	神奈川工科大学 基礎・教養教育セン ター 准教授 (平成25.4)	
31	兼担	准教授	サトウ シオ 佐藤 史緒 ＜令和6年9月＞	修士 (社会学)	現代社会講座 心の科学 心理学	1後 2前後・3前 3前後・4前	0.3 4 4	1 2 2	神奈川工科大学 教職教育センター 准教授 (平成28.4)	
32	兼担	准教授	タカシマ ワタル 高嶋 渉 ＜令和6年4月＞	博士 (教育学)	健康・スポーツ科学実習Ⅰ 身体活動・スポーツ論	1前 2前	1 1	1 1	神奈川工科大学 基礎・教養教育セン ター 准教授 (令和2.4)	
33	兼担	准教授	イワモト ヒロミチ 岩本 弘道 ＜令和6年4月＞	文学修士	英語Ⅲ 英語Ⅳ	1前後・2前 1後・2前後	2 2	2 2	神奈川工科大学 基礎・教養教育セン ター 准教授 (平成3.4)	
34	兼担	准教授	マエダ アンヒコ 前田 篤彦 ＜令和6年4月＞	博士 (知識科学)	情報・AIリテラシー (情報基礎) AIとデータサイエンス (情報応用) プログラミング入門A プログラミング入門B プログラミング入門C AI/DS導入ユニット	1前 2前後 1前 1前 1後 2前	2 1.3 3 3 3 4	1 2 1 1 1 1	神奈川工科大学 情報教育研究セン ター 准教授 (令和4.4)	
35	兼担	准教授	スドウ ヤスヒロ 須藤 康裕 ＜令和7年4月＞	博士 (工学)	AIとデータサイエンス (情報応用)	2前後	0.2	2	神奈川工科大学 情報学部 准教授 (平成30.4)	
36	兼担	准教授	スギムラ ヒロシ 杉村 博 ＜令和7年4月＞	博士 (工学)	AIとデータサイエンス (情報応用)	2前後	0.2	2	神奈川工科大学 創造工学部 准教授 (平成29.4)	
37	兼担	准教授	フジモリ マサミ 藤森 雅巳 ＜令和7年9月＞	博士 (理学)	離散数学	2後	2	1	神奈川工科大学 基礎・教養教育セン ター 准教授 (平成10.4)	
38	兼担	准教授	カワキタ ユウスケ 川喜田 佑介 ＜令和7年4月＞	博士 (政策・ メディア)	IoTシステム 情報システム基礎ユニットⅠ	2前 2前	2 3	1 1	神奈川工科大学 情報学部 准教授 (平成30.4)	
39	兼担	講師	ヤト ミツアキ 谷戸 光昭 ＜令和6年4月＞	博士 (理学)	理工学入門 微分積分学Ⅰ-d	1前 2前	1 3	1 1	神奈川工科大学 教育開発センター 講師 (令和1.9)	
40	兼担	講師	スマタ タカヒロ 沼田 崇宏 ＜令和6年4月＞	博士 (理学)	理工学入門 線形代数学Ⅰ-b 線形代数学Ⅱ-b 微分積分学Ⅱ-c	1前 1後 2前 2後	1 2 2 3	1 1 1 1	神奈川工科大学 教育開発センター 講師 (令和2.4)	

教 員 の 氏 名 等										
(情報学部情報システム学科)										
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	保有 学位等	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位 数	年間 開講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平 均 日 数
41	兼担	講師	カドタ トリハタ エイコ 門田(鳥畑) 英子 ＜令和6年4月＞	博士 (理学)	理工学入門	1前	1	1	神奈川工科大学 教育開発センター 講師 (平成31.4)	
42	兼担	講師	カクワ ジュン 格和 純 ＜令和6年4月＞	博士 (理学)	理工学入門	1前	1	1	神奈川工科大学 教育開発センター 講師 (令和4.4)	
43	兼担	講師	オダギリ ユウジ 小田切 祐詞 ＜令和8年4月＞	修士	社会学	3前後・4前	4	2	神奈川工科大学 教育開発センター 講師 (令和1.9)	
44	兼担	講師	マチダ ナオコ 町田 直子 ＜令和6年4月＞	修士 (文学)	英語Ⅰ 英語Ⅲ 英語Ⅳ 英語Ⅴ	1前 1前後・2前 1後・2前後 2前後	1 2 2 2	1 2 2 2	神奈川工科大学 教育開発センター 講師 (令和2.4)	
45	兼担	講師	アサガワ トモユキ 浅川 友幸 ＜令和6年4月＞	修士 (文学)	英語Ⅱ 英語Ⅲ 英語Ⅴ	1前後 1前後・2前 2前後	2 2 2	2 2 2	神奈川工科大学 教育開発センター 講師 (令和1.9)	
46	兼担	講師	オオヒラ ミチヒロ 大平 道広 ＜令和6年4月＞	修士 (法学)	英語Ⅱ 英語Ⅲ 英語Ⅳ 英語Ⅴ TOEICⅠ	1前後 1前後・2前 1後・2前後 2前後 2後・3前後	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	神奈川工科大学 教育開発センター 講師 (令和2.4)	
47	兼担	講師	ヤマモト カツラ 山本 桂 ＜令和6年4月＞	博士 (学術)	英語Ⅱ 英語Ⅳ 英語Ⅴ	1前後 1後・2前後 2前後	2 2 2	2 2 2	神奈川工科大学 教育開発センター 講師 (令和5.4)	
48	兼担	講師	アマタニ ハルカ 天谷 晴香 ＜令和6年4月＞	修士	英語Ⅲ 英語Ⅳ 英語Ⅴ	1前後・2前 1後・2前後 2前後	2 2 2	2 2 2	神奈川工科大学 教育開発センター 講師 (令和5.4)	
49	兼担	講師	コウノ コバヤシ トモコ 河野(小林) 智子 ＜令和6年4月＞	修士 (人分科学)	英語Ⅲ 英語Ⅴ 科学技術英語Ⅰ 科学技術英語Ⅱ TOEICⅡ	1前後・2前 2前後 3前 3後 3前後	2 2 1 1 2	2 2 1 1 2	神奈川工科大学 教育開発センター 講師 (令和2.4)	
50	兼担	講師	ミヤギ マナブ 宮城 学 ＜令和6年4月＞	修士 (ドイツ 文学)	英語Ⅲ 英語Ⅳ 英語Ⅴ TOEICⅠ TOEICⅡ	1前後・2前 1後・2前後 2前後 2後・3前後 3前後	2 2 2 2 2	2 2 2 2 2	神奈川工科大学 教育開発センター 講師 (令和1.9)	
51	兼担	講師	キクチ テツヤ 菊地 哲也 ＜令和7年9月＞	博士 (理学)	身の回りの数学	(1～3) 2後	2	1	神奈川工科大学 教育開発センター 講師 (令和2.4)	

教 員 の 氏 名 等										
(情報学部情報システム学科)										
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	保有 学位等	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位 数	年間 開講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平均日数
52	兼任	講師	オカザキ ヒデシ 岡崎 秀俊 ＜令和6年4月＞	博士 (工学)	コンピュータシステム入門 マルチメディア入門 ソフトウェア入門 ネットワーク入門	1前 1前 1前 1前	1 1 1 1	1 1 1 1	神奈川工科大学 教育開発センター 講師 (令和3.5)	
53	兼任	講師	イシカワ カンヤ 石川 敢也 ＜令和6年9月＞	経営情報修士 (専門職)	アルゴリズム入門 情報デザイン入門 データベース入門 情報セキュリティ入門	1後 1後 1後 1後	1 1 1 1	1 1 1 1	神奈川工科大学 教育開発センター 講師 (平成31.4)	
54	兼任	講師	ノイ タカヒロ 野井 貴弘 ＜令和7年4月＞	博士 (理学)	線形代数学Ⅱ-a	2前	2	1	神奈川工科大学 教育開発センター 講師 (令和4.4)	
55	兼任	講師	ゴチョウ マサタカ 牛腸 政孝 ＜令和6年4月＞	修士	スタディスキル プレゼンテーション技術	1前 2前後	2 4	1 2	中京大学企業研究所 特任研究員 (令和2.4)	
56	兼任	講師	マツイ タカユキ 松井 陽征 ＜令和6年4月＞	博士 (政治学)	スタディスキル	1前	2	1	明治大学 助教 (平成30.4)	
57	兼任	講師	ナカヤマ ヒロユキ 中山 裕之 ＜令和8年4月＞	無し	技術者倫理	3前後	4	2	神奈川工科大学 基礎・教養教育セン ター 非常勤講師 (平成22.4)	
58	兼任	講師	ヤマダ ヨウ 山田 陽 ＜令和6年9月＞	修士	現代社会講座 政治学 日本語表現技術	1後 3前後・4前 1後・2前	0.3 4 4	1 2 2	神奈川工科大学 基礎・教養教育セン ター 非常勤講師 (平成25.4)	
59	兼任	講師	タダ チカヒロ 多田 庶弘 ＜令和6年9月＞	博士 (法学)	現代社会講座 日本国憲法 法学 情報と知的財産権	1後 2前後・3前 3前後・4前 3後	0.3 4 4 2	1 2 2 1	神奈川工科大学 基礎・教養教育セン ター 非常勤講師 (平成22.4)	
60	兼任	講師	ナカハタ クニオ 中畑 邦夫 ＜令和6年9月＞	博士 (哲学)	現代社会講座 人文社会科学アクティブ演 習 哲学	1後 3前後 3前後・4前	0.3 4 4	1 2 2	神奈川工科大学 基礎・教養教育セン ター 非常勤講師 (平成17.4)	
61	兼任	講師	ヤマモト タカヒロ 山本 崇広 ＜令和6年9月＞	博士 (学術)	現代社会講座 経済の科学 経済学	1後 2前後・3前 3前後・4前	0.4 4 4	1 2 2	神奈川工科大学 基礎・教養教育セン ター 非常勤講師 (平成24.4)	
62	兼任	講師	ムロイ ハルカ 室井 遼 ＜令和7年4月＞	修士	経済の科学 経済学	2前後・3前 3前後・4前	4 4	2 2	神奈川工科大学 基礎・教養教育セン ター 非常勤講師 (平成30.4)	
63	兼任	講師	アラフネ シュンタロウ 荒船 俊太郎 ＜令和7年4月＞	博士 (文学)	歴史の科学	2前後・3前	4	2	日本大学 文理学部 人間科学研究所 研究員 (平成26.4)	
64	兼任	講師	タケムラ アツシ 竹村 厚士 ＜令和7年4月＞	修士	歴史の科学	2前後・3前	4	2	神奈川工科大学 基礎・教養教育セン ター 非常勤講師 (令和4.4)	
65	兼任	講師	クスノキ ヒデキ 楠 秀樹 ＜令和7年4月＞	博士 (社会学)	社会の科学	2前後・3前	4	2	神奈川工科大学 基礎・教養教育セン ター 非常勤講師 (令和1.9)	

教 員 の 氏 名 等										
(情報学部情報システム学科)										
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	保有 学位等	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平 均 日 数
66	兼任	講師	イズミ ケイシュン 泉 溪春 ＜令和7年4月＞	修士 (文学)	文化の科学 文学	2前後・3前 3前後・4前	4 4	2 2	日本大学豊山中学・ 高等学校 非常勤講 師 (令和5.4)	
67	兼任	講師	チョウ ソンク 趙 聖九 ＜令和7年4月＞	博士	グローバル化の科学	2前後・3前	4	2	有限会社CS企画 取 締役 (平成14.4)	
68	兼任	講師	ヤマサキ ユミ 山崎 有望 ＜令和7年4月＞	修士	心の科学 心理学	2前後・3前 3前後・4前	4 4	2 2	大妻女子大学 人間 関係学部 人間関係 学 助手 (令和5.4)	
69	兼任	講師	ナベクラ サユリ 鍋倉 早百合 ＜令和7年4月＞	修士	心の科学	2前後・3前	4	2	神奈川工科大学 基礎・教養教育セン ター 非常勤講師 (平成22.4)	
70	兼任	講師	ワタナベ ノブヒサ 渡辺 演久 ＜令和7年4月＞	修士	日本国憲法 法学	2前後・3前 2前後・3前	4 4	2 2	神奈川工科大学 基礎・教養教育セン ター 非常勤講師 (平成24.4)	
71	兼任	講師	カネトウ ユミコ 兼頭 ゆみ子 ＜令和7年4月＞	博士 (法学)	環境論	2前後・3前	4	2	神奈川工科大学 基礎・教養教育セン ター 非常勤講師 (令和2.9)	
72	兼任	講師	ミツハシ ダイスケ 三橋 大輔 ＜令和7年4月＞	修士 (人間科学)	環境論 心理学	2前後・3前 3前後・4前	4 4	2 2	神奈川工科大学 基礎・教養教育セン ター 非常勤講師 (平成19.4)	
73	兼任	講師	オホ ヤノ マリ 於保 (矢野) 真理 ＜令和8年4月＞	修士	人文社会科学アクティブ演 習	3前後	4	2	神奈川工科大学 基礎・教養教育セン ター 非常勤講師 (平成14.4)	
74	兼任	講師	ヨシザワ ユキエ 義澤 幸恵 ＜令和8年4月＞	修士	人文社会科学アクティブ演 習	3前後	4	2	神奈川工科大学 基礎・教養教育セン ター 非常勤講師 (平成16.4)	
75	兼任	講師	ヒガ テツノリ 比嘉 徹徳 ＜令和8年4月＞	博士(学術)	哲学	3前後・4前	4	2	神奈川工科大学 基礎・教養教育セン ター 非常勤講師 (平成25.4)	
76	兼任	講師	タカハシ ヒロシ 高橋 明史 ＜令和8年4月＞	修士	倫理学	3前後・4前	4	2	神奈川工科大学 基礎・教養教育セン ター 非常勤講師 (平成26.4)	
77	兼任	講師	ハス ゲレル ハス ゲレル ＜令和8年4月＞	博士 (教育学)	教育学	3前後・4前	4	2	東京都立大学 助教 (令和2.4)	
78	兼任	講師	ヤマダ ヒロオ 山田 博雄 ＜令和8年4月＞	博士 (政治学)	政治学	3前後・4前	4	2	神奈川工科大学 基礎・教養教育セン ター 非常勤講師 (平成9.4)	
79	兼任	講師	コウサカ ケイスケ 高坂 啓介 ＜令和8年4月＞	修士	経営学	3前後・4前	4	2	早稲田大学 助手 (平成31.4)	
80	兼任	講師	スイトウ ヒライ 水藤 飛来 ＜令和6年4月＞	修士	健康・スポーツ科学実習Ⅰ 健康・スポーツ科学実習Ⅱ	1前 1後	1 1	1 1	日本学術振興機構特 別研究員DC (令和4.4)	
81	兼任	講師	イノウエ ユウキ 井上 雄貴 ＜令和6年4月＞	修士	健康・スポーツ科学実習Ⅰ 健康・スポーツ科学実習Ⅱ	1前 1後	1 1	1 1	神奈川工科大学 基礎・教養教育セン ター 非常勤講師 (令和5.4)	
82	兼任	講師	イワサキ ヨウジ 岩崎 宏次 ＜令和7年9月＞	修士	生涯スポーツ実習	2後	1	1	日本体育大学 期限 付き一般研究員 (平成31.4)	
83	兼任	講師	キャロル エリック CARROLL Eric ＜令和6年4月＞	Bachelor of Arts-Political Science (米国)	英会話Ⅰ 英会話Ⅱ	1前後 1後	2 1	2 1	株式会社エデュコ 語学講師 (令和4.4)	

教 員 の 氏 名 等										
(情報学部情報システム学科)										
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	保有 学位等	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位 数	年間 開講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平 均 日 数
84	兼任	講師	ライマー ゲーリー RYMAR Gary ＜令和6年4月＞	Ph.D. in Engineer-ing (米国)	英会話 I 英会話 II	1前後 1後	2 1	2 1	株式会社エデュコ 語学講師 (令和4.4)	
85	兼任	講師	イトウ セシリア ITO Cecilia ＜令和6年4月＞	Bachelor's Degree in Account- ancy (フィリピン)	英会話 I 英会話 II	1前後 1後	2 1	2 1	株式会社エデュコ 語学講師 (令和4.4)	
86	兼任	講師	フクヤマ ケイスケ 福山 啓介 ＜令和6年9月＞	博士 (社会学)	日本語表現技術 プレゼンテーション技術	1後・2前 2前後	4 4	2 2	神奈川工科大学 基礎・教養教育セン ター 非常勤講師 (平成25.4)	
87	兼任	講師	マツシタ ユウイチ 松下 優一 ＜令和6年9月＞	博士 (社会学)	日本語表現技術 プレゼンテーション技術	1後・2前 2前後	4 4	2 2	神奈川工科大学 基礎・教養教育セン ター 非常勤講師 (平成26.4)	
88	兼任	講師	イケガワ タカシ 池川 隆司 ＜令和8年4月＞	博士 (理学)	技術文章の書き方	3前後	4	2	株式会社アルテ 技術顧問 (平成26.9)	
89	兼任	講師	イトウ ハルヒサ 井藤 晴久 ＜令和8年4月＞	工学修士	情報社会のコミュニケー ション	3前	2	1	神奈川工科大学 研究推進機構 教授 (平成28.4)	
90	兼任	講師	セキ シュンペイ 関 駿平 ＜令和8年9月＞	修士 (社会学)	情報と人間	3後	2	1	神奈川工科大学 基礎・教養教育セン ター 非常勤講師 (令和4.4)	
91	兼任	講師	ナカクボ マサト 仲久保 正人 ＜令和6年9月＞	理学修士	情報システムプログラミング基礎 情報システム基礎ユニット I 情報システム基礎ユニット II	1後 2前 2後	3 3 3	1 1 1	横浜システム工学院 専門学校 理事、副学院長 (平成29.3 まで)	
92	兼任	講師	ヤダ タカシ 矢田 孝志 ＜令和7年4月＞	修士 (工学)	情報システム基礎ユニット I 情報システム基礎ユニット II	2前 2後	3 3	1 1	有限会社 図工 代表取締役 (平成15.8)	

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	4 人	2 人	人	人	6 人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准 教 授	博 士	人	人	1 人	1 人	人	人	人	2 人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	人	1 人	5 人	2 人	人	人	8 人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 大 学	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（注）

- 1 この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
- 2 この書類は、専任教員についてのみ、作成すること。
- 3 この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。
- 4 専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。